総合検査案内

― 2024 ―

項目索引
検査ご利用にあたって
生化学検査
免疫血清学的検査 アレルゲン検査
内分泌学的検査
腫瘍関連検査
肝炎ウイルス関連検査 ウイルス抗体・抗原検査
細胞性免疫検査・遺伝子染色体
薬物検査
血液学的検査
血液凝固系・線溶系検査
一般検査
微生物学検査
病理学検査
参考資料・緊急報告値一覧
容器一覧
参考文献一覧

LCP パソラボ
Clinical Pathology Laboratory Inc.
株式会社 パソラボ

総合検査案内

目次

項目索引 （五十音・アルファベット・ギリシャ文字・数字の順）	目次 2〜26
検査ご利用にあたって	手引 1〜9
生化学検査	2〜21
免疫血清学的検査 アレルゲン検査	22〜47 38〜40
内分泌学的検査	48〜59
腫瘍関連検査	60〜66
肝炎ウイルス関連検査 ウイルス抗体・抗原検査	67〜69 70〜80
細胞性免疫検査・遺伝子染色体	81〜86
薬物検査	87〜92
血液学的検査	93〜94
血液凝固系・線溶系検査	95〜99
一般検査	100〜104
微生物学検査	105〜113
病理学検査	114〜118
参考資料・緊急報告値一覧	119〜123
容器一覧	124〜131
参考文献一覧	132〜145

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	あ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2904 5788	亜鉛（Zn）（血清、尿）	12	132	生化Ⅰ	D007 37	亜鉛（Zn）	① ⑩
3439	悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45 ゲーティング	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪
2704	アスコルビン酸（ビタミンC）	18	296	生化Ⅰ	D007 60	ビタミンC	①
1006	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）（GOT）	2	17	生化Ⅰ	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）	①
2769	アスペルギルス抗原	23	157	免疫	D012 30	アスペルギルス抗原	①
8542	アスペルギルス抗体 IgG	23	－				①
2029	（抗）アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	45	775	免疫	D014 45	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗 AChR 抗体）	①
2878	アセトアミノフェン	91	180	生化Ⅰ	D007 47	アセトアミノフェン	⑤
3486 3487	アセトン（ 血清、尿）	20	－				⑤血清 ㊻尿
1955	アデノウイルス（CF）	74	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2033 3030	アデノシンデアミナーゼ（ADA） （血清、穿刺液）	4	32	生化Ⅰ	D007 11	アデノシンデアミナーゼ（ADA）	①血清 ㊻穿刺液
6921	アトピー鑑別試験定性（12種吸引性アレルゲン）	37	194	免疫	D015 21	アトピー鑑別試験定性	①
5511	アナリーゼ（末梢血液像）（鏡検法）	93	25	血液	D005 06	末梢血液像（鏡検法）	③および スライド
1412	アナリーゼ（末梢血液像）（自動機械法）	93	15	血液	D005 03	末梢血液像（自動機械法）	③
2892	アプリンジン	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
頁参照	アポリポ蛋白	6	31 62 94	生化Ⅰ	D007 10 イ D007 10 ロ D007 10 ハ	アポリポ蛋白　イ　1項目の場合 アポリポ蛋白　ロ　2項目の場合 アポリポ蛋白　ハ　3項目以上の場合	①
3478	アミオダロン	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
2647	アミカシン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1709	（総分岐鎖）アミノ酸/ チロシンモル比（BTR）	16	283	生化Ⅱ	D010 05	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）	①
2956	アミノ酸11分画	16	1107	生化Ⅱ	D010 04 ロ	アミノ酸　ロ　5種類以上	⑪
1832 1901	アミノ酸分画（血漿、尿）	16	1107	生化Ⅱ	D010 04 ロ	アミノ酸　ロ　5種類以上	⑪血漿 ㊻尿
3805	アミノ酸分析2 種類（チロシン・フェニルアラニン）	16	279+279	生化Ⅱ	D010 04 イ	アミノ酸　イ　1種類につき	⑫
1026 1027	アミラーゼ（AMY）（血清、尿）	4	11	生化Ⅰ	D007 01	アミラーゼ	①血清 ㊻尿
1090	アミラーゼアイソザイム	4	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	①
1095	アミラーゼアイソザイム（電気泳動法）	4	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	①
2890	（血清）アミロイドA蛋白（SAA）	34	47	免疫	D015 06	血清アミロイドA蛋白（SAA）	①
頁参照	アラスタット3g（特異的IgE 定量（シングルアレルゲン））	37・38	各 110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
1007	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）（GPT）	2	17	生化Ⅰ	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）	①
2109	アルカリホスファターゼ（ALP）（IFCC）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	アルカリホスファターゼ（ALP）	①
1100	アルカリホスファターゼ（ALP）アイソザイム	2	48	生化Ⅰ	D007 14	ALPアイソザイム	①
8613	アルドステロン/ レニン 活性比	54	－				
8614	アルドステロン/ レニン濃度比	54	－				
8611 1246	アルドステロン（血漿、尿）（CLEIA）	54	122	生化Ⅱ	D008 15	アルドステロン	⑫血漿 ㊻尿
1065	アルドラーゼ（ALD）	4	11	生化Ⅰ	D007 01	アルドラーゼ	①
1058	アルブミン・グロブリン（A/G）比	5	－				
5058	アルブミン・グロブリン（A/G）比（ヒト以外）	5	－				
1164	アルブミン（Alb）	5	11	生化Ⅰ	D007 01	アルブミン（BCP改良法・BCG法）	①
5164	アルブミン（Alb）（ヒト以外）	5	－				①
1685	アルブミン定性（尿）	101	49	尿便	D001 06	アルブミン定性（尿）	㊻
1725	アルブミン定量	5	11	生化Ⅰ	D007 01	アルブミン（BCP改良法・BCG法）	①
1188	アルブミン定量（尿）	32	99	尿便	D001 09	アルブミン定量（尿）	㊻
5581	アルベカシン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1979	アルミニウム（Al）	13	109	生化Ⅰ	D007 29	アルミニウム（Al）	⑩
頁参照	アレルギー検査	37～40	頁参照				
1244	アンジオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	55	136	生化Ⅰ	D007 39	アンジオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	①
1833	（α_1）アンチトリプシン	32	80	血液	D006 10	α_1-アンチトリプシン	①
1447	アンチトロンビン活性（ATⅢ）	97	70	血液	D006 09	アンチトロンビン活性	④
1196	アンチプラスミン活性 （α_2PI）（α_2プラスミンインヒビター）	97	128	血液	D006 16	プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	④
1041	（血中）アンモニア（NH_3）	16	50	生化Ⅰ	D007 16	アンモニア	⑨

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	い	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2619	イオン化カルシウム	11	26	生化Ⅰ	D007 07	イオン化カルシウム	①
8464	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）	26	−				①
	一般細菌検査（塗抹、培養、同定、感受性検査）	106・107	頁参照	微生			109頁参照
2448	（抗）胃壁細胞抗体（抗パリエタル細胞抗体）	46	−				①
頁参照	イムノキャップ（特異的IgE定量（シングルアレルゲン））	37・38	各 110	免疫	D015 13	特異的 IgE 半定量・定量	①
1371	インスリン（IRI）	58	100	生化Ⅱ	D008 08	インスリン（IRI）	①
8543	（抗）インスリン抗体	58	107	免疫	D014 06	抗インスリン抗体	①
2261	（可溶性）インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	82	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	①
1992	インターロイキン-6（IL-6）	82	−				⑫
1951 2632	インフルエンザウイルス（A型）（CF、HI）	70	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
1952 2635	インフルエンザウイルス（B型）（CF、HI）	70	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
コード	う	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2984	ウロポルフィリン（尿）	19	105	尿便	D001 10	ウロポルフィリン（尿）	㊸
コード	え	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
頁参照	液状細胞診検査（LBC）婦人科材料	115	150＋45	病理	N004 01 ＋ N004 01 注	婦人科材料等によるもの ＋婦人科材料等液状化検体細胞診加算	㊹
頁参照	エコーウイルス（NT）	74	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
3218	エステラーゼ染色（特殊染色 血液像）	94	37	血液	D005 06 注	末梢血液像（鏡検法） 注 特殊染色を 併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
3222	エステラーゼ染色（特殊染色 骨髄像）	94	60	血液	D005 14 注	骨髄像 注 特殊染色を併せて 行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
1827	エストラジオール（E_2）	56	167	生化Ⅱ	D008 33	エストラジオール（E_2）	①
頁参照	エストロジェンレセプター（ER）	114	720	病理	N002 01	エストロジェンレセプター	㊷
2266	エタノール（血液）	20	105	生化Ⅰ	D007 26	エタノール	⑪
3396	エタノール（尿）	20	−				㊻
3980	エチルベンゼン（EB）（マンデル酸（MA））	21	−				㊻
2979	エトスクシミド	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2299	（顆粒球）エラスターゼ（子宮頸管粘液）	57	116	尿便	D004 08	顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）	㉚
1206	エラスターゼ1	60	120	生化Ⅱ	D009 08	エラスターゼ1	①
2078	エリスロポエチン（EPO）	59	209	生化Ⅱ	D008 41	エリスロポエチン	①
1289	塩基性フェトプロテイン（BFP）	60	150	生化Ⅱ	D009 17	塩基性フェトプロテイン（BFP）	⑤
2729	ピルシカイニド	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2907	エンドトキシン（ES 法）	24	229	免疫	D012 52	エンドトキシン	㊽
1790	エンドトキシン透析液	107	−				㊾
コード	お	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1808	黄体形成ホルモン（LH）	48	105	生化Ⅱ	D008 12	黄体形成ホルモン（LH）	①
2023	オーム病クラミドフィラ （クラミドフィラシッタシ）	29	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①
2227	オステオカルシン（OC）	51	157	生化Ⅱ	D008 26	オステオカルシン（OC）	①
1953 1954 1734	おたふく風邪（ムンプスウイルス） （CF、HI、NT）	70	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2601 2605	おたふく風邪（ムンプスウイルス） （IgG、IgM）	70	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 （1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
3105	オリゴクローナルバンド	35	522	尿便	D004 11	オリゴクローナルバンド	①血清 ㊻髄液
コード	か	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3807	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	63	175	生化Ⅱ	D009 24	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	⑫
1118 2510	（血液）ガス分析（動脈、静脈）	15	−				㊼
1438	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	95	29	血液	D006 07	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	④
3057	カテコールアミン（総）	52	184	生化Ⅱ	D008 37	カテコールアミン	㊻

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	か	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1890 1814	カテコールアミン3分画（血漿、尿）	52	161	生化Ⅱ	D008 29	カテコールアミン分画	⑫血漿 ㊻尿
3037	（遊離）カテコールアミン3分画	52	161	生化Ⅱ	D008 29	カテコールアミン分画	㊻
3116	ガバペンチン	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
2261	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	82	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	①
1732	（抗）ガラクトース欠損IgG抗体定量（CA・RF）	41	111	免疫	D014 08	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	①
1044 1139	カリウム（K）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	カリウム	①血清 ㊻尿
2299	顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）	57	116	尿便	D004 08	顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）	㉚
1045 1155	カルシウム（Ca）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	カルシウム	①血清 ㊻尿
8532	（抗）カルジオリピン抗体（IgG）	45	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピンIgG抗体	①
8533	（抗）カルジオリピン抗体（IgM）	45	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピンIgM抗体	①
2980	（抗）カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	45	223	免疫	D014 29	抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	①
1235	カルシトニン	51	130	生化Ⅱ	D008 18	カルシトニン	①
1796	カルニチン分画	19	95+95	生化Ⅰ	D007 23＋ D007 23	総カルニチン＋遊離カルニチン	①
1851	カルバマゼピン	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
8485	（便中）カルプロテクチン	34	268	尿便	D003 09	カルプロテクチン（糞便）	㊻
2761	肝細胞増殖因子（HGF）	59	227	生化Ⅰ	D007 54	肝細胞増殖因子（HGF）	①
1561	カンジダマンナン抗原	24	134	免疫	D012 23	カンジダ抗原定性	①
1683	関節液中結晶鑑別	104	50	尿便	D004 02	関節液検査	㊻
1315	間接クームス試験	47	47	免疫	D011 02 ロ	Coombs試験　ロ　間接	⑫（7mL）
1201	癌胎児性抗原（CEA）	60	99	生化Ⅱ	D009 03	癌胎児性抗原（CEA）	①
2071	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管膣分泌液）	57	204	免疫	D015 23	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管膣分泌液）	㉙
1332	寒冷凝集反応	22	11	免疫	D014 01	寒冷凝集反応	①

コード	き	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3449	寄生虫抗体	23	－				①血清 ㊻胸水・髄液
2053	キニジン	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
頁参照	凝固因子活性検査 （第Ⅱ、Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ、Ⅺ、Ⅻ、XIII因子）	98・99	223	血液	D006 30	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
3444 3445	凝固抑制因子検査（第Ⅷ、Ⅸ因子）	99	144	血液	D006 19	凝固因子インヒビター	④（5mL）
3851	（抗）筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	45	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	①

コード	く	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1181	グアナーゼ（GU）	4	35	生化Ⅰ	D007 12	グアナーゼ	①
1315	（間接）クームス試験	47	47	免疫	D011 02	Coombs試験　ロ　間接	⑫（7mL）
1314	（直接）クームス試験	47	34	免疫	D011 02	Coombs試験　イ　直接	⑫
8574	クォンティフェロンTB-プラス（QFTB）	25・105	593	免疫	D015 30	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	㊶
1998 1891	クラミジア・トラコマチス抗体 （IgG、IgA）	29	200	免疫	D012 43	グロブリンクラス別 クラミジア・トラコマチス抗体	①
2931	クラミジア・トラコマチス抗体 IgA＆IgG	29	200	免疫	D012 43	グロブリンクラス別 クラミジア・トラコマチス抗体	①
3927 3930	クラミジア・トラコマチス核酸同定 （TaqManPCR）（初尿、ぬぐい液、うがい液）	29	188	微生	D023 01	クラミジア・トラコマチス核酸検出	㊴初尿 ㊳ぬぐい液 ㊴うがい液
2023	クラミドフィラシッタシ （オーム病クラミドフィラ）	29	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①
2041	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体（IgA）	29	75	免疫	D012 10	クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体	①
2348	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体（IgG）	29	70	免疫	D012 09	クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体	①
3422	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体（IgM）	29	152	免疫	D012 29	クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体	①
2026	クリオグロブリン定性	32	42	免疫	D015 05	クリオグロブリン定性	①
2778	グリコアルブミン（GA）	14	55	生化Ⅰ	D007 17	グリコアルブミン	①
2245	クリプトコッカス抗体	23	－				①
2963	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原定性	23	169	免疫	D012 35	クリプトコックス抗原定性	①血清 ㊻髄液

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	く	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1050	グルコース（血糖）	14	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース	②
1528	グルコース（尿）	101	9	尿便	D001 02	尿グルコース	㊻
8500	（膵）グルカゴン	58	150	生化Ⅱ	D008 23	グルカゴン	①
2726	（抗）グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	58	134	生化Ⅱ	D008 19	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	①
1038 1142	クレアチニン（CRE）（血清、尿）	10	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチニン	①血清 ㊻尿
1133	クレアチニン・クリアランス（CCR）	10	－				①血清 ㊻尿
1039	クレアチン	10	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチン	①
1015	クレアチンキナーゼ（CK）（CPK）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチンキナーゼ（CK）	①
1260	クレアチンキナーゼ（CK）アイソザイム	3	55	生化Ⅰ	D007 17	CKアイソザイム	①
1043 1138	クロール（Cl）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	①血清 ㊻尿
5987	クロストリディオイデスディフィシル（CD）トキシン/抗原	107	80	免疫	D012 12	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性	㊷
1854	クロナゼパム	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
5588	クロバザム	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
3069 3068 3070	クロム（Cr）（血清、血液、尿）	13	－				⑩血清 ⑪血液 ⑩尿

コード	け	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2071	頸管膣分泌液中癌胎児性フィブロネクチン定性	57	204	免疫	D015 23	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管膣分泌液）	㉙
1400	（末梢）血液一般検査	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
1118 2510	血液ガス分析（動脈、静脈）	15	－				㊼
1836	血液浸透圧	15	15	血液	D005 03	血液浸透圧	①
5511	（末梢）血液像（鏡検法）	93	25	血液	D005 06	末梢血液像（鏡検法）	③およびスライド
1412	（末梢）血液像（自動機械法）	93	15	血液	D005 03	末梢血液像（自動機械法）	③
2746	結核菌群核酸同定	105	410	微生	D023 14	結核菌群核酸検出	
3935	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（T-SPOT TB）	25・105	593	免疫	D015 30	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	⑪（9mL）
1403	血色素量（Hb）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
1683	結晶鑑別（関節液中）	104	50	尿便	D004 02	関節液検査	㊻
2231	血小板関連IgG（PA-IgG）	44	190	免疫	D011 06	血小板関連IgG（PA-IgG）	㉒
1195	（抗）血小板抗体	44	261	免疫	D011 08	抗血小板抗体	①
1407	血小板数（PLT）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
2930	血小板第4因子（PF_4）	96	173	血液	D006 25	血小板第4因子（PF_4）	㉕
3926	血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体（HIT抗体）	44	390	免疫	D011 10	血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体（IgG、IgM及びIgA抗体）	㊼
1240	血漿レニン活性（PRA）	54	100	生化Ⅱ	D008 08	レニン活性	⑫
2890	血清アミロイドA蛋白（SAA）	34	47	免疫	D015 06	血清アミロイドA蛋白（SAA）	①
1046	血清鉄（Fe）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	鉄（Fe）	①
1255	血清補体価（CH_{50}）	36	38	免疫	D015 04	血清補体価（CH_{50}）	①
1843	結石分析	15	117	生化Ⅱ	D010 02	結石分析	㊻
1041	血中アンモニア（NH_3）	16	50	生化Ⅰ	D007 16	アンモニア	⑨
8482	（血中）脂肪酸分画（4成分）	8	393	生化Ⅱ	D010 07	脂肪酸分画	①
1050	血糖（グルコース）	14	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース	②
1351 ～ 1357	血糖負荷試験	14	200		D288 01	常用負荷試験（血糖及び尿糖検査を含む。）	②
1182	（血中）ケトン体	9	30	生化Ⅰ	D007 09	ケトン体	①
2081 1918	ケトン体分画（静脈血、動脈血）	9	59	生化Ⅰ	D007 19	ケトン体分画	①
2896	ゲンタマイシン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1312	（ABO）血液型	47	24	免疫	D011 01	ABO血液型	⑥
1313	（Rh（D））血液型	47	24	免疫	D011 01	Rh（D）血液型	⑥

コード	こ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2029	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	45	775	免疫	D014 45	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	①
2448	抗胃壁細胞抗体（抗パリエタル細胞抗体）	46	－				①
8543	抗インスリン抗体	58	107	免疫	D014 06	抗インスリン抗体	①
8545	抗核抗体（蛍光抗体法）半定量	41	99	免疫	D014 05	抗核抗体（蛍光抗体法）半定量	①
1732	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量（CA・RF）	41	111	免疫	D014 08	抗ガラクトース欠損 IgG 抗体定量	①

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	こ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
8532	抗カルジオリピン抗体（IgG）	45	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピンIgG抗体	①
8533	抗カルジオリピン抗体（IgM）	45	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピンIgM抗体	①
2980	抗カルジオリピンβ2 グリコプロテインI複合体抗体	45	223	免疫	D014 29	抗カルジオリピンβ2 グリコプロテインI複合体抗体	①
8460	高感度心筋トロポニンI	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンI	①
2791	高感度心筋トロポニンT	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量	①
3463	高感度 CRP	34	16	免疫	D015 01	c 反応性蛋白（CRP）	①
3851	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗 MuSK 抗体）	45	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	①
2726	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD 抗体）	58	134	生化Ⅱ	D008 19	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗 GAD 抗体）	①
1195	抗血小板抗体	44	261	免疫	D011 08	抗血小板抗体	①
3884	抗抗酸菌 MAC 抗体	25	116	免疫	D012 18	抗酸菌抗体定性	①
2779	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPO-Ab）	49	138	免疫	D014 11	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	①
2770	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3 抗体（PR3-ANCA）（C-ANCA）	46	252	免疫	D014 33	抗好中球細胞質プロテイナーゼ 3 抗体（PR3-ANCA）	①
2771	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）（P-ANCA）	46	251	免疫	D014 32	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）	①
2015	抗サイログロブリン抗体（Tg-Ab）	49	136	免疫	D014 10	抗サイログロブリン抗体	①
1750 1699	好酸球（鼻汁、喀痰）	94	15	血液	D005 03	好酸球（鼻汁、喀痰）	スライド
1450	好酸球数	93	17	血液	D005 04	好酸球数	③
	抗酸菌検査（塗抹、培養、同定、感受性検査）	105	頁参照				109頁参照
2283	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM 抗体）	45	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	①
3104	抗シトルリン化ペプチド抗体定量（抗 CCP 抗体）（ACPA）	41	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	①
2177	甲状腺刺激抗体（TSAb）	50	330	免疫	D014 40	甲状腺刺激性抗体（TSAb）	①
1228	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	49	98	生化Ⅱ	D008 06	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	①
1052	抗ストレプトリジンO （ASO）定量	22	15	免疫	D012 01	抗ストレプトリジンO （ASO）定量	①
2298	抗精子抗体	45	—				①
1893	抗セントロメア抗体	42	174	免疫	D014 20	抗セントロメア抗体定量	①
2770	（抗）好中球細胞質プロテイナーゼ3 抗体（PR3-ANCA）（C-ANCA）	46	252	免疫	D014 33	抗好中球細胞質プロテイナーゼ 3 抗体（PR3-ANCA）	①
2771	（抗）好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）（P-ANCA）	46	251	免疫	D014 32	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）	①
2623	好中球殺菌能	82	—				⑪
2622	好中球貪食能	82	—				⑪
3495	抗デスモグレイン1抗体	46	300	免疫	D014 39	抗デスモグレイン1抗体	①
3496	抗デスモグレイン3抗体	46	270	免疫	D014 36	抗デスモグレイン3抗体	①
2229	抗トポイソメラーゼ抗体（抗Scl-70抗体）（免疫拡散法）	43	157	免疫	D014 16	抗Scl-70抗体半定量	①
1906	抗トポイソメラーゼ抗体（抗Scl-70抗体）（CLEIA）	43	157	免疫	D014 16	抗Scl-70抗体定量	①
2448	抗パリエタル細胞抗体（抗胃壁細胞抗体）	46	—				①
3448	抗皮膚抗体	46	—				①
2773	抗副腎皮質抗体	46	—				①
1886	抗平滑筋抗体	43	—				①
2730	抗ヘリコバクター・ピロリ抗体	26	80	免疫	D012 12	ヘリコバクター・ピロリ抗体	①
1885	抗ミトコンドリア抗体	42	181	免疫	D014 21	抗ミトコンドリア抗体半定量	①
2715	抗ミトコンドリアM2抗体	42	189	免疫	D014 22	抗ミトコンドリア抗体定量	①
8528	抗ミュラー管ホルモン（AMH）	48	—				①
2981	抗ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	46	—				①
3908	抗利尿ホルモン（バゾプレシン）（AVP）（ADH）	48	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン（ADH）	⑫
3003	抗リボゾームP抗体	45	—				①
2029	抗AChR抗体（抗アセチルコリンレセプター抗体）	45	775	免疫	D014 45	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	①
3970	抗ARS抗体	44	190	免疫	D014 23	抗ARS抗体	①
3497	抗BP180-NC16a抗体	46	270	免疫	D014 36	抗BP180-NC16a抗体	①
8450	抗CADM-140抗体（抗MDA5抗体）	44	270	免疫	D014 37	抗MDA5抗体	①
3104	抗 CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体定量）（ACPA）	41	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	①
1883	抗 DNA 抗体	42	159	免疫	D014 17	抗DNA抗体定量	①

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	こ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2953	抗ds-DNA抗体（IgG）	42	159	免疫	D014 17	抗DNA抗体定量	①
2954	抗ds-DNA抗体（IgM）	42	−				①
2726	抗GAD 抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）	58	134	生化Ⅱ	D008 19	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	①
2283	抗GBM 抗体（抗糸球体基底膜抗体）	45	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	①
3062	抗IA-2 抗体	58	213	生化Ⅱ	D008 43	抗IA-2抗体	①
2226	抗Jo-1抗体（免疫拡散法）	43	140	免疫	D014 12	抗Jo-1抗体半定量	①
1909	抗Jo-1抗体（CLEIA）	43	140	免疫	D014 12	抗Jo-1抗体定量	①
2297	抗LKM-1 抗体	43	215	免疫	D014 28	抗LKM-1抗体	①
8450	抗MDA5抗体（抗CADM-140抗体）	44	270	免疫	D014 37	抗MDA5抗体	①
8438	抗Mi-2抗体	44	270	免疫	D014 37	抗Mi-2抗体	①
3851	抗MuSK抗体（抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体）	45	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	①
3203	抗p53 抗体	61	163	生化Ⅱ	D009 22	抗 p53 抗体	①
2006	抗RNP 抗体（免疫拡散法）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体半定量	①
1907	抗RNP抗体（CLEIA）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体定量	①
3810	抗RNAポリメラーゼIII抗体	43	170	免疫	D014 19	抗RNAポリメラーゼIII抗体	①
2229	抗Scl-70 抗体（抗トポイソメラーゼ抗体）（免疫拡散法）	43	157	免疫	D014 16	抗Scl-70抗体半定量	①
1906	抗Scl-70 抗体（抗トポイソメラーゼ抗体）（CLEIA）	43	157	免疫	D014 16	抗Scl-70抗体定量	①
2007	抗Sm 抗体（免疫拡散法）	42	147	免疫	D014 14	抗Sm抗体半定量	①
1908	抗Sm抗体（CLEIA）	42	147	免疫	D014 14	抗Sm抗体定量	①
2586	抗SS-A 抗体（抗SS-A/Ro 抗体）（免疫拡散法）	43	161	免疫	D014 18	抗SS-A/Ro抗体半定量	①
2063	抗SS-A 抗体（抗SS-A/Ro 抗体）（CLEIA）	43	161	免疫	D014 18	抗SS-A/Ro抗体定量	①
2587	抗SS-B 抗体（抗SS-B/La 抗体）（免疫拡散法）	43	157	免疫	D014 16	抗SS-B/La抗体半定量	①
2066	抗SS-B 抗体（抗SS-B/La 抗体）（CLEIA）	43	157	免疫	D014 16	抗SS-B/La抗体定量	①
2797	抗ss-DNA抗体（IgG）	42	159	免疫	D014 17	抗DNA抗体定量	①
2798	抗ss-DNA抗体（IgM）	42	−				①
8449	抗TIF1-γ抗体	44	270	免疫	D014 37	抗TIF1-γ抗体	①
3424 3912	抗TSHレセプター抗体（TRAb）（第2、3世代）	50	214	免疫	D014 27	抗TSHレセプター抗体（TRAb）	①
2006	抗 U1-RNP 抗体（抗 RNP 抗体）（免疫拡散法）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体半定量	①
1907	抗 U1-RNP 抗体（抗 RNP 抗体）（CLEIA）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体定量	①
8534	抗β_2グリコプロテインⅠ（IgG）	45	226	免疫	D014 30	抗β_2グリコプロテインⅠ IgG抗体	①
8535	抗β_2グリコプロテインⅠ（IgM）	45	226	免疫	D014 30	抗β_2グリコプロテインⅠ IgM抗体	①
頁参照	コクサッキーウイルス（NT、CF）	74	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2449	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	64	157	生化Ⅱ	D008 26	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	①
1431	骨髄像	94	788	血液	D005 14	骨髄像	スライド
2246	コハク酸シベンゾリン→シベンゾリン	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1394	（赤血球）コプロポルフィリン	19	210	生化Ⅰ	D007 52	赤血球コプロポルフィリン	⑭
1389	コプロポルフィリン（尿）	19	131	尿便	D001 14	コプロポルフィリン（尿）	㊸
1008	コリンエステラーゼ（ChE）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	コリンエステラーゼ（ChE）	①
1820	コルチゾール	53	121	生化Ⅱ	D008 14	コルチゾール	①
2719	（尿中）コルチゾール（非抱合型コルチゾール）	53	121	生化Ⅱ	D008 14	コルチゾール	㊻
1033	（総）コレステロール（T-cho）	7	17	生化Ⅰ	D007 03	総コレステロール	①
1034	（遊離）コレステロール	7	11	生化Ⅰ	D007 01	遊離コレステロール	①
2763	コレステロール分画	7	57	生化Ⅰ	D007 18	コレステロール分画	①

コード	さ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2702	サイアミン（ビタミンB_1）	18	239	生化Ⅰ	D007 56	ビタミン B_1	⑮
	細菌検査（抗酸菌、一般細菌）	105~107	頁参照	微生			109頁参照
2072 5843	サイクリックAMP（cAMP）（血漿、尿）	59	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリック AMP （cAMP）	⑫血漿 ㊻尿
2736	サイトケラチン 19 フラグメント（シフラ）	63	154	生化Ⅱ	D009 18	サイトケラチン 19 フラグメント（シフラ）	①
2089	サイトメガロウイルス（CMV）（CF）	71	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2690 2695	サイトメガロウイルス（IgG、IgM）	71	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2774	サイトメガロウイルス pp65 抗原（アンチジェネミア法）	80	356	免疫	D012 57	サイトメガロウイルスpp65抗原定性	⑫
3481	サイトメガロウイルス pp65 抗原（C7-HRP）	80	356	免疫	D012 57	サイトメガロウイルスpp65抗原定性	⑫
頁参照	細胞診検査	115	頁参照	病理			㊻,㊿,㊸

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	さ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1543	細胞数（髄液検査）	103	62	尿便	D004 04	髄液一般検査	㊻
1600	細胞数（穿刺液検査）	104	－				㊻
頁参照	細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）	81	185	免疫	D016 02	T 細胞サブセット検査（一連につき）	③(3mL)
1227	（総）サイロキシン（T_4）	49	105	生化Ⅱ	D008 11	サイロキシン（T_4）	①
1232	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	50	130	生化Ⅱ	D008 18	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	①
1911	サイログロブリン（Tg）	49	128	生化Ⅱ	D008 16	サイログロブリン	①
2015	（抗）サイログロブリン抗体（Tg-Ab）	49	136	免疫	D014 10	抗サイログロブリン抗体	①
2098	サリチル酸	91	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤

コード	し	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2051	ジアゼパム	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1215	シアノコバラミン（ビタミンB_{12}）	18	136	生化Ⅰ	D007 39	ビタミン B_{12}	①
1292	シアリルLe^x-i 抗原（SLX）	60	140	生化Ⅱ	D009 13	シアリル Le^x-i 抗原（SLX）	①
3021	シアリルLe^x 抗原（CSLEX）	61	156	生化Ⅱ	D009 19	シアリル Le^x 抗原（CSLEX）	①
2181	シアリルTn 抗原（STN）	61	146	生化Ⅱ	D009 16	シアリル Tn 抗原（STN）	①
2299	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	57	116	尿便	D004 08	顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）	㉚
2283	（抗）糸球体基底膜抗体（抗 GBM 抗体）	45	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体（抗 GBM 抗体）	①
2057	シクロスポリン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	③
1855	ジゴキシン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
3098	シスタチンC	10	112	生化Ⅰ	D007 30	シスタチン C	①
2982	ジソピラミド	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
3104	（抗）シトルリン化ペプチド抗体定量（抗 CCP 抗体）（ACPA）	41	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	①
2736	シフラ（サイトケラチン 19 フラグメント）	63	154	生化Ⅱ	D009 18	サイトケラチン 19 フラグメント（シフラ）	①
2246	シベンゾリン	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2082	（全脂質）脂肪酸分画	8	393	生化Ⅱ	D010 07	脂肪酸分画	①
8482	脂肪酸分画（4 成分）	8	393	生化Ⅱ	D010 07	脂肪酸分画	①
1829 1899	（ヒト）絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量（血清、尿）	57	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	①血清 ㊻尿
5576 5575	（ヒト）絨毛性ゴナドトロピン（β-HCG）定量（血清、尿）	57	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	①血清 ㊻尿
1834	（ヒト）絨毛性ゴナドトロピン—βサブユニット（遊離 HCG-/β）	62	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト絨毛性ゴナドトロピン—/βサブユニット（HCG-/β）	①血清
3288	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）	64	156	生化Ⅱ	D008 25	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）	①
2786 2787 2788	新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）核酸検出（喀痰、鼻腔ぬぐい液、唾液）	107	700	微生	D023 19	SARS-CoV-2核酸検出（検査委託）	㊾,㊽,㊻
8460	（高感度）心筋トロポニンI	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンI	①
2791	（高感度）心筋トロポニンT	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量	①
頁参照	シングルアレルゲン（特異的IgE定量）イムノキャップ・アラスタット3g	37・38	各 110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
1296	神経特異エノラーゼ（NSE）	63	142	生化Ⅱ	D009 14	神経特異エノラーゼ（NSE）	①
2004	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	59	184	生化Ⅰ	D007 48	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	①
5875	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量	59	131	生化Ⅰ	D007 36	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量	①
1836	浸透圧（血清）	15	15	血液	D005 03	血液浸透圧	①
1837	浸透圧（尿）	15	16	尿便	D001 03	尿浸透圧	㊻
1299	心房性 Na 利尿ペプチド（ANP）	58	221	生化Ⅱ	D008 46	心房性 Na 利尿ペプチド（ANP）	⑧

コード	す	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
頁参照	髄液検査	103	頁参照				㊻
8500	（膵）グルカゴン	58	150	生化Ⅱ	D008 23	グルカゴン	①
5799	推算GFRcreat（eGFRcreat）	10	－				
5098	推算GFRcys（eGFRcys）	10	－				
1957	水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）（CF）	72	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2670 2680	水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）（IgG、IgM）	72	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
1884	水痘・帯状疱疹ウイルス DNA 定性（VZV DNA）	79	－				頁参照
2185	膵ホスフォリパーゼ A_2（PLA_2）	5	204	生化Ⅰ	D007 51	ホスフォリパーゼ A_2（PLA_2）	①
2325	スチレン代謝物	21	－				㊻
1052	（抗）ストレプトリジン O（ASO）定呈	22	15	免疫	D012 01	抗ストレプトリジン O（ASO）定量	①

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	せ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1593	精液一般検査	104	70	尿便	D004 05	精液一般検査	㊻
2298	(抗)精子抗体	45	−				①
1801	成長ホルモン（GH）	48	105	生化Ⅱ	D008 12	成長ホルモン（GH）	①
1394	赤血球コプロポルフィリン	19	210	生化Ⅰ	D007 52	赤血球コプロポルフィリン	⑭
1402	赤血球数（RBC）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
2321	赤血球プロトポルフィリン	19	272	生化Ⅰ	D007 58	赤血球プロトポルフィリン	⑭
1390	セルロプラスミン	32	90	免疫	D015 09	セルロプラスミン	①
3024	セレン（Se）	13	144	生化Ⅰ	D007 40	セレン	⑩血清
1818 3134	セロトニン（血液、血漿）	53	−				⑫
頁参照	穿刺液検査	104	頁参照				㊻
2082	全脂質脂肪酸分画	8	393	生化Ⅱ	D010 07	脂肪酸分画	①
2265	染色体G-Banding（血液疾患、先天異常）	83	2477 +397	遺染	D006-5 03 + D006-5 注1	染色体検査(全ての費用を含む。) その他の場合 + 分染法加算	⑪血液 ㉖髄液
1893	(抗) セントロメア抗体	42	174	免疫	D014 20	抗セントロメア抗体定量	①
1903	前立腺特異抗原（PSA）	62	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原（PSA）	①

コード	そ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2262 3439	造血器悪性腫瘍細胞抗原検査(白血病・リンパ腫解析検査(LLA)、(悪性リンパ腫解析検査(MLA))	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪(5mL)
1033	総コレステロール（T-cho）	7	17	生化Ⅰ	D007 03	総コレステロール	①
1227	総サイロキシン（T_4）	49	105	生化Ⅱ	D008 11	サイロキシン（T_4）	①
頁参照	総三塩化物(TTC)	21	−				㊻
1017	総蛋白(TP)	5	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	①
1161	総鉄結合能(TIBC)(比色法)	12	11	生化Ⅰ	D007 01	総鉄結合能(TIBC)(比色法)	①
1002	総ビリルビン(T-Bil)	2	11	生化Ⅰ	D007 01	総ビリルビン	①
1709	総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比（BTR）	16	283	生化Ⅱ	D010 05	総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比（BTR）	①
1742	（血中） 総ホモシステイン	16	279	生化Ⅱ	D010 04	アミノ酸 イ 1種類につき	⑫
2052	ゾニサミド	87	470	(特)	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2050	ソマトメジンC （IGF-Ⅰ）	48	212	生化Ⅱ	D008 42	ソマトメジン C	①

コード	た	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
9686	大腸菌血清型別	107	175	免疫	D012 37	大腸菌血清型別	㊸
9677	大腸菌ベロトキシン定性	107	184	微生	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	㊸
1731	タクロリムス	90	470	(特)	B001 02	特定薬剤治療管理料	③
1116	胆汁酸（TBA）	9	47	生化Ⅰ	D007 13	胆汁酸	①
1956	単純ヘルペスウイルス(HSV)(CF)	72	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量)（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2650 2660	単純ヘルペスウイルス(HSV)（IgG、IgM）	72	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 (1項目当たり)	①血清 ㊻髄液
2275 2276	単純ヘルペスウイルス（HSV）(1型、2型)(NT)	72	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 (定性・半定量・定量)（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2968	単純ヘルペスウイルス（HSV）特異抗原定性	79	180	免疫	D012 39	単純ヘルペスウイルス抗原定性	㉗
2504	単純ヘルペスウイルス（HSV）DNA 定性	79	−				頁参照
1070	蛋白分画	5	18	生化Ⅰ	D007 04	蛋白分画	①

コード	ち	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1028	中性脂肪（TG）（トリグリセライド）	6	11	生化Ⅰ	D007 01	中性脂肪	①
1578	虫体検出（糞便）	102	23	尿便	D003 03	虫体検出（糞便）	㊻
1538	虫卵検出（集卵法）（糞便）	102	15	尿便	D003 01	虫卵検出（集卵法）糞便	㊷
1537	虫卵塗抹（糞便）	102	20	尿便	D003 02	糞便塗抹顕微鏡検査 (虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。)	㊷
1556	虫卵培養（糞便）	102	40	尿便	D003 06	虫卵培養（糞便）	㊷
1314	直接クームス試験	47	34	免疫	D011 02	Coombs 試験 イ 直接	⑫
1003	直接ビリルビン（D-Bil）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	①
3805	チロシン・フェニルアラニン（アミノ酸分析 2 種類）	16	279+279	生化Ⅱ	D010 04	アミノ酸 イ 1種類につき	⑫
1510	（尿）沈渣（鏡検法）	100	−				㊻
1509	（尿）沈渣（染色法）	100	−				㊻

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	つ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
頁参照	ツツガ虫抗体半定量	23	203	免疫	D012 45	ツツガムシ抗体半定量	①

コード	て	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1857	テイコプラニン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1746	デオキシピリジノリン（DPD）骨粗鬆症	64	191	生化Ⅱ	D008 39	デオキシピリジノリン（DPD）（尿）	㊻
1847	テオフィリン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1823	テストステロン	56	119	生化Ⅱ	D008 13	テストステロン	①
43454	（遊離）テストステロン	56	159	生化Ⅱ	D008 27	遊離テストステロン	①
3495	（抗）デスモグレイン1抗体	46	300	免疫	D014 39	抗デスモグレイン１抗体	①
3496	（抗）デスモグレイン3抗体	46	270	免疫	D014 36	抗デスモグレイン３抗体	①
1046	（血清）鉄（Fe）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	鉄（Fe）	①
3219	鉄染色（特殊染色 血液像）	94	37	血液	D005 06 注	末梢血液像（鏡検法）注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
3223	鉄染色（特殊染色 骨髄像）	94	60	血液	D005 14 注	骨髄像 注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
2341	テトラクロルエチレン	21	－				㊻
2885	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）	53	164	生化Ⅱ	D008 31	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）	①

コード	と	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1049 1158	銅（Cu）（血清、尿）	12	23	生化Ⅰ	D007 05	銅（Cu）	①血清 ⑩尿
1790	透析液中エンドトキシン	107	－				㊾
2009	トキソプラズマ抗体（IgG）	22	93	免疫	D012 14	トキソプラズマ抗体	①
2010	トキソプラズマ抗体（IgM）	22	95	免疫	D012 15	トキソプラズマIgM抗体	①
頁参照	特異的IgE 定量（シングルアレルゲン）イムノキャップ・アラスタット3g	37・38	各 110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
頁参照	特異的IgE定量（マルチアレルゲン）	37・39	各 110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
6945	特異的IgE定量（MAST36アレルゲン）	37・39	1430	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
6942	特異的IgE定量（View39）	37・39	1430	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
6974	特異的IgE Ara h2（ピーナッツ由来）	37	110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
頁参照	特殊染色（血液像）	94	37	血液	D005 06 注	末梢血液像（鏡検法） 注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
頁参照	特殊染色（骨髄像）	94	60	血液	D005 14 注	骨髄像 注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
2194	トコフェロール（ビタミンE）	18	－				①
3833	トピラマート	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
2897	トブラマイシン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1906	（抗）トポイソメラーゼ抗体（抗 Scl-70 抗体）（CLEIA）	43	157	免疫	D014 16	抗 Scl-70 抗体定量	①
2229	（抗）トポイソメラーゼ抗体（抗 Scl-70 抗体）（免疫拡散法）	43	157	免疫	D014 16	抗 Scl-70 抗体半定量	①
2024	トランスサイレチン（プレアルブミン）	32	101	免疫	D015 12	トランスサイレチン（プレアルブミン）	①
1249	トランスフェリン（Tf）（血清）	32	60	免疫	D015 07	トランスフェリン（Tf）	①
2738	トランスフェリン（Tf）（尿）	32	98	尿便	D001 08	トランスフェリン（尿）	㊻
1028	トリグリセライド（中性脂肪）（TG）	6	11	生化Ⅰ	D007 01	中性脂肪	①
2334	トリクロルエチレン	21	－				㊻
頁参照	トリクロル酢酸（TCA）	21	－				㊻
3316	トリコスポロン・アサヒ抗体	23	822	免疫	D012 64	抗トリコスポロン・アサヒ抗体	①
1186	トリプシン	5	189	生化Ⅰ	D007 49	トリプシン	①
1853	トリメタジオン	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1226	トリヨードサイロニン（T_3）	49	99	生化Ⅱ	D008 07	トリヨードサイロニン（T_3）	①
8460	（高感度）（心筋）トロポニンI	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンI	①
2791	（高感度）（心筋）トロポニンT	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量	①
8460	（心筋）トロポニンI	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンI	①
2791	（心筋）トロポニンT	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT（TnT）定性・定量	①
2003	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）	96	171	血液	D006 24	トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	④

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	な	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3005	ナイアシン（ニコチン酸）	18	−				⑪
1042 1137	ナトリウム（Na）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	①血清 ㊻尿
2949	鉛（Pb）	13	−				⑪

コード	に	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3005	ニコチン酸（ナイアシン）	18	−				⑪
2978	ニトラゼパム	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1961 1962	日本脳炎ウイルス（CF、HI）	71	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2190	乳酸	9	47	生化Ⅰ	D007 13	有機モノカルボン酸	⑬
1016	乳酸脱水素酵素（LD（IFCC））	3	11	生化Ⅰ	D007 01	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）	①
1080	乳酸脱水素酵素（LD）アイソザイム	3	48	生化Ⅰ	D007 14	LDアイソザイム	①
1500	尿一般検査	100	−				㊻
1528	尿グルコース	101	9	尿便	D001 02	尿グルコース	㊻
1040 1143	尿酸（UA）（血清、尿）	9	11	生化Ⅰ	D007 01	尿酸	①血清 ㊻尿
1837	尿浸透圧	15	16	尿便	D001 03	尿浸透圧	㊻
1963	尿素呼気試験（UBT）	26	70	微生	D023-2 02	尿素呼気試験（UBT）	⑱
1036 1141	尿素窒素（BUN）（血清、尿）	9	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素	①血清 ㊻尿
1527	尿蛋白	101	7	尿便	D001 01	尿蛋白	㊻
5566	尿蛋白/クレアチニン比	101	−				㊻
1685	尿中アルブミン定性	101	49	尿便	D001 06	尿中アルブミン定性（尿）	㊻
1188	尿中アルブミン定量	32	99	尿便	D001 09	アルブミン定量（尿）	㊻
2719	尿中コルチゾール（非抱合型コルチゾール）	53	121	生化Ⅱ	D008 14	コルチゾール	㊻
2738	尿中トランスフェリン（Tf）	32	98	尿便	D001 08	トランスフェリン（尿）	㊻
1444	尿中フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）	95	72	尿便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）（尿）	㊵
3421	尿中ヘリコバクター・ピロリ抗体定性	26	70	免疫	D012 09	ヘリコバクター・ピロリ抗体定性・半定量	㊻
2989	尿中ポルフォビリノゲン定量	19	186	尿便	D001 16	ポルフォビリノゲン（尿）	㊸
8560	尿中レジオネラ抗原（イムノクロマト法）	22	205	免疫	D012 46	レジオネラ抗原定性（尿）	㊻
5552	尿中BTA 定性	62	80	生化Ⅱ	D009 01	尿中BTA	㊺
1444	尿中FDP	95	72	尿便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）（尿）	㊵
1745	尿中Ⅳ型コラーゲン	33	184	尿便	D001 15	Ⅳ型コラーゲン	㊹
1510	尿沈渣（鏡検法）	100	−				㊻
1509	尿沈渣（染色法）	100	−				㊻
1361 〜 1367	尿糖負荷試験	14	200		D288 01	常用負荷試験（血糖及び尿糖検査を含む。）	㊻
1395	妊娠反応定性	57	55	生化Ⅱ	D008 01	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性	㊻

コード	の	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2648	脳性Na 利尿ペプチド（BNP）	59	130	生化Ⅱ	D008 18	脳性 Na 利尿ペプチド（BNP）	⑦
3206	脳性Na 利尿ペプチド前駆体N 端フラグメント（NT-proBNP）	59	136	生化Ⅱ	D008 20	脳性 Na 利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント（NT-proBNP）	①
3827	ノロウイルス抗原定性	107	150	免疫	D012 28	ノロウイルス抗原定性	㊷
3679	ノロウイルス-PCR法	107	−				㊺
1545	ノンネアペルト反応（髄液検査）	103	62	尿便	D004 04	髄液一般検査	㊻

コード	は	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3097	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）	22	188	免疫	D012 41	肺炎球菌莢膜抗原定性（尿・髄液）	㊻
3887	肺癌ALK 融合遺伝子（FISH）	116	6520	病理	N005-2	ALK 融合遺伝子標本作製	㊷
23886	肺癌ALK 融合タンパク	116	2700	病理	N002 06	ALK 融合タンパク	㊷
3438	肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）	34	130	生化Ⅰ	D007 35	肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）	①
1727	肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）	34	136	生化Ⅰ	D007 39	肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）	①
頁参照	梅毒感染症検査	28	頁参照				
1819 5653 2636	（5-）ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）（蓄尿、尿、血漿）	53	95	生化Ⅱ	D008 05	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）	㊻尿 ⑫血漿

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	は	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
31822	(11-) ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	54	60	生化Ⅱ	D008 02	11- ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	①
3908	バゾプレシン（AVP）（ADH）（抗利尿ホルモン）	48	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン（ADH）	⑫
1401	白血球数（WBC）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
5511	白血球分類（末梢血液像）（鏡検法）	93	25	血液	D005 06	末梢血液像（鏡検法）	③およびスライド
1412	白血球分類（末梢血液像）（自動機械法）	93	15	血液	D005 03	末梢血液像（自動機械法）	③
2262	白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45 ゲーティング	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪（5mL）
2939	馬尿酸（HA）	21	－				㊻
1816	バニリルマンデル酸（VMA）（尿）	52	90	生化Ⅱ	D008 04	バニーリルマンデル酸（VMA）	㊻
5654	バニリルマンデル酸（VMA）（尿（クレアチニン補正））	52	90	生化Ⅱ	D008 04	バニーリルマンデル酸（VMA）	㊻
2637	バニリルマンデル酸（VMA）（血漿）	52	90	生化Ⅱ	D008 04	バニーリルマンデル酸（VMA）	⑫
1184	ハプトグロビン	32	129	免疫	D015 14	ハプトグロビン（型補正を含む。）	①
2958 2959 2960	パラインフルエンザウイルス （1 型、2 型、3 型）（HI）	70	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2448	（抗）パリエタル細胞抗体（抗胃壁細胞抗体）	46	－				①
1852	バルプロ酸	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1996	（ヒト）パルボウイルスB19（IgG）	74	－				①
2037	（ヒト）パルボウイルスB19（IgM）	74	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 （1 項目当たり）	①
1846	ハロペリドール	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2597	バンコマイシン	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1544	パンディ反応（髄液検査）	103	62	尿便	D004 04	髄液一般検査	㊻
2630 2640	はしか（麻疹ウイルス）（IgG、IgM）	71	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 （1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液

コード	ひ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1995	ヒアルロン酸（穿刺液）	14	－				㊻
2191	ヒアルロン酸（血清）	14	179	生化Ⅰ	D007 46	ヒアルロン酸	①
2701	ビタミンA	18	－				①
2702	ビタミンB_1（サイアミン）	18	239	生化Ⅰ	D007 56	ビタミン B_1	⑮
2703	ビタミンB_2（リボフラビン）	18	235	生化Ⅰ	D007 55	ビタミン B_2	⑮
2268	ビタミンB_6	18	－				①
1215	ビタミンB_{12}（シアノコバラミン）	18	136	生化Ⅰ	D007 39	ビタミン B_{12}	①
2704	ビタミンC（アスコルビン酸）	18	296	生化Ⅰ	D007 60	ビタミン C	①
2995	（1α、25-（OH）$_2$）ビタミンD	19・51	388	生化Ⅰ	D007 63	1,25- ジヒドロキシビタミン D_3	①
8491	25-OHビタミンD《CLEIA》［骨粗鬆症］	19・51	117	生化Ⅰ	D007 31	25- ヒドロキシビタミン D	①
8522	25-OHビタミンD《ECLIA》［くる病］	19・51	117	生化Ⅰ	D007 31	25- ヒドロキシビタミン D	①
2194	ビタミン E（トコフェロール）	18	－				①
2707	ビタミンK 分画	98	－				④（5mL）
1253	非特異的 IgE（定量）	37	100	免疫	D015 11	非特異的 IgE 定量	①
1829 1899	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量 （血清、尿）	57	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	①血清 ㊻尿
5576 5575	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（β-HCG）定量 （血清、尿）	57	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	①血清 ㊻尿
1834	ヒト絨毛性ゴナドトロピン -βサブユニット （遊離 HCG-β）	62	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト絨毛性ゴナドトロピン -βサブユニット （HCG-β）	①
1299	ヒト心房性Na 利尿ペプチド（ANP）	58	221	生化Ⅱ	D008 46	心房性 Na 利尿ペプチド（ANP）	⑧
8475	ヒト精巣上体蛋白 4（HE4）	61	200	生化Ⅱ	D009 29	ヒト精巣上体蛋白 4（HE4）	①
2648	ヒト脳性Na 利尿ペプチド（BNP）	59	130	生化Ⅱ	D008 18	脳性Na利尿ペプチド（BNP）	⑦
3960	ヒトパピローマウイルス（HPV） ジェノタイプ判定	80	2000	微生	D023 25	HPV ジェノタイプ判定	㊹
5371	ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA （ハイリスクグループ）	80	347	微生	D023 10	HPV 核酸検出	㉘
5372	ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA （ローリスクグループ）	80	－				㉘
5377	ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA （LBC）（ハイリスクグループ）	80	347	微生	D023 10	HPV 核酸検出	㉛または㊹

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	ひ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3946	ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA（LBC）（16・18・他ハイリスクグループ）	80	347	微生	D023 11	HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	㉛または㊹
1996	ヒトパルボウイルスB19（IgG）	74	－				①
2037	ヒトパルボウイルスB19（IgM）	74	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1 項目当たり）	①
3448	（抗）皮膚抗体	46	－				①
2719	非抱合型コルチゾール（尿中コルチゾール）	53	121	生化Ⅱ	D008 14	コルチゾール	㊻
8451	百日咳菌核酸検出	24	360	微生	D023 13	百日咳菌核酸検出	㊺
3451	百日咳菌抗体	24	257	免疫	D012 54	百日咳菌抗体	①
8478 8479	百日咳菌抗体（IgA、IgM）	24	80	免疫	D012 12	百日咳菌抗体定性	①
頁参照	病理組織検査	114	頁参照	病理			㊷
1003	（直接）ビリルビン	2	11	生化Ⅰ	D007 01	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	①
1002	（総）ビリルビン	2	11	生化Ⅰ	D007 01	総ビリルビン	①
2729	ピルシカイニド	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2189	ピルビン酸	9	47	生化Ⅰ	D007 13	有機モノカルボン酸	⑬
3492	ピルメノール	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪

コード	ふ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1440	フィブリノゲン定量（Fib）	95	23	血液	D006 04	フィブリノゲン定量	④
1445	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）定量	95	80	血液	D006 10	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）定量	④
1444	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）（尿）	95	72	尿便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）（尿）	㊵
1460	フィブリンモノマー複合体定性（FMテスト）	96	93	血液	D006 11	フィブリンモノマー複合体定性	④
1424	フィブリンモノマー複合体（FMC）定量	96	215	血液	D006 28	フィブリンモノマー複合体	④
2071	（癌胎児性）フィブロネクチン定性（頸管腟分泌液）	57	204	免疫	D015 23	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管腟分泌液）	㉙
1433	フィラリア仔虫	94	40	血液	D005 07	血中微生物検査	スライド
1318	風疹ウイルス（三日はしか）（LA）	71	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1 項目当たり）	①
2610 2620	風疹ウイルス（三日はしか）（IgG、IgM）	71	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液
1850	フェニトイン	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1848	フェノバルビタール	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1204	フェリチン定量	32	102	生化Ⅰ	D007 25	フェリチン定量	①
2674	フォン・ウィルブランド因子抗原活性（リストセチンコファクター）	99	126	血液	D006 14	von Willebrand因子（VWF）活性	④
5504	フォン・ウィルブランド因子抗原定量	99	147	血液	D006 20	von Willebrand因子（VWF）抗原	④
3192	フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析	99	－				④
1328	不規則抗体（抗体同定・抗体価測定）	47	159	免疫	D011 04	不規則抗体	⑫（7mL）
2742	副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact（PTHrP-intact）	51	186	生化Ⅱ	D008 38	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）	⑧
2076	副甲状腺ホルモンintact（PTH-intact）	51	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン（PTH）	⑫
3036	副甲状腺ホルモンwhole（whole PTH）	51	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン（PTH）	⑫
2773	（抗）副腎皮質抗体	46	－				①
1810	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	48	184	生化Ⅱ	D008 37	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	⑫
1162	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）	①
2039	プラスミノゲン活性	97	100	血液	D006 12	プラスミノゲン活性	④
3845	プラスミノゲン抗原量	97	100	血液	D006 12	プラスミノゲン抗原	④
1196	（α_2）プラスミンインヒビター（アンチプラスミン活性（α_2PI））	97	128	血液	D006 16	プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	④
2977	プラスミンインヒビター複合体（PIC）	97	150	血液	D006 21	プラスミンプラスミンインヒビター複合体（PIC）	④
1849	プリミドン	87	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2024	プレアルブミン（トランスサイレチン）	32	101	免疫	D015 12	トランスサイレチン（プレアルブミン）	①
2099	フレカイニド	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2018	プレグナンジオール（P_2）	56	213	生化Ⅱ	D008 43	プレグナンジオール	㊻
2019	プレグナントリオール（P_3）	56	232	生化Ⅱ	D008 48	プレグナントリオール	㊻
3978	プレセプシン	24	301	生化Ⅰ	D007 61	プレセプシン定量	⑪
2054	プロカインアミド	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
3232	プロカルシトニン（PCT）定量	24	276	生化Ⅰ	D007 59	プロカルシトニン（PCT）定量	①
1824	プロゲステロン	56	143	生化Ⅱ	D008 22	プロゲステロン	①
頁参照	プロジェステロンレセプター（PgR）	114	690	病理	N002 02	プロジェステロンレセプター	㊷
2946	プロコラーゲン- Ⅲ- ペプチド（P- Ⅲ-P）	33	136	生化Ⅰ	D007 39	プロコラーゲン - Ⅲ- ペプチド（P- Ⅲ-P）	①
3498	プロチゾラム	91	－				⑤

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	ふ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2944	プロテインC 活性	97	227	血液	D006 31	プロテイン C 活性	④
2943	プロテインC抗原	97	226	血液	D006 30	プロテインC抗原	④
2799	プロテインS 活性	97	163	血液	D006 23	プロテイン S 活性	④
2947	プロテインS 抗原	97	154	血液	D006 22	プロテイン S 抗原	④
2948	プロテインS（遊離型抗原量）	97	154	血液	D006 22	プロテイン S 抗原	④
2321	（赤血球）プロトポルフィリン	19	272	生化Ⅰ	D007 58	赤血球プロトポルフィリン	⑭
1435	プロトロンビン時間（PT）	95	18	血液	D006 02	プロトロンビン時間（PT）	④
2893	プロパフェノン	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2599	ブロムペリドール	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1811	プロラクチン（PRL）	48	98	生化Ⅱ	D008 06	プロラクチン（PRL）	①
1557	糞便中ヘモグロビン定性	102	37	尿便	D003 05	糞便中ヘモグロビン定性	㊹

コード	へ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1886	（抗）平滑筋抗体	43	－				①
3490	ヘパリン	98	108	生化Ⅰ	D007 28	ヘパリン	④
5507	ペプシノゲン（PG）	26･58	－				①
3922	ベプリジル	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
1406	ヘマトクリット（Ht）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
5115	ヘモグロビンA1c （HbA1c）	14	49	血液	D005 09	ヘモグロビンA1c （HbA1c）	②
8441	ペランパネル	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
3033	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性（便）	26	142	免疫	D012 25	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	⑰
2730	ヘリコバクター・ピロリ抗体	26	80	免疫	D012 12	ヘリコバクター・ピロリ抗体	①
3421	ヘリコバクター・ピロリ抗体定性（尿）	26	70	免疫	D012 09	ヘリコバクター・ピロリ抗体定性・半定量	㊻
3217	ペルオキシダーゼ染色（特殊染色 血液像）	94	37	血液	D005 06 注	末梢血液像（鏡検法）注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
3221	ペルオキシダーゼ染色（特殊染色 骨髄像）	94	60	血液	D005 14 注	骨髄像 注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
頁参照	ヘルペスウイルス（単純、水痘・帯状）	72	頁参照				①血清 ㊻髄液
1842	ベンス･ジョーンズ（Bence Jones）蛋白同定（尿）	35	201	免疫	D015 22	Bence Jones 蛋白同定（尿）	㊻
8485	便中カルプロテクチン	34	268	尿便	D003 09	カルプロテクチン（糞便）	㊻
3033	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	26	142	免疫	D012 25	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	⑰
1913	扁平上皮癌関連抗原（SCC）	63	101	生化Ⅱ	D009 04	扁平上皮癌関連抗原（SCC）	①

コード	ほ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2185	（膵）ホスフォリパーゼA_2 （PLA_2）	5	204	生化Ⅰ	D007 51	ホスフォリパーゼA_2 （PLA_2）	①
1169	補正カルシウム	11	－				①
1255	（血清）補体価（CH_{50}）	36	38	免疫	D015 04	血清補体価（CH_{50}）	①
1256	補体C_3	36	70	免疫	D015 08	C_3	①
1257	補体C_4	36	70	免疫	D015 08	C_4	①
1742	（血中総）ホモシステイン	16	279	生化Ⅱ	D010 04	アミノ酸 イ 1種類につき	⑫
1817 5655 2638	ホモバニリン酸（HVA）（尿、尿（クレアチニン補正）、血漿）	52	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（HVA）	㊻尿 ⑫血漿
3284	ポリコナゾール	90	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
2989	尿中ポルフォビリノゲン定量	19	186	尿便	D001 16	ポルフォビリノゲン（尿）	㊸

コード	ま	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1971 2170	（α_1）マイクログロブリン（血清、尿）	33	129	免疫	D015 14	α_1-マイクログロブリン	①血清 ㊻尿
1207 1208	（β_2）マイクログロブリン（血清、尿）	33	98	免疫	D015 10	β_2-マイクログロブリン	①血清 ㊻尿
2747	マイコバクテリウム・アビウムおよびイントラセルラー（MAC）核酸検出	105	421	微生	D023 16	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出	
3883	マイコプラズマ核酸検出	22	291	微生	D023 06	マイコプラズマ核酸検出	㊾ぬぐい液 ㊿喀痰
1333	マイコプラズマ抗体半定量	22	32	免疫	D012 04	マイコプラズマ抗体半定量	①
1048 1157 3054	マグネシウム（Mg）（血清、蓄尿、部分尿）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	マグネシウム	①血清 ㊻尿
2025	（α_2）マクログロブリン	32	138	血液	D006 17	α_2-マクログロブリン	①
2630 2640	麻疹ウイルス（はしか）（IgG、IgM）	71	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1 項目当たり）	①血清 ㊻髄液

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	ま	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1400	末梢血液一般検査	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
5511	末梢血液像（アナリーゼ）（鏡検法）	93	25	血液	D005 06	末梢血液像（鏡検法）	③および スライド
1412	末梢血液像（自動機械法）	93	15	血液	D005 03	末梢血液像（自動機械法）	③
3187	末梢血好中球 BCR-ABL1 t (9;22) 転座	86	2477	遺染	D006-5 01	染色体検査（すべての費用を含む。） 1 FISH 法を用いた場合	⑪（5mL）
3433	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	41	116	免疫	D014 09	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3 (MMP-3)	①
1432	マラリア原虫	94	40	血液	D005 07	血中微生物検査	スライド
頁参照	マルチアレルゲン（特異的IgE 定量）	37・39	各 110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
3026 3027 3028	マンガン（Mn）（血清、血液、尿）	13	27	生化Ⅰ	D007 08	マンガン（Mn）	⑩血清 ⑪血液 ⑩尿
3980	マンデル酸（MA）（エチルベンゼン）	21	－				㊻

コード	み	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2290	ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）	35	570	尿便	D004 12	ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）	㊻
2028 2921	ミオグロビン定量（血清、尿）	59	131	生化Ⅰ	D007 36	ミオグロビン定量	①血清 ㊷尿
2004	（心室筋）ミオシン軽鎖Ⅰ	59	184	生化Ⅰ	D007 48	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	①
1318	三日はしか（風疹ウイルス）（LA）	71	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①
2610 2620	三日はしか（風疹ウイルス）（IgG、IgM）	71	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 （1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
1885	（抗）ミトコンドリア抗体	42	181	免疫	D014 21	抗ミトコンドリア抗体半定量	①
2715	（抗）ミトコンドリアM2 抗体	42	189	免疫	D014 22	抗ミトコンドリア抗体定量	①
8528	（抗）ミュラー管ホルモン（AMH）	48	－				①

コード	む	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1047 1140	無機リン（IP）（血清、尿）	12	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	①血清 ㊻尿
1953 1954 1734	ムンプスウイルス（おたふく風邪） （CF、HI、NT）	70	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価 （定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2601 2605	ムンプスウイルス（おたふく風邪） （IgG、IgM）	70	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価 （1項目当たり）	①血清 ㊻髄液

コード	め	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2698	メキシレチン	89	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1815	メタネフリン2分画	52	220	生化Ⅱ	D008 45	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	㊻
3142	メタノール	20	－				㊻
2755	メチル馬尿酸（MHA）	21	－				㊻
2056	メトトレキサート	91	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
頁参照	免疫グロブリン（IgG、IgA、IgM）	35・36	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン	①
	免疫染色（1臓器）	116	400	病理			㊸
	免疫染色（2臓器）	116	800	病理			㊸
	免疫染色（3臓器）	116	1200	病理			㊸
1840	免疫電気泳動（抗ヒト全血清）	35	170	免疫	D015 17	免疫電気泳動法（抗ヒト全血清）	①
1841	免疫電気泳動（特異抗血清）（M蛋白同定）	35	218	免疫	D015 24	免疫電気泳動法（特異抗血清）	①
1724	免疫複合体（モノクローナルRF 結合）	44	194	免疫	D014 25	モノクローナル RF 結合免疫複合体	①

コード	も	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1410	網状赤血球（レチクロ）	93	12	血液	D005 02	網赤血球数	③
1724	モノクローナルRF 結合免疫複合体	44	194	免疫	D014 25	モノクローナル RF 結合免疫複合体	①

コード	や	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2643 5513 5514	薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST） （1 薬剤、2 薬剤、3 薬剤）	82	345 425 515	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験（LST）　イ 1 薬剤 リンパ球刺激試験（LST）　ロ 2 薬剤 リンパ球刺激試験（LST）　ハ 3 薬剤以上	⑪
頁参照	薬物検査	87～92	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	頁参照

コード	ゆ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3440	遊離型 PSA F/T 比	62	150	生化Ⅱ	D009 17	遊離型 PSA比（PSA F/T 比）	①
3037	遊離カテコールアミン3分画	52	161	生化Ⅱ	D008 29	カテコールアミン分画	㊻
1034	遊離コレステロール	7	11	生化Ⅰ	D007 01	遊離コレステロール	①
1231	遊離サイロキシン（FT_4）	49	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離サイロキシン（FT_4）	①
43454	遊離テストステロン	56	159	生化Ⅱ	D008 29	遊離テストステロン	①

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	ゆ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1230	遊離トリヨードサイロニン（FT3）	49	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離トリヨードサイロニン（FT3）	①
1834	遊離 HCG-β（ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット）	62	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）	①
3866	遊離L鎖κ/λ比（FLC）	35	388	免疫	D015 29	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	①
コード	よ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1835	葉酸	18	146	生化Ⅰ	D007 41	葉酸	①
コード	ら	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
8456	ラコサミド	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
3350	ラモトリギン	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑪
2981	（抗）ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	46	−				①
1809	卵胞刺激ホルモン（FSH）	48	105	生化Ⅱ	D008 12	卵胞刺激ホルモン（FSH）	①
コード	り	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2945	（IgG 型）リウマトイド因子	41	198	免疫	D014 26	IgG 型リウマトイド因子	①
2192	リウマトイド因子（RF）定量	41	30	免疫	D014 02	リウマトイド因子（RF）定量	①
2674	リストセチンコファクター（von Willebrand 因子（VWF）活性）	99	126	血液	D006 14	von Willebrand 因子（VWF）活性	④
2955 2718	リゾチーム（血清、尿）	5	−				①血清 ㊻尿
1066	リチウム	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2055	リドカイン	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
1025	リパーゼ	4	24	生化Ⅰ	D007 06	リパーゼ	①
1552	リバルタ反応（穿刺液検査）	104	−				㊻
3003	（抗）リボゾーム P 抗体	45	−				①
1839	リポ蛋白分画	6	49	生化Ⅰ	D007 15	リポ蛋白分画	①
2888	リポ蛋白分画（HPLC）	6	129	生化Ⅰ	D007 34	リポ蛋白分画（HPLC法）	①
2905	リポ蛋白（a）（Lp（a））	6	107	生化Ⅰ	D007 27	リポ蛋白（a）	①
2703	リボフラビン（ビタミンB_2）	18	235	生化Ⅰ	D007 55	ビタミンB_2	⑮
1047 1140	（無機）リン（IP）（血清、尿）	12	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	①血清 ㊻尿
3929 3932	淋菌およびクラミジア・トラコマチス同時核酸同定（TaqManPCR）（初尿、ぬぐい液、うがい液）	30	262	微生	D023 05	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出	㊴初尿 ㊳ぬぐい液 ㊴うがい液
3928 3931	淋菌核酸同定（TaqManPCR）（初尿、ぬぐい液、うがい液）	30	198	微生	D023 02	淋菌核酸検出	㊴初尿 ㊳ぬぐい液 ㊴うがい液
1029	リン脂質（PL）	6	15	生化Ⅰ	D007 02	リン脂質	①
頁参照	リンパ球サブセット検査（細胞表面マーカー検査）	81	185	免疫	D016 02	T細胞サブセット検査（一連につき）	③（3mL）
2643 5513 5514	（薬剤による）リンパ球刺激試験（DLST）（1薬剤、2薬剤、3薬剤）	82	345 425 515	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験（LST）イ 1薬剤 リンパ球刺激試験（LST）ロ 2薬剤 リンパ球刺激試験（LST）ハ 3薬剤以上	⑪
2588 2591	リンパ球幼若化試験（リンパ球分離培養法）（PHA、ConA）	82	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験（LST）イ 1薬剤	㉑
2594	リンパ球幼若化試験（リンパ球分離培養法）（PWM）	82	−				㉑
コード	る	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1736	ループスアンチコアグラント定量	44・98	265	免疫	D014 35	ループスアンチコアグラント定量	④（5mL）
3990	ルフィナミド	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
コード	れ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3936	レジオネラ核酸同定	22	292	微生	D023 07	レジオネラ核酸検出	㊺
8560	レジオネラ抗原（尿）（イムノクロマト法）	22	205	免疫	D012 46	レジオネラ抗原定性（尿）	㊻
1410	レチクロ（網状赤血球）	93	12	血液	D005 02	網赤血球数	③
2079	レチノール結合蛋白（RBP）	32	132	免疫	D015 15	レチノール結合蛋白（RBP）	①
1240	レニン活性（PRA）	54	100	生化Ⅱ	D008 08	レニン活性	⑫
8612	レニン濃度（ARC）	54	102	生化Ⅱ	D008 10	レニン定量	⑫
3819	レベチラセタム	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2902	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	7	174	生化Ⅰ	D007 44	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	①
コード	ろ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1012	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	①
8525	ロイシンリッチα2グリコプロテイン（LRG）	34	268	生化Ⅰ	D007 57	ロイシンリッチα2グリコプロテイン	①
3016	ロタウイルス抗原定性（糞便）	107	65	免疫	D012 08	ロタウイルス抗原定性（糞便）	㊷

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	A	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
8464	ABC分類（胃がんリスク層別化検査）	26	−				①
1312	ABO血液型	47	24	免疫	D011 01	ABO血液型	⑥
1244	ACE（アンジオテンシンⅠ転換酵素）	55	136	生化Ⅰ	D007 39	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	①
2029	（抗）AChR抗体（抗アセチルコリンレセプター抗体）	45	775	免疫	D014 45	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	①
3104	ACPA（抗CCP抗体） （抗シトルリン化ペプチド抗体定量）	41	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	①
1810	ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）	48	184	生化Ⅱ	D008 37	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	⑫
2033 3030	ADA（アデノシンデアミナーゼ） （血清、穿刺液）	4	32	生化Ⅰ	D007 11	アデノシンデアミナーゼ（ADA）	①血清 ㊻穿刺液
3908	ADH（バゾプレシン）（AVP）（抗利尿ホルモン）	48	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン（ADH）	⑫
2644	AFP-L3%（α-フェトプロテインレクチン分画）	60	185	生化Ⅱ	D009 26	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	①
1203	AFP （α-フェトプロテイン）	60	98	生化Ⅱ	D009 02	α-フェトプロテイン（AFP）	①
1058	A/G 比	5	−				
5058	A/G 比（ヒト以外）	5	−				
1164	Alb（アルブミン）	5	11	生化Ⅰ	D007 01	アルブミン（BCP改良法・BCG法）	①
5164	Alb（アルブミン）（ヒト以外）	5	−				①
1065	ALD（アルドラーゼ）	4	11	生化Ⅰ	D007 01	アルドラーゼ	①
3887	（肺癌）ALK 融合遺伝子（FISH）	116	6520	病理	N005-2	ALK 融合遺伝子標本作製	㊷
23886	（肺癌）ALK 融合タンパク	116	2700	病理	N002 06	ALK 融合タンパク	㊷
2109	ALP（アルカリホスファターゼ）（IFCC）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	アルカリホスファターゼ（ALP）	①
1100	ALP（アルカリホスファターゼ）アイソザイム	2	48	生化Ⅰ	D007 14	ALP アイソザイム	①
2782	ALP染色（特殊染色 血液像）	94	37	血液	D005 06 注	末梢血液像（鏡検法）注　特殊染色を 併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
1007	ALT（GPT）	2	17	生化Ⅰ	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）	①
1979	Al（アルミニウム）	13	109	生化Ⅰ	D007 29	アルミニウム（Al）	⑩
3832	AMH（抗ミュラー管ホルモン）	48	597	生化Ⅱ	D008 52	抗ミュラー管ホルモン（AMH）	①
1090	AMY（アミラーゼ）アイソザイム	4	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	①
1095	AMY（アミラーゼ）アイソザイム（電気泳動法）	4	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	①
1026 1027	AMY（アミラーゼ）（血清、尿）	4	11	生化Ⅰ	D007 01	アミラーゼ	①血清 ㊻尿
8545	ANA（抗核抗体（蛍光抗体法）半定量）	41	99	免疫	D014 05	抗核抗体（蛍光抗体法）半定量	①
1299	ANP（心房性Na利尿ペプチド）	58	221	生化Ⅱ	D008 46	心房性 Na 利尿ペプチド（ANP）	⑧
1438	APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）	95	29	血液	D006 07	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	④
6974	（特異的IgE）Ara h 2（ピーナッツ由来）	37	110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
8612	ARC（レニン濃度）	54	102	生化Ⅱ	D008 10	レニン定量	⑫
3970	（抗）ARS抗体	44	190	免疫	D014 23	抗 ARS 抗体	①
1052	ASO（抗ストレプトリジンO）定量	22	15	免疫	D012 01	抗ストレプトリジンO （ASO）定量	①
1006	AST（GOT）	2	17	生化Ⅰ	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）	①
1447	ATⅢ（アンチトロンビン活性）	97	70	血液	D006 09	アンチトロンビン活性	④
5375	ATLウイルス（HTLV-Ⅰ） プロウイルスDNA（クロナリティ）	78	−				⑫
1882	ATL抗体（HTLV-Ⅰ抗体）	78	159	免疫	D012 31	HTLV-Ⅰ抗体	①
3908	AVP（バゾプレシン）（抗利尿ホルモン）（ADH）	48	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン（ADH）	⑫
5115	（ヘモグロビン）A1c（HbA1c）	14	49	血液	D005 09	ヘモグロビンA1c（HbA1c）	②

コード	B	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
頁参照	B細胞表面免疫グロブリン（Sm-Ig）	81	155	免疫	D016 01	B細胞表面免疫グロブリン	③（3mL）
2449	BAP（骨型アルカリホスファターゼ）	64	157	生化Ⅱ	D008 26	骨型アルカリホスファターゼ（BAP）	①
2049	BCA225	61	158	生化Ⅱ	D009 20	BCA225	①
2612	BCR-ABL1 t（9;22）転座	86	2477	遺染	D006-5 01	染色体検査（すべての費用を含む。） 1FISH 法を用いた場合	⑪（5mL）
3187	（末梢血好中球）BCR-ABL1 t（9;22）転座	86	2477	遺染	D006-5 01	染色体検査（すべての費用を含む。） 1FISH 法を用いた場合	⑪（5mL）
1842	Bence Jones 蛋白同定（尿）	35	201	免疫	D015 22	Bence Jones蛋白同定（尿）	㊻
1289	BFP（塩基性フェトプロテイン）	60	150	生化Ⅱ	D009 17	塩基性フェトプロテイン（BFP）	⑤
2648	BNP（脳性Na利尿ペプチド）	59	130	生化Ⅱ	D008 18	脳性Na利尿ペプチド（BNP）	⑦
3497	（抗）BP180-NC16a抗体	46	270	免疫	D014 36	抗BP180-NC 16a抗体	①
5552	BTA定性（尿）	62	80	生化Ⅱ	D009 01	尿中 BTA	㊺
1709	BTR（総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比）	16	283	生化Ⅱ	D010 05	総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比（BTR）	①
1036 1141	BUN（尿素窒素）（血清、尿）	9	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素	①血清 ㊻尿

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	C	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1051	C反応性蛋白（CRP）	34	16	免疫	D015 01	C反応性蛋白（CRP）	①
1380 1972	C- ペプチド（CPR）（血清、尿）	58	105	生化Ⅱ	D008 12	C- ペプチド（CPR）	①血清 ㊻尿
1045 1155	Ca（カルシウム）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	カルシウム	①血清 ㊻尿
8450	（抗）CADM-140抗体（抗MDA5抗体）	44	270	免疫	D014 37	抗MDA5抗体	①
2072 5843	cAMP（サイクリックAMP）（血漿、尿）	59	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリックAMP　（cAMP）	⑫血漿 ㊻尿
2770	C-ANCA（抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体）（PR3-ANCA）	46	252	免疫	D014 33	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）	①
1732	CA・RF（抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	41	111	免疫	D014 08	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	①
1976	CA125	61	136	生化Ⅱ	D009 11	CA125	①
1977	CA15-3	61	112	生化Ⅱ	D009 06	CA15-3	①
1212	CA19-9	60	121	生化Ⅱ	D009 09	CA19-9	①
2295	CA54/61	61	184	生化Ⅱ	D009 25	CA54/61	①
2251	CA602	61	190	生化Ⅱ	D009 27	CA602	①
1287	CA72-4	61	146	生化Ⅱ	D009 16	CA72-4	①
3104	（抗）CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体定量）（ACPA）	41	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	①
1133	CCR（クレアチニン・クリアランス）	10	－				①血清 ㊻尿
3904	CCR4タンパク（FCM）	81	10000	血液	D006-10	CCR4タンパク（フローサイトメトリー法）	⑪（5mL）
3905	CCR4タンパク（IHC）	116	10000	病理	N002 05	CCR4タンパク	㊷
5987	Cディフィシル抗原／トキシン	107	80	免疫	D012 12	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性	㊿
3439	CD45ゲーティング（悪性リンパ腫解析検査）（MLA）	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪（5mL）
2262	CD45ゲーティング（白血病・リンパ腫解析検査）（LLA）	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪（5mL）
1201	CEA（癌胎児性抗原）	60	99	生化Ⅱ	D009 03	癌胎児性抗原（CEA）	①
1008	ChE（コリンエステラーゼ）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	コリンエステラーゼ（ChE）	①
1255	CH_{50}（血清補体価）	36	38	免疫	D015 04	血清補体価（CH_{50}）	①
1015	CK（クレアチンキナーゼ）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチンキナーゼ（CK）	①
1260	CKアイソザイム	3	55	生化Ⅰ	D007 17	CKアイソザイム	①
3899	c-kit 遺伝子変異解析（GIST）	86	2100	遺伝子	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査	㊷
2001	CK-MB　（CKアイソザイム）	3	55	生化Ⅰ	D007 17	CKアイソザイム	①
1043 1138	Cl（クロール）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	①血清 ㊻尿
2089	CMV（サイトメガロウイルス）（CF）	71	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2690 2695	CMV（サイトメガロウイルス）（IgG、IgM）	71	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2774	CMVpp65抗原（アンチジェネミア法）	80	356	免疫	D012 57	サイトメガロウイルスpp65 抗原定性	⑫
3481	CMVpp65 抗原（C7-HRP）	80	356	免疫	D012 57	サイトメガロウイルスpp65 抗原定性	⑫
1015	CPK（クレアチンキナーゼ）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチンキナーゼ（CK）	①
1380 1972	CPR（C- ペプチド）（血清、尿）	58	105	生化Ⅱ	D008 12	C- ペプチド（CPR）	①血清 ㊻尿
3069 3068 3070	Cr（クロム）（血清、血液、尿）	13	－				⑩血清 ⑪血液 ⑩尿
1038 1142	CRE（クレアチニン）（血清、尿）	10	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチニン	①血清 ㊻尿
1051	CRP（C反応性蛋白）	34	16	免疫	D015 01	C反応性蛋白（CRP）	①
3021	CSLEX（シアリルLe^{x}抗原）	61	156	生化Ⅱ	D009 19	シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）	①
1235	CT（カルシトニン）	51	130	生化Ⅱ	D008 18	カルシトニン	①
1049 1158	Cu（銅）（血清、尿）	12	23	生化Ⅰ	D007 05	銅（Cu）	①血清 ⑩尿
2736	CYFRA（シフラ）（サイトケラチン19 フラグメント）	63	154	生化Ⅱ	D009 18	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	①
2244	C_1インアクチベーター活性（C_1エステラーゼインヒビター活性）	97	253	免疫	D015 25	C_1インアクチベータ	④
1256	C_3	36	70	免疫	D015 08	C_3	①
1257	C_4	36	70	免疫	D015 08	C_4	①

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	D	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1458	Dダイマー	95	127	血液	D006 15	Dダイマー	④
1003	D-Bil（直接ビリルビン）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	①
2885	DHEA-S（デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体）	53	164	生化Ⅱ	D008 31	（デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）	①
2643 5513 5514	DLST（薬剤によるリンパ球刺激試験）（1薬剤、2薬剤、3薬剤）	82	345 425 515	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験（LST）　イ 1薬剤 リンパ球刺激試験（LST）　ロ 2薬剤 リンパ球刺激試験（LST）　ハ 3薬剤以上	⑪
1883	（抗）DNA抗体	42	159	免疫	D014 17	抗DNA抗体定量	①
1746	DPD（デオキシピリジノリン）骨粗鬆症	64	191	生化Ⅱ	D008 39	デオキシピリジノリン（DPD）（尿）	㊻
2953	（抗）ds-DNA抗体（IgG）	42	159	免疫	D014 17	抗DNA抗体定量	①
2954	（抗）ds-DNA抗体（IgM）	42	－				①
1905	DUPAN-2	60	115	生化Ⅱ	D009 07	DUPAN-2	①

コード	E	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3980	EB（エチルベンゼン）（マンテル酸（MA））	21	－				㊻
1945	EBウイルス（EA-DR）（IgA）	73	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・判定量・定量）（1項目あたり）	①血清 ㊻髄液
1944	EBウイルス（EA-DR）（IgG）	73	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目あたり）	①血清 ㊻髄液
1947	EBウイルス（EBNA）	73	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・判定量・定量）（1項目あたり）	①血清 ㊻髄液
1942	EBウイルス（VCA）（IgA）	73	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・判定量・定量）（1項目あたり）	①血清 ㊻髄液
1941 1943	EBウイルス（VCA）（IgG、IgM）	73	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目あたり）	①血清 ㊻髄液
8434	EGFR 遺伝子変異解析 v2.0	86	2500	遺伝	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査	㊷
5799	eGFRcreat（推算 GFRcreat）	10	－				
5098	eGFRcys（推算 GFRcys）	10	－				
2078	EPO（エリスロポエチン）	59	209	生化Ⅱ	D008 41	エリスロポエチン	①
1827	E_2（エストラジオール）	56	167	生化Ⅱ	D008 33	エストラジオール（E_2）	①

コード	F	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1444	FDP（尿）	95	72	尿便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）（尿）	㊵
1445	FDP 定量	95	80	血液	D006 10	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（FDP）定量	④
1046	Fe（血清鉄）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	鉄（Fe）	①
1440	Fib（フィブリノゲン定量）	95	23	血液	D006 04	フィブリノゲン定量	④
3866	FLC（遊離L鎖κ/λ比）	35	388	免疫	D015 29	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	①
1460	FMテスト（フィブリンモノマー複合体定性）	96	93	血液	D006 11	フィブリンモノマー複合体定性	④
1424	FMC（フィブリンモノマー複合体）定量	96	215	血液	D006 28	フィブリンモノマー複合体	④
1078	Friedeswald（F）式によるLDL－コレステロール	7	－				
1809	FSH（卵胞刺激ホルモン）	48	105	生化Ⅱ	D008 12	卵胞刺激ホルモン（FSH）	①
1321	FTA-ABS 定性	28	134	免疫	D012 23	梅毒トレポネーマ抗体（FTA-ABS試験）定性	①血清 ㊻髄液
2716	FTA-ABS 定量	28	134	免疫	D012 23	梅毒トレポネーマ抗体（FTA-ABS試験）半定量	①血清 ㊻髄液
2887	FTA-ABS IgM	28	－				①
1230	FT_3（遊離トリヨードサイロニン）	49	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	①
1231	FT_4（遊離サイロキシン）	49	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離サイロキシン（FT_4）	①

コード	G	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2778	GA（グリコアルブミン）	14	55	生化Ⅰ	D007 17	グリコアルブミン	①
2726	（抗）GAD抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）	58	134	生化Ⅱ	D008 19	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）	①
2265	（染色体）G-Banding（血液疾患、先天異常）	83	2477 ＋ 397	遺伝	D006-5 03 ＋ D006-5 注1	染色体検査（全ての費用を含む） その他の場合＋分染法加算	⑪血液 ㉖髄液
2283	（抗）GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	45	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	①
1801	GH（成長ホルモン）	48	105	生化Ⅱ	D008 12	成長ホルモン（GH）	①
3899	GIST（c-kit遺伝子変異解析）	86	2100	遺伝	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査	
1006	GOT（AST）	2	17	生化Ⅰ	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）	①
1007	GPT（ALT）	2	17	生化Ⅰ	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）	①
1181	GU（グアナーゼ）	4	35	生化Ⅰ	D007 12	グアナーゼ	①

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	H	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2939	HA（馬尿酸）	21	—				㊻
1221	HA-IgG抗体	21	146	免疫	D013 08	HA抗体	①
1223	HA-IgM抗体	67	146	免疫	D013 08	HA-IgM抗体	①
1299	hANP（心房性Na利尿ペプチド）	58	221	生化Ⅱ	D008 46	心房性Na利尿ペプチド（ANP）	⑧
1403	Hb（血色素量）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
5115	HbA1c（ヘモグロビンA1c）	14	49	血液	D005 09	ヘモグロビンA1c（ＨｂA1c）	②
1220	HBc抗体（定量）	67	130	免疫	D013 06	HBc抗体半定量・定量	①
1912	HBc-IgM（IgM-HBc）抗体	67	146	免疫	D013 08	HBc-IgM抗体	①
3279	HBcrAg　（HBVコア関連抗原）	68	252	免疫	D013 12	HBVコア関連抗原（HBcrAg）	①
1218	HBe抗原	67	98	免疫	D013 04	HBe抗原	①
1219	HBe抗体	67	98	免疫	D013 04	HBe抗体	①
1216	HBs抗原	67	88	免疫	D013 03	HBs抗原	①
1316	HBs抗原（定性）	67	29	免疫	D013 01	HBs抗原定性・半定量	①
1217	HBs抗体	67	88	免疫	D013 03	HBs抗体	①
1317	HBs抗体（定性）	67	32	免疫	D013 02	HBs抗体定性	①
8461	HBV核酸定量	68	256	微生	D023 04	HBV核酸定量	⑲
3830	HBVゲノ（ジェノ）タイプ	68	340	免疫	D013 14	HBVジェノタイプ判定	①
3279	HBVコア関連抗原（HBcrAg）	68	252	免疫	D013 12	HBVコア関連抗原（HBcrAg）	①
3020	HBV-DNA検出プレコア変異/コアプロモーター変異検出	68	450	微生	D023 17	HBV核酸プレコア変異及びコアプロモーター変異検出	⑲
1829 1899	HCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）定量（血清、尿）	57	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト粧毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	①血清 ㊻尿
1834	（遊離）HCG-β（ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット）	62	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト純毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）	①
2598	HCV核酸定量	69	412	微生	D023 15	HCV核酸定量	⑲
2274	HCV 血清群別判定（グルーピング）（セロタイプ）	69	215	免疫	D013 11	HCV 血清群別判定	①
3465	HCVコア蛋白（HCVコア抗原）	69	102	免疫	D013 05	HCV コア蛋白	①
1298 2997	HCV抗体定量（第二、三世代）	69	102	免疫	D013 05	HCV抗体定性・定量	①
3287	HCV-RNAジェノタイプ	69	—				⑲
1035	HDL一コレステロール	7	17	生化Ⅰ	D007 03	HDL一コレステロール	①
3207	HER2蛋白定量	63	—				①
3158	HER2/neu 遺伝子	114	2700	病理	N005 01	HER2遺伝子標本作製　単独の場合	㊷
9613	HER2/neu タンパク	114	690	病理	N002 03	HER2タンパク	㊷
3896	HEV-IgA抗体（定性）	67	210	免疫	D013 10	HE-IgA抗体定性	①
8457	HE4（ヒト精巣上体蛋白4）	61	200	生化Ⅱ	D009 29	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）	①
5875	H-FABP（心臓由来脂肪酸結合蛋白）定量	59	131	生化Ⅰ	D007 36	心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量	①
2761	HGF（肝細胞増殖因子）	59	227	生化Ⅰ	D007 54	肝細胞増殖因子（HGF）	①
3926	HIT抗体（血小板第4因子―ヘパリン複合体抗体）	44	390	免疫	D011 10	血小板第4因子ーヘパリン複合体抗体（IgG、IgM及びIgA抗体）	④
3253	HIV-1 RNA定量	78	520	微生	D023 18	HIV-1核酸定量	⑳
2077	HIV-1,2抗原・抗体同時測定（定性）	78	109	免疫	D012 16	HIV-1,2抗原・抗体同時測定定性	①
8536	HIV-1/2 抗体確認検査	78	660	免疫	D012 63	HIV-1 特異抗体・HIV-2 特異抗体	⑲
2040 2044	HLA 型判定（A,B Locus、DR Locus）	83	—				③
3960	HPV（ヒトパピローマウイルス）ジェノタイプ判定	80	2000	微生	D023 25	HPV ジェノタイプ判定	㊹
5371	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（ハイリスクグループ）	80	347	微生	D023 10	HPV 核酸検出	㉘
5372	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（ローリスクグループ）	80	—				㉘
5377	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（LBC）（ハイリスクグループ）	80	347	微生	D023 10	HPV 核酸検出	㊹
3946	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（LBC）（16・18・他ハイリスクグループ）	80	347	微生	D023 11	HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	㊹

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	H	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1956	HSV（単純ヘルペスウイルス）（CF）	72	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2275 2276	HSV（単純ヘルペスウイルス）（1型、2型）（NT）	72	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2504	HSV（単純ヘルペスウイルス）DNA定性	79	—				頁参照
2650 2660	HSV（単純ヘルペスウイルス）（IgG、IgM）	72	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2968	HSV（単純ヘルペスウイルス）特異抗原定性	79	180	免疫	D012 39	単純ヘルペスウイルス抗原定性	㉗
1882	HTLV-Ⅰ抗体（ATL抗体）	78	159	免疫	D012 31	HTLV-Ⅰ抗体	①
8490	HTLV-Ⅰ抗体（LIA）（ラインブロット）	78	425	免疫	D012 60	HTLV-Ⅰ抗体（ウエスタンブロット法及びラインブロット法）	①
5375	HTLV-Ⅰ（ATLウイルス）プロウイルスDNA（クロナリティ）	78	—				⑫
1406	Ht（ヘマトクリット）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
1817	HVA（ホモバニリン酸）　（尿）	52	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（HVA）	㊻
5655	HVA（ホモバニリン酸）（尿（クレアチニン補正））	52	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（HVA）	㊻
2638	HVA（ホモバニリン酸）（血漿）	52	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（HVA）	⑫
コード	I	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3062	（抗）IA-2抗体	58	213	生化Ⅱ	D008 43	抗IA-2抗体	①
2981	ICA（抗ランゲルハンス氏島抗体）	46	—				①
1106 1110	ICG（投与前、15分後）	20	100		D289 02	肝機能テスト（ICG1 回又は 2 回法、BSP2 回法）	①
1251	IgA	36	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン	①
3896	IgA-HEV（HEV-IgA）抗体（定性）	67	210	免疫	D013 10	HE-IgA抗体定性	①
頁参照	（特異的）IgE定量（シングルアレルゲン）イムノキャップ・アラスタット3g	37・38	各 110	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
1253	（非特異的）IgE（定量）	37	100	免疫	D015 11	非特異的IgE定量	①
2050	IGF-Ⅰ（ソマトメジンC）	48	212	生化Ⅱ	D008 42	ソマトメジン C	
1250	IgG	35	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン	①
3106	IgGインデックス	35	390	尿便	D004 10	IgGインデックス	①血清 ㊻髄液
2945	IgG型リウマトイド因子	41	198	免疫	D014 26	IgG型リウマトイド因子	①
3450	IgGサブクラス分画（TIA）	35	—				①
3341	IgGサブクラスIgG_2（TIA）	35	239	免疫	D014 31	IgG_2（TIA法によるもの）	①
3393	IgGサブクラスIgG_4	35	377	免疫	D014 41	IgG_4	①
1221	IgG-HA（HA-IgG）抗体	67	146	免疫	D013 08	HA抗体	①
1252	IgM	36	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン	①
1223	IgM-HA（HA-IgM）抗体	67	146	免疫	D013 08	HA-IgM抗体	①
1912	IgM-HBc抗体	67	146	免疫	D013 08	HBc-IgM抗体	①
1992	IL-6（インターロイキン―6）	82	—				⑫
1047 1140	IP（無機リン）（血清、尿）	12	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	①血清 ㊻尿
1371	IRI（インスリン）	58	100	生化Ⅱ	D008 10	インスリン（IRI）	①
コード	J	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2226	（抗）Jo-1抗体（免疫拡散法）	43	140	免疫	D014 12	抗Jo-1抗体半定量	①
1909	（抗）Jo-1抗体（CLEIA）	43	140	免疫	D014 12	抗Jo-1抗体定量	①
コード	K	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1044 1139	K（カリウム）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	カリウム	①血清 ㊻尿
1726	KL-6	34	108	生化Ⅰ	D007 28	KL-6	①
コード	L	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3831	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）	33	210	尿便	D001 19	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）	㊻
1012	LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	①
頁参照	LBC（液状細胞診検査）婦人科材料	115	150 + 45	病理	N004 01 + N004 01 注	婦人科材料等によるもの +婦人科材料等液状化検体細胞診加算	㊹
1016	LD（乳酸脱水素酵素）（IFCC）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）	①
1080	LDアイソザイム	3	48	生化Ⅰ	D007 14	LDアイソザイム	①
1077	LDL- コレステロール	7	18	生化Ⅰ	D007 04	LDL- コレステロール	①
1078	LDL- コレステロール（計算法）	7	—				
2101	LDL-C/HDL-C 比（L/H 比）	7	—				

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	L	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1809	LH（黄体形成ホルモン）	48	105	生化Ⅱ	D008 12	黄体形成ホルモン（LH）	①
1066	Li（リチウム）	88	470	（特）	B001 02	特定薬剤治療管理料	⑤
2297	（抗）LKM-1抗体	43	215	免疫	D014 28	抗 LKM-1 抗体	①
2262	LLA（白血病・リンパ腫解析検査）CD45 ゲーティング	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪（5mL）
2905	Lp（a）（リポ蛋白（a））	6	107	生化Ⅰ	D007 27	リポ蛋白（a）	①
8525	LRG（ロイシンリッチα2 グリコプロテイン）	34	268	生化Ⅰ	D007 57	ロイシンリッチα2 グリコプロテイン	①

コード	M	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1841	M蛋白同定（免疫電気泳動）（特異抗血清）	35	218	免疫	D015 24	免疫電気泳動法（特異抗血清）	①
3980	MA（マンデル酸）（エチルベンゼン）	21	−				㊻
2747	MAC（マイコバクテリウム・アビウムおよびイントラセルラー）核酸検出	105	421	微生	D023 16	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出	
3997	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体（M2BPGi）	33	194	生化Ⅰ	D007 50	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体	①
3998	Major BCR-ABL 高感度 IS%	86	2520	遺染	D006-3 01	Major BCR-ABL1（mRNA 定量（国際標準値））	⑫（7mL）
6945	MAST36 アレルゲン（特異的 IgE 定量）	37・39	1430	免疫	D015 13	特異的 IgE 半定量・定量	①
2290	MBP（ミエリン塩基性蛋白）（髄液）	35	570	尿便	D004 12	ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）	㊻
8450	（抗）MDA5抗体（抗CADM-140抗体）	44	270	免疫	D014 37	抗MDA5抗体	①
1048 1157 3054	Mg（マグネシウム）（血清、蓄尿、部分尿）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	マグネシウム	①血清 ㊻尿
2755	MHA（メチル馬尿酸）	21	−				㊻
8438	（抗）Mi-2抗体	44	270	免疫	D014 37	抗Mi-2抗体	①
3439	MLA（悪性リンパ腫解析検査）CD45ゲーティング	81	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）	⑪（5mL）
3433	MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ3）	41	116	免疫	D014 09	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）	①
3026 3027 3028	Mn（マンガン）（血清、血液、尿）	13	27	生化Ⅰ	D007 08	マンガン（Mn）	⑩血清 ⑪血液 ⑩尿
2771	MPO-ANCA（抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体）（P-ANCA）	46	251	免疫	D014 32	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）	①
3851	（抗）MuSK抗体（抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体）	45	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	①
3997	M2BPGi（Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体）	33	194	生化Ⅰ	D007 50	Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体	①

コード	N	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1125	N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）（尿）	33	41	尿便	D001 05	N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）（尿）	㊻
2327	N-メチルホルムアミド	21	−				㊻
1042 1137	Na（ナトリウム）（血清、尿）	11	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	①血清 ㊻尿
1293	NCC-ST-439	61	112	生化Ⅱ	D009 06	NCC-ST-439	①
1041	NH_3（アンモニア）	16	50	生化Ⅰ	D007 16	アンモニア	⑨
5078	non HDL—コレステロール	7	−				
1296	NSE（神経特異エノラーゼ）	63	142	生化Ⅱ	D009 14	神経特異エノラーゼ（NSE）	①
3206	NT-proBNP（脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	59	136	生化Ⅱ	D008 20	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）	①
1990	NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋Nーテロペプチド）	64	156	生化Ⅱ	D008 25	Ⅰ型コラーゲン架橋Nーテロペプチド（NTX）	㊻
1261	NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋Nーテロペプチド）骨粗鬆症（尿）	64	156	生化Ⅱ	D008 25	Ⅰ型コラーゲン架橋Nーテロペプチド（NTX）	㊻

コード	O	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2227	OC（オステオカルシン）	51	157	生化Ⅱ	D008 26	オステオカルシン（OC）	①

コード	P	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1047 1140	P（無機リン）（血清、尿）	12	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	①血清 ㊻尿
2231	PA-IgG（血小板関連IgG）	44	190	免疫	D011 06	血小板関連IgG（PA-IgG）	㉒
2771	P-ANCA（抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体）（MPO-ANCA）	46	251	免疫	D014 32	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）	①
3220	PAS染色（特殊染色 血液像）	94	37	血液	D005 06注	末梢血液像（鏡検法） 注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ことに）	スライド
3224	PAS染色（特殊染色 骨髄像）	94	60	血液	D005 14注	骨髄像 注 特殊染色を併せて行った場合の加算（特殊染色ごとに）	スライド
2949	Pb（鉛）	13	−				⑪

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	P	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
3232	PCT（プロカルシトニン）定量	24	276	生化Ⅰ	D007 59	プロカルシトニン（PCT）定量	①
8458	PD-L1（22C3）肺癌（IHC）	116	2700	病理	N005-3	PD-L1タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製	㊷
8459	PD-L1（28-8）肺癌（IHC）	116	2700	病理	N005-3	PD-L1タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製	㊷
2930	PF_4（血小板第4因子）	96	173	血液	D006 25	血小板第4因子（PF_4）	㉕
5507	PG（ペプシノゲン）	26･58	—				①
2977	PIC（プラスミンインヒビター複合体）	97	150	血液	D006 21	プラスミン･プラスミンインヒビター複合体（PIC）	④
2675	PIVKA-Ⅱ定量	60	131	生化Ⅱ	D009 10	PIVKA-Ⅱ定量	①
1029	PL（リン脂質）	6	15	生化Ⅰ	D007 02	リン脂質	①
2185	PLA_2（膵）ホスフォリパーゼA_2）	5	204	生化Ⅰ	D007 51	ホスフォリパーゼA_2　（PLA_2）	①
1407	PLT（血小板数）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
1240	PRA（血漿レニン活性）	54	100	生化Ⅱ	D008 08	レニン活性	⑫
1811	PRL（プロラクチン）	48	98	生化Ⅱ	D008 06	プロラクチン（PRL）	①
3807	ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	63	175	生化Ⅱ	D009 24	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	⑫
2770	PR3-ANCA（抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体）（C-ANCA）	46	252	免疫	D014 33	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）	①
1903	PSA（前立腺特異抗原）	62	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原（PSA）	①
3440	PSA F/T比（遊離型PSA F/T比）	62	150	生化Ⅱ	D009 17	遊離型PSA比（PSA F/T比）	①
1435	PT（プロトロンビン時間）	95	18	血液	D006 02	プロトロンビン時間（PT）	④
2076	PTH-intact（副甲状腺ホルモンintact）	51	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン（PTH）	⑫
2742	PTHrP-intact（副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact）	51	186	生化Ⅱ	D008 38	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）	⑧
3036	PTH whole（副甲状腺ホルモンwhole）	51	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン（PTH）	⑫
2018	P_2（プレグナンジオール）	56	213	生化Ⅱ	D008 43	プレグナンジオール	㊻
2019	P_3（プレグナントリオール）	56	232	生化Ⅱ	D008 48	プレグナントリオール	㊻
3203	（抗）p53抗体	61	163	生化Ⅱ	D009 22	抗p53抗体	①
3968	(total)PⅠNP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	64	160	生化Ⅱ	D008 28	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）	①
2946	P-Ⅲ-P（プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド）	33	136	生化Ⅰ	D007 39	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）	①

コード	Q	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
8574	QFTB（クォンティフェロン TB-プラス）	25･105	593	免疫	D015 30	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	㊶

コード	R	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
8489	RAS･BRAF遺伝子変異解析	86	4000	遺染	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査	
8477	ROS1融合遺伝子解析	86	2500	遺染	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査	
1402	RBC（赤血球数）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
2079	RBP（レチノール結合蛋白）	32	132	免疫	D015 15	レチノール結合蛋白（RBP）	①
2192	RF（リウマトイド因子）定量	41	30	**免疫**	D014 02	リウマトイド因子（RF）定量	①
1313	Rh（D）血液型	47	24	免疫	D011 01	Rh（D）血液型	⑥
2902	RLP-C（レムナント様リポ蛋白コレステロール）	7	174	生化Ⅰ	D007 44	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	①
3810	（抗）RNAポリメラーゼⅢ抗体	43	170	免疫	D014 19	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	①
2006	（抗）RNP抗体（抗U1-RNP抗体）（免疫拡散法）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体半定量	①
1907	（抗）RNP抗体（抗U1-RNP抗体）（CLEIA）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体定量	①
2069	RSウイルス（CF）	74	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
4241	RSウイルス（NT）	74	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性･半定量･定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液

コード	S	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2890	SAA（血清アミロイドA蛋白）	34	47	免疫	D015 06	血清アミロイドA蛋白（SAA）	①
2786 2787 2788	SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）核酸検出（唾液、鼻咽頭ぬぐい液、喀痰）	107	700	微生	D023 19	SARS-CoV-2核酸検出（検査委託）	㊾,㊽,㊻
1913	SCC（扁平上皮癌関連抗原）	63	101	生化Ⅱ	D009 04	扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	①
2229	（抗）Scl-70抗体（抗トポイソメラーゼ抗体）（免疫拡散法）	43	157	免疫	D014 16	抗Scl-70抗体半定量	①
1906	（抗）Scl-70抗体（抗トポイソメラーゼ抗体）（CLEIA）	43	157	免疫	D014 16	抗Scl-70抗体定量	①
3024	Se（セレン）	13	144	生化Ⅰ	D007 40	セレン	⑩血清
2261	sIL-2R（可溶性インターロイキン-2レセプター）	82	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	①
頁参照	Single-color 解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）	81	185	免疫	D016 02	T 細胞サブセット検査（一連につき）	③（3mL）
1292	SLX（シアリルLe^X-i抗原）	60	140	生化Ⅱ	D009 13	シアリルLe^X-i抗原（SLX）	①
2007	（抗）Sm抗体（免疫拡散法）	42	147	免疫	D014 14	抗Sm抗体半定量	①
1908	（抗）Sm抗体（CLEIA）	42	147	免疫	D014 14	抗Sm抗体定量	①
頁参照	Sm-Ig（B細胞表面免疫グロブリン）	81	155	免疫	D016 01	B細胞表面免疫グロブリン	③（3mL）

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	S	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1288	SPan-1	60	144	生化Ⅱ	D009 15	SPan-1	①
3438	SP-A（肺サーファクタント蛋白-A）	34	130	生化Ⅰ	D007 35	肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）	①
1727	SP-D（肺サーファクタント蛋白-D）	34	136	生化Ⅰ	D007 39	肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）	①
2586	（抗）SS-A抗体（抗SS-A/Ro抗体）（免疫拡散法）	43	161	免疫	D014 18	抗SS-A/Ro抗体半定量	①
2063	（抗）SS-A抗体（抗SS-A/Ro抗体）（CLEIA）	43	161	免疫	D014 18	抗SS-A/Ro抗体定量	①
2587	（抗）SS-B抗体（抗SS-B/La抗体）（免疫拡散法）	43	157	免疫	D014 16	抗SS-B/La抗体半定量	①
2066	（抗）SS-B抗体（抗SS-B/La抗体）（CLEIA）	43	157	免疫	D014 16	抗SS-B/La抗体定量	①
2797	（抗）ss-DNA抗体（IgG）	42	159	免疫	D014 17	抗DNA抗体定量	①
2798	（抗）ss-DNA抗体（IgM）	42	－				①
2181	STN（シアリルTn抗原）	61	146	生化Ⅱ	D009 16	シアリルTn抗原（STN）	①
1305	STS定性	28	15	免疫	D012 01	梅毒血清反応（STS）定性	①
1306	STS定量	28	34	免疫	D012 05	梅毒血清反応（STS）定量	①

コード	T	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1881	T細胞･B細胞百分率	81	193	免疫	D016 03	T細胞･B細胞百分率	③（3mL）
3274	TARC（Th2ケモカイン）	37	179	免疫	D015 18	TARC	①
2003	TAT（トロンビン･アンチトロンビンⅢ複合体）	96	171	血液	D006 24	トロンビン･アンチトロンビン複合体（TAT）	④
1116	TBA（胆汁酸）	9	47	生化Ⅰ	D007 13	胆汁酸	①
1232	TBG（サイロキシン結合グロブリン）	50	130	生化Ⅱ	D008 18	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	①
1002	T-Bil（総ビリルビン）	2	11	生化Ⅰ	D007 01	総ビリルビン	①
頁参照	TCA（トリクロル酢酸）	21	－				㊻
1033	T-cho（総コレステロール）	7	17	生化Ⅰ	D007 03	総コレステロール	①
1249	Tf（トランスフェリン）（血清）	32	60	免疫	D015 07	トランスフェリン（Tf）	①
2738	Tf（トランスフェリン）（尿）	32	98	尿便	D001 08	トランスフェリン（尿）	㊻
1028	TG（中性脂肪）（トリグリセライド）	6	11	生化Ⅰ	D007 01	中性脂肪	①
1911	Tg（サイログロブリン）	49	128	生化Ⅱ	D008 16	サイログロブリン	①
2015	Tg-Ab（抗サイログロブリン抗体）	49	136	免疫	D014 10	抗サイログロブリン抗体	①
1161	TIBC（総鉄結合能）（比色法）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	総鉄結合能（TIBC）（比色法）	①
8449	（抗）TIF1-γ抗体	44	270	免疫	D014 37	抗TIF1-γ抗体	①
2791	TnT（高感度心筋トロポニンT）	59	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT　（TnT）定性･定量	①
3968	total P1NP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	64	160	生化Ⅱ	D008 28	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（P1NP）	①
1017	TP（総蛋白）	5	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	①
1307	TP抗体 定性	28	32	免疫	D012 04	梅毒トレポネーマ抗体定性	①
1308	TP抗体 定量	28	53	免疫	D012 06	梅毒トレポネーマ抗体定量	①
2779	TPO-Ab（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体）	49	138	免疫	D014 11	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	①
3424 3912	TRAb（抗 TSH レセプター抗体） （第 2、3 世代）	50	214	免疫	D014 27	抗TSHレセプター抗体（TRAb）	①
3288	TRACP-5b（酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ）	64	156	生化Ⅱ	D008 25	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）	①
2177	TSAb（甲状腺刺激抗体）	50	330	免疫	D014 40	甲状腺刺激抗体（TSAb）	①
1228	TSH（甲状腺刺激ホルモン）	49	98	生化Ⅱ	D008 06	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	①
3424 3912	（抗）TSHレセプター抗体（TRAb） （第2、3 世代）	50	214	免疫	D014 27	抗TSHレセプター抗体（TRAb）	①
3935	T-SPOT　TB （結核菌特異的インターフェロン-γ産生能）	25･105	593	免疫	D015 30	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	⑪（9mL）
頁参照	TTC（総三塩化物）	21	－				㊻
頁参照	Two-color 解析による細胞表面 マーカー検査（リンパ球サブセット検査）	81	185	免疫	D016 02	T細胞サブセット検査（一連につき）	③（3mL）
1226	T_3（トリヨードサイロニン）	49	99	生化Ⅱ	D008 07	トリヨードサイロニン（T_3）	①
1227	T_4（サイロキシン）	49	105	生化Ⅱ	D008 11	サイロキシン（T_4）	①

コード	U	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1040 1143	UA（尿酸）（血清、尿）	9	11	生化Ⅰ	D007 01	尿酸	①血清 ㊻尿
1963	UBT（尿素呼気試験）	26	70	微生	D023-2 02	尿素呼気試験（UBT）	⑱
3317	UGT1A1遺伝子多型解析	86	2004	遺染	D006-7	UDPグルクロン酸転移酵素遺伝子多型	③
1162	UIBC（不飽和鉄結合能）（比色法）	12	11	生化Ⅰ	D007 01	不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）	①
2006	（抗）U1-RNP抗体（抗RNP抗体）（免疫拡散法）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体半定量	①
1907	（抗）U1-RNP抗体（抗RNP抗体）（CLEIA）	42	144	免疫	D014 13	抗RNP抗体定量	①

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	V	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
6942	View39（特異的IgE定量）	37・39	1430	免疫	D015 13	特異的IgE半定量・定量	①
1816 5654 2637	VMA（バニリルマンデル酸）（尿、尿（クレアチニン補正）、血漿）	52	90	生化Ⅱ	D008 04	バニールマンデル酸（VMA）	㊻尿 ⑫血漿
2674	von Willebrand因子（VWF）活性（リストセチンコファクター）	99	126	血液	D006 14	von Willebrand因子（VWF）活性	④
5504	von Willebrand因子（VWF）抗原定量（フォン・ウィルブランド因子抗原定量）	99	147	血液	D006 20	von Willebrand因子（VWF）抗原	④
3192	von Willebrand 因子（VWF）マルチマー解析	99	－				④
1957	VZV（水痘・帯状疱疹ウイルス）（CF）	72	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
2670 2680	VZV（水痘・帯状疱疹ウイルス）（IgG、IgM）	72	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価（1項目当たり）	①血清 ㊻髄液
1884	VZV（水痘・帯状疱疹ウイルス）DNA定性	79	－				頁参照
コード	W	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1401	WBC（白血球数）	93	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	③
3036	whole PTH（副甲状腺ホルモンwhole）	51	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン（PTH）	⑫
3233	WT1 mRNA 定量	86	2520	遺染	D006-9	WT1 mRNA	⑫（7mL）
コード	Z	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2904 5788	Zn（亜鉛）（血清、尿）	12	132	生化Ⅰ	D007 37	亜鉛（Zn）	① ⑩
コード	α	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1203	α-フェトプロテイン（AFP）	60	98	生化Ⅱ	D009 02	α-フェトプロテイン（AFP）	①
2644	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3％）	60	185	生化Ⅱ	D009 26	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	①
1833	α_1-アンチトリプシン	32	80	血液	D006 10	α_1-アンチトリプシン	①
1971 2170	α_1-マイクログロブリン（血清、尿）	33	129	免疫	D015 14	α_1-マイクログロブリン	①血清 ㊻尿
1196	α_2-プラスミンインヒビター（アンチプラスミン活性）（α_2PI）	97	128	血液	D006 16	プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）	④
2025	α_2-マイクログロブリン	32	138	血液	D006 17	α_2-マイクログロブリン	①
コード	β	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2929	β-トロンボグロブリン（β-TG）	96	171	血液	D006 24	β-トロンボグロブリン（β-TG）	㉕
1031	β-リポ蛋白	6	－				①
2264	(1→3) β-D- グルカン	24	195	免疫	D012 42	(1→3) - β -D- グルカン	㊽
5576 5575	β-HCG（ヒト絨毛性ゴナドトロピン）定量（血清、尿）	57	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	①血清 ㊻尿
8534	（抗）β_2 グリコプロテインⅠ（IgG）	45	226	免疫	D014 30	β_2 グリコプロテインⅠ IgG 抗体	①
8535	（抗）β_2 グリコプロテインⅠ（IgM）	45	226	免疫	D014 30	β_2 グリコプロテインⅠ IgM 抗体	①
1207 1208	β_2-マイクログロブリン（血清、尿）	33	98	免疫	D015 10	β_2- マイクログロブリン	①血清 ㊻尿
コード	γ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1970	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	62	192	生化Ⅱ	D009 28	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	①
1013	γ-GT（γ-グルタミルトランスフェラーゼ）	3	11	生化Ⅰ	D007 01	γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）	①
コード	δ	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
2083	δアミノレブリン酸（δ-ALA）（尿）	19	106	尿便	D001 11	δアミノレブリン酸（δ-ALA）（尿）	㊸

項目索引

項目コードが複数あるものは材料,検査法等の違いがありますので,各ページをご確認下さい。

コード	数字で始まる項目	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
31822	11-ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	53	60	生化Ⅱ	D008 02	11-ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	①
2333	1,1,1-トリクロルエタン	21	−				㊻
6921	12種吸入性アレルゲン（アトピー鑑別試験定性）	37	194	免疫	D015 21	アトピー鑑別試験定性	①
2995	1,25-ジヒドロキシビタミンD_3（1α,25-（OH）$_2$ビタミンD）	19・51	388	生化Ⅰ	D007 63	1,25-ジヒドロキシビタミンD_3	①
2264	（1→3）β-D-グルカン	24	195	免疫	D012 42	（1→3）β-D-グルカン	㊽
2186	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）	14	80	生化Ⅰ	D007 21	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）	①
2995	1,25-ジヒドロキシビタミンD_3（1α,25-（OH）$_2$ビタミンD）	19・51	388	生化Ⅰ	D007 63	1,25-ジヒドロキシビタミンD_3	①
2330	2,5-ヘキサンジオン（2,5-HD）	21	−				㊻
8491	25-OHビタミンD《CLEIA》［骨粗鬆症］	19・51	117	生化Ⅰ	D007 31	25-ヒドロキシビタミンD	①
8522	25-OHビタミンD《ECLIA》［くる病］	19・51	117	生化Ⅰ	D007 31	25-ヒドロキシビタミンD	①
1819 5653 2636	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）（蓄尿、尿、血漿）	53	95	生化Ⅱ	D008 05	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）	㊻尿 ⑫血漿（7mL）
5658	5-S-システイニルドーパ（5-S-CD）	63	−				①

コード	ローマ数字で始まる項目	ページ	保険点数	判断区分	区分番号	正式名称	採取容器
1990	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）	64	156	生化Ⅱ	D008 25	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）	㊻
1261	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）骨粗鬆症（尿）	64	156	生化Ⅱ	D008 25	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）	㊻
2677	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）	63	170	生化Ⅱ	D009 23	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）	①
3968	Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（totalPⅠNP）	64	160	生化Ⅱ	D008 28	Ⅰ型プロコラーケン-N-プロペプチド（PⅠNP）	①
2663	Ⅱ因子（凝固因子活性検査）	98	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
1745	Ⅳ型コラーゲン（尿）	33	184	尿便	D001 15	Ⅳ型コラーゲン（尿）	㊹
2008	Ⅳ型コラーゲン・7S（CLEIA）	33	148	生化Ⅰ	D007 42	Ⅳ型コラーゲン・7S	①
2664	Ⅴ因子（凝固因子活性検査）	98	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
2665	Ⅶ因子（凝固因子活性検査）	98	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
2230	Ⅷ因子（凝固因子活性検査）	98	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
3444	Ⅷ因子（凝固抑制因子検査）	99	144	血液	D006 19	凝固因子インヒビター	④（5mL）
2666	Ⅸ因子（凝固因子活性検査）	98	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
3445	Ⅸ因子（凝固抑制因子検査）	99	144	血液	D006 19	凝固因子インヒビター	④（5mL）
2667	Ⅹ因子（凝固因子活性検査）	98	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
2668	Ⅺ因子（凝固因子活性検査）	99	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
2669	Ⅻ因子（凝固因子活性検査）	99	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④
2160	XIII因子（凝固因子活性検査）	99	223	血液	D006 29	凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第Ⅺ因子、第Ⅻ因子、第XIII因子）	④

検査ご利用にあたって

1. 取引のお申し込み

ご利用に際しましては、当検査センターへご連絡下さい。担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。

2. 検査依頼書および検体ラベルについて

検査のご依頼に際しましては、検査項目に合わせた当センター指定の検査依頼書、検体容器および検体ラベルをご使用下さい。
尚、検査依頼書および検体ラベルには次の事項を必ずご記入下さい。必要な検査依頼書等は、ご連絡により最寄りの営業所からお届け致します。

[検査依頼書]
○委託元病医院および医師の氏名（緊急連絡先を含む）
○患者名・性別・年齢
○依頼年月日・検体採取年月日
○検体の種類
○検査依頼項目
○依頼書に記載されていない検査項目は、「特記事項」欄にご記入下さい。
○所定欄に身長、体重、妊娠週、尿量等を必要に応じてご記入下さい。なお、蓄尿と指定された検査項目において蓄尿量（尿一日排泄量）が記入されていない場合、検査結果は" 重量 /day" ではなく、" 重量 /L" 等の濃度表示となります。
○受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようにお願い致します。
○検査依頼書は複写式となっていますので、ボールペンで強くお書き下さい。また一部を検査ご依頼元「控」とし、併せて検体受領明細書に代えさせていただきますので、ご了承下さい。

[検体ラベル]
○検体ラベルは貴院名、患者名、採取日等をご記入の上、容器にお貼り下さい。

[検体の採取条件]
○本案内書をご参照の上、所定の容器に必要量を採取して下さい。容器の種類は、巻末の「容器一覧」（124 ～ 132 頁）をご参照下さい。
○採血の際は容器の規定量をお取り下さい。抗凝固剤等が添加された採血管では、血液と抗凝固剤との比率が測定値に影響を及ぼすこと等が考えられます。
○本案内書には、およその採取料・提出量を記載してあります。ご提出量は原則として再検査に応じられるよう設定してあります。検体量不足にならないようにご注意ください。
○培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出ください。

[検体の保存条件]
○検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守して下さい。
○本案内書「保存方法」欄をご参照の上、凍結検体の場合は、冷凍庫またはドライアイス中での保存をお願い致します。
○当社の保存条件です。（採取したそのものの保存条件ではありません）保存条件は以下の通りです。

凍 −10℃以下にて保存　冷 3℃～9℃にて保存　室 15℃～ 25℃にて保存　遮 遮光にて保存

[検体の提出条件]
○適性な検査・測定を行うために、本案内書の「検体量」、「容器」、「備考」の各欄を併せてご参照下さい。

3. 検査依頼書・検体のお預かりと搬送

検査のご依頼に際しましては、当社営業員が受領に伺いますので、検査依頼書と検体とを照合の上、ご提出下さい。
なお、依頼書等につき不明瞭な点についてお尋ねさせていただく場合もありますので、ご協力を宜しくお願い致します。

[検体の受領]
○貴院への集配は、予め申し合わせの上、ご指定の日時・場所へお伺いいたします。
検体受領日時＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　検体受領場所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

[検体の輸送]
○お預かりした検体及び依頼書は、厳密な管理の下に当社ラボラトリーに搬入いたします。平均搬送時間は、
①城山ラボ　（約＿＿時間）
②＿＿＿＿ラボ（約＿＿時間）となっております。

○一部の検査につきましては、当社責任管理の下に、他施設に再委託致します。
再委託先は、当該検査項目毎に以下の記号を右端に表示してあります。
③（株）LSI メディエンス　④（株）エス・アール・エル
⑤（株）ビー・エム・エル　⑥ 鹿児島予防医学研究所

4. 所要日数

○検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果を先生のお手元にお届けするまでの日数です。
○休日その他の都合により記載内容と異なる場合があります。

5. 検査結果のご報告

○検査結果は、当社指定の報告書にて当社営業担当者が直接お届け致します。
○至急を要する検査結果は、まず電話でご報告いたします。
○本案内書で特に指定した項目において異常データを示した場合は、測定後速やかに電話はたは Fax にてご報告致します。
報告基準につきましては、巻末（123 頁）をご参照下さい。
○定量検査では、当社独自の基準により測定範囲に上限を設け、検査結果が上限値を超える場合、"○○以上" とご報告させていただくことがあります。

6. 再検査

○当社再検査基準に基づき、再検査を致します。
○最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられないことがあります。

7. 検体の保管

○検査を追加される場合は、最寄りの営業拠点またはインフォメーションにお問い合わせ下さい。
○検査済み検体はお客様との特段の取り決めがない限り当社所定の保管期限後、適正な方法にて廃棄致します。なおプール化および匿名化が可能なものにつきましては、個人情報保護法および匿名化が可能なものにつきましては、個人情報保護法およびガイドラインを遵守した上で検査精度維持、向上等の目的で使用することがあります。また、検体保管期間中に検査を委託した医療機関より残検体の返還を求められた場合は速やかに返還致しますが、委託した医療機関以外または医師個人から学術研究等の目的により検査済みの検体の提供を求められたとしても、第三者への提供に応じることはできません。

8. 検査についてのお問い合わせ

○検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、検査案内本裏面の一覧をご参照の元、最寄りの営業所またはインフォメーションへお問い合わせ下さい。

＿＿＿＿＿＿＿＿ 営業所　TEL ＿＿＿＿＿＿＿＿　　お問い合わせ対応時間 ＿＿＿＿＿＿ ～ ＿＿＿＿＿＿

9. 本文の記載内容について

○検査項目名称
既に日本語化しているドイツ語はそのままとし、それ以外のものはアメリカ英語読みに従いました。但し、クレアチンキナーゼアイソザイムのようにほぼ日本語化している検査項目名称については慣例に従いました。また、略号が通例化しているものは、略号をもって検査項目名称としました。

○「保存方法」欄の記号
提出材料の保存条件です（採取した材料そのものの保存条件ではありません）。
検査項目によっては、検査成績が保存状態の影響を明らかに受けるものもありますので、お取り扱いにご注意ください。

凍 必ず凍結（－10 ℃以下）保存して下さい。凍結温度指定のあるものは、その旨記載致します。
なお、凍結指定の項目については原則として単独検体での出検をお願い致します。

冷 3℃～ 9℃で保存して下さい。また、数日以上にわたって保存される場合は、凍結していただくようお願い致します。
なお、凍結不可の材料については、その旨記載致します。

室 直射日光または蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。

遮 遮光にて保存

○検体の安定性
適正な検査結果をお届けすることができる、検体採取後における提出用材料の保存安定性の維持期間です。

○「容器」欄の番号
検体採取および提出時に用いる容器を番号にて表示しております。詳細は、巻末の容器一覧表（124 ～ 132 頁）をご参照下さい。

○「採取量（mL）」欄の記号
（冷遠）冷却遠心して下さい

○「基準値」欄の記号
M：男性（Male）　F：女性（Female）

○測定委託先一覧
③（株）LSI メディエンス　　④（株）エス・アール・エル
⑤（株）ビー・エム・エル　　⑥ 鹿児島予防医学研究所

○検査材料に関する主な用語

検査材料	概　要
血液	検査のために採取していただく肘静脈血を表します。
～加血液	採血後速やかに添加剤を混和した血液を表します。 添加剤の種類により、「EDTA 加血液」、「ヘパリン加血液」、「クエン酸加血液」、「NaF 加血液」などと表示致します。 （所定の添加剤入り当社指定容器に血液を採取してください）
～血漿	採血後速やかに添加剤を混和し、遠心分離によって得られた血漿を表します。 添加剤の種類により、「EDTA 血漿」、「ヘパリン血漿」、「クエン酸血漿」などと表示致します。 なお、単に「血漿」とあるものについては、「備考欄」に添加剤の種類を別記しております。
血清	採血後、血餅の収縮をまって遠心分離して得られた上清を表します。 特に添加剤を用いる必要のある場合は、その旨備考欄に記載しております。
尿	原則として自然排尿された尿を表します。なお、「蓄尿」を要する場合、「備考欄」に使用する防腐剤の種類を別記しております。 採尿方法については、以下を参考としてください。 1）普通尿の場合 新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。 2）中間尿の場合 清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。 3）無菌尿の場合 男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。

○「基準値」欄の略号
M: 男性（Male）　F: 女性（Female）

○「基準値」欄の単位記号

L	liter(=1,000mL)	g	gram	UA	Allergen Unit	BU	Bethesda Unit
dL	deciliter(=100mL)	mg	milligram(=0.001g)	mU	milli Unit(0.001U)	RLU	Relative Light Unit
mL	milliliter	μg	microgram(=0.001mg)	μU	micro Unit(0.001mU)	R.U.	RPR Units
mm^3	cubicmillimeter	pg	picogram(=0.001ng)	IU	International Unit	T.U.	Titer Units
μ^3	cubicmicron	U	Unit	AU	Arbitrary Unit		

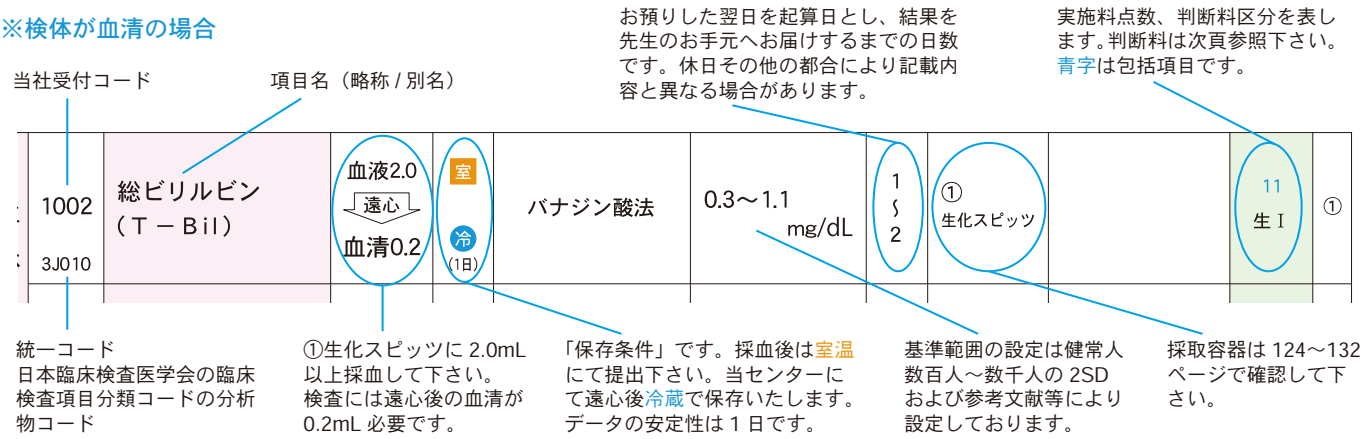
○ビオチン干渉項目一覧
高用量のビオチンを投与･摂取している患者、とくに小児ならびに腎機能の低下した患者で血中ビオチン濃度（健常者集団では、約 0.3 ～ 1.0ng/mL）が高値の場合、検査結果に偽高値または偽低値の影響を与えることがあります。ビオチンを 1 日 5mg 以上投与･摂取している患者からの採血は、投与後、少なくとも 8 時間以上経過してから実施して下さい。

成長ホルモン（GH）	副甲状腺ホルモン intact（PTH-intact）	神経特異エノラーゼ（NSE）	TARC
副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	total P1NP（Ⅰ型コラーゲン -N- プロペプチド）	葉酸	FGF23
ソマトメジン -C（IGF-Ⅰ）	25-OH ビタミン D（Total）［骨粗鬆症］	サイログロブリン（Tg）	

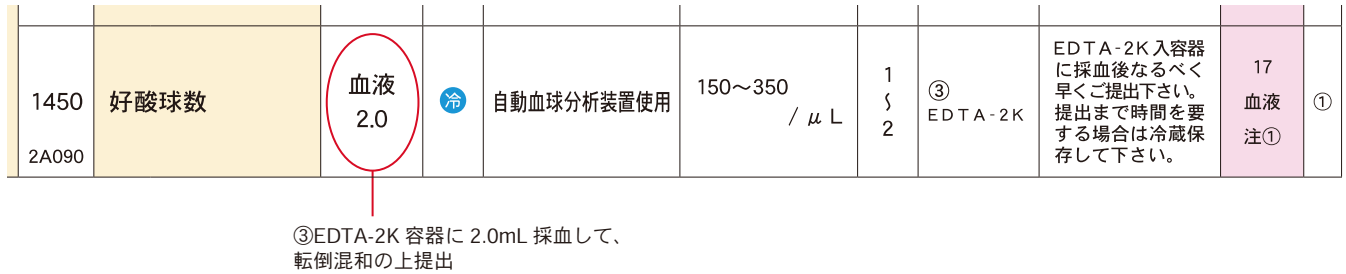
■検査案内書記載内容

本頁では、検体採取量・提出量・検査方法・基準値、また実施料・判断料など、検査するに当たって必要な内容が記載してあります。
下記の例をご参照の上、正しい検体の提出にご協力下さい。

※検体が血清の場合



※検体が抗凝固剤入り血液の場合



※特殊容器に採取が必要な場合

■主な検査方法と概説

CF　補体結合試験 Complement Fixation Test	抗原 - 抗体結合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンの Fc 部分に補体を結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出などに用いられる最も基本的な検査方法である。CF 活性を持つのは IgG と IgM のみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。ペア血清で測定するのが望ましい。
CLEIA　化学発光･酵素免疫測定法 Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	被検物質に対する抗体を担体に固相したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光其質を加えると、この其質は酵素により分解され酵素量に応じて発光する。その発光量をルミノメーターで測定し定量する検査方法である。
CLIA　化学発光免疫測定法 Chemiluminescent Immunoassay	被検検体にアクリジニウム・エステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサンドイッチ上の複合物を形成させることにより測定する検査方法、磁気分離固相法により B/F 分離した後、専用アナライザーでアクリジニウム・エステル発光量を測定することにより定量する。
dRVVT　希釈ラッセル蛇毒試験法 Diluted Russell's Viper Venom Time	ラッセル蛇毒は、外因系の第Ⅶ因子、接触因子、内因系の抗出血性因子の関与を受けずに直接血漿中の第Ⅹ因子を活性化して凝固反応を開始し、リン脂質、カルシウム、活性第Ⅴ因子の共存下で最終的にトロンビンを生成する。抗リン脂質抗体の一種であるループスアンチコアグラント（LA) が存在すると上記反応系からリン脂質が消費され、その結果として凝固時 LA の影響を予め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中の LA の存在を間接的に証明できる。
ECLIA　電気化学発光免疫測定法 Electro Chemiluminescent Immunoassay	電解反応により生成されるエネルギーによりルテニウムピリジン錯体を励起して発光させる化学発光法の一種である。被検検体に測定を目的とする物質（A）にルテニウム標識抗体を反応させるとサンドイッチ状の複合体が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上にて電気エネルギーを加えるとビーズに結合したルテニウム標識抗体量に応じてルテニウム錯体が発光する。この発行量は（A) の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。
EIA　酵素免疫測定法 Enzyme Immunoassay	抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種ホルモン、ウィルス抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素にはペルオキシダーゼやアルカリフォスファターゼなどが用いられる。
ELISPOT Enzyme-Linked ImmunoSpot	サイトカインを高感度に検出する方法の一つ。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを通常の ELISA 法の数十倍以上の感度で測定が可能で、100,000 個中 1 個の細胞という低レベルでも検出可能とされる。結核菌感染既往を検査する T-SPOT.TB 検査に用いられており、抗原により刺激して IFN-γ産生細胞数を計測するこちにより感染診断を行う。
EMIT Enzyme-multiplied Immunoassay Technique	EMIT は、主に薬物濃度測定に用いられる検査方法である。検体中の薬物とグルコース -6- リン酸脱水素酵素（G-6-PDH）で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合の G-6-PDH が、さらにニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（NAD）を NADH に還元することによって生じる吸光度のへんかを測定することを利用した酵素免疫法の一種である。
FAT　蛍光抗体法 Fluorescent Antibody Test	抗原または抗体を測定する場合に FITC などの蛍光色素を標識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると反応が生じた場合は特異的な蛍光が見られる。抗体（抗原）に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる関節法がある。
FEIA　蛍光・酵素免疫測定法 Fluorescence-Enzyme Immunoassay	EIA 法の一つである。主にアレルゲン特異的 IgE 抗体を測定するのに用いられている。酵素を標識として用い測定対象アレルゲン（抗原）を被検検体に入れ､抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により濃度を測定する。
FISH Fluorescence In Situ Hybridization	ISH 法（In Situ Hybridization）は細胞培養や核酸抽出などを行わずに染色体、細胞、組織などを相補的プローブを用いて核酸ハイブリダイゼーションを行い、標的遺伝子の有無や異常などを判定する検査方法である。FISH 法は蛍光物質（Fluorescence）を用いて非放射性プローブにより ISH 法を行うものである。
GC ガスクロマトグラフィー法 Gas Chromatography	固定相としてキャピラリーカラムを用い、測定試料が移動相（キャリアーガス）にのって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。固定相（液相）は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器（ECD)、水素炎イオン化検出器 (FID)、熱伝導度検出器（TCD）などが用いられている。
GC-MS　ガスクロマトグラフィー・マススペクトロメトリー法 Gas Chromatography-Mas Spectrometry	マススペクトロメトリー（質量分析 : MS）は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルを解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。GC-MS はこのＭＳにガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。
HEIA　ホモジニアスエンザイムノアッセイ法 Homogeneous Enzyme Immunoassay	検体中の測定対象物質（抗原物質）は試薬中の酵素（G-6-PDH）で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。その結果、抗体と結合出来なかった G-6-PDH で標識された測定対象物質は G-6-PDH の酵素活性により補酵素である NAD が還元され、NADH に変換される。しかし、この酵素活性は抗体と結合することに活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例して NADH の量が増加する。吸光度によりこの NADH を標準物資により作成した検量線により濃度を測定する。
HI　赤血球凝集抑制試験 Hemagglutination Inhibition Test	一般にウィルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウィルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集脳が抑制される。この性質を利用してウィルス抗原を被検検体と反応させた後、赤血球を加え、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。
HPLC　高速液体クロマトグラフィー法 High Performance Liquid Chromatograghy	微細な球体のシリカやイオン交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られたクロマトグラムからピーク高やピーク面積により定量化する。
ICP-MS Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry	誘導結合プラズマ質量分析法ともいい、様々な元素を測定する方法である。ICP は試料を気体化させ、高電圧をかけることによりプラズマ化し、さらに高周波の変動磁場により高温プラズマ化させるものである。ICP-MS はこの高温プラズマを質量分析計に導入し、そこで元素の同定・定量を行う。
IR　赤外吸収スペクトロメトリー法 Infrared Absorption Spectrometry	分子は各々固有の振動をしているため、測定試料に照射する赤外線の波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法である。
IRMA　免疫放射定量法 Immunoradiometric Assay	RIA 法（ラジオイムノアッセイ）の一つで､非競合的な反応に基づくものをいい､一般の RIA 法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原・抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では 2 抗体法以外の方法を IRMA とよぶことがある。

KIMS Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution	検体中の測定対象物質と試薬中の測定対象物質に対する抗体を反応させる。検体中に測定対象物質が存在する場合は測定対象物質とその抗体が反応し、試薬中の抗体量が減少する。しかし、測定対象物質が存在しない場合は試薬中の抗体量は変化しない。これらの反応液に測定対象物質が結合した微粒子（Microparticles）が入った溶液を添加し反応させると、反応液中に残存する抗体量に比例して微粒子が凝集する。この凝集を吸光度として測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。
LA　ラテックス凝集比濁法 Latex Agglutination-Turbidmetric Immunoassay	測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、凝集に伴う反応液の濁度変化に基づいて目的物質を測定する。
LAMP Loop-Mediated Isothermal Amplification	PCR 法と同じく遺伝子増幅法の一つ。ターゲットする DNA の６つの領域に対し４種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、サンプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型 DNA 合成酵素、基質等を一定温度（約６５℃）で反応させ増幅を行う。DNA を１５分～１時間で１０２～１０１０倍に増幅することができ、また逆転写酵素（Reverse transcriptase：RT）を添加することにより RNA を増幅することも可能である。
LC-MS/MS　タンデム MS 法 Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry	LC-MS/MS は高速液体クロマトグラフ（HPLC）と質量分析計（MS）を２段結合させた装置。試料を HPLC により分離し、１台目の MS でイオン化させ質量毎に分離（プリカーサーイオン）する。これを不活性ガスと衝突させ、１台目の MS で選択したイオンから生じた２次的イオン（プロダクトイオン）を２段目の MS で計測する。２回の質量分離を行うため高い分離能と特異性が得られるため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確な定量を行うことができる。
LPIA　ラテックス近赤外比濁法 Latex Photometric Immunoassay	測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が変化する。これに赤外線を当てその透過度により定量する方法である。
MAT 法　磁性化粒子凝集法 magnetic a g glutination test	主に HBs 抗原を検出する検査方法で、ウェル上に結合した HBs 抗体と HBs 抗体感作粒子は検体中の HBs 抗原と抗体反応を起こし、ウェル表面への粒子の結合反応が付加され、自然沈降法又は磁気沈降法により凝集像を生じさせ、凝集の有無により陰性・陽性を判定する。
MPHA　混合受身赤血球凝集試験 Mixed Passive Hemagglutination Test	プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行なう。
NT　中和試験 Neutralization Test	ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果（CPE）が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。
PA　粒子凝集試験 Particle Agglutination Test	ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検検体を反応させると、抗体が存在する場合にはゼラチン粒子が凝集する。
PCR　ポリメラーゼ連鎖反応 Polymerase Chain Reaction	DNA 断片を増幅する方法。ターゲットとする領域の DNA を増幅するため、加熱・変性させ一本鎖 DNA にし、次に２種のプライマーを混合させ、適当な温度条件においてアニールさせると各々のプライマーは相補性のある塩基対を形成する。さらに DNA ポリメラーゼ反応により鎖が伸長し、最初の DNA 部分の鎖が１回だけ増幅される。このプロセスを繰り返すことにより DNA 断片のコピーを無限大に得ることができる。PCR 法では DNA しか増幅できないので RNA 断片を増幅する場合は逆転写酵素（Reverse transcriptase：RT）により DNA に転換して増幅する RT-PCR 法が用いられる。PCR 法には増幅量をリアルタイムにモニタリングし、電気泳動が不要な real-time PCR 法、またその中に TaqMan プローブを用いる TaqManPCR 法などがある。さらに PCR により増幅した後、シークエンサーにより遺伝子配列を決定する PCR/ シークエンス法やプロッティグを用い微量なタンパク質を検出する PCR/ ドットブロット法など PCR 法を併用した様々な検査法が用いられている。
PHA　受身赤血球凝集試験 Passive Hemagglutination Test	動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。
PNA-LNA　PCR　Clamp 法 Peptide Nucleic Acid-Locked Nucleic Acid Polymerase Chain Reaction Clamp metod	点突然変異および欠失変異を高感度に検出する方法。EGFR の遺伝子変異の検出に用いられるが、検体中に野生型と変異型が存在している場合、PCR 増幅時には野生型 allele は clamp primer により増幅が阻害されるが変異型 allele には増幅阻害が起こらないため、変異型が優先して増幅される。それを mutant および total probe のシグナルにより変異の有無を判定する。
RFLP　制限酵素断片長多型 Restriction Fragment Length Polymorphism	遺伝子多型が存在する DNA 配列を、制限酵素断片の長さや数によって解析する方法全般を指す。必要量の DNA を採取して直接解析する場合や、PCR により増幅した DNA 断片を試料とする場合がある。
RIA　ラジオイムノアッセイ法 Radioimmunoassay	測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオアイソトープ（主に１２５ I）で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物（bound）と未反応物（free）を分離（B･F 分離）し、放射活性を測定して B/F の比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法を IRMA と呼んでいる。
RPLA　逆受身ラテックス凝集試験 Reversed Passive Latex Agglutination Test	RPHA 法と基本的な検出原理を同じくするが、抗体の固相化担体として動物赤血球に代えてラテックス粒子を用いるものである。
SRID　免疫拡散法 Single Radial Immunodiffusion	ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定する。
TIA　免疫比濁法 Turbidimetric Immunoassay	被検検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。
UV　紫外部吸光光度分析法 Ultraviolet Psectrophotometry	通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素が NADH や NADPH の場合は波長が３４０nm 付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に関与する場合は UV 法が用いられる。
イムノクロマトグラフィー法 Immunochromatography	液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さらに膜に固相化した抗体で抗原･抗体複合体を捕捉する。こうして形成されたサンドイッチ複合体（色素標識抗体 - 抗原 - 固相化抗体）は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認することができる。
ウェスタンブロット Western Blot method	電気泳動によって分離した蛋白質をニトロセルロース膜に転写し、その蛋白質に対する特異的抗体を用いることにより目的の蛋白質のバンドを検出する方法である。

キャピラリー電気泳動法 Capillary Electrophoresis	キャピラリー（微小細管）に電解質溶液を満たし、その両端に高電圧を掛けると、試料は電気泳動と電気浸透流を合わせた速度で移動する。電気泳動の移動度に差異がある場合、物質はそれぞれ異なった速度で移動し、これを吸光光度計などで定量的に検出する手法。主に極微量の低分子イオン化合物の分離などに利用される。
原子吸光法 Atomic Absorption method	金属などの様々な元素を測定する方法である。検体を化学炎（フレーム）や加熱グラファイト管（フレームレス）中で元素の基底状態原子化を行い、さらにその元素固有の共鳴線を照射すると吸収が生ずる。この吸収は気体化原子の原子数に応じて起こるため、これを利用することにより、検体中の目的元素の濃度を測定する方法である。
サザンブロット法 Southern Blot Method	電気泳動法の一つで、特定の DNA の同定に用いられる手法である。制限酵素により処理された genome　DNA をゲル内電気泳動により分離した後、ニトロセルロース膜などに転写しアイソトープでラベルした特異的プローブを用いて目的とする DNA 断片を検出する方法。開発者の Edwin M.　Southen の名をとって命名された。
次世代シークエンス法 Next Generation Sequencing	次世代シークエンス法（NGS）は、ランダムに切断化された数千万～数億の DNA 断片をフローセルと呼ばれるスライドグラス上に張り付け、断片の相補鎖を合成しながら配列を決定する。従来の DNA シークエンス法と比べ短い時間で大量の遺伝情報を解析することが可能となる他、遺伝子配列に関する事前情報がなくてもバリアントなどを特定、定量できるという利点がある。
ダイレクトシークエンス法 Direct Sequencing	DNA を構成する塩基配列を決定する方法。主にジデオキシ法が用いられる。原理は測定対象の鋳型 DNA に対して特異的に結合するプライマーの伸長反応を利用する。本反応中に取り込まれたジデオキシヌクレオチド（ddNTP）により伸長反応が停止。停止反応に用いるddNTPは蛍光標識してあるため、生成したDNA断片の長さと蛍光の種類から塩基配列を決定できる。
電気泳動法 Electrophoresis	溶液中に存在する全ての蛋白質は固有の電荷を帯びており、アルカリ溶液中においてはマイナス側に電荷している。そこに電流を通じると、その物質固有の易動度で陽極側に移動する。電気泳動法はこの性質を利用して検査を目的とする物質の分離・同定を行うものである。
ネフェロメトリー法 Nephelometry	検出を目的とする抗原物質に対応する抗体を検体に添加し、抗原抗体反応を行わせ、それによって生じた抗原抗体複合物に光を照射し、その散乱強度により検量線より濃度を読み取り測定する方法。
ハイブリッドキャプチャー法 Hybrid Capture method	ハイブリッドキャプチャー法（HC 法）は、RNA プローブを用いて検体中の DNA とハイブリダイゼーションを行い、生成した DNA/RNA ハイブリッドを特異抗体を用いてイムノアッセイで検出するものである。DNA 増幅操作を行わずに高感度に目的遺伝子を検出することが可能である。
比濁時間分析法 Turbidimetric Time Assay	エンドトキシン測定法の一つ。エンドトキシンの存在下にカブトガニ血液抽出物中の凝固成分であるファクター C、ファクター B、凝固酵素（clotting enzyme）前駆体、およびコアグローゲン（coagulogen）が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリン（coagulin）がゲル化する性質を利用したものである。ここでゲル形成に要する時間は反応初発時のエンドトキシン量の 2 回対数に反比例することから、ゲル化時間を測定すれば、検体中のエンドトキシン量を求めることができる。
フローサイトメトリー法 Flowcytemetry	フローサイトメーターを用い細胞などの粒子 1 個 1 個から大きさや形態の情報、DNA/RNA 蛍光染色、モノクローナル抗体を用いた白血球などの表面高原の解析などを 1 秒間に数千個以上の速度で認識し、それらの相関を解析するヒストグラムを作成し、さらに目的とする 2 種類の細胞集団などを高速度で分取することが可能な検査方法。
Bethesda 法（ベセスダ法）	主に血液凝固系検査に用いられる検査方法である。凝固因子インヒビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検結晶を混合･反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比により Bethesda 算定図より凝固因子阻止量を読み取る。
免疫電気泳動法（免疫固定法） Immunofixation / Electrophoresis	免疫固定電気泳動法はアガロース支持体を用いた蛋白の電気泳動と免疫沈降反応を組み合わせた検査方法である。支持体上に検体を塗布し、電気泳動により蛋白成分を分離させ、さらに特異抗血清（IgG、A、M、D、E、κ、λ）による免疫沈降反応を応用することで反応生成物を支持体中に固定する。反応を起こした複合体は蛋白染色により明瞭なバンドとして観察することができる。
免疫電気泳動法 Immunoelectrophoresis	電気泳動を行う際に支持体として用いるゲルの中に抗血清（抗体）を入れることにより、検体中の蛋白質を解析する検査。抗ひと全血清を用いた検査では数十種類のヒト血清蛋白の観察が可能であり、抗ヒト特異血清を用いた検査では単クローンの免疫グロブリンが認められる M- 蛋白血症の診断に有用である。詠動を行う際に用いる支持体にはセルロース･アセテート膜やアガロース（寒天）ゲル、比較的分離能が良いとされるポリアクリルアミドゲル（PAGE）などがある。

■実施料について・緊急報告対象項目とその基準

○「実施料」欄は、２０２４年６月現在の検体検査実施料に準じております。
○「実施料」欄中、検体検査以外の生体検査、特定薬剤治療管理料などは、点数に〔 〕を付してあります。
○「実施料」欄中の「-」は、保険点数実施料未収載を表します。
○「実施料」欄中、青色にて印刷されている点数は、下表に従い点数が算定されます。
○検体検査判断料、病理学的検査診断・判断料の区分は「実施料」欄に下記の通り併記してあります。
①尿・糞便等検査判断料区分（３４点）・・・・・・・・尿便
②遺伝子関連・染色体検査判断料区分（１００点）・・・遺染
③血液学的検査判断料区分（１２５点）・・・血液
④生化学的検査（Ⅰ）判断料区分 (144 点）・・・生Ⅰ
⑤生化学的検査（Ⅱ）判断料区分 (144 点）…生Ⅱ
⑥免疫学的検査判断料区分 (１４４点）・・・免疫
⑦微生物学的検査判断料区分（１５０点）・・・微生
⑧病理診断・判断料区分・・・病理
組織診断料 (５２０点）　細胞診断料 (２００点）　病理判断料 (１３０点）
⑨検体検査判断料なし
○下記（適用項目）に掲げた検査を、１回に採取した材料を用いて複数行った場合、その点数は、項目数に応じて実施料欄に示したように算定されます。

①生化学的検査（Ⅰ）

項目名	項目名	項目名	項目名
総ビリルビン	直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン	総蛋白	アルブミン(BCP 改良法・BCG 法)
尿素窒素	クレアチニン	尿酸	アルカリホスフォターゼ(ALP)
コリンエステラーゼ(ChE)	γーグルタミルトランスフェラーゼ(γー GT)	中性脂肪	ナトリウム及びクロール
カリウム	カルシウム	マグネシウム	クレアチン
グルコース	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	アミラーゼ	ロイシンアミノペプチターゼ(LAP)
クレアチンキナーゼ(CK)	アルドラーゼ	遊離コレステロール	鉄(Fe)
血中ケトン体・糖・クロール検査(試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの)	不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)	総鉄結合能(TIBC)(比色法)	リン脂質
HDL- コレステロール	無機リン及びリン酸	総コレステロール	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	LDL－コレステロール	蛋白分画	銅(Cu)
リパーゼ	イオン化カルシウム	マンガン(Mn)	

項目数	５項目以上　７項目以下	８項目　又は　９項目	１０項目以上
実施料	93	99	103

②生化学的検査（Ⅱ）

項目名	項目名	項目名	項目名
成長ホルモン(GH)	卵胞刺激ホルモン(FSH)	C- ペプチド(CPR)	黄体形成ホルモン(LH)
アルドステロン	テストステロン	遊離サイロキシン(FT4)	遊離トリヨードサイロニン(FT3)
コルチゾール	サイロキシン結合グロブリン(TBG)	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗 GAD 抗体)	脳性ト Na 利尿ペプチド(BNP)
サイログロブリン	サイロキシン結合(TBC)	脳性 Na 利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント(NT-proBNP)	ヒト胎盤性ラクトーゲン(HPL)
ヒト絨毛性ゴナドトロピン -βサブユニット(HCG-β)	カルシトニン	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
グルカゴン	プロゲステロン	Ⅰ型コラーゲン架橋 N- テロペプチド(NTX)	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)
骨型アルカリホスフォターゼ(BAP)	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	オステオカルシン(OC)	遊離テストステロン
インタクトⅠ型プロコラーゲン -N- プロペプチド(Intact P Ⅰ NP)	Ⅰ型コラーゲン架橋 C- テロペプチド -β異性体(β-CTX)(尿)	セクレチン	低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)半定量
Ⅰ型コラーゲン架橋 C- テロペプチド -β異性体(β-CTX)	Ⅰ型プロコラーゲン -N- プロペプチド(PⅠNP)	サイクリック AMP(ｃAMP)	副甲状腺ホルモン(PTH)
カテコールアミン分画	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(DHEA-S)	エストリオール(E3)	エストロゲン半定量
エストロゲン定量	副甲状腺ホルモン関連蛋白 C 端フラグメント(C-PTHrP)	エストラジオール(E2)	デオキシピリジノリン(DPD)(尿)
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHｒP)	17- ケトジェニックステロイド(17-KGS)	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	カテコールアミン
エリスロポエチン	１７- ケトステロイド分画(17-KS 分画)	17α- ヒドロキシプロゲステロン(17α-OHP)	抗 IA-2 抗体
プレグナンジオール	17- ケトジェニックステロイド分画(17-KGS 分画)	メタネフリン	ソマトメジン C
心房性 Na 利尿ペプチド(ANP)	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	抗利尿ホルモン(ADH)	プレグナントリオール
ノルメタネフリン	インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)	遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画	

項目数	3 項目以上　5 項目以下	6 項目　又は　7 項目	8 項目以上
実施料	410	623	900

③腫瘍マーカー

項目名	項目名	項目名	項目名
癌胎児性抗原(CEA)	α-フェトプロテイン(ＡＦＰ)	組織ポリペプチド抗原(ＴＰＡ)	扁平上皮癌関連抗原(ＳＣＣ抗原)
DUPAN-2	ＮＣＣ-ＳＴ-439	ＣＡ15-3	エステラーゼ１
前立腺特異抗原(PSA)	ＣＡ19-9	ＰＩＶＫＡ-Ⅱ半定量	ＰＩＶＫＡ-Ⅱ定量
CA72-4	ＳＰａｎ-1	シアリルＴｎ抗原(ＳＴＮ)	神経特異エノラーゼ(ＮＳＥ)
CA125	塩基性フェトプロテイン(ＢＦＰ)	核マトリックスプロテイン２２(NMP)定量(尿)	核マトリックスプロテイン２２(NMP)定量(尿)
シアリルＬｅｘ-ｉ抗原(SLX)	遊離型ＰＳＡ比(ＰＳＡ　Ｆ/Ｔ比)	サイトケラチン８・18(尿)	抗ｐ53 抗体
ＢＣＡ225	サイトケラチン 19 フラグメント(シフラ)	シアリルＬｅｘ抗原(ＣＳＬＥＸ)	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチ(ＩCTP)
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	ＣＡ54/61	癌関連ガラクトース転移酵素(ＧＡＴ)	ＣＡ602
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	γ-セミノプロテイン (γ-Sm)	ヒト精巣上体蛋白(ＨＥ4)	可溶性メソテリン関連ペプチド
癌胎児性抗原(CEA) 定性(乳頭分泌)	副甲状腺ホルモン関連蛋白Ｃ端フラグメント(C-PTHｒP)	ＨＥＲ２蛋白	可溶性インターロイキン-2 レセプター(ｓIL-2R)

項目数	2 項目	3 項目	4 項目以上
実施料	230	290	385

④肝炎ウイルス関連検査

項目名	項目名	項目名	項目名
HBs 抗原	HBs 抗体	Ｈｂｅ抗原	Ｈｂｅ抗体
ＨＣＶ抗体定性・定量	ＨＣＶコア蛋白	HBｃ抗原半定量・定量	HCV コア抗体
ＨＡ-ＩｇＭ抗体	ＨＡ抗体	HBｃ-IgM 抗体	HCV 構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性
HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	ＨＥ-ＩｇＡ抗体定性	HCV 血清群別判定	HBV コア関連抗原(HBｃｒAg)
デルタ肝炎ウイルス抗体	ＨＣＶ特異抗体価	HBV ジェノタイプ判定	

項目数	3 項目	4 項目	5 項目以上
実施料	290	360	425

⑤自己抗体検査

項目名	項目名	項目名	項目名
抗サイログロブリン抗体	抗 RNP 抗体定性	抗 RNP 抗体半定量	抗 RNP 抗体定量
抗 Jo-1 抗体半定量	抗 Jo-2 抗体定性	抗 Jo-3 抗体定量	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
抗 Sm 抗体定性	抗 Sm 抗体半定量	抗 Sm 抗体定量	抗 SS-B/La 抗体定性
抗 SS-B/La 抗体半定量	抗 SS-B/La 抗体定量	C1ｑ結合免疫複合体	抗ＳｃⅠ-70 抗体定性
抗ＳｃⅠ-70 抗体半定量	抗ＳｃⅠ-70 抗体定量	抗 SS-A/Ro 抗体定性	抗 SS-A/Ro 抗体半定量
抗 SS-A/Ro 抗体半定量	抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体	抗 ARS 抗体	抗 MDA５抗体
抗 TIF-γ抗体	抗 Mi-2 抗体		

項目数	2 項目	3 項目以上
実施料	320	490

⑥出血・凝固検査

項目名	項目名	項目名	項目名
Ｄダイマー定性	プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	Ｄダイマー半定量	von Willebrand 因子(VWF)活性
Ｄダイマー	α2- マクログロブリン	PIVKA-Ⅱ	凝固因子インヒビター
von Willebrand 因子(VWF)抗原	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)	プロテイン Ｓ 抗原	プロテイン Ｓ 活性
β-トロンボグロブリン	血漿板第４因子(PF4)	トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	プロトロンビンフラグメント F1+2
トロンボモジュリン	凝固因子(第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第ⅩⅠ因子、第ⅩⅡ因子、第ⅩⅢ因子)	フィブリンモノマー複合体	プロテイン Ｓ 活性 Ｃ 抗原
ｔPA・PAI-1 複合体	プロテイン Ｃ 活性		

項目数	3 項目　又は　4 項目	5 項目以上
実施料	530	722

～ この度の共用基準範囲へ変更の経緯 ～

現在、国を挙げた地域医療分担と連携に向けた基準範囲の共有化が進められています。また現場の基準範囲に関する混乱が解消され、臨床検査が患者様の診療に一層貢献できるように、今回の基準範囲の採用に至りました。

項目コード	項目名	単位	基準範囲
1401	白血球数 (WBC)	$10^3/\mu L$	3.3 ～ 8.6
1402	赤血球数 (RBC)	$10^6/\mu L$	M 4.35 ～ 5.55 F 3.86 ～ 4.92
1403	ヘモグロビン (Hb)	g/dL	M 13.7 ～ 16.8 F 11.6 ～ 14.8
1406	ヘマトクリット (Ht)	%	M 40.7 ～ 50.1 F 35.1 ～ 44.4
1407	血小板数 (Plt)	$10^3/\mu L$	158 ～ 348
1408	MCV、MCH 、MCHC	fL、pg、g/dl	83.6 ～ 98.2、 27.5 ～ 33.2、 31.7 ～ 35.3
1017	総蛋白 (TP)	g/dL	6.6 ～ 8.1
1164	アルブミン (Alb)	g/dL	4.1 ～ 5.1
1058	A/G比		1.32 ～ 2.23
1036	尿素窒素 (UN)	mg/dL	8 ～ 20
1038	クレアチニン (Cre)	mg/dL	M 0.65 ～ 1.07 F 0.46 ～ 0.79
1040	尿酸 (UA)	mg/dL	M 3.7 ～ 7.8 F 2.6 ～ 5.5
1042	ナトリウム (Na)	mmol/L	138 ～ 145
1043	クロール (Cl)	mmol/L	101 ～ 108
1044	カリウム (K)	mmol/L	3.6 ～ 4.8
1045	カルシウム (Ca)	mg/dL	8.8 ～ 10.1
1047	無機リン (IP)	mg/dL	2.7 ～ 4.6
1050	グルコース (血糖)	mg/dL	73 ～ 109
1028	中性脂肪 (TG)	mg/dL	M 40 ～ 234 F 30 ～ 117
1033	総コレルテロール (TC)	mg/dL	142 ～ 248
1035	HDL-コレステロール	mg/dL	M 38 ～ 90 F 48 ～ 103
1077	LDL-コレステロール	mg/dL	65 ～ 163
1002	総ビリルビン (T-Bil)	mg/dL	0.4 ～ 1.5
1006	AST (GOT)	U/L	13 ～ 30
1007	ALT (GPT)	U/L	M 10 ～ 42 F 7 ～ 23
1013	γ-GT	U/L	M 13 ～ 64 F 9 ～ 32
1008	コリンエステラーゼ (ChE)	U/L	M 240 ～ 486 F 201 ～ 421
1026	アミラーゼ (AMY)	U/L	44 ～ 132
1015	CK	U/L	M 59 ～ 248 F 41 ～ 153
1051	CRP (C 反応性蛋白)	mg/dL	0.00 ～ 0.14
1046	血清鉄 (Fe)	μg/dL	40 ～ 188
1250	IgG	mg/dL	861 ～ 1747
1251	IgA	mg/dL	93 ～ 393
1252	IgM	mg/dL	M 33 ～ 183 F 50 ～ 269
1256	C3	mg/dL	73 ～ 138
1257	C4	mg/dL	11 ～ 31
5115	ヘモグロビンAlc (HbAlc)	%(NGSP)	4.9 ～ 6.0

検査項目

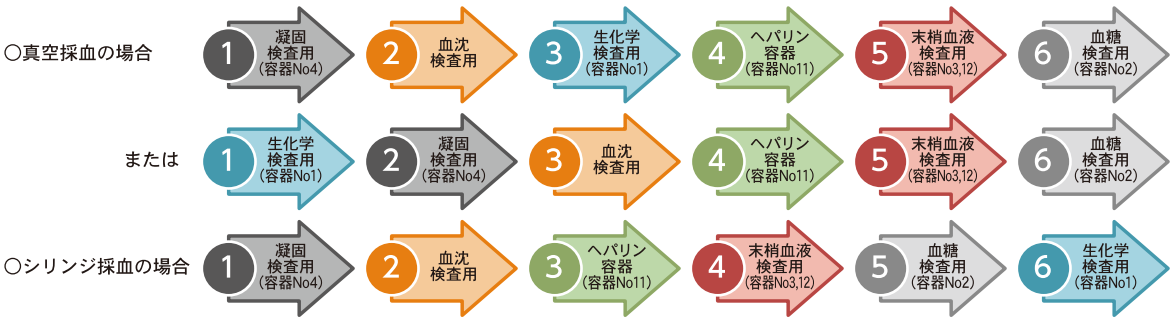
●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
生体色素	1002 3J010	総ビリルビン （T－Bil）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1日)	バナジン酸法	0.4～1.5 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1003 3J015	直接ビリルビン （D－Bil）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1日)	バナジン酸法	0.0～0.3 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
酵素	1006 3B035	AST （GOT）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (3日)	JSCC準拠法	13～30 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ	溶血検体では高値になる場合があります。 3ページ参照	17 生Ⅰ	①
	1007 3B045	ALT （GPT）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (2日)	JSCC準拠法	M 10～42 F 7～23 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ	溶血検体では高値になる場合があります。 3ページ参照	17 生Ⅰ	①
	1008 3B110	コリンエステラーゼ （ChE）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1週)	JSCC準拠法	M 240～486 F 201～421 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	2109 3B070	アルカリホスファターゼ （ALP）（IFCC）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1週)	IFCC法	38～113 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1100 3B080	ALPアイソザイム （IFCC）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (3週)	アガロースゲル 電気泳動法	ALP_1 0.0～5.3 ALP_2 36.6～69.2 ALP_3 25.2～54.2 ALP_5 0.0～18.1 %	3 ～ 5	① 生化スピッツ	血液型B型またはO型でLewis分泌型の人では、ALP総活性値およびALP_5の出現率が高くなることがあります。	48 生Ⅰ	④

採血管の順序について

複数の採血管に採血する場合は各採血管の間での内容物のコンタミネーションによる検査データーへの影響を防ぐために次の順序が推奨されています。但し、個別の状況に応じ、検査項目の優先度などを考慮して順序を変更することは許容されうるとされています。

JCCLS 「標準採血法ガイドライン」より



○転倒混和について ・採血直後に5回以上の転倒混和を行って下さい。
・特に血糖容器は試薬が溶けにくいので10回以上転倒混和をして下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
酵素	1012 3B135	ＬＡＰ (ロイシンアミノペプチダーゼ)	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (3日)	LーロイシルーPーニトロアニリド基質法	M 54～97 F 46～81 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1013 3B090	γ－ＧＴ (γ-グルタミルトランスフェラーゼ)	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1週)	ＪＳＣＣ準拠法	M 13～64 F 9～32 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1015 3B010	ＣＫ (クレアチンキナーゼ)	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1日)	ＪＳＣＣ準拠法	M 59～248 F 41～153 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1260 3B025	ＣＫ アイソザイム	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (1週)	アガロースゲル 電気泳動法	BB 0～2 MB 0～3 MM 96～100 %	3 ～ 4	① 生化スピッツ		55 生Ⅰ	③
	2001 3B015	ＣＫ－ＭＢ （ＣＫアイソザイム）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (1日)	免疫阻止－ＵＶ法	25以下 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		55 生Ⅰ	①
	1016 3B050	ＬＤ (乳酸脱水素酵素) （ＩＦＣＣ）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (2日)	ＩＦＣＣ法	124～222 U/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ	溶血検体では高値になる場合があります。 下記参照	11 生Ⅰ	①
	1080 3B055	LD(LDH)アイソザイム	血液2.0 遠心 血清0.3	室 室 (3日)	アガロースゲル 電気泳動法	LDH_1 21～31 LDH_2 28～35 LDH_3 21～26 LDH_4 7～14 LDH_5 5～13 %	3 ～ 5	① 生化スピッツ	溶血でのご依頼は避けて下さい。（溶血の場合 $LDH_{1,2,3}$ の上昇が考えられます。）LDH_5 が多く含まれる検体では IFCC 法に基づく分画値と乖離する場合があります。	48 生Ⅰ	④

溶血について

溶血とは、血液中の赤血球がなんらかの原因で崩壊し、中の成分が血清中に溶出する現象です。
溶血の影響を大きく受けるのは赤血球中の成分が、血清成分より高い右の項目です。

項目名
K(カリウム)
LD(LDH)
AST
総蛋白
ALT

影響大

■溶血を防ぐための採血のポイント

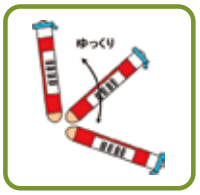
採血部位は消毒後、十分に乾燥させる

23Gより　細い針は使用しない

赤血球が針を通るとき針が細いほど抵抗がかかり赤血球の膜が壊れやすくなる

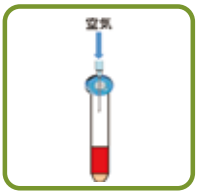
採血時、強く引かない、分注する時、強く押さない

注射針の中を一気に血液が通過すると圧がかかり赤血球の膜が壊れる



転倒混和はゆっくり、泡立てない

採血直後に５回以上
血糖スピッツは１０回以上



採血量が少ない場合は、圧を抜く

管内に圧が残っているので、転倒混和後、ゴムに注射針を刺すかフタをあける

■保存　全血（①生化スピッツ）採血後は、室温にて直射日光を避け静置する。（冷蔵庫、冷凍庫、高温な場所は避ける）

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
酵素	1025 3B180	リパーゼ		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1週)	合成基質比色法 (DGGMR法)	13.0～55.0 U/L	1～2	① 生化スピッツ	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守して下さい。	24 生Ⅰ	①
	1026 3B160	アミラーゼ （AMY）	血清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (3日)	Et-G7-PNP 法	44～132 U/L	1～2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1027 3B160		尿	尿 1.0	冷 (1日)		92～875 U/L		㊻ 滅菌スピッツ	部分尿の一部を提出して下さい。		
	1090 3B165	アミラーゼアイソザイム		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3日)	Et-G7-PNP 法	P型18～53 S型 6 ～84 U/L	1～2	① 生化スピッツ	☆P型は膵(Pancreas：膵臓)に多く存在し、膵疾患で上昇。S型は唾液腺(Saliva：唾液)に多く存在し、唾液腺疾患で上昇。	48 生Ⅰ	①
	1095 3B165			血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	アガロースゲル 電気泳動法	Total－S 36.0～84.3 Total－P 15.7～64.0 %	3～5				④
	1065 3B100	アルドラーゼ （ALD）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	UV－酵素法	2.1～6.1 U/L	3～5	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	④
	1181 3B125	グアナーゼ （GU）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	酵素法	0.4～1.1 IU/L	4～5	① 生化スピッツ		35 生Ⅰ	⑤
	2033 3B130	アデノシン デアミナーゼ （ADA）	血清	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (1週)	酵素法	8.6～20.5 U/L	3～4	① 生化スピッツ		32 生Ⅰ	③
	3030 3B130		穿刺液	胸水等 0.4	冷 (1週)		U/L		㊻ 滅菌スピッツ			

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
酵素	2955 3B255	リゾチーム	血清	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍 (1ヶ月)	比濁法	4.2～11.5 μg/mL	4～7	① 生化スピッツ		−	③
	2718 3B255		尿	尿 1.0	(提出) 冷 (保存) 凍 (1ヶ月)		1.0未満 μg/mL （検出限界値）	4～7	㊻ 滅菌スピッツ			
	1186 3B185	トリプシン		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3週)	EIA	100～550 ng/mL	4～6	① 生化スピッツ		189 生Ⅰ	③
	2185 3B192	(膵)ホスフォリパーゼA_2 （PLA_2）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍 (3週)	RIA固相法	130～400 ng/dL	3～5	① 生化スピッツ		204 生Ⅰ	④
蛋白	1017 3A010	総蛋白 （TP）		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	Biuret法	6.6～8.1 g/dL	1～2	① 生化スピッツ	溶血検体では、高値になる場合があります。 3ページ参照	11 生Ⅰ 注①	①
	1070 3A020	蛋白分画		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (5日)	キャピラリー電気泳動法	Alb 55.8～66.1 α1グロブリン 2.9～4.9 α2グロブリン 7.1～11.8 β1グロブリン 4.7～7.2 β2グロブリン 3.2～6.5 γグロブリン 11.1～18.8 % A/G比 1.3～1.9	1～2	① 生化スピッツ	※材料が血清以外でも受託できますが検査内容が異なりますのでお問い合わせ下さい。 項目コード：（その他の材料：31167）	18 生Ⅰ 注①	①
	1164 3A015	アルブミン （Alb）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (5日)	BCP改良法	4.1～5.1 g/dL	1～2	① 生化スピッツ	※材料が胸水でも受託できますが検査内容が異なりますのでお問い合わせ下さい。 項目コード（胸水：1725）	11 生Ⅰ 注①	①
	1725 3A015	アルブミン定量		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	ネフェロメトリー	3900～4900 mg/dL	3～5	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ 注①	③
	1058 3A016	A／G比				計算法	1.32～2.23 計算式： アルブミン/総蛋白-アルブミン	1～2		総蛋白、アルブミンの2項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告致します。	−	①
	5164 3A015	アルブミン（Alb） （ヒト以外）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (5日)	BCG法	g/dL	1～2	① 生化スピッツ		−	①
	5058 3A016	A／G比 （ヒト以外）				計算法	計算式： 5164アルブミン/総蛋白-5164アルブミン	1～2		総蛋白、5164アルブミンの2項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告致します。	−	①

注①　「総蛋白」、「蛋白分画」、「アルブミン」、「アルブミン定量」を併せて測定した場合は主たるもの2つの所定点数の算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
脂質	1839 3F135	リポ蛋白分画		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 凍結不可(4日)	アガロースゲル電気泳動法	下記参照 %	3 〜 4	① 生化スピッツ	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守して下さい。	49 生Ⅰ	③
	2888 3F140	リポ蛋白分画〈HPLC〉		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 凍結不可	HPLC法	下記参照 %	5 〜 7	① 生化スピッツ		129 生Ⅰ	③
	1189 3F180	アポリポ蛋白	A−Ⅰ	血液2.0 遠心 血清 各0.3 (血清0.5で6項目同時測定可能)	室 冷 (2週)	免疫比濁法 (TIA)	M 119〜155 F 126〜165 mg/dL	3 〜 4	① 生化スピッツ		1項目 31 2項目 62 3項目以上 94 生Ⅰ 注①	⑤
	1190 3F185		A−Ⅱ				M 25.9〜35.7 F 24.6〜33.3 mg/dL					
	1191 3F190		B				M 73〜109 F 66〜101 mg/dL					
	1192 3F195		C−Ⅱ				M 1.8〜4.6 F 1.5〜3.8 mg/dL					
	1193 3F200		C−Ⅲ				M 5.8〜10.0 F 5.4〜9.0 mg/dL					
	1194 3F205		E				M 2.7〜4.3 F 2.8〜4.6 mg/dL					
	2905 3F156	リポ蛋白(a) (Lp(a))		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	LA (ラテックス凝集比濁法)	40以下(参考値) mg/dL	3 〜 5	① 生化スピッツ		107 生Ⅰ 注②	④
	1028 3F015	中性脂肪(TG) (トリグリセライド)		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	グリセロール消去反応	M 40〜234 F 30〜117 mg/dL	1 〜 2	① 生化スピッツ	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守して下さい。	11 生Ⅰ	①
	1029 3F025	リン脂質 (PL)		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	酵素法	150〜250 mg/dL	2 〜 3	① 生化スピッツ		15 生Ⅰ	⑤
	1031 3F130	β−リポ蛋白		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	比濁法	169〜586 mg/dL	2 〜 3	① 生化スピッツ		−	③

注①　「アポリポ蛋白」は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢおよびEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定します。

注②　「リポ蛋白（a）」は、３月に１回を限度として算定できます。

◆1839　リポ蛋白分画◆

(%)

	男性	女性
α分画	26.9〜50.5	32.6〜52.5
preβ分画	7.9〜23.8	6.6〜20.8
β分画	35.3〜55.5	33.6〜52.0

◆2888　リポ蛋白分画〈HPLC〉◆

分画成分名	成分比（%）	定量値（mg/dL）
HDL（高比重リポ蛋白）	23.6 〜 49.8	40.6 〜 91.4
LDL（低比重リポ蛋白）	42.2 〜 63.8	67.8 〜 132.6
IDL（中間比重リポ蛋白）	2.2 〜 6.1	3.8 〜 12.5
VLDL（超低比重リポ蛋白）	2.6 〜 13.9	4.9 〜 22.8
Other	0.8 〜 4.4	1.5 〜 9.1
総コレステロール	−	120 〜 219

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
脂質	1033 3F050	総コレステロール （T－cho）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	酵素法	142～248 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		17 生Ⅰ 注①	①
	1034 3F065	遊離コレステロール	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (5日)	酵素法	25～60 mg/dL	2 ～ 3	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	⑤
	1035 3F070	HDL－コレステロール	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	直接酵素法	M　38～90 F　48～103 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		17 生Ⅰ 注①	①
	1077 3F077	LDL－コレステロール	遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	酵素法 （直接法）	65～163 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		18 生Ⅰ 注①	①
	1078 3F077	Friedewald (F) 式による LDL－コレステロール			計算法	計算式： T-cho－(HDL-cho +TG/5) mg/dL	1 ～ 2		T-cho、HDL-cho、TGの3項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。 TG400mg/dL 未満の場合に用いられます。	－	①
	2101	LDL－C/HDL－C比			計算法	計算式： LDL-cho／HDL-cho 下記参照	1 ～ 2		LDL-C、HDL-Cの2項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。	－	①
	5078 3F069	non　HDL-コレステロール			計算法	計算式： T-cho－HDL-cho 下記参照 mg/dL	1 ～ 2		T-cho、HDL-cho の 2 項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。 TG400mg/dL 以上の場合に用いられます。	－	①
	2902 3F078	レムナント様リポ蛋白 コレステロール (RLP-C)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 凍結不可 (5日)	酵素法	7.5以下 mg/dL	3 ～ 5	① 生化スピッツ	基準値は、健常者における“平均値＋1.96SD”に相当します。ただし、糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴のある場合は、“5.2mg/dL以上”をハイリスク域とします。	174 生Ⅰ 注②	④
	2763 3F150	コレステロール分画	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1週)	アガロースゲル 電気泳動法	HDLコレステロール 23～48 LDLコレステロール 47～69 VLDLコレステロール 2～15 %	3 ～ 5	① 生化スピッツ		57 生Ⅰ	④

注①　「総コレステロール」、「HDL- コレステロール」、「LDL- コレステロール」を併せて測定した場合は、主たるもの 2 つの所定点数の算定となります。
注②　「レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)」は、3 月に 1 回を限度として算定できます。

◆5078　non HDL- コレステロール◆
動脈硬化惹起性リポ蛋白中のコレステロールを表します。LDL だけでなく、TG、リッチなリポ蛋白であるカイロミクロン(CM)や VLDL、脂質代謝異常により出現するレムナントなどを含み、動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。
動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2012 年版に導入されています。(8 ページ参照)

◆2101　LDL－C/HDL－C 比◆
動脈硬化症(冠動脈疾患)の指標として、体にコレステロールを運ぶ役割(LDL－C)と体から余分なコレステロールを回収する役割(HDL－C)のバランス(比)が動脈硬化への進展(プラーク形成など)の指標になります。
一般的には L/H 比の管理目標として、将来の冠動脈疾患を予防する場合(一次予防)：2.0 以下、現在冠動脈の既往がある場合(二次予防)：1.5 以下が推奨されています。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
脂質	2082 3F095	全脂質脂肪酸分画	血液3.0 遠心 血清0.8	室 凍 (1ヶ月)	LC-MS/MS	下記参照 μg/mL，weight％	15 〜 22	① 生化スピッツ	ヘパリン血漿でも検査可（容器番号⑪）	393 生Ⅱ	③
	8482 3F095	脂肪酸分画（4成分）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (45日)	ガスクロマトグラフィ法	下記参照 μg/mL	5 〜 7	① 生化スピッツ	EPA/AA比、DHA/AA比、(EPA+DHA)/AA比は自動的にご報告いたします。 ヘパリン血漿でも検査可（容器番号⑪）	393 生Ⅱ	④

◆2082　全脂質脂肪酸分画◆

分画成分名	略号	濃度(μg/mL)	成分比(weight%)
ラウリン酸	C12：0	4.2以下	0.16以下
ミリスチン酸	C14：0	8.2〜40	0.33〜1.17
ミリストレイン酸	C14：1ω5	3.4以下	0.10以下
パルミチン酸	C16：0	451〜898	18.38〜22.8
パルミトレイン酸	C16：1ω7	25〜112	0.9〜3.05
ステアリン酸	C18：0	164〜306	6.3〜9.1
オレイン酸	C18：1ω9	432〜1069	17.53〜26.82
リノール酸	C18：2ω6	697〜1280	25.3〜37.02
γ-リノレン酸	C18：3ω6	3.6〜22	0.14〜0.71
リノレン酸	C18：3ω3	10〜41	0.31〜1.06
アラキジン酸	C20：0	1.2〜2.7	0.07以下
エイコセン酸	C20：1ω9	3.2〜8.2	0.12〜0.23
エイコサジエン酸	C20：2ω6	3.6〜10	0.17〜0.29
5-8-11エイコサトリエン酸	C20：3ω9	1.2〜5.4	0.17以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20：3ω6	23〜72	0.92〜2.24
アラキドン酸	C20：4ω6	142〜307	4.83〜9.42
エイコサペンタエン酸	C20：5ω3	12〜112	0.36〜3.42
ベヘニン酸	C22：0	1.3〜2.6	0.08以下
エルシン酸	C22：1ω9	1.4以下	0.04以下
ドコサテトラエン酸	C22：4ω6	2.9〜7.6	0.11〜0.23
ドコサペンタエン酸	C22：5ω3	26〜60	0.98〜1.79
リグノセリン酸	C24：0	1.6〜2.9	0.09以下
ドコサヘキサエン酸	C22：6ω3	51〜185	1.69〜5.55
ネルボン酸	C24：1ω9	2.1〜4	0.13以下
T/T比(C20：3ω9/C20：4ω6)		0.02以下*	
EPA/AA比(C20：5ω3/C20：4ω6)		0.06〜0.44*	

＊単位なし

◆8482　脂肪酸分画（4成分）◆

分画成分名		(μg/mL)
ジホモ－γ－リノレン酸	(DHLA)	22.6〜72.5
アラキドン酸	(AA)	135.7〜335.3
エイコサペンタエン酸	(EPA)	10.2〜142.3
ドコサヘキサエン酸	(DHA)	54.8〜240.3
EPA/AA比（単位なし）		0.05〜0.61
DHA/AA比（単位なし）		0.27〜1.07
(EPA+DHA)/AA比（単位なし）		0.32〜1.66

●脂質異常症診断基準●（空腹時採血）*

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120〜139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150〜169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

＊10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。
＊＊スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。
・LDL-CはFriedewald式(TC－HDL-C－TG/5)または直接法で求める。
・TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C(TC－HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が＋30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

●リスク区分別脂質管理目標値●

治療方針の原則	管理区分	脂質管理目標値 (mg/dL)			
		LDL-C	Non HDL-C	TG	HDL-C
一次予防 まず生活習慣の改善を行った後、薬物療法の適用を考慮する	低リスク	＜160	＜190	＜150	≧40
	中リスク	＜140	＜170		
	高リスク	＜120	＜150		
二次予防 生活習慣の是正とともに薬物治療を考慮する	冠動脈疾患の既往	＜100 (＜70)*	＜130 (＜100)*		

*家族性高コレステロール血症、急性冠症候群の時に考慮する。糖尿病でも他の高リスク病態（非心原性脳梗塞、末梢動脈疾患（PAD）、慢性腎臓病（CKD）、メタボリックシンドローム、主要危険因子の重複、喫煙）を合併する時はこれに準ずる。
（日本動脈硬化学会（編）：動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版. 日本動脈硬化学会. 2017. ）

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
脂質関連	1116 3F110	胆汁酸（TBA）		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷(1週)	酵素法	10.0以下 μmol/L	3〜5	① 生化スピッツ		47 生Ⅰ	④
有機酸関連	2190 3E010	乳酸		血液1.0 遠心 除蛋白上清0.5	冷 凍(1ヶ月)	酵素法	空腹安静時 3.7〜16.3 mg/dL	3〜4	⑬ 専用容器	専用容器(0.8N過塩素酸入り)に血液1mLを加え充分撹拌して提出して下さい。遠心分離機がある場合は、3,000rpm5分遠心後、上清を提出して下さい。 保険請求の際は「有機モノカルボン酸」として算定して下さい。	47 生Ⅰ 注①	③
	2189 3E015	ピルビン酸		血液1.0 遠心 除蛋白上清0.5	冷 凍(1ヶ月)	酵素法	空腹安静時 0.30〜0.90 mg/dL	3〜4	⑬ 専用容器		47 生Ⅰ 注①	③
	1182 3E040	(血中)ケトン体		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷(1週)	酵素法	28.0〜120.0 μmol/L	1〜2	① 生化スピッツ		30 生Ⅰ 注②	①
	2081 3E045	ケトン体分画	静脈血	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍(1ヶ月)	酵素法	総ケトン体 26〜122 アセト酢酸 13〜69 3-ハイドロキシ酪酸 76以下 μmol/L	3〜4	① 生化スピッツ	早朝空腹時に採血。 遠心分離機がある場合は、採血後速やかに血清分離し凍結保存して下さい。 総ケトン体にアセトンは含まれません。	59 生Ⅰ 注②	③
	1918 3E045		動脈血	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍(1週)		アセト酢酸/ 3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	3〜5		ブドウ糖投与下または食後(血糖120mg/dL以上)に動脈採血して下さい。 遠心分離機がある場合は、採血後速やかに血清分離し凍結保存して下さい。		④
蛋白・窒素化合物	1036 3C025	尿素窒素（BUN）	血清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷(5日)	ウレアーゼLEDH	8〜20 mg/dL	1〜2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1141 3C025		蓄尿 部分尿	尿 5.0	冷		6.50〜13.00 g/day mg/dL		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は1日蓄尿量を記入して下さい。 尿量がない場合は部分尿として検査、濃度(mg/dL)でご報告いたします。		
	1040 3C020	尿酸（UA）	血清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷(5日)	ウリカーゼ酵素法	M 3.7〜7.8 F 2.6〜5.5 mg/dL	1〜2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1143 3C020		蓄尿 部分尿	尿 5.0	冷		0.40〜1.30 g/day mg/dL		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は1日蓄尿量を記入して下さい。 尿量がない場合は部分尿として検査、濃度(mg/dL)でご報告いたします。 ＊1		

＊1　尿中尿酸/クレアチニン比（g/g・Cr）も受託可能です。（項目コード：5633）尿中クレアチニンの項目が追加され、尿中尿酸値と尿中クレアチニン値もご報告いたします。

注①　「乳酸」および「ピルビン酸」の測定を行った場合、それぞれの測定ごとに実施料が算定できます。

注②　「ケトン体」および「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、「ケトン体分画」の所定点数のみの算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
蛋白・窒素化合物	1038 3C015	クレアチニン（CRE）	血清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	酵素法	M 0.65～1.07 F 0.46～0.79 mg/dL	1～2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1142 3C015		蓄尿 部分尿	尿 5.0	冷		0.50～1.50 g/day mg/dL		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は1日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		
	5799 8A065	推算GFRcreat（eGFRcreat）				計算法	下記参照 mL/min/1.73m^2	1～2		血清クレアチニン依頼の場合に自動的にご報告いたします。年齢・性別を必ず記入して下さい。＊	–	①
	3098 3C016	シスタチンC		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3日)	LA法	M（成人） 0.63～0.94 F（成人） 0.52～0.85 mg/L	1～2	① 生化スピッツ		112 生Ⅰ 注①	①
	5098 8A066	推算GFRcys（eGFRcys）				計算法	下記参照 mL/min/1.73m^2	1～2		シスタチンCと、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。年齢・性別を必ず記入して下さい。＊	–	①
	1039 3C010	クレアチン		血液3.0 遠心 血清0.4	室 冷	酵素法	M 0.2～0.5 F 0.4～0.9 mg/dL	3～4	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	③
	1133 8A025	クレアチニン・クリアランス（CCR）		血液2.0 遠心 血清0.5 尿5.0	室 冷 冷	酵素法	93.00～238.00 L/day 65.00～165.00 mL/min	1～2	血清： ①生化スピッツ 尿： ㊻滅菌ポリスピッツ	血液および尿をそれぞれに採取して下さい。身長・体重・尿量は必ず記入して下さい。15ページ参照	–	①

注①　「シスタチンC」は、「尿素窒素（BUN）」または「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回限り算定できます。
＊GFRの単位中で“1.73㎡”は、日本人の健常成人における平均体表面積を意味します。

●eGFRの推算式●

◆5799　推算GFRcreat◆

eGFRcreat（mL/min/1.73㎡）=194×Cr$^{-1.094}$×年齢（歳）$^{-0.287}$

Cr：血清クレアチニン濃度（mg/dL）　（女性は×0.739）

・酵素法で測定されたクレアチニン値を用いる。血清クレアチニン値は小数点以下2桁表記を用いる。
・18歳以上に適用する。小児の腎機能評価には小児の評価法を用いる。

◆5098　推算GFRcys◆

男性：eGFRcys（mL/min/1.73㎡）=（104×Cys$^{-1.019}$×0.996$^{年齢（歳）}$）－8
女性：eGFRcys（mL/min/1.73㎡）=（104×Cys$^{-1.019}$×0.996$^{年齢（歳）}$×0.929）－8
Cys－C：血清シスタチンC濃度（mg/L）

・18歳以上に適用する。
・GFR推算式の正確度は血清クレアチニンに基づく推算式と同程度である。
・血清シスタチンC値は筋肉量や食事、運動の影響を受けにくいため、血清クレアチニン値によるGFR推算式では評価が困難な場合に有用である。
　筋肉量が少ない症例（四肢切断、長期臥床例、るいそうなど）
　筋肉量が多い症例（アスリート、運動習慣のある高齢者など）
・血清シスタチンC値は妊娠、HIV感染、甲状腺機能障害などで影響されるため注意する。

◆推算GFRに基づいたCKD重症度分類は119ページ参照下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
電解質	1042 3H010	ナトリウム（Ｎａ）	血　清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （1日）	電極法	138～145 mmol/L	1～2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ 注①	①
	1137 3H010		蓄　尿 部分尿	尿 1.0	冷		95～417 mmol/day 74～264 mmol/L		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は１日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		
	1043 3H020	クロール（Ｃｌ）	血　清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （1日）	電極法	101～108 mmol/L	1～2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ 注①	①
	1138 3H020		蓄　尿 部分尿	尿 1.0	冷		99～426 mmol/day 69～262 mmol/L		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は１日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		
	1044 3H015	カリウム（Ｋ）	血　清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （1日）	電極法	3.6～4.8 mmol/L	1～2	① 生化スピッツ	溶血検体や全血のままでの冷蔵保存、クレンチングにより高値となります。クレンチングについては下記、溶血については３ページ参照	11 生Ⅰ	①
	1139 3H015		蓄　尿 部分尿	尿 1.0	冷		30～97 mmol/day 21～74 mmol/L		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は１日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		
	1045 3H030	カルシウム（Ｃａ）	血　清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （5日）	アルセナゾⅢ法	8.8～10.1 mg/dL	1～2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ 注②	①
	1155 3H030		蓄　尿 部分尿	尿 1.0	冷		80～358 mg/day 5.2～24.8 mg/dL		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は１日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		
	1169 3H030	補正カルシウム				計算法	計算式： 実測Ca濃度 （mg/dL）＋4 －Alb（g/dL） mg/dL	1～2		アルブミン、カルシウムの２項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。	－	①
	2619 3H035	イオン化カルシウム		血液3.0 遠心 血清0.9	室 凍	イオン電極法	2.41～2.72 mEq/L	4～6	① 生化スピッツ	pH=7.4 37℃にて測定。	26 生Ⅰ 注②	④

注①　「ナトリウム」および「クロール」は、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数の算定となります。
注②　「カルシウム」および「イオン化カルシウム」を同時に測定した場合は、いずれか一方の算定となります。

クレンチングについて

採血時、クレンチングを行うことにより、カリウムの値が0.79mEq/L程高くなるという報告があります。
クレンチングとは、駆血帯をしたあとに、手のひらをグーパーグーパーすることを言います。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
電解質	1047 3H040	無機リン （IP）	血　清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （1日）	酵素法	2.7～4.6 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		17 生Ⅰ	①
	1140 3H040		蓄　尿 部分尿	尿 1.0	冷		0.50～1.00 g/day mg/dL		㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は１日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		
	1048 3H025	マグネシウム （Mg）	血　清	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （1日）	酵素法	1.7～2.6 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1157 3H025		蓄　尿 部分尿	尿 1.0	冷		0.02～0.17 g/day mg/dL	3 ～ 4	㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は１日蓄尿量を記入して下さい。尿量がない場合は部分尿として検査いたします。		③
	3054 3H025											
金属関連	1046 3I010	血清鉄 （Fe）		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （5日）	Nitroso-PSAP法	40～188 μg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ	①
	1161 3I015	総鉄結合能 （TIBC）（比色法）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （5日）	比色法	M 238～363 F 248～437 μg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ 注①	①
	1162 3I020	不飽和鉄結合能 （UIBC）（比色法）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （5日）	比色法	M 135～300 F 151～341 μg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		11 生Ⅰ 注①	①
	1049 3I025	銅 （Cu）	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （1ヶ月）	比色法	68～128 μg/dL	3 ～ 5	① 生化スピッツ		23 生Ⅰ	④
	1158 3I025		尿	尿 5.0	冷 （1ヶ月）	原子吸光法	濃度　18以下 μg/L 1日量　13以下 μg/day	4 ～ 7	⑩ 専用容器			③
	2904 3I030	亜鉛 （Zn）	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （18日）	比色法	80～130 μg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ	基準値は、朝食前の採血により得られたデータです。食物の摂取により血中濃度が低下しますので、朝食前に採血して下さい。	132 生Ⅰ	①
	5788 3I030		尿	尿 5.0	冷 （1ヶ月）	原子吸光法	64～947 μg/L	4 ～ 7	⑩ 専用容器			③

注①　「総鉄結合能（TIBC）（比色法）」、と「不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）」を同時に実施した場合は、いずれか一方の算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
金属関連	1979 3K105	アルミニウム （Al）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3週)	原子吸光法	0.9以下 μg/dL	5 〜 6	⑩ 専用容器		109 生Ⅰ	③
	3024 3I035	セレン （Se）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3週)	ICP-MS	10.0〜16.0 μg/dL		⑩ 専用容器		144 生Ⅰ 注①	③
	3027 3K125	マンガン （Mn）	血液	ヘパリン 加血液 0.5	冷 (3週)	ICP-MS	0.4〜2.0 μg/dL	6 〜 11	⑪ ヘパリン容器		27 生Ⅰ 注②	③
	3028 3K125		尿	尿 0.5	冷 (3週)		2.0未満 μg/L		⑩ 専用容器			
	2949 3K110	鉛 （Pb）		ヘパリン 加血液 1.0	冷 (1ヶ月)	原子吸光法	1.0以下 μg/dL	5 〜 6	⑪ ヘパリン容器		−	③
	3069 3K115	クロム （Cr）	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3週)	原子吸光法	μg/dL	7 〜 13	⑩ 専用容器		−	③
	3068 3K115		血液	ヘパリン 加血液 0.5	冷 (3週)		μg/dL		⑪ ヘパリン容器			
	3070 3K115		尿	尿 1.0	冷 (3週)		μg/L		⑩ 専用容器			

注①　「セレン(Se)」は、長期静脈栄養管理若しくは長期成分栄養剤を用いた経腸栄養管理を受けている患者、人工乳もしくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者または重症心身障害児(者)に対して、診察及び他の検査の結果からセレン欠乏症が疑われる場合の診断および診断後の経過観察を目的として実施した場合に限り算定できます。

注②　「マンガン(Mn)」は、1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については、2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
糖尿病関連	1050 3D010	グルコース（血糖）（空腹時）		血液2.0 遠心 血漿0.5	室 冷 （1週）	ヘキソキナーゼUV法	73～109 mg/dL	1 ～ 2	② フッ化ナトリウム		11 生Ⅰ	①
	1351	血糖負荷試験 3D010	空腹時	血液2.0 遠心 血漿0.5	室 冷 （1週）	ヘキソキナーゼUV法	73～109 mg/dL	1 ～ 2	② フッ化ナトリウム	血糖専用容器に1～2mL採血後よく混和してご提出下さい。 採血時間を必ず記入して下さい。	(200)	①
	1352		負荷30分									
	1353		60分				mg/dL					
	1354		90分									
	1355		120分									
	1356		150分									
	1357		180分									
	1361	尿糖負荷試験 1A025	空腹時	尿 2.0	冷	酵素法	g/dL	1 ～ 2	㊻ 滅菌スピッツ	尿2mL以上をご提出下さい。 採取時間を必ず記入して下さい。	(200)	①
	1362		負荷30分									
	1363		60分									
	1364		90分									
	1365		120分									
	1366		150分									
	1367		180分									
	2778 3D055	グリコアルブミン（GA）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （1週）	酵素法	12.3～16.5 %	1 ～ 2	① 生化スピッツ	☆過去1～2週間の血糖値の変動を反映します。	55 生Ⅰ 注①	①
	5115 3D046	ヘモグロビンA1c（HbA1c）		血液 2.0	冷 （1週）	酵素法	4.9～6.0 %	1 ～ 2	② フッ化ナトリウム	☆過去1～2ヶ月の血糖値の変動を反映します。	49 血液 注①	①
	2186 3D085	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （1ヶ月）	酵素法	M 14.9～44.7 F 12.4～28.8 μg/mL	3 ～ 5	① 生化スピッツ	☆近日中の血糖値の変動を反映します。	80 生Ⅰ 注①	④
糖質関連	2191 3D080	ヒアルロン酸	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ラテックス凝集法	50.0以下 ng/mL	3 ～ 4	① 生化スピッツ	肝硬変の判定基準 130ng/mL以上 (50～130ng/mLの場合、肝の繊維化が疑われます。)	179 生Ⅰ 注②	⑤
	1995 3D080		穿刺液	胸水等 0.4	冷	ラテックス凝集免疫比濁法	ng/mL	3 ～ 5	㊻ 滅菌スピッツ		–	④

注①　「グリコアルブミン」、「ヘモグロビンA1c（HbA1c）」、「1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）」のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回限り主たるもののみの算定となります。
ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。

注②　「ヒアルロン酸」は、慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察および肝生検の適応の確認を行う場合に算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

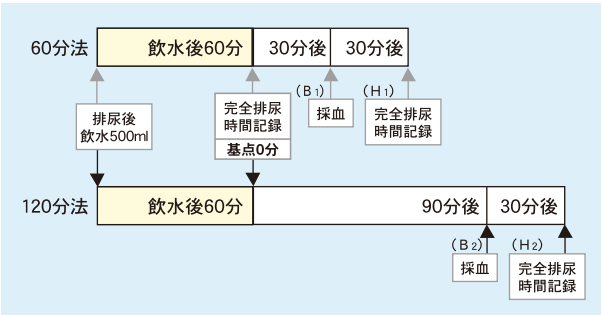
	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施 判断料	
酸・塩基平衡検査	1118 3H080	血液ガス分析 （動脈）		全血 1.0	室	電極法	pH 7.36～7.46 PCO_2 35～45 mmHg PO_2 85～105 mmHg HCO_3 23～28 mM/L TCO_2 25～29 mM/L B.E 0±2.3 mEq/L	1	㊼ プレザパックⅡ	（当該保険医療機関内で行った場合に算定する）		①
	2510 3H080	血液ガス分析 （静脈）					pH 7.32～7.43 PCO_2 36～48 mmHg PO_2 31～54 mmHg HCO_3 23～29 mM/L TCO_2 26～32 mM/L B.E 0±4.0 mEq/L					
その他（酸・塩基平衡関連）	1836 3H045	浸透圧	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	氷点降下法	270～295 mOsm/L	1～2	① 生化スピッツ		15 血液	①
	1837 3H045		尿	尿 1.0	冷		50～1300 mOsm/L		㊻ 滅菌スピッツ		16 尿便	
その他	1843 3Z065	結石分析		結石 10mg	室	IR （KBrWafer法）	組成比率 %	6～8	㊻ 滅菌スピッツ		117 生Ⅱ	④

●1133　クレアチニン・クリアランスの採取方法●(P10)

[60分法、120分法]
1）排尿後、微温水500mLを飲ませて下さい。
2）飲水後、約60分後に放尿させ、完全に排尿し終わったときの時刻を正確に（1分以内の誤差で）記録して下さい。

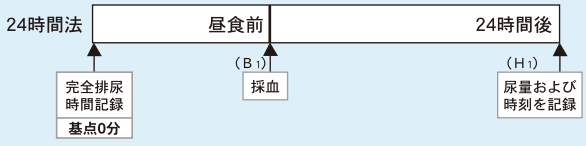
・60分法の場合
3）開始30分後に３～５mL採血して下さい（B_1）。
4）開始約１時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録して下さい（H_1）。

・120分法の場合
3）開始90分後に３～５mL採血して下さい（B_2）。
4）開始約２時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録して下さい（H_2）。



[24時間法]
1）一定時刻に完全排尿させ、以後の尿を翌日の同時刻まで冷所に全尿蓄尿して下さい。
2）昼食前に３～５mL採血して下さい（B_1）。
3）蓄尿終了時に正確に尿量を記録して下さい（H_1）。
4）以上のようにして得た血清および尿を４～６℃で保存し、所定量を提出して下さい。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記して下さい。

※１日クレアチニン排泄量は、平均体表面積（補正係数）1.73㎡を使用しています。



●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
蛋白・窒素化合物	1041 3C040	血中アンモニア（NH_3）		血液1.0 遠心 除蛋白上清 2.0 *1	冷 冷 (1日)	酸素サイクリング	12～66 μg/dL	1～2	⑨ 除蛋白液入	アンモニア専用容器に全血 1.0mL を入れ、よく混和して下さい。	50 生Ⅰ	①
				EDTA 加血液 2.0 *1	氷 冷	BPB 指示薬法			⑨ EDTA－2K	氷につけて提出して下さい。		
	1832 3C045	アミノ酸分画	血漿	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.5	冷 凍 (2週)	LC-MS/MS	17ページ参照	5～6	⑪ ヘパリン容器	遠心分離機がある場合は、採血後、速やかによく混和させ、血漿分離して下さい。冷凍庫がある場合は血漿を凍結保存して下さい。	1107 生Ⅱ	③
	1901 3C045		尿	尿 0.5 (早朝2番尿)	(提出) 冷 (保存) 凍 (2週)				㊻ 滅菌スピッツ	早朝２番尿を提出してください。冷凍庫がある場合は凍結保存して下さい。		
	3805 3C046	アミノ酸分析2種類 (チロシン･フェニルアラニン)		血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.5	冷 凍 (3週)	LC/MS	チロシン 40.4～90.3nmol/mL フェニルアラニン 42.6～75.7nmol/mL フィッシャー比 2.43～4.40	4～6	⑫ EDTA容器	遠心分離機がある場合は、採血後、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離して下さい。冷凍庫がある場合は血漿を凍結保存して下さい。	279＋279 生Ⅱ	④
	2956 3C046	アミノ酸11分画		血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.5	冷 凍 (2週)	LC-MS/MS	下記参照	4～5	⑪ ヘパリン容器	遠心分離機がある場合は、採血後、速やかによく混和させ、血漿分離して下さい。冷凍庫がある場合は血漿を凍結保存して下さい。	1107 生Ⅱ	③
	1709 3C047	総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍	酵素法	BTR 4.41～10.05 BCAA 344～713 チロシン 51～98 μmol/L	3～4	① 生化スピッツ	溶血検体は不適です。	283 生Ⅱ	③
	1742 3C070	血中総ホモシステイン		血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.3	冷 冷 (3週)	LC/MS/MS	M7.0～17.8 F5.3～15.2 nmol/mL	4～6	⑫ EDTA容器		279 生Ⅱ	④

*1　受託場所により検査方法が異なりますのでご確認下さい。

◆2956　アミノ酸11分画◆

成　分　名	略　号	血漿(nmol/mL)
バリン	Val	162.9～351.4
メチオニン	Met	18.1～43.5
イソロイシン	Ile	44.9～120.3
ロイシン	Leu	84.4～200.2
チロシン	Tyr	46.7～103.6
フェニルアラニン	Phe	49.0～90.8
ヒスチジン	His	68.0～116.6
トリプトファン	Trp	46.7～92.0
オルニチン	Orn	50.8～137.4
リジン	Lys	138.6～294.2
アルギニン	Arg	44.1～115.2
フィッシャー比*1		2.36～4.69 *2

＊１　フィッシャー比＝$\frac{\text{バリン＋イソロイシン＋ロイシン}}{\text{チロシン＋フェニルアラニン}}$

＊２　単位なし

◆1832、1901　アミノ酸分画（血漿、尿）◆

成　分　名		略号	血漿(nmol/mL)	尿(μmol/L)
アミノ酸分画	タウリン	Tau	34.5～80.6	23.3～2349
	ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0以下	65.5以下
	アスパラギン酸	Asp	5.7以下	13.8以下
	ハイドロキシプロリン	Hyp	19.7以下	20.2以下
	トレオニン	Thr	89.2～241.6	28.7～788.8
	セリン	Ser	78.4～200.1	56.4～1062
	アスパラギン	Asn	37.7～78.5	20.6～361.8
	グルタミン酸	Glu	13.3～86.7	33.6以下
	グルタミン	Gln	503.4～851.4	57.8～1439
	サルコシン	Sarco	5.0以下	12.7以下
	α-アミノアジピン酸	α-AAA	5.0以下	117.2以下
	プロリン	Pro	89.8～304.7	42.0以下
	グリシン	Gly	136.8～397.7	277.7～4443
	アラニン	Ala	253.6～601.9	38.4～956.7
	シトルリン	Cit	18.2～50.1	34.4以下
	α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.2～40.1	33.7以下
	バリン	Val	162.9～351.4	5.1～94.4
	シスチン	Cys-Cys	34.9～77.7	221.8以下
	メチオニン	Met	18.1～43.5	25.1以下
	シスタチオニン	Cysthio	5.0以下	58.4以下
	イソロイシン	Ile	44.9～120.3	30.9以下
	ロイシン	Leu	84.4～200.2	77.5以下
	チロシン	Tyr	46.7～103.6	10.0～263.6
	β-アラニン	β-Ala	8.0以下	84.6以下
	フェニルアラニン	Phe	49.0～90.8	7.9～135.5
	β-アミノイソ酪酸	BAIBA	6.7以下	7.8～3013
	ホモシスチン	Homocys	5.0以下	5.0以下
	γ-アミノ酪酸	GABA	5.0以下	5.0以下
	モノエタノールアミン	MEA	6.7～12.2	73.6～1076
	ハイドロキシリジン	Hyl	5.0以下	46.0以下
	オルニチン	Orn	50.8～137.4	76.1以下
	1-メチルヒスチジン	1-Me-His	26.5以下	23.2～1990
	ヒスチジン	His	68.0～116.6	86.1～2375
	リジン	Lys	138.6～294.2	20.2～1500
	3-メチルヒスチジン	3-Me-His	7.2以下	26.2～755.8
	トリプトファン	Trp	46.7～92.0	8.4～186.7
	アンセリン	Ans	5.0以下	85.4以下
	カルノシン	Carno	5.0以下	51.9以下
	アルギニン	Arg	44.1～115.2	77.4以下
	アロイソロイシン	allo-Ile	5.0以下	5.0以下
	グリシルプロリン	Gly-Pro	5.0以下	32.8以下
	ホモシトルリン	hCit	5.0以下	43.0以下
	S-スルホシステイン	SSC	5.0以下	27.0以下
	キヌレニン	Kyn	5.0以下	16.9以下
	アルギニノコハク酸	ASA	5.0以下	22.8以下
	フィッシャー比*1		2.31～4.29*2	―

＊1　フィッシャー比＝ $\frac{\text{バリン＋イソロイシン＋ロイシン}}{\text{チロシン＋フェニルアラニン}}$
＊2　単位なし

●アミノ酸分画について●

特に指定がない場合は、非蛋白態アミノ酸を分画いたします。加水分解を必要とする場合はご指示下さい。また、トリプトファンは塩酸加水分解されるため検出不能となります。

〈採取容器についての留意点〉

・血漿

抗凝固剤はヘパリンが適していますが、短時間保存の場合は EDTA 血漿でも有意差はありません。血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸（Asp、Glu、Ala、Lys）が増加をきたします。

溶血血漿では Asp、Glu が著しい高値を、Cys－Cys、Trp が低値を示します。

・尿

蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝 2 番尿による測定をお勧めいたします。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

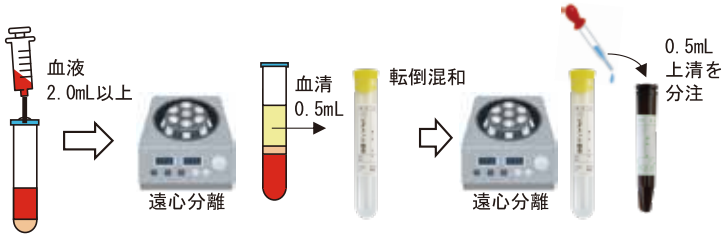
	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ビタミン	2701 3G015	ビタミンA	血液2.0 遠心 血清0.3	冷 冷 遮	HPLC	27.2～102.7 μg/dL	5 ～ 11	① 生化スピッツ		－	⑤
	2702 3G025	ビタミンB_1 （サイアミン）	EDTA 加血液 1.0	凍 遮 (20日)	LC－MS/MS	2.6～5.8 μg/dL	4 ～ 5	⑮ EDTA 遮光容器	ガラス管の場合はプラスチック容器に移してから凍結して下さい。	239 生Ⅰ	③
	2703 3G030	ビタミンB_2 （リボフラビン）	EDTA 加血液 1.0	凍 遮 (20日)	HPLC	12.8～27.6 μg/dL	4 ～ 5	⑮ EDTA 遮光容器	ガラス管の場合はプラスチック容器に移してから凍結して下さい。	235 生Ⅰ	③
	2268 3G036	ビタミンB_6	血液2.0 遠心 血清0.5	冷 冷 遮	HPLC	下記参照 ng/mL	4 ～ 6	① 生化スピッツ		－	④
	1215 3G040	ビタミンB_{12} （シアノコバラミン）	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	CLIA	233～914 pg/mL	2 ～ 4	① 生化スピッツ		136 生Ⅰ	⑤
	2704 3G060	ビタミンC （アスコルビン酸）	血液2.0 遠心 血清0.5 専用容器 遠心 除蛋白上清0.5	室 冷 凍 遮	HPLC	5.5～16.8 μg/mL	4 ～ 6	① 生化スピッツ	上清分注後はできるだけ凍結保存して下さい。	296 生Ⅰ	④
	2194 3G080	ビタミンE （トコフェロール）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍 遮	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	4 ～ 10	① 生化スピッツ		－	③
	1835 3G105	葉酸	血液3.0 遠心 血清0.7	室 冷	CLIA	3.6～12.9 ng/mL	2 ～ 4	① 生化スピッツ	溶血検体では高値になる場合があります。	146 生Ⅰ	⑤
	3005 3G110	ニコチン酸 （ナイアシン）	ヘパリン 加血液 1.5	冷	Bioassay	4.7～7.9 μg/mL	8 ～ 14	⑪ ヘパリン容器		－	④

◆2268　ビタミンB_6◆

(ng/mL)

	男性	女性
ピリドキサミン (PAM)	0.6以下	0.6以下
ピリドキサール (PAL)	6.0～40.0	4.0～19.0
ピリドキシン　(PIN)	3.0以下	3.0以下

●2704　ビタミンC 検体処理法●



＊速やかに処理をお願いいたします。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ビタミン	8491 3G065	25−OHビタミンD 《CLEIA》[骨粗鬆症]		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA	ビタミンD欠乏 20.0未満 ビタミンD不足 20.0〜29.9 ng/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		117 生Ⅰ 注①	①
	8522 3G065	25−OHビタミンD 《ECLIA》[くる病]		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ECLIA	ビタミンD欠乏 20ng/mL以下 15ng/mL以下で あればより確実	3 〜 4	① 生化スピッツ		117 生Ⅰ 注②	③
	2995 3G070	1,25-ジヒドロキシビタミンD3 (1α,25−(OH)2ビタミンD)		血液3.0 遠心 血清1.0	室 凍	RIA（二抗体法）	20〜60 pg/mL	4 〜 7	① 生化スピッツ		388 生Ⅰ 注③	③
	1796 3G055	カルニチン分画		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	酵素サイクリング法	総カルニチン 45〜91 遊離カルニチン 36〜74 アシルカルニチン 6〜23 μmol/L	3 〜 5	① 生化スピッツ		95+95 生Ⅰ 注④	④
ポルフィリン関連	2083 3J075	δアミノレブリン酸 (δ-ALA)(尿)		尿 1.0	冷 遮 (1ヶ月)	HPLC	2.2以下 mg/L (参考値)	5 〜 6	㊸ 褐色ポリビン	産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は21ページを参照して下さい。	106 尿便	③
	2984 3J050	ウロポルフィリン (尿)		尿 3.0	冷 遮 (2週)	HPLC	36以下 μg/g・Cr	6 〜 12	㊸ 褐色ポリビン		105 尿便	③
	1394 3J040	コプロ ポルフィリン 定量	血液	ヘパリン 加血液 1.5	冷 遮 凍結不可	HPLC	1以下 μg/dLRBC	6 〜 11	⑭ ヘパリン 遮光容器		210 生Ⅰ	③
	1389 3J040		尿	尿 3.0	冷 遮 (1週)		170以下 μg/g・Cr	6 〜 12	㊸ 褐色ポリビン		131 尿便	
	2321 3J055	赤血球 プロトポルフィリン		ヘパリン 加血液 0.5	冷 遮 (3週)	HPLC	μg/dLWB	5 〜 11	⑭ ヘパリン 遮光容器		272 生Ⅰ	③
	2989 3J065	尿中 ポルフォビリノゲン 定量		蓄尿 3.0	冷 遮	比色法 (Mauzerall-Granick法)	2.0以下 mg/day	6 〜 12	㊸ 褐色ポリビン	蓄尿した尿の一部を提出して下さい。 必ず一日蓄尿量を記入して下さい。	186 尿便	⑤

注① 「25-OH ビタミン D[骨粗鬆症]」は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に 1 回に限り算定できます。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守することとされています。

注② 「25-OH ビタミン D[くる病]」は、ビタミン D 欠乏性くる病もしくはビタミン D 欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては 1 回を限度とし、その後は 3 月に 1 回を限度として算定できます。
・日本小児内分泌学会の「ビタミン D 欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」に準拠しています。
・報告書に印字する基準値は、「ビタミン D 欠乏：20ng/mL 以下」でご報告いたします。
・高用量のビオチンを投与・摂取している場合、偽高値になる可能性がありますので、投与後は 8 時間以上空けて採血して下さい。

注③ 「1,25- ジヒドロキシビタミン D3」は、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミン D 依存症Ⅰ型もしくは低リン血症性ビタミン D 抵抗性くる病の診断時またはそれらの疾患に対する活性型ビタミン D3 剤による治療中に測定した場合に限り算定できます。ただし、活性型ビタミン D3 剤による治療開始後 1 月以内においては 2 回を限度とし、その後は 3 月に 1 回を限度として算定できます。

注④ 「カルニチン分画」は、先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に 1 回を限度として算定できます。静脈栄養管理もしくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症もしくは小児の患者、人工乳もしくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi 症候群の患者または慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助もしくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、6 月に 1 回を限度として算定できます。関係学会の定める診療に関する指針に遵守することとされています。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
産業医学的代謝関連	2266 3Z040	エタノール	血液	ヘパリン 加血液 1.0	凍 (12日)	GC	0.1未満 mg/mL	7 〜 8	⑪ ヘパリン容器	検出限界未満を基準値とします。ガラス管の場合はプラスチック容器に移してから凍結して下さい。 下記参照＊1	105 生Ⅰ	③
	3396 3Z040		尿	尿 2.0				5 〜 6	㊻ 滅菌スピッツ	検出限界未満を基準値とします。 ＊2	−	
	3142 3K065	メタノール		尿 2.0	凍 (15日)	GC	3未満 mg/L	5 〜 7	㊻ 滅菌スピッツ	検出限界未満を基準値とします。	−	③
	3486 3E060	アセトン	血清	血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍 (15日)	GC	5未満 μg/mL	5 〜 7	⑤ 薬物専用容器	検出限界未満を基準値とします。	−	③
	3487 3E060		尿	尿 1.0	凍 (15日)				㊻ 滅菌スピッツ			
その他（機能試験）	1106 1110 8A010	ＩＣＧ		投与前血清と 15分後血清 各1.0	冷	比色法	0.0〜10.0 （15分血中停滞率） %	3 〜 4	① 生化スピッツ	投与前と15分後の2本を必ずご提出下さい。 採取法は下記参照	100	③

＊1　採血に当たってエタノール消毒を行う場合、血中への混入がないようご注意下さい。（エタノール乾燥後に採血、あるいは他の消毒薬を使用）
＊2　室温放置等による腐敗で高値となる場合があります。飲酒等、エタノール摂取があった場合、少なくとも12時間後の随時尿を提出して下さい。

●1106、1110　ICGの採取法●

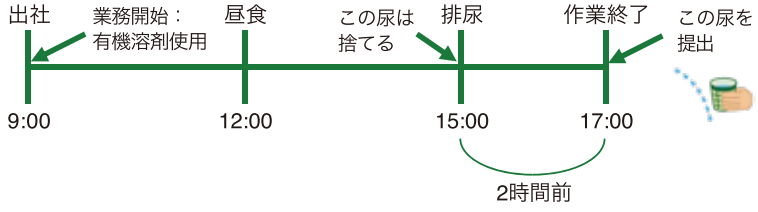
注 ＩＣＧ試験薬25mgを無菌蒸留水5mLに溶解し、体重10kgにつき1mLの割合で正確に静脈注射して下さい。被験者に肥満、浮腫、腹水を認める場合のICG注射量は、標準体重から計算して下さい。

●「特殊健診項目」の採尿方法の注意●

対象物質名	検査項目名	半減期(時間)	採尿方法
鉛	鉛 δ-アミノレブリン酸 赤血球プロトポルフィリン	血液または尿中における鉛の半減期は3〜7年とかなり長いので採取時間は当該する作業に従事している期間であれば任意でよい。	
トルエン	馬尿酸	1.5	連続した作業の最初の日を除いた作業終了2時間前に一度排尿して捨てる。作業終了時採尿して所定の容器に必要量を入れて提出する。
キシレン	メチル馬尿酸	3.0	
エチルベンゼン	マンデル酸（EB）	4.0	
N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	4.0	
ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	15.0	
1,1,1-トリクロルエタン	総三塩化物またはトリクロル酢酸	72.0	連続した作業のうちで後半の作業日の当該作業終了2時間前に一度排尿して捨てる。作業終了時採尿して所定の容器に必要量入れて提出する。
トリクロルエチレン		75.0	
テトラクロルエチレン		80.0	

●採尿方法●

例：9時から17時までの有機溶剤業務に従事している場合



●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料判断料	
産業衛生関連検査	2939 3K025	馬尿酸（HA）	尿 1.0	冷 (1ヶ月)	LC－MS	g/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	連続した作業日の2日目以降に採取して下さい。	－	③
	2755 3K030	メチル馬尿酸（MHA）	尿 1.0	冷 (1ヶ月)	LC－MS	g/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	連続した作業日の2日目以降に採取して下さい。	－	③
	2325 3K042	スチレン代謝物	尿 1.0	冷 (1ヶ月)	LC－MS	0.43 以下（合算値） g/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	連続した作業日の2日目以降に採取して下さい。下表参照 マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)および合算値（MA+PGA）の3つの値をご報告します（分布区分はご報告しません）。		
	3980 3K041	マンデル酸（MA）（エチルベンゼン）（EB）	尿 1.0	冷 (1ヶ月)	LC－MS	g/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	採取方法は20ページを参照してください。連続した作業日の2日目以降に採取して下さい。		
		総三塩化物（TTC）	尿 1.0	冷 (1ヶ月)	GC	mg/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	採取方法は20ページを参照して下さい。連続した作業日の5日目以降に採取して下さい。下表参照	－	③
		トリクロル酢酸（TCA）	尿 1.0	冷 (1ヶ月)	GC	mg/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	採取方法は20ページを参照して下さい。連続した作業日の5日目以降に採取して下さい。下表参照	－	③
	2327 3K045	N－メチルホルムアミド	尿 2.0	冷 (1ヶ月)	GC	mg/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	採取方法は20ページを参照して下さい。連続した作業日の2日目以降に採取して下さい。下表参照	－	③
	2330 3K050	2,5-ヘキサンジオン（2,5－HD）	尿 3.0	冷 (1ヶ月)	GC	mg/L	5〜6	㊻ 滅菌スピッツ 脚注参照※	採取方法は20ページを参照して下さい。連続した作業日の2日目以降に採取して下さい。下表参照	－	③

※ 「産業衛生関連検査」を複数ご依頼になる場合は、当社指定容器で尿 10mL をご提出下さい。

●「特殊健診項目」名称および分布区分●

採尿方法については20ページ参照下さい。

項目コード		対象物質名	検査項目名	単位	分布 1	分布 2	分布 3
	2949	鉛	鉛	μg/dL	≦20	20＜, ≦40	40＜
	2083		δ-アミノレブリン酸	mg/L	≦5	5＜, ≦10	10＜
	2321		赤血球プロトポルフィリン	μg/dLWB	≦40	40＜, ≦100	100＜
	2939	トルエン	馬尿酸	g/L	≦1	1＜, ≦2.5	2.5＜
	2755	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	≦0.5	0.5＜, ≦1.5	1.5＜
	2325	スチレン	スチレン代謝物	g/L	－	－	－
	3980	エチルベンゼン	マンデル酸（EB）	g/L	－	－	－
	2327	N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	≦10	10＜, ≦40	40＜
	2330	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	≦2	2＜, ≦5	5＜
2333	2426	1,1,1-トリクロルエタン	総三塩化物	mg/L	≦10	10＜, ≦40	40＜
	2240		トリクロル酢酸	mg/L	≦3	3＜, ≦10	10＜
2334	2335	トリクロルエチレン	総三塩化物	mg/L	≦100	100＜, ≦300	300＜
	2338		トリクロル酢酸	mg/L	≦30	30＜, ≦100	100＜
2341	2342	テトラクロルエチレン	総三塩化物	mg/L	≦3	3＜, ≦10	10＜
	2345		トリクロル酢酸	mg/L	≦3	3＜, ≦10	10＜

出典：鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則，様式第3号）
有機溶剤など健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則，様式第3号の2）

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
感染症血清反応検査	1052 5E035	ＡＳＯ定量 (抗ストレプトリジンO定量)		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	ラテックス 免疫比濁法	160以下 IU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	☆溶連菌の毒素に対する抗体を測定します。 溶連菌感染症などで上昇します。	15 免疫	①
	1333 5E106	マイコプラズマ抗体 半定量		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷	粒子凝集法 （ＰＡ）	40倍未満	2 〜 3	① 生化スピッツ	☆単独では320倍以上、ペア血清では4倍以上の上昇を「陽性」の目安とします。	32 免疫	①
	3883 6B616	マイコプラズマ 核酸検出		咽頭ぬぐい液 または喀痰	冷	ＬＡＭＰ	検出せず	2 〜 3	咽頭ぬぐい液： ㊾ 専用容器 喀痰： ㊿喀痰容器	☆感染初期の検体からも検出可能です。	291 微生	①
	1332 5E105	寒冷凝集反応		血液2.0 遠心 血清0.5	37℃ 冷 (5日)	赤血球凝集反応	64倍以下	2 〜 3	① 生化スピッツ	血液は血清分離までは37℃で保存して下さい。	11 免疫	①
	2009 5E156	トキソプラズマ抗体	IgG	血液2.0 遠心 血清 各0.3	室 冷	ＥＬＩＳＡ	6未満 IU/mL	2 〜 4	① 生化スピッツ	保険請求の際は「トキソプラズマ抗体」として算定して下さい。	93 免疫	①
	2010 5E157		IgM				0.8未満 Cut off index	2 〜 5		保険請求の際は「トキソプラズマIgM抗体」として算定して下さい。	95 免疫	④
	3936 6B611	レジオネラ核酸同定		喀痰 1.0	(1ヶ月)	ＬＡＭＰ	検出せず	4 〜 10	㊺	レジオネラ属11菌種を検査しますが、菌種の同定はできません。 同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい。	292 微生	③
	8560 5E056	尿中レジオネラ抗原 （イムノクロマト法）		尿 1.0	冷	イムノクロマト法	陰性	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ		205 免疫 注①	①
	3097 5E041	肺炎球菌莢膜抗原 定性（尿）		尿 1.0	(提出) 冷 (保存) 凍	免疫クロマト法	(−)	3 〜 5	㊻ 滅菌スピッツ		188 免疫	③

注①　「尿中レジオネラ抗原」は、症状や所見からレジオネラ症が疑われる患者に対して実施した場合に限り、1回を限度として算定できます。

◆2009　トキソプラズマIgG抗体◆（判定基準）

IU/mL	判　定	解　釈
6未満	陰　性	トキソプラズマの感染は認められません。
6〜8	判定保留	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマ感染の疑いがあります。
9以上	陽　性	トキソプラズマ感染が考えられます。

◆2010　トキソプラズマIgM抗体◆（判定基準）

Cut off index	判　定	解　釈
0.8未満	陰　性	最近のトキソプラズマ感染のないことが考えられます。
0.8〜0.9	判定保留	10〜20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽　性	

トキソプラズマIgGアビディティについて

妊娠初期にトキソプラズマに感染すると、約10%の児に重症の中枢神経障害が発症、また生後にトキソプラズマ網膜炎を発症することが知られています。
初期感染の指標とされるIgM抗体は陽性でも持続するため、感染時期の判定に利用できない場合があります。
IgG抗体の結合力（アビディティ）は感染後上昇するためIgG抗体Avidity　Index（AI）（アビディティインデックス）が低値の時は、感染初期の可能性があります。
検査は保険収載がなく標準化されていないため研究項目として「トキソプラズマIgG　アビディティ」（項目コード3226）を受託しております。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量（mL）	●保存（安定性）	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
感染症血清反応検査	2161 5E128	ツツガムシ抗体（半定量） Gilliam IgG	血液2.0 遠心 血清 各0.2	室 冷	蛍光抗体法	10倍未満	4～6	① 生化スピッツ	各株（菌株）ごとに算定します。	203 免疫	⑤
	2162 5E129	Gilliam IgM									
	2163 5E125	Kato IgG								203 免疫	
	2164 5E126	Kato IgM									
	2165 5E122	Karp IgG								203 免疫	
	2166 5E123	Karp IgM									
	2769 5E148	アスペルギルス抗原	血液3.0 遠心 血清1.0	室 冷	ELISA	陰性 0.5未満 Cut off index	3～5	① 生化スピッツ	侵襲性肺アスペルギルス症診断のために実施した場合のみ算定できます。	157 免疫 注①	④
	8542 5E146	アスペルギルス抗体IgG	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ELISA	AU/mL / 判定：5.0未満 陰性；5.0~9.9 判定保留；10以上 陽性	3～5	① 生化スピッツ		–	④
	3316 5E154	トリコスポロン・アサヒ抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	Antigen-captured ELISA	CAI＊ / 判定：0.15未満 陰性；0.15~0.30未満 判定保留；0.30以上 陽性	8～15	① 生化スピッツ	トリコスポロン・アサヒ起因の夏型過敏性肺炎診断に有用。＊CAI(Corrected Absorbance Index)：補正吸光度	822 免疫 注②	④
	2963 5E140	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原定性	血液3.0 または 髄液0.8 遠心 血清0.8 または 髄液0.8	室 冷 冷	ラテックス凝集反応	陰性	3～5	血清：①生化スピッツ 髄液：㊻滅菌スピッツ	EDTA（抗凝固剤）は酵素処理に影響を与え、検査不能となる場合がありますので、EDTA の使用は避けて下さい。	169 免疫 注① 注③	④
	2245 5E141	クリプトコッカス抗体	血液3.0 遠心 血清1.0	室 凍	試験管凝集法	2倍未満	15～17	① 生化スピッツ		–	④
	3449	寄生虫抗体	血液6.0 遠心 血清2.0 または 髄液2.0	室 冷 冷	ドットELISA	（－）	5～11	血清：①生化スピッツ 胸水・髄液：㊻滅菌スピッツ	別紙にて、専用依頼書のご提出が必要となります。	–	④

注① 「アスペルギルス抗原」、「クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原定性」、「カンジダマンナン抗原」、「(1→3)-β-D-グルカン」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。

注② 「トリコスポロン・アサヒ抗体」は、夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できます。
なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とします。

注③ 保険請求の際は「クリプトコックス抗原定性」として算定して下さい。

●3449　寄生虫抗体●〈検索対象寄生虫一覧〉

種　類	和　名	学　名
線虫類	イヌ糸状虫	Dirofilaria immitis
	イヌ回虫	Toxocara canis
	ブタ回虫	Ascaris suum
	アニサキス	Anisakis simplex
	顎口虫	Gnathostoma doloresi
	糞線虫	Strongyloides ratti
吸虫類	ウエステルマン肺吸虫	Paragonimus westermani
	宮崎肺吸虫	Paragonimus miyazakii
	肝蛭	Fasciola hepatica
	肺吸虫	Clonorchis sinensis
条虫類	マンソン孤虫	Spirometra erinaceieuropaei
	有鉤嚢虫	Cysticercus cellulosae

備　考
1.結果が陽性あるいは疑陽性の場合には、御報告書の他に、精査の御紹介状と精査依頼書とを同封致します。
2.精査を御希望の場合には、精査依頼書に必要事項を御記入の上、スクリーニング検査結果および患者検体2mLと共に御紹介状に記載の専門医宛に御送付ください。
3.精査の結果は専門医の方から、御依頼されました先生のお手許に直接返送されます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
感染症血清反応検査	8451 5E054	百日咳菌DNA		後鼻腔 ぬぐい液	(提出) 冷 (保存) 凍	LAMP法	陰性	3 ～ 5	⑮ 専用容器	後鼻腔ぬぐい後、綿棒を滅菌スピッツ（容器⑯）に入れて提出して下さい。 他の検査項目との同時依頼はできません。	360 微生 注①	④
	3451 5E054	百日咳菌抗体		血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (28日)	EIA	PT-IgG 10未満 FHA-IgG 10未満 EU/mL	3 ～ 5	① 生化スピッツ	☆ PT（百日咳毒素） FHA（繊維状赤血球凝集素）	257 免疫	④
	8478 5E101	百日咳菌抗体	IgA	血液2.0 遠心 血清 各0.5	室 冷	EIA	8.5未満NTU値 IgA,IgM判定基準 NTU値 / 判定 ＜8.5 / － 8.5～11.5 / ±* ＞11.5 / ＋ *2～4週間後の再検査をおすすめします。	3 ～ 5	① 生化スピッツ	☆IgAは、百日咳毒素(PT)および繊維状赤血球凝集素(FHA)の総IgA抗体価を測定し、IgMは、百日咳菌に対するIgM抗体価を測定いたします。 またワクチンの影響を受けないため、単一血清での診断率が向上します。 NTU：ノバグノスト単位（試薬名に由来する任意の単位）	80 免疫	⑤
	8479 5E102		IgM									
	1561 5E142	カンジダマンナン抗原		血液3.0 遠心 血清1.0	室 冷	EIA	（－）	1 ～ 2	① 生化スピッツ	保険請求の際は「カンジダ抗原定性」として算定して下さい。	134 免疫 注② 注③	①
	2907 5E048	エンドトキシン （ES法）		血液 3.0	冷 （1日）	比濁時間分析法	5.0未満 pg/mL	2 ～ 3	⑱ 専用容器	無菌的に採取して下さい。	229 免疫 注④	①
	2264 5E151	(1→3)-β-D-グルカン		血液 3.0	冷 （2日）	比濁時間分析法	11.0以下 pg/mL	2 ～ 3	⑱ 専用容器	無菌的に採取して下さい。	195 免疫 注③ 注⑤	①
	3232 5C215	プロカルシトニン （PCT）（定量）		血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍 （1ヶ月）	CLIA	0.05以下 ng/mL	1 ～ 2	① 生化スピッツ	敗血症（細菌性）鑑別診断のカットオフ値： 0.50ng/mL未満 敗血症（細菌性）重症度判定のカットオフ値： 2.00ng/mL以上	276 生Ⅰ 注④ 注⑥	①
	3978 5C216	プレセプシン		血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.4	冷 凍 （28日）	CLEIA	敗血症（細菌性） 診断のカットオフ値： 500 pg/mL	3 ～ 5	⑪ ヘパリン容器	専用検体として提出して下さい。	301 生Ⅰ 注④ 注⑥	④

注①「百日咳菌核酸検出」は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床診断例の定義を満たす患者に対して測定した場合に算定できます。
注②「カンジダマンナン抗原」は、カンジダ血症またはカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定となります。
注③「カンジダマンナン抗原」、「(1→3) -β-D- グルカン」、「アスペルギルス抗原」、「クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原定性」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。
注④「エンドトキシン」、「プロカルシトニン」、「プレセプシン」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。
注⑤「(1→3) -β-D- グルカン」は、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択または深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定となります。
注⑥「プロカルシトニン」、「プレセプシン」は、敗血症（細菌性）を疑う患者を対象として測定した場合に算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

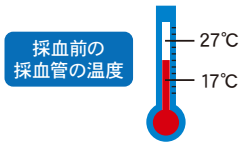
	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
抗酸菌感染症関連	8574 5E301	クォンティフェロンTB-プラス （ＱＦＴＢ） （ＩＧＲＡ検査）予	血液 1.0mL ×4本	室	ＥＬＩＳＡ	陰性　0.35未満 IU/mL	4 〜 10	⑥1 専用容器	予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 結果の解釈、採血方法については下記参照下さい。	593 免疫 注①	①
	3935 5E301	結核菌特異的 インターフェロン-γ 産生能（T-SPOT） （IGRA検査）予	ヘパリン 加血液 9.0	室	ELISPOT (Enzyme Linked Immunospot)法	陰性	4 〜 5	⑪ ヘパリン容器 （9mL）	受託可能日は、月〜金の午前中です。また祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので事前にご連絡下さい。 必ず依頼書に採血日時を記入して下さい。	593 免疫 注①	③
	3884 5E069	抗抗酸菌ＭＡＣ 抗体	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＥＬＩＳＡ	0.7未満 U/mL	3 〜 16	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗酸菌抗体定性」として算定して下さい。	116 免疫	①

注①　「クォンティフェロンTB-プラス」、「T-SPOT」は、診察または画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。
保険請求の際は「結核菌特異的インターフェロン-γ産生能」として算定して下さい。

クォンティフェロン TB-プラス（QFTB）採血上の注意点

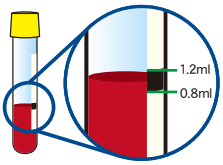
1. 採血管の準備

① 1検体に4種類の採血管（灰色、緑色、黄色、紫色）を使用します。



② 採血管は室内温度（22±5℃）に戻します。

2. 採血量に注意



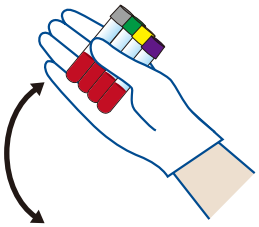
① 4種類の採血管（灰色、緑色、黄色、紫色）に 1mL ずつ採血します。

採血は、陰性コントロール（灰色）、TB1抗原（緑色）、TB2抗原（黄色）、陽性コントロール（紫色）採血管の順序で行います。

② 採血量が採血管ラベルの黒い印の範囲（0.8〜1.2mL）にあることを確認します。

採血量が規定の範囲を外れた場合は、正確な結果が得られません。

3. 採血管の振り方に注意

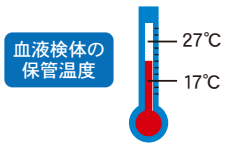


① 採血後、採血管を上下に5秒間又は10回振って混合します。

② 採血管の内表面全体が血液で覆われていることを確認します。

強く振りすぎると分離剤の成分が血液と混ざり、誤った結果になることがあります。

4. 採血後の保管温度に注意



① 採血後の血液検体は、出来るだけ早く（採血後16時間以内に）37℃のインキュベーターに入れてください。

② 培養液の採血管（血液検体）は、22±5℃に保管します。

この保管温度を外れると誤った結果になることがあります。

血液検体は冷蔵又は冷凍しないでください。

●クォンティフェロンTB-プラス（QFTB）検査結果の解釈●

インターフェロンγ値 (IU/mL)	判　定	解　　釈
0.35以上	陽　　性	結核感染が疑われます。ただし、過去と現在の区別はできません。
0.35未満	陰　　性	結核感染していない。 結核感染した経験がない。

●クォンティフェロン TB-プラス（QFTB）で検出される菌について●

QFTBで 検出される菌	結核菌、病原性M.bovis、M.africanum、 M.kansaii、ハンセン病原因菌M.leprae
QFTBで 検出されない菌	M.avium、M.intracellulare等非結核性抗酸菌の大半、 M.bovis、BCGワクチン亜株

※高齢者の場合、免疫応答の低下のため検出感度は年齢が上がるに従い大きく下がります。同様に12歳未満も成人より結果が低めに出ることを考慮して慎重に判断をお願いします。なお、5歳未満は判定基準が確立されていないため、この検査は勧められません。

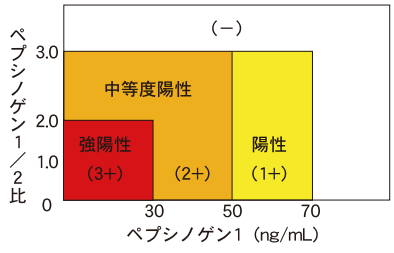
●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
H・ピロリ菌感染症検査	2730 5E065	ヘリコバクター・ピロリ抗体	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ＬＡ法 （ラテックス凝集比濁法）	10未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	119ページ参照	80 免疫 注①	④
	1963 6Z100	尿素呼気試験 （ＵＢＴ）	呼気バッグ 満杯 前後ペア	室 (10日)	赤外分光法	陰性	2 〜 3	⑱ 呼気バッグ	採取方法、検査に与える影響については27ページ参照下さい。 119ページ参照	70 微生 注①	①
	3421 5E065	ヘリコバクター・ピロリ抗体定性（尿）	尿 1.0	冷	ＥＬＩＳＡ	(−)	4 〜 7	㊻ 滅菌スピッツ	119ページ参照	70 免疫 注①	③
	3033 5E068	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性（便）	糞便	冷 (7日)	ＥＩＡ	(−)	3 〜 4	⑰ 専用容器	採取方法については27ページ参照下さい。 119ページ参照	142 免疫 注①	③
	5507 3B339	ペプシノゲン （ＰＧ）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	ＣＬＩＡ	下記参照	1 〜 2	① 生化スピッツ		—	①
	8464	胃がんリスク層別化検査 （ABC分類）	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	ペプシノゲンLA法 （ラテックス凝集比濁法） ヘリコバクター・ピロリ抗体LA法 （ラテックス凝集比濁法）	下記参照	2 〜 3	① 生化スピッツ	ピロリ菌治療を受けた方は、「胃がんリスク検査/E群（D分類）」（項目コード：8465）とご依頼下さい。 下記参照	—	③

注①　ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に則して行う必要があります。

◆5507　ペプシノゲン(PG)による胃粘膜萎縮度の判定基準◆

判　定		測定値	
		PG1(ng/mL)	PG1/2比
強陽性	3＋	30以下　かつ	2.0以下
中等度陽性	2＋	50以下　かつ	3.0以下
陽　性	1＋	70以下　かつ	3.0以下
陰　性	上記以外		



胃がんリスク層別化検査（ABC分類）について

血液検査（ヘリコバクター・ピロリ抗体とペプシノゲン）で胃の状態を調べ、胃がんになりやすいかどうかをA・B・C・Dの４段階に分類する検査です。

		H.pylori 抗体法（LA）	
		(−) 10U/mL 未満	(＋) 10U/mL 以上
PG 法	(−)	A 群	B 群
	(＋)	D 群	C 群

ABC分類
判定対象外

E(Eradication)群　（除菌群）
ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌結果に関わらず、ABC分類の判定対象になりません。
E群（除菌群）として区別します。

判定対象外→E 群（ピロリ菌の除菌治療を受けた方）
判定基準（陽性）
PG→ペプシノゲンⅠ：70ng/mL以下かつペプシノゲンⅠ/Ⅱ比：3.0以下

正常な胃
・おおむね健康的な胃粘膜で胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ピロリ菌に関連しない病気に注意を。
・一度は内視鏡検査をおすすめします。
A

少し弱った胃
・ピロリ菌に感染しているが、胃粘膜の萎縮はない。
・胃潰瘍、十二指腸潰瘍に注意が必要。
・内視鏡を検査、除菌治療をおすすめします。
B

弱った胃
・ピロリ菌に感染していて、胃粘膜が萎縮している。
・胃がんなどの高リスク群。
・定期的な内視鏡検査、除菌治療をしましょう。
C

かなり弱った胃
・ピロリ菌も生息できないくらいに弱った胃。
・胃がんなどが発生するリスクが高い。
・必ず専門機関で内視鏡検査を受け、診断を。
D

除菌群
・除菌の後はＡＢＣ分類の対象外になります。
・定期的に精密（内視鏡）検査をしましょう。
E

●H.pylori感染診断とその特徴●

参照文献：吉田俊太郎、他：検査と技術，8：P652,2010

検　査　法	感 度	特異度	利　点	欠　点
血清抗体測定検査	91～100%	50～91%	・汎用性がある。 ・費用が安い。	・既感染でも陽性となる。 ・除菌後判定には６～12か月が必要。
尿素呼気試験	98%	97%	・高い陰性および陽性適中率で、除菌前後で使用できる。	・直近のプロトンポンプインヒビター、抗菌薬およびビスマス製剤使用により偽陰性となる。 ・被検者および検者とも煩雑。
便中抗原検査	96%	97%	・高い陰性および陽性適中率で、除菌前後で使用できる。 ・小児でも施行可能。	・便検査であり被検者が不快感をもつ可能性がある。 ・直近のプロトンポンプインヒビター、抗菌薬およびビスマス製剤使用により偽陰性となる。

●3033「ヘリコバクター・ピロリ抗原定性(便)」検査の検体採取方法●

1)容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付などを記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。(図 1)
2)採便棒先端の溝全てが便で埋まるように、便の表面をこすりとってください。(図 2, 3)
3)採便棒を容器に戻して根元までしっかりねじ込んでください。

図1

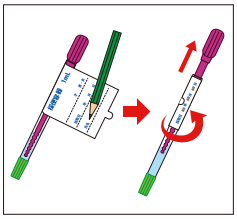


図2

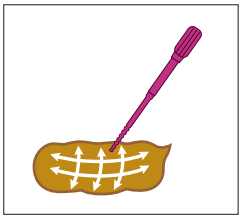
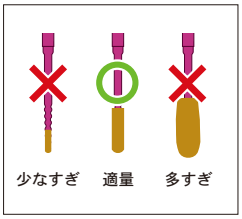
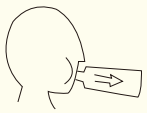
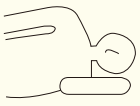
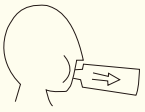


図3



●1963「尿素呼気試験」検査の採取方法●

服用前の（1）と後20分（4）の呼気をそれぞれ専用呼気バッグ（UBT）に採取し、ご提出下さい。

(1)^{13}C尿素製剤を服用する前の呼気を集めます。	(2)^{13}C尿素製剤１包を水100mlに溶かして服用します。	(3)直ちにうがいをして、５分間左側臥位を保ちます。その後15分座位で待ちます。			(4)服用20分後にもう一度呼気を採取します。
					
吹く	飲む	直ちにうがいをする（錠剤の場合省略）	左側臥位で５分	座位で15分	吹く

※呼気採取方法のポイント

１）呼気採取バッグを口にあてて、鼻から息を吸って５～10秒程度、息を止めて下さい。
２）その後呼気採取バッグにゆっくりと息を入れて下さい。
３）息止めが苦しい場合は２～３回に分けて入れても大丈夫です。
４）呼気採取バッグには肺の中の息を入れるようにして下さい。

尿素呼気試験　よくある質問

質　　問	回　　答
食事をしてきたとき	4時間以上はあけて下さい。(朝食を食べた場合、昼食前に検査)
水・お茶を飲んできたとき	水は1時間、お茶は3～4時間以上あけて下さい。
喫煙について	検査30分以上前から検査終了まで禁煙して下さい。
胃内視鏡検査後について	1時間以上あけて下さい。(局部麻酔の影響を防ぐため) 逆に、尿素呼気試験後の胃内視鏡検査は2～3時間あけて下さい。
消化管Ｘ線造影検査後について	別の日に検査して下さい。(バリウムが胃の粘膜を覆うため)
薬の服用について	静菌作用や抗ウレアーゼ活性のある薬剤は中止または終了後2週間以上あけて下さい。 ●静菌作用のある薬剤 PP製剤(オメプラゾール、ランソプラゾール、ラベプラゾールナトリウムなど) 抗生物質(アモキシリン、クラリスロマイシン、テトラサイクリンなど) ●ビスマス製剤 ●抗ウレアーゼ活性のある薬剤(エカベトナトリウムなど) 上記以外の薬につきましては検討データがございませんので、できるだけ服用は避けて下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
梅毒感染症検査	1305 5E074	ＳＴＳ(定性)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	ラテックス凝集比濁法	（－）	1 〜 2	① 生化スピッツ	保険請求の際は「梅毒血清反応（ＳＴＳ）定性」として算定して下さい。	15 免疫 注①	①
	1306 5E074	ＳＴＳ(定量)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	ラテックス凝集比濁法	1.0未満　R.U.	1 〜 2	① 生化スピッツ	保険請求の際は「梅毒血清反応(STS)定量」として算定して下さい。 ＊1	34 免疫 注①	①
	1307 5E075	ＴＰ抗体(定性)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	ラテックス凝集比濁法	（－）	1 〜 2	① 生化スピッツ	保険請求の際は「梅毒トレポネーマ抗体定性」として算定して下さい。	32 免疫 注①	①
	1308 5E075	ＴＰ抗体(定量)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	ラテックス凝集比濁法	10.0未満　T.U.	1 〜 2	① 生化スピッツ	保険請求の際は「梅毒トレポネーマ抗体定量」として算定して下さい。 ＊2	53 免疫 注①	①
	1321 5E079	ＦＴＡ-ＡＢＳ (定性)	血液2.0 遠心 血清0.4 または 髄液1.0	室 冷 冷	蛍光抗体法	（－）	3 〜 4	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ	保険請求の際は「梅毒トレポネーマ抗体（ＦＴＡ-ＡＢＳ試験）定性」として算定して下さい。	134 免疫	④
	2716 5E079	ＦＴＡ-ＡＢＳ (定量)	血液2.0 遠心 血清0.5 または 髄液1.0	室 冷 冷	蛍光抗体法	血清 陰性 20倍未満 髄液 陰性 1倍未満	4 〜 7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ	保険請求の際は「梅毒トレポネーマ抗体（ＦＴＡ-ＡＢＳ試験）半定量」として算定して下さい。	134 免疫	④
	2887 5E015	ＦＴＡ-ＡＢＳ ＩｇＭ	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	蛍光抗体法		4 〜 7	① 生化スピッツ		－	④

＊1　R.U. は WHO 標準品をベースに設定してあり、1R.U.=0.4IU となります。また、1R.U. は RPR カード法の 1 倍に相当します。
＊2　T.U. は WHO 標準品を測定した場合、1T.U.=2mIU となります。
注① 同じ検査項目で定性、定量検査を同時に行った場合は定量検査の所定点数のみ算定となります。

●梅毒血清反応検査の結果の解釈●

ＳＴＳ	ＴＰ抗体または ＦＴＡ－ＡＢＳ	結果の解釈
(－)	(－)	非梅毒 まれに梅毒感染初期
(＋)	(－)	生物学的偽陽性（ＢＦＰ） まれに梅毒感染初期
(＋)	(＋)	梅毒（早期から晩期） 梅毒治癒後の抗体保有者
(－)	(＋)	梅毒治癒後の抗体保有者 TP抗原系の偽陽性（ごくまれ）

梅毒感染初期が疑われる場合は3〜4週間後に再検査するのが望ましいです。

●抗体価の相互関係（相関の目安）●

項目	方法	単位	抗体価			
STS	LA	R.U.	1.0未満	1〜10	10〜40	40以上
抗体価の解釈			陰性	低値	中等度	高値
報告形式			(－)	(＋)		

項目	方法	単位	抗体価				
TP抗体	LA	T.U.	10.0未満	10〜19	20〜900	900〜3500	3500以上
抗体価の解釈			陰性	低値		中等度	高値
報告形式			(－)	(±)	(＋)		

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
クラミジア・淋菌関連検査	3927 5E021	クラミジア・トラコマチス核酸同定（TaqManPCR）		初尿 4.5 ぬぐい液 うがい液 4.5	冷	ロシュ/リアルタイムＰＣＲ法	検出せず	3〜4	㊴専用容器 ㊳専用容器 ㊴専用容器	専用容器は、予めご依頼下さい。採取方法は 31 ページを参照して下さい。保険請求の際は「クラミジア・トラコマチス核酸検出」として算定して下さい。＊1	188 微生 注①	③
	3930 5E021											
	2931 5E020	クラミジア・トラコマチス抗体ＩｇＡ＆ＩｇＧ		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＥＩＡ	陰性（−）	4〜6	① 生化スピッツ	判定基準は下記参照。	200 免疫 注②	③
	1998 5E018	クラミジア・トラコマチス抗体	ＩｇＧ	血液2.0 遠心 血清 各 0.2	室 冷	ＥＩＡ	0.90未満 陰性	3〜5	① 生化スピッツ	判定基準は下記参照。	200 免疫 注③	④
	1891 5E017		ＩｇＡ									
	2348 5E031	クラミドフィラ・ニューモニエ抗体	ＩｇＧ	血液2.0 遠心 血清 各 0.4	室 冷	ＥＩＡ	陰性（−） （EIU）30 未満	4〜6	① 生化スピッツ	判定基準は下記参照。	70 免疫 注④	③
	2041 5E032		ＩｇＡ				陰性（−） （EIU）8 未満				75 免疫 注④	
	3422 5E033		ＩｇＭ				陰性（−） （S/CO）0.5 未満				152 免疫 注④	
	2023 5E026	オーム病クラミドフィラ（クラミドフィラシッタシ）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＣＦ	4倍未満	5〜7	① 生化スピッツ		79 免疫 注⑤	④

＊1　咽頭ぬぐい液の検査も可能です。
注①　「クラミジア・トラコマチス核酸同定」、「淋菌核酸同定」、「淋病およびクラミジア・トラコマチス同時核酸同定」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定となります。
注②　「クラミジア・トラコマチス抗体 IgA&IgG」はクラミジア・トラコマチス抗原検出不能、または、検体採取の困難な疾患（骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等）の診断に際し実施した場合に算定できます。
注③　「クラミジア・トラコマチス抗体 IgA、IgG」のうち 2 項目以上を同時に測定した場合、主たるもののみ算定となります。
注④　「クラミドフィラ・ニューモニエ抗体 IgG、IgA」と「クラミドフィラ・ニューモニエ抗体 IgM」を併せて実施した場合は、主たるもの 1 つに限り算定できます。
注⑤　同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8 項目を限度として算定となります。

◆2931　クラミジア・トラコマチス抗体
ＩｇＡ＆ＩｇＧ判定基準◆

判　定	カットオフ・インデックス
陰　性（−）	0.900未満
判定保留（±）	0.900〜1.099
陽　性（+）	1.100以上

◆1998、1891 クラミジア・トラコマチス抗体
IgG、IgA 判定基準◆

判　定	カットオフ・インデックス
（−）	0.90未満
（±）＊	0.90〜1.09
（+）	1.10以上

＊10日以降に採取した血清による再検査をお勧めいたします。

◆2041、2348、3422 クラミドフィラ・ニューモニエ抗体
IgA、IgG、IgM 判定基準◆

判定基準	測定値		
	IgA(EIU)	IgG(EIU)	IgM(S/CO)
陰　性（−）	8 未満	30 未満	0.5 未満
判定保留（±）	8〜12	30〜45	0.5〜1.1
陽　性（+）	13 以上	46 以上	1.2 以上

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
クラミジア・淋菌関連検査	3928 6B610	淋菌核酸同定 （TaqManPCR）	初尿 4.5	冷	ロシュ/リアル タイムＰＣＲ法	検出せず	3 〜 4	㊴専用容器	専用容器は、予めご依頼下さい。採取方法は 31 ページを参照して下さい。 保険請求の際は「淋菌核酸検出」として算定して下さい。 ＊1	198 微生 注① 注② 注③	③
	3931 6B610		ぬぐい液					㊳専用容器			
			うがい液 4.5					㊴専用容器			
	3929 6B615	淋菌および クラミジア・トラコマチス 同時核酸同定 （TaqManPCR）	初尿 4.5	冷	ロシュ/リアル タイムＰＣＲ法	検出せず	3 〜 4	㊴専用容器	専用容器は、予めご依頼下さい。採取方法は 31 ページ参照下さい。 保険請求の際は「淋菌およびクラミジア・トラコマチス同時核酸検出」として算定して下さい。 ＊1	262 微生 注① 注② 注③	③
	3932 6B615		ぬぐい液					㊳専用容器			
			うがい液 4.5					㊴専用容器			

＊1　咽頭ぬぐい液の検査も可能です。
注①　「クラミジア・トラコマチス核酸同定」、「淋菌核酸同定」、「淋菌およびクラミジア・トラコマチス同時核酸同定」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。
注②　「淋菌核酸同定」、「淋菌およびクラミジア・トラコマチス同時核酸同定」、「細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。
注③　尿検体は男子尿のみの算定となります。

●クラミジア・トラコマチス／淋菌核酸同定　採取法●

※試薬販売元：ロシュ・ダイアグノスティックスより提供

尿の採取方法

①検体採取の1時間前より排尿しないで下さい。
②起床時または来院時の初尿約10mLを採尿カップに採取して下さい。

1. 滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を専用容器に移します。
2. 専用容器に記載されている２つのラインの間に収まるように初尿(必要量4.5mL)を加えて下さい。
3. 専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。
4. 専用容器を５回転倒混和させて下さい。

※　滅菌済みスポイトは予め医療機関にてご用意下さい。
注意：初尿は採取後２～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。

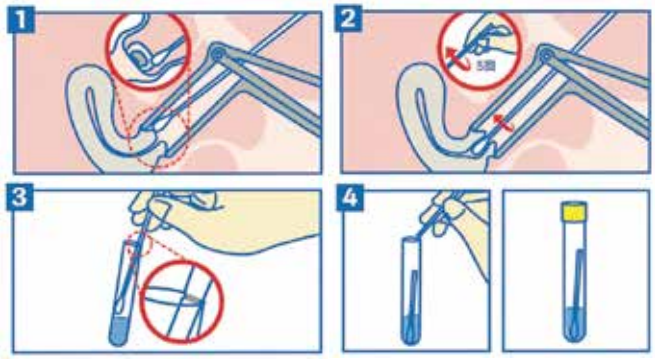
うがい液の採取方法

検体採取前の食事・うがい・歯みがき・ガムを噛むこと等は避けてください。

1. 生理食塩水(日局法など)をコップに15～20mL入れて下さい。生理食塩水15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく“ガラガラ”とうがいを行います。
2. うがい液全量をうがい用容器に回収し、スポイトで専用容器に記載されている２つのラインの間に収まるように添加します。
3. 専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。専用容器を5回転倒混和させて下さい。

※　生理食塩水は予め医療機関にてご用意下さい。
注意：コップに残った生理食塩水と口に含んで吐き出した液を合わせてうがい液とします。
検体に大量の血液が混入した場合は、正しい結果が得られないことがあります。

ぬぐい液(子宮頸管)の採取法



1 子宮頸部の粘液除去
スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分ぬぐい取ります。
注意 粘液をぬぐったスワブは廃棄します。

2 子宮頸管検体の採取
付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。
同じ方向にそっと５回スワブを回します。(回し過ぎないでください。)
スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。

3 子宮頸管検体の保存
コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したフロックスワブを、コバスPCRメディアチューブに入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。

4
コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして折ります。
コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。
注意 手元に残った折られた柄は廃棄してください。
スワブの柄を折る際は絶対に**はさみを使用しないでください。**

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
血漿蛋白関連検査	2024 5C010	トランスサイレチン（プレアルブミン）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（1週）	ネフェロメトリー法	22.0～40.0 mg/dL	3～4	① 生化スピッツ		101 免疫	⑤
	2079 5C030	レチノール結合蛋白（RBP）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷（1ヶ月）	LA （ラテックス凝集比濁法）	M 2.7～6.0 F 1.9～4.6 mg/dL	3～4	① 生化スピッツ		132 免疫	③
	1833 5C020	α_1－アンチトリプシン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ネフェロメトリー法	94～150 mg/dL	3～6	① 生化スピッツ		80 血液	③
	1184 5C041	ハプトグロビン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	TIA／ 薄層アクリルアミドゲル 電気泳動法	1-1型 43～180 2-1型 38～179 2-2型 15～116 mg/dL	5～6	① 生化スピッツ	ハプトグロビンには、遺伝的に定められた3種類の表現型があり、個人によって1つの表現型のみを示します。 感度（10mg/dL）未満の場合は型判定ができません。	129 免疫	③
	1390 5C045	セルロプラスミン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ネフェロメトリー法	21～37 mg/dL	3～5	① 生化スピッツ		90 免疫	④
	1204 5C095	フェリチン定量	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（1週）	CLIA	M 14.5～332 F 5.3～180 ng/mL	1～2	① 生化スピッツ		102 生Ⅰ	①
	2025 5C035	α_2－マクログロブリン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷（1ヶ月）	ネフェロメトリー法	M 100～200 F 130～250 mg/dL	3～6	① 生化スピッツ		138 血液	③
	1249 5C060	トランスフェリン（Tf） 血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（1週）	TIA	190～320 mg/dL	2～3	① 生化スピッツ	☆鉄（Fe）欠乏性貧血では上昇、鉄過剰では減少します。 トランスフェリン飽和度（TSAT）（コード：1180）は、Fe（コード：1046）とUIBC（コード：1162）もしくはTIBC（コード：1161）と同時依頼の場合にご報告いたします。 計算式 TSAT(%)＝Fe/TIBC×100	60 免疫	③
	2738 5C060	尿	尿 1.0	冷 凍結不可	LA （ラテックス凝集比濁法）	1.0以下 mg/g・Cr	3～4	㊻ 滅菌スピッツ		98 尿便 注①	
	2026 5A160	クリオグロブリン定性	血液2.0 遠心 血清0.3	37℃ 冷（1ヶ月）	ゲル内拡散法	（－）	5～6	① 生化スピッツ	採血時より血清分離までの間は37℃の状態で行って下さい。	42 免疫	③
	1188 3A015	アルブミン定量 尿（クレアチニン補正）	尿 0.5	冷	TIA	30.0未満 mg/g・Cr	1～2	㊻ 滅菌スピッツ	運動などにより増加しますので安静時もしくは早朝尿のご提出をお勧めいたします。	99 尿便 注①	①
		尿	蓄尿 0.5			30.0未満 mg/day			蓄尿した尿の一部を提出下さい。 1日蓄尿量を記入して下さい。		

注① 「トランスフェリン（尿）」、「アルブミン定量（尿）」、「Ⅳ型コラーゲン（尿）」は、糖尿病または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限る。）に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できます。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみの算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
血漿蛋白関連検査	3997 5C141	M2BPGi (Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA法	(－) カットオフインデックス 1.00 未満	3 〜 4	① 生化スピッツ	☆肝の線維化の進行程度を反映します。 判定基準 (－) 1.00 未満 (1+) 1.00 〜 3.00 未満 (2+) 3.00 以上	194 生Ⅰ 注① 注②	⑤
	2008 5C135	Ⅳ型コラーゲン・7S		血液3.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA法	4.4以下 ng/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ		148 生Ⅰ 注②	⑤
	1745 5C134	Ⅳ型コラーゲン(尿)		尿 5.0 (早朝起床時第一尿)	冷 凍結不可 (1ヶ月)	EIA	早朝一番尿 40歳以上 4.9以下 30歳代　4.0以下 μg/g・Cr	4 〜 10	㊹ 専用容器	必ず安静就寝後の起床時に採取した尿を専用容器にてご提出下さい。 随時尿参考基準値 7.3 以下μg/g・Cr	184 尿便 注③	④
	3831 5C100	L型脂肪酸結合蛋白 (L－FABP)(尿)		部分尿 1.0	凍	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	8.4以下 μg/g・Cr	3 〜 4	㊻ 滅菌スピッツ	クレアチニン補正値（μg/g・Cr）および濃度（ng/mL）をご報告致します。濃度が 0.50ng/mL 未満の場合は、0.50ng/mL を用いてクレアチニン補正し、未満を付記してご報告致します。	210 尿便 注④	③
	2946 5C130	プロコラーゲン－Ⅲ－ペプチド(P－Ⅲ－P)		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3ヶ月)	IRMA (チューブ固相法)	0.3〜0.8 U/mL	4 〜 7	① 生化スピッツ		136 生Ⅰ 注②	③
	1971 5C015	α_1－マイクログロブリン	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3ヶ月)	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	9.1〜18.4 mg/L	2 〜 3	① 生化スピッツ		129 免疫	③
	2170 5C015		尿	尿 1.0	冷 (3週)		8.3以下 mg/L	3 〜 4	㊻ 滅菌スピッツ			
	1207 5C065	β_2－マイクログロブリン (β_2－MG)	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	0.9〜2.0 mg/L	1 〜 2	① 生化スピッツ		98 免疫	①
	1208 5C065		尿	尿 1.0	冷 (1日)		289以下 μg/L		㊻ 滅菌スピッツ	酸性蓄尿は不可		
	1125 3B330	Nーアセチルグルコサミニダーゼ (NAG)(尿)		尿 5.0	冷 (1週)	人工基質MPT法	0.3〜11.5 U/L	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	pH4.0 以下の酸性尿、あるいはpH8.0 以上のアルカリ尿では測定値が低下する場合があります。	41 尿便	①

注① 「M2BPGi(Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)」は、慢性肝炎または肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定となります。

注② 「M2BPGi(Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)」と「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)」、「ヒアルロン酸(血清)」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。

注③ 「トランスフェリン(尿)」、「アルブミン定量(尿)」、「Ⅳ型コラーゲン(尿)」は、糖尿病または糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第１期または第２期のものに限る。)に対して行った場合に、３月に１回に限り算定できます。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみの算定となります。

注④ 「L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)」は、原則として３月に１回に限り算定できます。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
血漿蛋白関連検査	8485 5C235	便中 カルプロテクチン	糞便	(提出) 凍※ (保存) 凍	FEIA	炎症性疾患の診断補助のカットオフ値：50.0以下 潰瘍性大腸炎の内視鏡的非活動状態のカットオフ値：300以下 クローン病の内視鏡的非活動状態のカットオフ値：80以下 mg/kg	4 〜 8	⑯ 専用容器	＊採取後凍結できない場合は冷蔵で提出下さい。 採取方法はP36を参照して下さい。	268 尿便 注① 注② 注③	④
	8525 5C245	ロイシンリッチα2 グリコプロテイン (LRG)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ラテックス 凝集免疫法	16.0 未満 μg/mL (炎症性腸疾患の活動期の判定補助における参考基準値)	3 〜 5	① 生化スピッツ	感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。	268 生Ⅰ 注② 注③	④
	1726 5C210	KL－6	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA	500未満 U/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		108 生Ⅰ 注④	①
	3438 3F250	肺サーファクタント 蛋白－A （SP－A）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	CLEIA	43.8未満 ng/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		130 生Ⅰ 注④	④
	1727 3F253	肺サーファクタント 蛋白－D （SP－D）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA	110未満 ng/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		136 生Ⅰ 注④	④
	1051 5C070	CRP (C反応性蛋白)	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (5日)	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	0.00〜0.14 mg/dL	1 〜 2	① 生化スピッツ		16 免疫 注⑤	①
	3463 5C070	高感度CRP	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (1週)	ネフェロメトリー法	mg/dL	4 〜 5	① 生化スピッツ		16 免疫 注⑤	③
	2890 5C080	血清アミロイドA蛋白 （SAA）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	ラテックス凝集免疫法	3.0 以下 mg/L	3 〜 5	① 生化スピッツ		47 免疫 注⑤	④

注① 「便中カルプロテクチン」は慢性的な炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病等）の診断補助を目的として測定した場合に算定できます。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が 3 月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施して下さい。また、その要旨を診療録および診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

注② 「便中カルプロテクチン」、「ロイシンリッチα2 グリコプロテイン」は潰瘍性大腸炎またはクローン病の病態把握を目的として測定した場合、それぞれ 3 月に 1 回を限度として算定できます。ただし、医学的な必要性から、本検査を 1 月に 1 回行う場合には、その詳細な理由および検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

注③ 「便中カルプロテクチン」、「ロイシンリッチα2 グリコプロテイン」および「大腸内視鏡検査」を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

注④ 「KL-6」、「肺サーファクタント蛋白 -A(SP-A)」及び「肺サーファクタント蛋白 -D(SP-D)」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

注⑤ 「CRP(C 反応性蛋白)」、「高感度 CRP」、「血清アミロイド A 蛋白 (SAA)」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
免疫グロブリン関連検査	3105 5A150	オリゴクローナルバンド	血液2.0 遠心 血清0.4 と 髄液0.4	室 冷（1ヶ月） 冷（1ヶ月）	等電点電気泳動法	検出せず	6 〜 7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		522 尿便 注①	③
	2290 5G410	ミエリン塩基性蛋白 （MBP）（髄液）	髄液 0.5	（提出）冷 （保存）凍（1ヶ月）	ELISA	（参考基準値） 102 以下 pg/mL	事前確認	㊻ 滅菌スピッツ		570 尿便 注①	④
	1840 5A135	免疫電気泳動 （抗ヒト全血清）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷	免疫電気泳動法		5 〜 7	① 生化スピッツ		170 免疫 注② 注③	④
	1841 5A136	免疫電気泳動 （特異抗血清） （M蛋白同定）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	免疫固定法					218 免疫 注② 注③	
	1842 5A145	Bence Jones 蛋白同定（尿）	部分尿 0.4	冷 遮	免疫固定法		4 〜 6	㊻ 滅菌スピッツ	使用する抗血清は IgG、IgA、IgM、κ、λの5つになります。	201 免疫	④
	3866 5A141	遊離L鎖κ/λ比 （FLC）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	LA法 （ラテックス凝集比濁法）	κ鎖 3.3〜19.4 λ鎖 5.7〜26.3 mg/L κ/λ比 0.26〜1.65	3 〜 4	① 生化スピッツ	☆多発性骨髄腫で治療効果が現れるとκ/λの比率は 1.0 に近づきます。	388 免疫	③
	3106 5A120	IgGインデックス	血液3.0 遠心 血清1.0 と 髄液1.0	室 冷 冷	IgG: 免疫比濁法 アルブミン： （血清）BCP 改良法 （髄液）免疫比濁法		5 〜 12	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ	☆多発性硬化症が疑われるときの鑑別診断に有用です。	390 尿便 注①	④
	1250 5A010	IgG	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷（3日）	免疫比濁法 （TIA）	861〜1747 mg/dL	1 〜 2	① 生化スピッツ	※材料が血清以外でも受託できます。 項目コード （血清以外：1096） （尿：3821） 基準値はございません	38 免疫	①
	3450 5A050	IgGサブクラス分画 （TIA）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	免疫比濁法 および ラテックス 免疫比濁法	IgG_1 351〜962 IgG_2 239〜838 IgG_3 8.5〜140 IgG_4 4.5〜117 mg/dL	3 〜 7	① 生化スピッツ		−	④
	3341 5A056	IgGサブクラスIgG2 （TIA）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	免疫比濁法 （TIA）	239〜838 mg/dL	3 〜 7	① 生化スピッツ	保険請求の際は「IgG2（TIA 法によるもの）」として算定して下さい。	239 免疫 注④	④
	3393 5A058	IgGサブクラス IgG4	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷（2週）	LA法 （ラテックス凝集比濁法）	11〜121 mg/dL	3 〜 4	① 生化スピッツ	☆IgG4 関連疾患の診断補助として有用です。 保険請求の際は「IgG4」として算定して下さい。	377 免疫	③

注① 「オリゴクローナルバンド」、「ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）」、「IgG インデックス」は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定できます。
注② 「免疫電気泳動（抗ヒト全血清）」および「免疫電気泳動（特異抗血清）」については、同一検体につき一回に限り算定できます。
注③ 「免疫電気泳動（抗ヒト全血清）」および「免疫電気泳動（特異抗血清）」を併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。
注④ 「IgG サブクラス IgG2」は、原発性免疫不全等を疑う場合に算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
免疫グロブリン関連検査	1251 5A015	IgA	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (3日)	免疫比濁法	93～393 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		38 免疫	①
	1252 5A020	IgM	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (3日)	免疫比濁法	M 33～183 F 50～269 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		38 免疫	①
補体検査	1255 5B010	血清補体価 (CH50)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍 (1ヶ月)	免疫溶血 濁度測定法	30～45 U/mL	3 ～ 4	① 生化スピッツ		38 免疫	⑤
	1256 5B023	C_3	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (2日)	免疫比濁法	73～138 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		70 免疫	①
	1257 5B024	C_4	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (2日)	免疫比濁法	11～31 mg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		70 免疫	①

◆特異的IgE(イムノキャップ)　判定基準◆

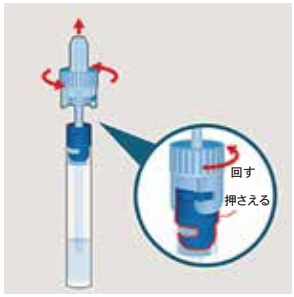
・シングルアレルゲン　・マルチアレルゲン
・40ページの各種アレルゲン検査セット

クラス	特異的IgE抗体価(U_A/mL)	判　定
6	100以上	陽　性
5	50.0 ～ 99.9	
4	17.5 ～ 49.9	
3	3.50 ～ 17.4	
2	0.70 ～ 3.49	
1	0.35 ～ 0.69	疑陽性
0	0.34以下	陰　性

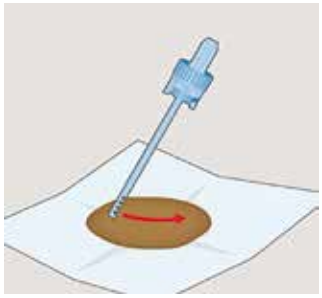
◆特異的IgE(アラスタット3g)　判定基準◆

クラス	特異的IgE抗体価(IU_A/mL)	判　定
6	100以上	陽　性
5	52.5 ～ 99.9	
4	17.5 ～ 52.4	
3	3.50 ～ 17.4	
2	0.70 ～ 3.49	
1	0.35 ～ 0.69	弱陽性
0	0.10 ～ 0.34	微弱陽性
	0.10未満	陰　性

●8485　便中カルプロテクチン　採取方法●



1.キャップの青色部分を押さえながら、その上の水色部分を左に回し、スティックを引き抜きます。



2.スティック先端の４つの溝が、充分に埋まるように便をこすり取ります。

3.スティックの先端についた便をトイレットペーパー等で取り除きます。

4.スティックを容器に差し込み、キャップの水色部分が青色部分にカチッとはまるまで右に回します。

注意事項：容器中の保存液が、目や口に入ったり皮膚に付着したりしないようご注意下さい。 誤って付着した場合は水で充分に洗い流して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
アレルギー関連検査	1253 5A090	非特異的IgE （定量）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 （2日）	CLIA	174以下 IU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		100 免疫	①
	6921 5A100	アトピー鑑別試験 （定性） （12種吸入性アレルゲン）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	FEIA	陰性	3 〜 5	① 生化スピッツ	対象アレルゲンは下記参照して下さい。	194 免疫	⑤
	5A100	（シングルアレルゲン）特異的IgE（定量） イムノキャップ	血液2.0 遠心 血清 各0.3	室 冷	FEIA	クラス0 0.34以下 UA/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	対象アレルゲンは38ページを、判定基準は36ページを参照して下さい。 保険請求の際は「特異的IgE半定量・定量」として算定して下さい。	各110 免疫	⑤
		アラスタット3g			CLEIA	クラス0 0.10未満 IUA/mL					④
	6901 〜 6906 5A100	特異的IgE（定量） （マルチアレルゲン）	血液2.0 遠心 血清 各0.3	室 冷	FEIA	クラス0 0.34以下 UA/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	対象アレルゲンは39ページを、判定基準は36ページを参照して下さい。 保険請求の際は「特異的IgE半定量・定量」として算定して下さい。	各110 免疫	⑤
	6942 5A100	特異的IgE（定量） （View 39）	血液3.0 遠心 血清0.9	室 冷	FEIA	クラス0 index 0.27未満	3 〜 5	① 生化スピッツ	対象アレルゲン、判定基準は39ページを参照して下さい。	1430 免疫	④
	6945 5A100	特異的IgE（定量） （MAST 36アレルゲン）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA	MASTクラス0 1.39以下 LC	4 〜 6	① 生化スピッツ	溶血でのご依頼は避けて下さい。 対象アレルゲン、判定基準は39ページを参照して下さい。	1430 免疫	⑤
	6974 5A100	特異的 IgE Ara h 2 （シングルアレルゲン）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	FEIA	(−)0.34以下 (±)0.35〜3.99 (+)4.00以上 UA/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ	特異的IgEピーナッツが陽性の時に行う検査です。 39ページのコンポーネントについてを参照下さい。	110 免疫	⑤
	3274 5J228	TARC （Th2ケモカイン）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	CLEIA	小児(6〜12ヶ月) 1367未満 小児(1〜2歳) 998未満 小児(2歳以上) 743未満 成人 450未満 pg/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ		179 免疫 注①	⑤

注① 「TARC」は、アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のヒトTARC量を測定する場合に月1回に限り算定できます。

◆6921　アトピー鑑別試験（定性）（12種吸入性アレルゲン）◆

含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ, コナヒョウヒダニ, ネコ皮屑, イヌ皮屑, ギョウギシバ, カモガヤ, ブタクサ, ヨモギ, シラカンバ(属), スギ, カンジダ, アルテルナリア

＊　アトピー鑑別試験の検査結果の表示は、陰性または陽性となります。アレルゲンの特定はできません。

実施料：１アレルゲンにつき110点算定できます。
ただし１回につき1430点を限度とします。

アレルゲン一覧

ｲﾑ/ｷｬｯﾌﾟ	ｱﾗｽﾀｯﾄ3g	アレルゲン名
イネ科植物花粉		
6007	60717	アシ
6006	60716	オオアワガエリ
6017	60723	オオスズメノテッポウ
6003	60713	カモガヤ
6002	60712	ギョウギシバ
6009	60719	コヌカグサ(属)
6016	60722	小麦(花粉)
6013	60721	スズメノヒエ(属)
6011	60720	セイバンモロコシ
6008	60718	ナガハグサ
6001	60711	ハルガヤ
6004	60714	ヒロハウシノケグサ
6005	60715	ホソムギ
雑草花粉		
×	60744	アオゲイトウ
6062	60738	アキノキリンソウ
6065	60739	イラクサ(属)
6053	60731	オオブタクサ
6070	60741	カナムグラ
6060	60737	シロザ
6058	60735	タンポポ(属)
6055	60732	ニガヨモギ
×	60730	ニセブタクサ
6068	60740	ヒメスイバ
6051	60728	ブタクサ
6052	60729	ブタクサモドキ
6057	60734	フランスギク
6059	60736	ヘラオオバコ
6056	60733	ヨモギ
樹木花粉		
6168	60771	アカシア(属)
6159	60766	オリーブ
6151	60749	カエデ(属)
6160	60767	クルミ(属)
6170	60772	クワ(属)
6157	60764	コナラ(属)
6153	60751	シラカンバ(属)
6163	60769	スギ
6158	60765	ニレ(属)
6152	60750	ハンノキ(属)
6164	60770	ヒノキ
6156	60763	ビャクシン(属)
6155	60762	ブナ(属)
×	60760	ホソイトスギ
6171	60773	マツ(属)
6162	60768	ヤナギ(属)
真菌		
6253	60776	アスペルギルス
6270	×	(ｱｽﾍﾟﾙｷﾞﾙｽ由来)Asp f 1
6255	60778	アルテルナリア
×	60786	エピコッカム
×	60784	オーレオバシジウム
×	60787	カーブラリア
6256	60779	カンジダ

ｲﾑ/ｷｬｯﾌﾟ	ｱﾗｽﾀｯﾄ3g	アレルゲン名
6252	60775	クラドスポリウム
×	60782	ステムフィリウム
6268	60789	トリコフィトン
×	60785	フォーマ
×	60781	フザリウム
6251	60774	ペニシリウム
6257	60780	ヘルミントスポリウム
6269	60788	マラセチア(属)
6254	60777	ムコール
×	60783	リゾプス
動物表皮		
6318	60807	アヒル羽毛
×	60791	イヌ上皮
6305	60794	イヌのフケ
6304	60793	ウシのフケ
6303	60792	ウマのフケ
6308	×	ガチョウ羽毛
6314	60804	家兎上皮
6310	60801	セキセイインコ羽毛
6309	×	セキセイインコのフン
6317	×	ニワトリ羽毛
6301	60790	ネコのフケ
6316	60806	ハムスター上皮
6313	60803	羊上皮
6315	60805	豚上皮
6320	60809	マウス
×	60796	マウス上皮
6306	60795	モルモット上皮
6312	60802	ヤギ上皮
6319	60808	ラット
×	60799	ラット血清蛋白
×	60797	ラット上皮
寄生虫		
6353	60810	アニサキス
6351	×	回虫
昆虫		
6403	60815	アシナガバチ
6407	60818	ガ
6404	60816	ゴキブリ
6402	60812	スズメバチ
×	60814	ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ(ｲｴﾛｰﾌｪｲｽ)
×	60813	ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ(ﾎﾜｲﾄﾌｪｲｽ)
6401	60811	ミツバチ
6406	×	ヤブカ(属)
6405	60817	ユスリカ(成虫)
ダニ		
6453	60821	アシブトコナダニ
×	60824	イエニクダニ
6455	60823	ケナガコナダニ
6452	60820	コナヒョウヒダニ(ダニ2)
6454	60822	サヤアシニクダニ
6451	60819	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)

ｲﾑ/ｷｬｯﾌﾟ	ｱﾗｽﾀｯﾄ3g	アレルゲン名
室内塵		
6481	60825	ハウスダスト 1
6482	×	ハウスダスト 2
×	60827	ハウスダスト6
食餌性アレルゲン		
6505	60832	アーモンド
6578	60904	アサリ
6557	60883	アジ
6567	60892	アボカド
6552	×	アワ
6554	60880	イカ
6575	60901	イクラ
6526	60854	イチゴ
6558	60884	イワシ
6548	60877	インゲン
6509	60836	エビ
6515	60842	エンドウ
6513	60840	オート麦
6512	60839	大麦
6571	60897	オボムコイド
6520	60848	オレンジ
6564	60889	カカオ
6579	60905	カキ(貝)
6585	×	カシューナッツ
6588	×	(ｶｼｭｰﾅｯﾂ由来)Ana o 3
6538	60866	カゼイン
6508	60835	カニ
6570	60896	カボチャ
6572	60900	カレイ
6542	60870	キウイ
6551	×	キビ
6532	60860	牛肉
6501	60828	牛乳
6559	60885	グルテン
6581	60898	クルミ
6587	×	(クルミ由来)Jug r 1
6568	60894	グレープフルーツ
6541	60869	鶏肉
6524	60852	ココナッツ
6528	60856	ゴマ
6510	60837	小麦
6517	60845	米
6527	60855	サケ
6550	60879	サツマイモ
6556	60882	サバ
6523	60851	ジャガイモ
6582	60899	スイカ
6543	60871	セロリ
6529	60857	ソバ
6507	60834	大豆
6586	×	(大豆由来)Gly m4
6549	60878	タケノコ
6555	60881	タコ
6531	60859	タマネギ
6503	60830	タラ
6576	60902	タラコ

ｲﾑ/ｷｬｯﾌﾟ	ｱﾗｽﾀｯﾄ3g	アレルゲン名
6540	60868	チーズ
6514	60841	トウモロコシ
6518	60846	トマト
6519	60847	ニンジン
6530	60858	ニンニク
6561	60886	麦芽
6506	60833	ハシバミ
6544	60873	パセリ
6563	60888	バナナ
6504	60831	ピーナッツ
6533	60861	ビール酵母
6522	60850	豚肉
6516	60843	ブラジルナッツ
×	60844	ペカンナッツ
6569	60895	ホウレンソウ
6577	60903	ホタテ
6521	60849	マグロ
6547	60876	マスタード
6562	60887	マンゴ
6525	60853	ムラサキイガイ
6545	60874	メロン
6560	×	モールドチーズ
6566	60891	モモ
6580	60893	ヤマイモ
6565	60890	洋ナシ
6546	60875	羊肉
6511	60838	ライ麦
6535	60863	卵黄
6502	60829	卵白
6534	60862	リンゴ
×	60872	レタス
6539	60867	ロブスター
6536	60864	α-ラクトアルブミン
6537	60865	β-ラクトグロブリン
6584	×	ω－5 グリアジン
職業性アレルゲン		
6705	×	イソシアネートHDI
6704	×	イソシアネートMDI
6703	×	イソシアネートTDI
6706	×	エチレンオキサイド
6702	×	オオバコ種子
6708	×	ホルマリン
6707	×	無水フタル酸
6709	60906	ラテックス
6710	×	(ﾗﾃｯｸｽ由来)Hev b 6.02
その他		
6803	60908	黄色ブドウ球菌A
6804	60909	黄色ブドウ球菌B
6802	60907	ゼラチン
6801	×	ヒトインシュリン
6805	60910	綿

◆6901～6906　特異的IgE（マルチアレルゲン）◆

判断料区分：免疫
実施料：分野ごと（項目コードごと）に110点算定できます

コード	6901	6902	6903	6904	6905	6906
分野	マルチアレルゲン イネ科	マルチアレルゲン 雑草	マルチアレルゲン 食物	マルチアレルゲン 穀物	マルチアレルゲン 動物上皮	マルチアレルゲン カビ
含まれるアレルゲン	アシ オオアワガエリ カモガヤ ギョウギシバ ハルガヤ	アキノキリンソウ タンポポ(属) ブタクサ フランスギク ヨモギ	牛乳 小麦 大豆 ピーナッツ 卵白	ゴマ 小麦 米 ソバ トウモロコシ	イヌのフケ ネコのフケ マウス モルモット上皮 ラット	アスペルギルス アルテルナリア カンジダ クラドスポリウム ペニシリウム ヘルミントスポリウム

※アレルゲンの特定はございません

◆6942 特異的IgE（定量）View 39◆

構成アレルゲン名		
オオアワガエリ	ネコ(フケ)	コムギ(実)
カモガヤ	ゴキブリ	米
ブタクサ	ガ	サケ
ヨモギ	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1)	サバ
シラカンバ(属)	ハウスダスト1	ソバ
スギ	エビ	大豆
ハンノキ(属)	オボムコイド	バナナ
ヒノキ	カニ	ピーナッツ
アスペルギルス	キウイ	豚肉
アルテルナリア	牛肉	マグロ
カンジダ	牛乳	卵白
マラセチア(属)	鶏肉	リンゴ
イヌ(フケ)	ゴマ	ラテックス

※各39項目について、個々のindex値とクラスをご報告致します。判定基準は、従来の「特異的IgE」とは異なります。

●View39 判定基準

クラス	index値	判　定
6	29.31以上	陽　性
5	17.35　～　29.30	
4	7.05　～　17.34	
3	1.80　～　7.04	
2	0.50　～　1.79	
1	0.27　～　0.49	疑陽性
0	0.27未満	陰　性

◆6945 特異的IgE（定量）MAST 36◆

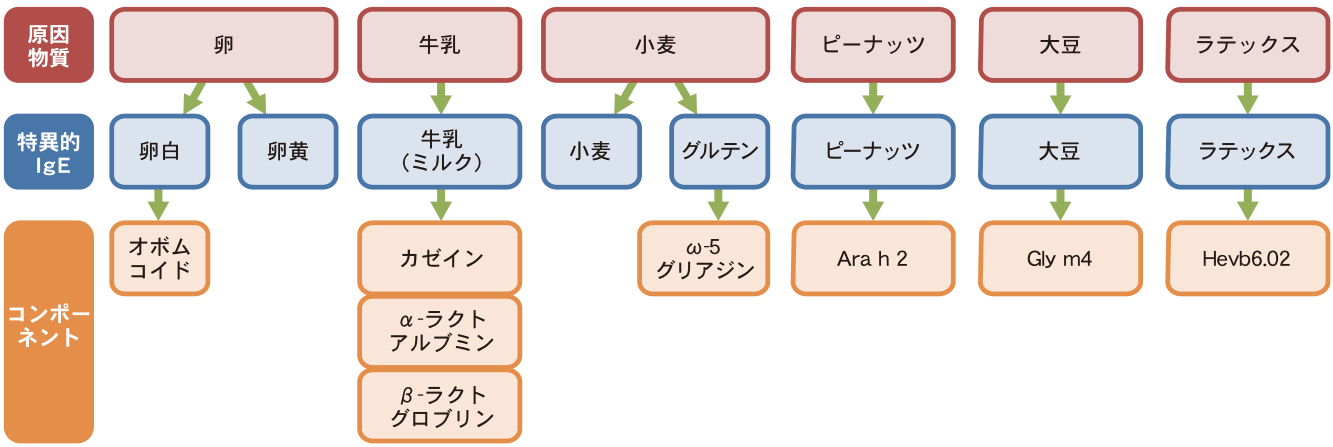
構成アレルゲン名		
オオアワガエリ	コナヒョウヒダニ(ダニ2)	大豆
カモガヤ	ハウスダスト1	トマト
ブタクサ混合物1	エビ	バナナ
ヨモギ	オボムコイド	ピーナッツ
シラカンバ	カニ	豚肉
スギ	ゴマ	マグロ
ハンノキ	キウイ	ミルク
ヒノキ	牛肉	モモ
アスペルギルス	鶏肉	卵白
アルテルナリア	小麦	ラテックス
カンジダ	米	
イヌ皮屑	サケ	
ネコ皮屑	ソバ	

●MAST36 判定基準

MASTクラス	ルミカウント(LC)	判　定
6	160 以上	陽　性
5	120　～　159	
4	58.1　～　119	
3	13.5　～　58.0	
2	2.78　～　13.4	
1	1.40　～　2.77	疑陽性
0	0　～　1.39	陰　性

アレルゲンコンポーネントについて

アレルギーを起こす物質（アレルゲン）には多数の蛋白質が含まれており、特異的 IgE の検査は個々の蛋白質と反応します。
反応する蛋白質の中で、アレルゲン活性を有するものを「アレルゲンコンポーネント」といい、原因とされているアレルギー物質の中にも複数のコンポーネントが含まれています。
原因アレルギー検査と組み合わせることで、より正確なアレルギー診断が可能となります。



アレルゲン検査セット表

セットNo	461	463	464	466
疾患名	喘息・アトピー性皮膚炎（小児） 12項目	アレルギー性鼻炎　12項目	気管支喘息　12項目	アトピー性皮膚炎　12項目
検査項目	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ 卵白 牛乳 小麦 米 ソバ 大豆 イワシ ハウスダスト1 カビ(マルチアレルゲン)	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ カモガヤ ハウスダスト1 ガ カビ(マルチアレルゲン) ハンノキ(属) スギ ヒノキ ブタクサ ヨモギ	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ カモガヤ ハウスダスト1 ガ アスペルギルス カンジダ アルテルナリア スギ ヒノキ 雑草(マルチアレルゲン)	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ 卵白 牛乳 小麦 米 大豆 ハウスダスト1 カンジダ マラセチア(属) スギ
実施料/採血量	1320 ／ 5mL	1320 ／ 5mL	1320 ／ 5mL	1320 ／ 5mL

セットNo	471	472	473	474	475	476	477	478
疾患名	気管支喘息（小児）	気管支喘息（成人）	アレルギー性鼻炎	アトピー性皮膚炎	食物アレルギー	食品表示業務7品目／就学前除去食関連	乳幼児アレルギー	花粉症
検査項目	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ネコのフケ アルテルナリア 卵白 牛乳 大豆	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ネコのフケ アルテルナリア カモガヤ アスペルギルス カンジダ	スギ ヒノキ カモガヤ ブタクサ ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ネコのフケ イヌのフケ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) 卵白 牛乳 カンジダ ネコのフケ 大豆	卵白 牛乳 大豆 小麦 米 ソバ ゴマ	卵白 牛乳 大豆 小麦 米 ソバ カニ エビ マグロ 豚肉 ゴマ ピーナッツ	卵白 牛乳 大豆 ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ネコのフケ カビ(マルチアレルゲン)	スギ ヒノキ カモガヤ ブタクサ ハンノキ ヨモギ オオアワガエリ
実施料/採血量	770 ／ 4mL	770 ／ 4mL	770 ／ 4mL	770 ／4mL	770 ／ 4mL	1320 ／ 5mL	770 ／4mL	770 ／ 4mL

セットNo	6925	6927	6928	6947
疾患名	小児用C-PAC14	鼻炎用C-PAC14	喘息用C-PAC14	アトピー性皮膚炎用C-PAC14
検査項目	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ハウスダスト1 動物上皮(マルチアレルゲン) 卵白 オボムコイド 牛乳 小麦 米 ソバ 大豆 ピーナッツ イワシ ゼラチン カビ(マルチアレルゲン)	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ハウスダスト1 イヌのフケ ネコのフケ カモガヤ ガ ゴキブリ ユスリカ(成虫) カビ(マルチアレルゲン) ハンノキ(属) スギ ヒノキ ブタクサ ヨモギ	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ハウスダスト1 イヌのフケ ネコのフケ カモガヤ ガ ゴキブリ ユスリカ(成虫) アスペルギルス カンジダ アルテルナリア スギ ヒノキ 雑草(マルチアレルゲン)	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) ハウスダスト1 イヌのフケ ネコのフケ 卵白 牛乳 小麦 米 大豆 カンジダ マラセチア(属) スギ 黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA 黄色ブドウ球菌エンテロトキシンB
実施料/採血量	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL

セットNo	6931	6933	6934	6943
疾患名	小児用C-PAC16	鼻炎・喘息用C-PAC16	小児除去食用C-PAC5	アトピー性皮膚炎用C-PAC16
検査項目	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ 卵白 牛乳 小麦 ピーナッツ 大豆 ソバ イクラ エビ イワシ サケ 鶏肉 スギ ゴキブリ	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ スギ ガ ゴキブリ ヒノキ ハムスター上皮 ユスリカ(成虫) カンジダ カモガヤ ブタクサ ヨモギ アスペルギルス ハンノキ(属) アルテルナリア	卵白 牛乳 ピーナッツ 小麦 ソバ	ヤケヒョウヒダニ(ダニ1) イヌのフケ ネコのフケ 小麦 ピーナッツ カモガヤ カニ ソバ 大豆 エビ サバ イワシ マラセチア(属) スギ ガ カンジダ
実施料/採血量	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL	550 ／ 3mL	1430 ／ 5mL

セットNo	6936	6937	6938	6939
疾患名	CAP16 食物アレルギー	CAP16 アトピー乳幼児	CAP16 アトピー学童	CAP16 アトピー成人
検査項目	牛乳 卵白 オボムコイド ソバ コムギ(実) 大豆 ピーナッツ クルミ バナナ キウイ 牛肉 エビ カニ サケ マグロ イクラ	牛乳 卵白 オボムコイド ソバ コムギ(実) 大豆 ピーナッツ エビ サケ マグロ イクラ ダニ1 スギ ネコ(フケ) イヌ(フケ) ゴキブリ	牛乳 卵白 ソバ コムギ(実) 大豆 ピーナッツ キウイ エビ カニ マグロ ダニ1 スギ カンジダ ネコ(フケ) イヌ(フケ) ゴキブリ	ソバ コムギ(実) 大豆 ピーナッツ キウイ エビ カニ サバ ダニ1 スギ カンジダ マラセチア ネコ(フケ) イヌ(フケ) ゴキブリ ガ
実施料/採血量	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL

セットNo	6940	6941
疾患名	CAP16 花粉症・鼻炎	CAP16 アレルギー性喘息
検査項目	ハウスダスト1 ダニ1 スギ ヒノキ ハンノキ カモガヤ ブタクサ カビ(マルチアレルゲン) イヌ(フケ) ネコ(フケ) ハムスター上皮 ゴキブリ ユスリカ(成虫) ガ ヨモギ トマト	ハウスダスト1 ダニ1 スギ ヒノキ ハンノキ カモガヤ ブタクサ ヨモギ アルテルナリア カンジダ アスペルギルス イヌ(フケ) ネコ(フケ) ゴキブリ ユスリカ(成虫) ガ
実施料/採血量	1430 ／ 5mL	1430 ／ 5mL

※各アレルギー項目について、個々のデータをご報告いたします。
判定基準は、「特異的 IgE（イムノキャップ）」(P36 参照）に準じます。

※保険請求の際は「特異的 IgE 半定量・定量」として算定して下さい。

※2項目以上の依頼をする場合に必要な血清量は 0.2 mL＋(0.040mL×項目数)です。
なお、この量には再検分は含まれません。
全血 1.0mL 採血で血清量は 0.4 mL を目安として下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
自己抗体関連検査	2192 5G160	リウマトイド因子(RF)定量	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (5日)	ラテックス免疫比濁法	15以下 IU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	☆関節リウマチのスクリーニングとして有用です。主 に RF IgM を測定しています。	30 免疫 注① 注②	①
	2945 5G161	IgG型リウマトイド因子	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	EIA	(−) インデックス (IgG RF値) 2.0未満	3 〜 5	① 生化スピッツ		198 免疫 注① 注③	⑤
	3433 3B503	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	LA法 (ラテックス凝集比濁法)	M 35.2〜123.8 F 16.1〜56.8 ng/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	☆関節リウマチの活動評価として有用です。	116 免疫 注① 注③	①
	3104 5G167	抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体定量) (ACPA)	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (1週)	CLIA	4.5未満 U/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	☆関節リウマチの早期診断として有用です。	193 免疫 注③ 注④	①
	1732 5G166	抗ガラクトース欠損IgG抗体定量 (CA・RF)	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	ECLIA	6.0未満 AU/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	☆関節リウマチの早期診断として有用です。	111 免疫 注① 注② 注③	⑤
	8545 5G010	抗核抗体(蛍光抗体法) (半定量)	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3日)	蛍光抗体法	40倍未満	3 〜 5	① 生化スピッツ		99 免疫	③

注① 「リウマトイド因子(RF)定量」、「IgG 型リウマトイド因子」、「MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ -3)」、「抗ガラクトース欠損 IgG 抗体定量(CA・RF)」、「免疫複合体(モノクローナル RF 結合)」のうち３項目以上を併せて実施した場合は、主たるもの２項目の算定となります。
注② 「リウマトイド因子(RF)定量」と「抗ガラクトース欠損 IgG 抗体定量(CA・RF)」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。
注③ 「IgG 型リウマトイド因子」、「CCP 抗体(抗シトルリン化ペプチド抗体定量)」、「MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ -3)」、「抗ガラクトース欠損 IgG 抗体定量(CA・RF)」、「免疫複合体(モノクローナル RF 結合)」のうち２項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの１つに限り算定できます。
注④ 「CCP 抗体(抗シトルリン化ペプチド抗体定量)」は、関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として１回を限度として算定できます。ただし、検査結果が陰性の場合においては、３月に１回に限り算定できます。なお、２回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
上記とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者１人につき原則として１回に限り算定できます。ただし、検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、３月に１回に限り算定できます。なお、２回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

●1337　抗核抗体●

染色パターンにより自己抗体を予測します。(121ページ参照)
染色パターンは1種類とは限りません。2種類以上の染色パターンを認めた場合は、その中で最も高い陽性倍率を報告いたします。
健常人でも「陽性」となる場合があります。40倍で31.7%、80倍で13.3%、160倍で5.0%、320倍で3.3%といわれています。＊
一般的には健常人の抗体価は低力価で、疾患特異抗体は陰性であることが多いようですが、他の臨床所見と併せての診断をお願いします。
＊引用文献：庄司亜樹, 他：検査と技術 2010 (38) 自己免疫・抗核抗体

ACR/EULARによる2010年RA分類基準

ACR(米国リウマチ学会)/ EULAR(欧州リウマチ学会)

1） 少なくとも関節に明らかな滑膜炎(腫脹)＊があり
2） 他のリウマチ性疾患の症状として説明できない患者で以下のA〜Dのカテゴリーの合計が6点以上あればRAに分類
＊典型的びらんが認められる患者や、過去にこの基準に症状が適合していたと判断される場合はRAに分類

A. 関節所見　膨張または圧痛関節数 (遠位指節間関節・第一手根中手関節・第一中足趾節関節は除く)	
1個の中〜大関節	0
2〜10個の中〜大関節	1
1〜3個の小関節	2
4〜10個の小関節	3
11関節以上(少なくとも1つは小関節)	5

B. 血清学的所見	
RFも抗CCP抗体も陰性	0
RFか抗CCP抗体のいずれかが低値の陽性 (基準値上限の3倍以下)	2
RFか抗CCP抗体のいずれかが高値の陽性 (基準値上限の3倍を超える)	3

C. 急性期反応	
CRPも赤沈も正常	0
CRP増加または赤沈亢進	1

D. 滑膜炎の期間	
6週間未満	0
6週間以上	1

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
自己抗体関連検査	1883 5G020	抗ＤＮＡ抗体		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＲＩＡ （硫安塩析法）	6以下 IU/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗DNA抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE	159 免疫	④
	2797 5G026	抗ss-DNA抗体	IgG	血液2.0 遠心 血清 各 0.3	室 冷	ＥＬＩＳＡ	25以下 AU/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗DNA抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE	159 免疫	④
	2798 5G028		IgM				17未満 U/mL	3 〜 9		＊主な検査対象疾患：SLE	—	
	2953 5G036	抗ds-DNA抗体	IgG	血液2.0 遠心 血清 各 0.3	室 冷	ＥＬＩＳＡ	12以下 IU/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗DNA抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE	159 免疫	④
	2954 5G038		IgM				6未満 U/mL	3 〜 9		＊主な検査対象疾患：SLE	—	
	2006 5G066	抗ＲＮＰ抗体 （抗U1-RNP抗体）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	免疫拡散法	陰性 倍	4 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗RNP抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE、混合性結合組織病（MCTD）	144 免疫	④
	1907 5G066			血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 5		保険請求の際は「抗RNP抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE、混合性結合組織病（MCTD）		
	2007 5G065	抗Ｓｍ抗体		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	免疫拡散法	陰性 倍	4 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗Sm抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE	147 免疫	④
	1908 5G065			血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 5		保険請求の際は「抗Sm抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：SLE		
	1893 5G090	抗セントロメア抗体		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗セントロメア抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：強皮症、原発性胆汁性肝硬変	174 免疫 注①	③
	1885 5G175	抗ミトコンドリア抗体		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 （1ヶ月）	ＦＡ	陰性（20倍未満）	3 〜 5	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗ミトコンドリア抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：原発性胆汁性肝硬変	181 免疫	④
	2715 5G176	抗ミトコンドリアＭ２抗体		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 （1ヶ月）	ＣＬＥＩＡ	7.0未満	3 〜 5	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗ミトコンドリア抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患：原発性胆汁性肝硬変	189 免疫	④

注①　「抗セントロメア抗体」は、原発性胆汁性肝硬変または強皮症の診断、または治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
自己抗体関連検査	1886 5G180	抗平滑筋抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 （1ヶ月）	ＦＡＴ	20倍未満	3 〜 5	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 自己免疫性肝炎	—	③
	2297 5G555	抗ＬＫＭ-1抗体	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＥＩＡ	陰性（−） Index 17.0未満	4 〜 10	① 生化スピッツ	判定保留 17.0以上、50.0未満 陽性 50.0以上 ＊主な検査対象疾患： 自己免疫性肝炎	215 免疫 注①	③
	2586 5G076	抗ＳＳ-Ａ抗体 （抗ＳＳ-Ａ/Ｒｏ抗体）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	免疫拡散法	陰性 倍	4 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗SS-A/Ro抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： SLE、シェーグレン症候群	161 免疫	④
	2063 5G076		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 5		保険請求の際は「抗SS-A/Ro抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： SLE、シェーグレン症候群		
	2587 5G077	抗ＳＳ-Ｂ抗体 （抗ＳＳ-Ｂ/Ｌａ抗体）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	免疫拡散法	陰性 倍	4 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗SS-B/La抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： シェーグレン症候群	157 免疫	④
	2066 5G077		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 5		保険請求の際は「抗SS-B/La抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： シェーグレン症候群		
	2229 5G085	抗Ｓｃｌ-７０抗体 （抗トポイソメラーゼ抗体）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 （1ヶ月）	免疫拡散法	陰性 倍	4 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗Scl-70抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： 強皮症	157 免疫	④
	1906 5G085		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 5		保険請求の際は「抗Scl-70抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： 強皮症		
	3810 5G087	抗RNA ポリメラーゼⅢ抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＥＬＩＳＡ	陰性（−） Index 28未満	3 〜 9	① 生化スピッツ	判定基準 28未満　陰性(−) 28〜50未満　(±) 50以上　陽性(+) ＊主な検査対象疾患： 強皮症	170 免疫 注②	④
	2226 5G120	抗Ｊｏ-1抗体	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 （1週）	免疫拡散法	陰性 倍	4 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「抗Jo-1抗体半定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： 多発性筋炎/皮膚筋炎	140 免疫 注③	④
	1909 5G120		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＣＬＥＩＡ	10.0未満 U/mL	3 〜 5		保険請求の際は「抗Jo-1抗体定量」として算定して下さい。 ＊主な検査対象疾患： 多発性筋炎/皮膚筋炎		

注①　「抗 LKM-1 抗体」は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害および薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。「抗 LKM-1 抗体」を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載して下さい。

注②　「抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体は、びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できます。その際陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できます。

注③　「抗 Jo-1 抗体」と「抗 ARS 抗体」を併せて実施した場合は主たるもののみの算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
自己抗体関連検査	3970 5G121	抗ＡＲＳ抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (18日)	ＥＩＡ	陰性（－） Index 25.0未満	4 〜 10	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患：多発性筋炎/皮膚筋炎	190 免疫 注①	③
	8450 5G122	抗ＭＤＡ５抗体 （抗CADM-140抗体）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷	ＥＩＡ	陰性（－） Index 32未満	3 〜 6	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患：皮膚筋炎	270 免疫 注②	⑤
	8438 5G123	抗Ｍｉ-２抗体	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷	ＥＩＡ	陰性（－） Index 53未満	3 〜 9	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患：皮膚筋炎	270 免疫 注②	⑤
	8449 5G124	抗ＴＩＦ１-γ抗体	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷	ＥＩＡ	陰性（－） Index 32未満	3 〜 9	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患：皮膚筋炎	270 免疫 注②	⑤
	1724 5G635	免疫複合体 （モノクローナルRF結合免疫複合体）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 凍 (3週)	ＥＩＡ	4.2未満 μg/mL	3 〜 9	① 生化スピッツ	＊抗原・抗体・補体の複合体。臓器などに沈着して障害を起こすため自己免疫疾患などで上昇（リウマチ因子を利用した検査）	194 免疫 注③ 注④	④
	1195 5G520	抗血小板抗体	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＭＰＨＡ	（－）	4 〜 7	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患：特発性血小板減少症(ITP)、血小板輸血不応状態、輸血後紫斑病 ㊟PA-IgGより陽性率は低い	261 免疫	④
	2231 5G525 予	血小板関連ＩｇＧ （ＰＡ-ＩｇＧ）	血液 7.0	冷	ＥＩＡ	30.2以下 ng/10^7cells	3 〜 4	㉒ 専用容器	受託可能は、月〜金の午前中です。また祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。＊血小板の表面に結合している抗体を検出。特発性血小板減少性紫斑病（ITP）などで高値。＊1	190 免疫 注⑤	③
	3926 5G530	HIT抗体 （血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体）	血液1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5＊2	室 凍	ラテックス比濁法	陰性 1.0未満 U/mL	4 〜 7	④ クエン酸Na	HIT抗体（IgG、IgMおよびIgA）を測定し、その濃度をご報告しますが、免疫グロブリンの各クラス別の濃度報告は行いません。保険請求の際は「血小板第4因子-ヘパリン複合抗体（IgG、IgMおよびIgA抗体）」として算定して下さい。	390 免疫 注⑥	④
	1736 5G501	ループスアンチコアグラント定量	血液4.5 遠心 クエン酸血漿 1.0＊3	室 凍 (3週)	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	3 〜 5	④ クエン酸Na （5mL）	＊主な検査対象疾患：SLE、抗リン脂質抗体症候群、習慣性流産患者	265 免疫 注⑦	④

＊1　血小板数が1〜3万/μLの場合は、2倍量の血液をご提出下さい。1万/μL以下の場合は、お問い合わせ下さい。
＊2　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和して下さい。
＊3　遠心分離機がある場合は専用容器で採血し、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコート（白血球の膜）より5mm以上上から血漿を採取して凍結保存にてご提出下さい。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意下さい。
※遠心機回転数の計算式　　$G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$　　r：遠心器のローター半径（cm）　　n：1分間あたりの回転数（rpm）

注①　「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体」を併せて実施した場合は主たるもののみの算定となります。
注②　「抗MDA5抗体」、「抗Mi-2抗体」、「抗TIF1-γ抗体」は、厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において測定した場合に算定できます。
注③　「リウマトイド因子（RF）定量」、「IgG型リウマトイド因子」、「MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量（CA・RF）」、「免疫複合体（モノクローナルRF結合）」のうち３項目以上を併せて実施した場合は、主たるもの２つに限り算定できます。
注④　「IgG型リウマトイド因子」、「CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体定量）」、「MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）」、「抗ガラクトース欠損IgG抗体定量（CA・RF）」、「免疫複合体（モノクローナルRF結合）」のうち２項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの１つに限り算定できます。
注⑤　「血小板関連IgG（PA-IgG）」は、特発性血小板減少性紫斑病の診断または経過判定の目的で行った場合に算定となります。
注⑥　「HIT抗体（血小板第４因子-ヘパリン複合体抗体）は、ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定となります。
注⑦　「ループスアンチコアグラント定量」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
自己抗体関連検査	2980 5G504	抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体		血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	EIA	3.5以下 U/mL	3〜5	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：SLE、関節リウマチ、抗リン脂質抗体症候群	223 免疫 注①	③
	8532 5G508	抗カルジオリピン抗体	IgG	血液2.0 遠心 血清各0.3	室 冷	ELISA	12.3以下 U/mL	3〜5	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：SLE、抗リン脂質抗体症候群	226 免疫 注① 注② 注③	④
	8533 5G510		IgM				20.8以下 U/mL					
	8534 5G515	抗β2グリコプロテインⅠ	IgG	血液2.0 遠心 血清各0.3	室 冷	CLEIA	0.7未満 U/mL	3〜5	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：SLE、抗リン脂質抗体症候群	226 免疫 注① 注② 注③	④
	8535 5G515		IgM				17.5以下 U/mL					
	3003	抗リボゾームP抗体		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ELISA	11以下	7〜18	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：SLE	–	④
	2298 5G440	抗精子抗体		血液3.0 遠心 血清1.0	室 凍	不動化法	陰性（−） 1.40以下（SIV値）	8〜10	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：自己免疫性不妊症	–	④
	2029 5G385	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	RIA （抗ヒトIgG法）	0.2以下 nmol/L	4〜8	① 生化スピッツ	疑陽性 0.2超、0.5以下 陽性 0.5超 *主な検査対象疾患：重症筋無力症	775 免疫 注④ 注⑤	④
	3851 5G386	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	RIA	陰性（−） 0.02未満 nmol/L	4〜10	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：重症筋無力症	1000 免疫 注⑤ 注⑥	④
	2283 5G420	抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 （2週）	FEIA	陰性（−） 7.0未満 U/mL	3〜4	① 生化スピッツ	*主な検査対象疾患：グッドパスチャー症候群、急性進行性腎炎	262 免疫 注⑦	③

注① 「抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体」「抗カルジオリピンIgG抗体」、「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β2グリコプロテインⅠ IgG抗体」又は「抗β2グリコプロテインⅠ IgM抗体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

注② 「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β2グリコプロテインⅠ IgG抗体」および「抗β2グリコプロテインⅠ IgM抗体」は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として実施した場合に、一連の治療につき2回に限り算定できます。

注③ 「抗カルジオリピンIgG抗体」、「抗カルジオリピンIgM抗体」、「抗β2グリコプロテインⅠ IgG抗体」および「抗β2グリコプロテインⅠ IgM抗体」を併せて実施した場合は、主たるもの3つに限り算定できます。

注④ 「抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）」は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できます。

注⑤ 「抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。

注⑥ 「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）」は、重症筋無力症の診断または診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できます。

注⑦ 「抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）」は、抗糸球体基底膜抗体腎炎およびグッドパスチャー症候群の診断または治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
自己抗体関連検査	3497 5G398	抗BP180-NC16a抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	CLEIA	9.0未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： （水疱性）類天疱瘡	270 免疫 注①	④
	3495 5G396	抗デスモグレイン1抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	CLEIA	20.0未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡	300 免疫 注② 注③	④
	3496 5G397	抗デスモグレイン3抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	CLEIA	20.0未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 尋常性天疱瘡	270 免疫 注② 注③	④
	3448 5G395	抗皮膚抗体	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍	IFA	10倍未満	6 〜 10	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡	−	④
	2770 5G551	抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）（C-ANCA）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 （1ヶ月）	CLEIA	3.5 未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 多発血管炎性肉芽腫症（ウェゲナー肉芽腫症）	252 免疫	④
	2771 5G552	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）（P-ANCA）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 （1ヶ月）	CLEIA	3.5 未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 半月体形成腎炎、巣状壊死性腎炎など（血管炎を主体とする病変）	251 免疫 注④	④
	2981 5G335	抗ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	血液6.0 遠心 血清2.0	室 凍	免疫蛍光抗体間接法	陰性 （1.25 未満 JDF units）	13 〜 18	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： インスリン依存症 糖尿病	−	④
	2448 5G185	抗胃壁細胞抗体（抗パリエタル細胞抗体）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	FAT	10 倍未満	5 〜 7	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： 萎縮性胃炎 悪性貧血	−	③
	2773 5G205	抗副腎皮質抗体	血液6.0 遠心 血清2.0	室 冷 （1ヶ月）	FAT	(−)	16 〜 20	① 生化スピッツ	＊主な検査対象疾患： アジソン病	−	③

注① 「抗BP180-NC16a抗体」は、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できます。
注② 「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」は、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できます。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とします。
注③ 落葉状天疱瘡または尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、「抗デスモグレイン1抗体」と「抗デスモグレイン3抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
注④ 「抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)」は、急速進行性糸球体腎炎の診断または経過観察のために測定した場合に算定できます。

天疱瘡の鑑別診断について

		抗デスモグレイン3抗体	
		陰性	陽性
抗デスモグレイン1抗体	陰　性	他疾患または健常者	尋常性天疱瘡
	陽　性	落葉状天疱瘡	尋常性天疱瘡

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
血液型関連検査	1312 5H010	ＡＢＯ血液型	血液 2.0	冷 (1週)	カラム凝集法		1 〜 2	⑥ 血液型 専用容器	血液型専用容器に採取して下さい。	24 免疫	①
	1313 5H020	Ｒｈ（Ｄ）血液型	血液 2.0	冷 (1週)	カラム凝集法		1 〜 2	⑥ 血液型 専用容器	血液型専用容器に採取して下さい。	24 免疫	①
	1314 5H121	直接クームス試験	血液 2.0	室 (3日)	試験管法	(−)	1 〜 2	⑫ ＥＤＴＡ容器	臍帯血でも検査可能。	34 免疫	①
	1315 5H122	間接クームス試験	血液 7.0	冷 (3日)	カラム凝集法	(−)	1 〜 2	⑫ ＥＤＴＡ容器 (7mL)	血清でも検査可能。	47 免疫	①
	1328 5H180	不規則性抗体 (抗体同定･抗体価測定)	血液 7.0	冷 (3日)	カラム凝集法	(−)	2 〜 4	⑫ ＥＤＴＡ容器 (7mL)		159 免疫 注① 注②	①

注①　「不規則抗体」は、輸血歴または妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心･脈管手術、腹部手術、子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術(両側)、帝王切開術、子宮外妊娠手術が行われた場合に、手術の当日算定となります。また、手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体または輸血に定められる不規則抗体検査加算のいずれかを算定します。

注②　診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴または妊娠歴がある旨を記載して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量（mL）	●保存（安定性）	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
下垂体ホルモン関連検査	1801 4A010	成長ホルモン（GH）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷（2週）	ECLIA	M 2.47以下 F 0.13～9.88 （負荷前安静時） ng/mL	3～4	①生化スピッツ		105 生Ⅱ	③
	1808 4A030	黄体形成ホルモン（LH）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（2日）	CLIA	下記参照 mIU/mL	1～2	①生化スピッツ		105 生Ⅱ	①
	1809 4A035	卵胞刺激ホルモン（FSH）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（2日）	CLIA	下記参照 mIU/mL	1～2	①生化スピッツ		105 生Ⅱ	①
	8528 4F100	抗ミュラー管ホルモン（AMH）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（1ヶ月）	CLEIA	下記参照 ng/mL	3～5	①生化スピッツ		—	④
	1810 4A025	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.5	冷 凍（3週）	ECLIA	午前7時～10時 7.2～63.3 pg/mL	3～5	⑫EDTA容器	溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。EDTA濃度増加により測定値低下の傾向があります。	184 生Ⅱ	④
	1811 4A020	プロラクチン（PRL）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷（2日）	CLIA	下記参照 ng/mL	1～2	①生化スピッツ		98 生Ⅱ	①
	3908 4A070	バゾプレシン（AVP）（ADH）（抗利尿ホルモン）	血液5.0 遠心 EDTA 血漿1.2	冷 凍	RIA（二抗体法）	水制限：4.0以下 自由飲水：2.8以下 pg/mL	6～8	⑫EDTA容器	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。	224 生Ⅱ	③
	2050 4A015	ソマトメジンC（IGF-Ⅰ）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍（3ヶ月）	ECLIA	55ページ参照 ng/mL	3～4	①生化スピッツ	性別・年齢を必ずご記入下さい。（血漿・血清とも測定可）	212 生Ⅱ	③

◆1808　黄体形成ホルモン、1809　卵胞刺激ホルモン◆

		黄体形成ホルモン（LH）（mIU/mL）	卵胞刺激ホルモン（FSH）（mIU/mL）
M		1.80～9.13	1.62～10.6
F	卵胞期	2.39～12.3	2.68～9.76
	排卵期	2.34～53.2	1.99～19.3
	黄体期	0.66～17.0	1.04～8.37
	閉経後	7.50～56.2	9.19～124.7

◆3528　抗ミュラー管ホルモン◆

		抗ミュラー管ホルモン（AMH）（ng/mL）
F	22～25歳	0.28～8.01
	26～30歳	0.29～12.2
	31～35歳	0.07～10.0
	36～40歳	9.23以下
	41～45歳	4.48以下

◆1811　プロラクチン◆

		プロラクチン（PRL）（ng/mL）
M		3.4～16.2
F	卵胞期	3.7～27.3
	排卵期	4.5～44.8
	黄体期	5.4～24.9

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
甲状腺関連検査	1226 4B010	トリヨードサイロニン（T_3）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	0.57～1.52 ng/mL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		99 生Ⅱ	①
	1227 4B030	総サイロキシン（T_4）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	4.87～11.72 μg/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		105 生Ⅱ	①
	1230 4B015	遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	1.68～3.67 pg/mL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		121 生Ⅱ	①
	1231 4B035	遊離サイロキシン（FT_4）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	0.70～1.48 ng/dL	1 ～ 2	① 生化スピッツ		121 生Ⅱ	①
	1228 4A055	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	0.61～4.23 mIU/L	1 ～ 2	① 生化スピッツ		98 生Ⅱ	①
	1911 4B040	サイログロブリン（Tg）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3日)	ECLIA	33.70以下 ng/mL	3 ～ 4	① 生化スピッツ		128 生Ⅱ	⑤
	2015 5G290	抗サイログロブリン抗体（Tg-Ab）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	CLIA	4.11未満 IU/mL	3 ～ 4	① 生化スピッツ		136 免疫	③
	2779 5G285	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPO-Ab）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	CLIA	5.61未満 IU/mL	3 ～ 4	① 生化スピッツ		138 免疫	③

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

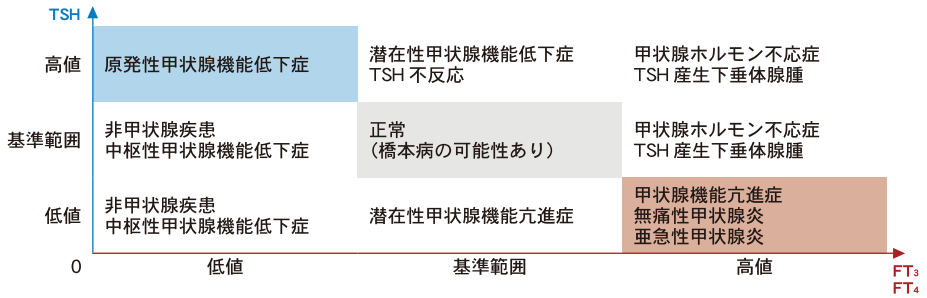
	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
甲状腺関連検査	1232 4B045	サイロキシン結合グロブリン（TBG）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3ヶ月)	CLEIA	14～31 μg/mL	3 ～ 5	① 生化スピッツ		130 生Ⅱ	④
	3424 5G310	抗TSHレセプター抗体定量（TRAb定量）（第２世代）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	RRA	1.0未満 IU/L	3 ～ 5	① 生化スピッツ	ヒト型レセプター抗体を使用しています。固相法の第２世代TRABです。 （基準値について）少数の健常人において、1.0IU/Lを超える結果を示すことがあるため、欧米では1.0～1.5IU/Lをグレーゾーンと設定することを推奨しています。	214 免疫 注①	④
	3912 5G310	抗TSHレセプター抗体（TRAb）（第３世代）	血液2.0 遠心 血清0.8	室 冷	CLEIA	2.0未満 IU/L			TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(TSHレセプターヒトモノクローナル抗体)を用いた第３世代TRAbです。		
	2177 5G300	甲状腺刺激抗体（TSAb）	血液3.0 遠心 血清0.3	室 冷 (21日)	Bioassay	110% 未満	4 ～ 6	① 生化スピッツ		330 免疫 注①	④

注①　「抗TSHレセプター抗体(TRAb)」と「甲状腺刺激抗体(TSAb)」を同時に行った場合は、いずれか一方のみの算定となります。

バセドウ病・橋本病診断基準　甲状腺疾患診断ガイドライン 2021 より

	バセドウ病診断基準	橋本病診断基準
a）臨床所見	1．頻脈、体重減少、手指振戦、発汗増加等の甲状腺中毒症所見 2．びまん性甲状腺腫大 3．眼球突出または特有の眼症状	1．びまん性甲状腺腫大 但しバセドウ病など他の原因が認められないもの
b）検査所見	1．FT_3、FT_4 のいずれか一方、または両方高値 2．TSH 低値（0.1 μ U/mL 以下） 3．TRAb、またはTSAb 陽性 4．放射性ヨード（またはテクネシウム）甲状腺摂取率高値、シンチグラフィでびまん性	1．抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）陽性 2．抗サイログロブリン抗体陽性 3．細胞診でリンパ球浸潤を認める
診　断	1）バセドウ病 a）の１つ以上に加えて、b）の４つを有するもの 2）確からしいバセドウ病 a）の１つ以上に加えて、b）の１、２、３を有するもの 3）バセドウ病の疑い a）の１つ以上に加えて、b）の１と２を有し、FT_3、FT_4 高値が３ヶ月以上続くもの	1）慢性甲状腺炎（橋本病） a）およびb）の１つ以上を有するもの

甲状腺機能検査と甲状腺疾患



TRAb、TSAbについて

第２世代

第１世代より血清中のTSHや抗TSH抗体がある患者さんでも影響を受けない点などが改善された。
結果は定量値(IU/L）で報告される。
バセドウ病での陽性率98～100％

第３世代

標識抗体を抗TSHレセプターモノクローナル抗体に変更することにより第2世代の陽性率を保ったまま、無痛性甲状腺炎での陽性率が低下。
（特異度も改善）

TSAb

TRAbが「陰性」または「弱陽性」のときに測定される場合が多い。
バセドウ病眼症の程度と相関する。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
副甲状腺関連検査	1235 4C035	カルシトニン （CT）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍 (3週)	ECLIA	(空腹時) M 5.15以下 F 3.91以下 pg/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ		130 生Ⅱ	③
	2076 4C025	副甲状腺ホルモンintact （PTH-intact）	血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.5	冷 凍 (3ヶ月)	ECLIA	10〜65 pg/mL	1 〜 2	⑫ EDTA容器	保険請求の際は「副甲状腺ホルモン（PTH）」として算定して下さい。	161 生Ⅱ	①
	3036 4C026	副甲状腺ホルモンwhole （whole PTH）	血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.5	冷 冷 (14日)	CLEIA	8.3〜38.7 pg/mL	3 〜 5	⑫ EDTA容器	保険請求の際は「副甲状腺ホルモン（PTH）」として算定して下さい。	161 生Ⅱ	④
	2742 4C034	PTHrP-intact (副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact)	血液2.0 遠心 血漿0.5	冷 凍 (4ヶ月)	IRMA（ビーズ固相法）	1.1未満 pmol/L	6 〜 8	⑧ EDTA アプロチニン入り	保険請求の際は「副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)」として算定して下さい。	186 生Ⅱ 注①	③
	2227 4Z280	オステオカルシン （OC）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍 (1ヶ月)	FEIA	8.3〜32.7 ng/mL	3 〜 6	① 生化スピッツ	溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。	157 生Ⅱ 注② 注③	③
	8491 3G065	25−OHビタミンD 《CLEIA》[骨粗鬆症]	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA	ビタミンD欠乏 20.0 未満 ビタミンD不足 20.0〜29.9 ng/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		117 生Ⅰ 注④	①
	8522 3G065	25−OHビタミンD 《ECLIA》[くる病]	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ECLIA	ビタミンD欠乏 20ng/mL 以下 15ng/mL 以下で あればより確実	3 〜 4	① 生化スピッツ		117 生Ⅰ 注⑤	③
	2995 3G070	1,25-ジヒドロキシビタミンD_3 ($1\alpha, 25-(OH)_2$ビタミンD)	血液3.0 遠心 血清1.0	室 凍	RIA（二抗体法）	20〜60 pg/mL	4 〜 7	① 生化スピッツ		388 生Ⅰ 注⑥	③

注① 「PTHrP-intact（副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact）」は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定できます。

注② 「オステオカルシン（OC）」は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定および原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できます。

注③ 「オステオカルシン（OC）」、「Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）」、「骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ（TRACP-5b）」、「デオキシピリジノリン（DPD）」を併せて実施した場合は、いずれか一つのみの算定となります。

注④ 「25-OHビタミンD［骨粗鬆症］」は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に１回に限り算定できます。

注⑤ 「25-OHビタミンD［くる病］」は、ビタミンD欠乏性くる病もしくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては１回を限度とし、その後は３月に１回を限度として算定できます。

注⑥ 「1,25-ジヒドロキシビタミンD3」は、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型もしくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時またはそれらの疾患に対する活性型ビタミンD3剤による治療中に測定した場合に限り算定できます。ただし活性型ビタミンD3剤による治療開始後１月以内においては２回を限度とし、その後は３月に１回を限度として算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量（mL）	●保存（安定性）	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
副腎髄質・交感神経・中枢神経検査	3057 4E010	カテコールアミン（総）		酸性蓄尿 2.0 ＊1	冷 遮	HPLC	52.0～195.3 μg/day	4～6	㊺ 専用容器		184 生Ⅱ	④
	1890 4E016	カテコールアミン3分画	血漿	血液3.0 遠心 EDTA血漿1.1	冷 凍（1ヶ月）	HPLC	アドレナリン（A） 0.10以下 ノルアドレナリン（NA） 0.10～0.50 ドーパミン（DA） 0.03以下 ng/mL	4～5	⑫ EDTA容器	安静臥位状態で採血して下さい。 遠心分離機がある場合は、速やかに冷却遠心し、血漿分離して、凍結保存して下さい。	161 生Ⅱ	⑤
	1814 4E016		尿	酸性蓄尿 1.0 ＊1	冷（1ヶ月）		アドレナリン（A） 1.1～22.5 ノルアドレナリン（NA） 29.2～118 ドーパミン（DA） 100～1,000 μg/day		㊻ 滅菌スピッツ	濃度（μg/L）も報告いたします。 ＊2	161 生Ⅱ 注①	③
	3037 4E021	遊離カテコールアミン3分画		酸性蓄尿 1.0 ＊1	冷（5日）	HPLC	アドレナリン（A） 0.6～14.1 ノルアドレナリン（NA） 9.7～41.4 ドーパミン（DA） 120～310 μg/day	4～5	㊻ 滅菌スピッツ	濃度（μg/L）も報告いたします。	161 生Ⅱ 注①	③
	1815 4E040	メタネフリン2分画		酸性蓄尿 2.0 ＊1	冷（1ヶ月）	LC-MS/MS	メタネフリン（MN） 0.05～0.20 ノルメタネフリン（NMN） 0.10～0.28 mg/day	4～5	㊻ 滅菌スピッツ	メタネフリン総1日量（mg/day）、メタネフリン濃度（mg/L）、ノルメタネフリン濃度（mg/L）もご報告いたします。 ＊2	220 生Ⅱ 注②	③
	1816 4E060	バニリルマンデル酸（VMA）	尿	酸性蓄尿 1.0 ＊1	冷（1ヶ月）	LC-MS/MS	1.4～4.9 mg/day	4～5	㊻ 滅菌スピッツ	バニリルマンデル酸濃度（mg/L）もご報告いたします。	90 生Ⅱ	③
	5654 4E060		尿（クレアチニン補正）	尿 1.0	冷		1.2～4.9 μg/mg・cr			バニリルマンデル酸濃度（mg/L）、クレアチニン値（mg/dL）もご報告いたします。		
	2637 4E060		血漿	血液4.0 遠心 EDTA血漿1.5	冷 冷	HPLC	3.3～8.6 ng/mL	5～7	⑫ EDTA容器			④
	1817 4E055	ホモバニリン酸（HVA）	尿	酸性蓄尿 1.0 ＊1	冷（1ヶ月）	LC-MS/MS	1.6～5.5 mg/day	4～5	㊻ 滅菌スピッツ	ホモバニリン酸濃度（mg/L）もご報告いたします。	69 生Ⅱ	③
	5655 4E055		尿（クレアチニン補正）	尿 1.0	冷		1.6～5.5 μg/mg・cr			ホモバニリン酸濃度（mg/L）、クレアチニン値（mg/dL）もご報告いたします。		
	2638 4E055		血漿	血液4.0 遠心 EDTA血漿1.5	冷 冷（21日）	HPLC	4.4～15.1 ng/mL	5～7	⑫ EDTA容器			④

＊1　6N塩酸20mL（小児は5～10mL）を加え冷所に蓄尿し、よく混和後尿量測定の上、所定量をご提出下さい。必ず、1日蓄尿量をご記入下さい。
＊2　部分尿で提出される場合は、右記の項目コードでご依頼下さい。
基準値はございません。

	随時尿コード（単位）	クレアチニン補正コード（単位）
カテコールアミン3分画	3031（μg/L）	33031（μg/mg･Cre）
メタネフリン2分画	3267（mg/L）	3836（ng/mg･Cre）

注①「カテコールアミン分画」として一連の算定となります。
注②保険請求の際は「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」として算定して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
副腎髄質・交感神経・中枢神経検査	1818 4E065	セロトニン	血液	EDTA加血液0.6	凍	LC-MS/MS	52.8～200 ng/mL	4～10	⑫ EDTA容器	ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。必ず専用検体として提出して下さい。	—	③
	3134 4E065		血漿	EDTA加血液2.0 遠心 多血小板血漿(PRP) 0.6	冷 凍		623以下 ng/mL			遠心分離機がある場合は、採血後、4℃、900rpm20分遠心分離によりPRPを採取して下さい。		
	1819 4E070	5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	尿	酸性蓄尿1.0 *1	冷 (1ヶ月)	LC-MS/MS	0.6～4.1 mg/day	4～5	㊻ 滅菌スピッツ	5-HIAA 濃度（mg/L）もご報告いたします。	95 生Ⅱ	③
	5653 4E070		尿（クレアチニン補正）	尿1.0	冷		0.4～3.5 μg/mg・cr			5-HIAA 濃度（mg/L）、クレアチニン値（mg/dL）もご報告いたします。		
	2636 4E070		血漿	血液4.0 遠心 EDTA血漿1.5	冷 冷 (25日)	HPLC	1.8～6.1 ng/mL	4～7	⑫ EDTA容器			④
腎・副腎皮質検査	1820 4D040	コルチゾール		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	4.5～21.1 (午前8～10時) μg/dL	1～2	① 生化スピッツ		121 生Ⅱ	①
	2719 4D045	尿中コルチゾール（非抱合型コルチゾール）		蓄尿0.5	冷 (14日)	CLIA	5.5～66.7 μg/day	3～5	㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。必ず1日蓄尿量を記入して下さい。	121 生Ⅱ 注①	③
	31822 4D035	11−ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	蛍光法（De Moore 変法）	7.0～23.0 (午前10時採血) μg/dL	4～9	① 生化スピッツ		60 生Ⅱ	④
	2885 4D090	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (3週)	CLEIA	55ページ参照 μg/dL	3～4	① 生化スピッツ		164 生Ⅱ	③

*1　6N塩酸20mL（小児は5～10mL）を加え冷所に蓄尿し、よく混和後尿量測定の上、所定量をご提出下さい。必ず、1日蓄尿量をご記入下さい。
注①　保険請求の際は「コルチゾール」として算定して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腎・副腎皮質検査	1240 4Z010	血漿レニン活性 （PRA）		血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.6	冷 凍 (1ヶ月)	EIA	臥位 0.2～2.3 座位 0.2～3.9 立位 0.2～4.1 ng/mL/hr	4 ～ 5	⑫ EDTA容器	採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をおすすめします。溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。	100 生Ⅱ 注①	③
	8612 4Z020	レニン濃度 （ARC）		血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.5	冷 凍	CLEIA	2.21～39.49 pg/mL	3 ～ 4	⑫ EDTA容器	採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をおすすめします。	102 生Ⅱ 注①	③
	8611 4D115	アルドステロン	血漿	血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.5	冷 凍 (1ヶ月)	CLEIA	4.0～82.1 pg/mL	3 ～ 4	⑫ EDTA容器	採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をおすすめします。 血清も検査可。	122 生Ⅱ	③
	1246 4D115		尿	蓄尿 2.0	(提出) 冷 (保存) 凍 (3ヶ月)		1.0～19.3 μg/day	4 ～ 6	㊻ 滅菌スピッツ	冷所に蓄尿し、よく混和後、所定量を提出して下さい。 1日蓄尿量を記入して下さい。＊1		
	8613 4D120	アルドステロン／ レニン活性比				計算法	200未満 境界域： （100～200未満） ＊2	4 ～ 5		アルドステロン（血漿）、レニン活性（PRA）の2項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。	—	③
	8614 4D122	アルドステロン／ レニン濃度比				計算法	40未満 境界域： （20～40未満） ＊2	3 ～ 4		アルドステロン（血漿）、レニン濃度（ARC）の2項目と、本項目の同時依頼の場合にご報告いたします。	—	③

＊1　塩酸および C- ペプチド安定化剤は使用しないで下さい。
＊2　日本内分泌学会推奨「原発性アルドステロン症診療ガイドライン 2021」に準じた基準値（カットオフ）です。判定基準は下記をご参照下さい。
注①　「レニン活性（PRA）」と「レニン濃度（ARC）」を併せて行った場合は、一方の所定点数のみの算定となります。

●原発性アルドステロン症の判定基準●

スクリーニング 陽性基準	血漿レニン活性（PRA）を用いる場合
	PAC《CLEIA法》/PRA比（ARR）≧200 かつPAC《CLEIA法》≧60 pg/mL ただし、 PAC《CLEIA法》/PRA比が100～200（ARR境界域） かつPAC《CLEIA法》≧60 pg/mLの時は暫定的に陽性
	レニン濃度（ARC）を用いる場合
	PAC《CLEIA法》/ARC比（ARR）≧40 かつPAC《CLEIA法》≧60 pg/mL ただし、 PAC《CLEIA法》/ARC比が20～40（ARR境界域） かつPAC《CLEIA法》≧60 pg/mLの時は暫定的に陽性

PAC：血漿アルドステロン濃度

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腎・副腎皮質検査	1244 3B325	アンジオテンシンⅠ 転換酵素（ACE）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	笠原法	7.7～29.4 IU/L	2 ～ 3	① 生化スピッツ	EDTA血漿は検査不可。	136 生Ⅰ	③

◆2885　DHEA-S◆

	年　齢	DHEA-S（μg/dL）
M	20～29歳	159 ～ 538
	30～39歳	125 ～ 475
	40～49歳	123 ～ 422
	50～59歳	76 ～ 386
F	20～29歳	92 ～ 399
	30～39歳	58 ～ 327
	40～49歳	41 ～ 218
	50～59歳	30 ～ 201

◆2050　ソマトメジンC（IGF-Ⅰ）◆

男性（ng／mL）						女性（ng／mL）					
年齢（歳）	-2SD～+2SD	年齢（歳）	-2SD～+2SD	年齢（歳）	-2SD～+2SD	年齢（歳）	-2SD～+2SD	年齢（歳）	-2SD～+2SD	年齢（歳）	-2SD～+2SD
0	11 ～ 149	26	119 ～ 329	52	86 ～ 242	0	15 ～ 154	26	146 ～ 336	52	78 ～ 213
1	14 ～ 148	27	116 ～ 322	53	85 ～ 240	1	23 ～ 186	27	141 ～ 328	53	77 ～ 212
2	18 ～ 154	28	114 ～ 315	54	84 ～ 239	2	32 ～ 213	28	137 ～ 320	54	76 ～ 211
3	24 ～ 164	29	111 ～ 309	55	84 ～ 238	3	40 ～ 227	29	133 ～ 312	55	75 ～ 210
4	32 ～ 176	30	109 ～ 303	56	83 ～ 237	4	48 ～ 238	30	129 ～ 304	56	74 ～ 208
5	44 ～ 193	31	107 ～ 297	57	82 ～ 236	5	56 ～ 252	31	126 ～ 297	57	73 ～ 207
6	55 ～ 215	32	105 ～ 292	58	81 ～ 235	6	69 ～ 287	32	122 ～ 290	58	72 ～ 205
7	63 ～ 247	33	103 ～ 287	59	80 ～ 233	7	89 ～ 357	33	119 ～ 283	59	71 ～ 203
8	72 ～ 292	34	102 ～ 283	60	79 ～ 232	8	111 ～ 438	34	115 ～ 277	60	70 ～ 201
9	84 ～ 350	35	100 ～ 279	61	77 ～ 230	9	133 ～ 517	35	112 ～ 271	61	69 ～ 198
10	99 ～ 423	36	99 ～ 275	62	76 ～ 228	10	155 ～ 588	36	109 ～ 265	62	68 ～ 196
11	113 ～ 499	37	97 ～ 272	63	75 ～ 226	11	175 ～ 638	37	106 ～ 260	63	66 ～ 194
12	125 ～ 557	38	96 ～ 269	64	73 ～ 224	12	188 ～ 654	38	103 ～ 254	64	65 ～ 191
13	133 ～ 579	39	95 ～ 266	65	72 ～ 221	13	193 ～ 643	39	100 ～ 250	65	64 ～ 188
14	138 ～ 570	40	94 ～ 263	66	70 ～ 219	14	193 ～ 625	40	98 ～ 245	66	62 ～ 186
15	141 ～ 552	41	94 ～ 261	67	68 ～ 216	15	192 ～ 614	41	95 ～ 240	67	61 ～ 183
16	142 ～ 543	42	93 ～ 259	68	66 ～ 213	16	192 ～ 611	42	93 ～ 236	68	60 ～ 180
17	142 ～ 540	43	92 ～ 257	69	65 ～ 209	17	191 ～ 599	43	90 ～ 233	69	59 ～ 177
18	142 ～ 526	44	92 ～ 255	70	63 ～ 206	18	188 ～ 574	44	88 ～ 229	70	57 ～ 175
19	143 ～ 501	45	91 ～ 253	71	61 ～ 202	19	182 ～ 539	45	87 ～ 226	71	56 ～ 172
20	142 ～ 470	46	90 ～ 250	72	58 ～ 198	20	175 ～ 499	46	85 ～ 224	72	55 ～ 170
21	139 ～ 436	47	90 ～ 250	73	56 ～ 194	21	168 ～ 459	47	83 ～ 221	73	54 ～ 167
22	135 ～ 405	48	89 ～ 248	74	54 ～ 190	22	161 ～ 425	48	82 ～ 219	74	53 ～ 165
23	131 ～ 379	49	88 ～ 246	75	52 ～ 185	23	155 ～ 397	49	81 ～ 218	75	52 ～ 163
24	128 ～ 356	50	87 ～ 245	76	50 ～ 181	24	151 ～ 375	50	80 ～ 216	76	50 ～ 160
25	125 ～ 337	51	87 ～ 243	77	48 ～ 177	25	147 ～ 358	51	79 ～ 215	77	49 ～ 158

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
性腺関連検査	1823 4F065	テストステロン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	M 277～1111 F 16～86 ng/dL	1～2	① 生化スピッツ	午前中（9～12時）に採血して下さい。性別・年齢を必ず記入して下さい。	119 生Ⅱ	①
	43454 4F070	遊離テストステロン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	EIA	加齢変動が明白なため全年齢を通じた基準値の設定はありません。 pg/mL	3～7	① 生化スピッツ	午前中（9～12時）に採血して下さい。性別・年齢を必ず記入して下さい。	159 生Ⅱ	⑤
	2018 4F055	プレグナンジオール（P_2）	蓄尿 2.0	冷 (1ヶ月)	LC-MS/MS	下記参照 mg/day	6～8	㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。（保存剤による影響はありません）必ず1日蓄尿量を記入して下さい。	213 生Ⅱ	③
	2019 4F060	プレグナントリオール（P_3）	蓄尿 2.0	冷 (1ヶ月)	LC-MS/MS	下記参照 mg/day	6～8	㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。（保存剤による影響はありません）必ず1日蓄尿量を記入して下さい。	232 生Ⅱ	③
	1824 4F045	プロゲステロン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	下記参照 ng/mL	1～2	① 生化スピッツ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。	143 生Ⅱ	①
	1827 4F025	エストラジオール（E_2）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	下記参照 pg/mL	1～2	① 生化スピッツ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。	167 生Ⅱ	①

◆43454 遊離テストステロン◆

年　齢	M (pg/mL)	F (pg/mL)
20～29歳	8.8～31.7	1.5～4.9
30～39歳	7.3～28.9	0.8～4.1
40～49歳	6.2～24.9	0.5～4.0
50～59歳	6.1～25.0	未設定
60～80歳	5.8～18.2	未設定

◆2018　P_2、2019　P_3◆　(mg/day)

		プレグナンジオール (P_2)	プレグナントリオール (P_3)
M		0.12～0.93	0.25～1.48
F	卵胞期	0.16～1.28	0.07～1.24
	黄体期	0.69～4.70	0.25～1.58
	閉経後	1.00以下	1.00以下

◆1824　プロゲステロン◆　(ng/mL)

M		0.1～0.6
F	卵胞前期	0.1～1.4
	卵胞後期	0.1～1.5
	排卵期	0.1～12.5
	黄体期	2.3～19.7
妊婦	前期	4.4～49.6
	中期	11.3～143.1
	後期	30.4～250.7

◆1827　E_2 ◆　(pg/mL)

		エストラジオール (E_2)
M		40以下
F	卵胞期	20～144
	排卵期	64～357
	黄体期	56～214
	閉経後	32以下
妊婦	前期	135～3,916
	中期	1,710～15,690
	後期	3,720～29,280

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
胎盤関連検査	1395 4F080	妊娠反応定性		尿 5.0	冷 (2日)	免疫クロマトグラフィ法		1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	保険請求の際は「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性」として算定して下さい。	55 生Ⅱ 注①	①
	1829 4F080	ヒト絨毛性 ゴナドトロピン (HCG) (定量)	血清	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3ヶ月)	FEIA	下記参照 mIU/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。	130 生Ⅱ 注①	③
	1899 4F080		尿	尿 0.4	冷 (3ヶ月)				㊻ 滅菌スピッツ			
	5576 4F080	ヒト絨毛性 ゴナドトロピン (β-HCG) (定量)	血清	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	CLIA	(男性、非妊婦) 5.0以下 mIU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記入して下さい。	130 生Ⅱ 注①	①
	5575 4F080		尿	尿 0.5	冷				㊻ 滅菌スピッツ			
その他	2299 3B200	顆粒球エラスターゼ (子宮頸管粘液)		子宮頸 管粘液	(提出) 室 (保存) 凍 (3ヶ月)	LA (ラテックス凝集比濁法)	1.60以下 μg/mL	3 〜 4	㉚ 専用容器	専用容器はあらかじめご依頼下さい。検体採取は膣洗浄前に行って下さい。	116 尿便 注②	③
	2071 5C111	癌胎児性 フィブロネクチン (定性)(頸管膣分泌液)		頸管膣 分泌液	(提出) 室 (保存) 凍 (1ヶ月)	EIA	陰性（−）	3 〜 5	㉙ 専用容器	専用容器はあらかじめご依頼下さい。検体採取は膣洗浄前に行って下さい。 ＊1	204 免疫 注③	③

＊1　検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないで下さい。
また、検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

注①　「妊娠反応定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(β-HCG)定量」、「遊離HCG-β(ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット)」を併せて実施した場合は、主たるもの１つに限り算定できます。

注②　「顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)」は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定となります。

注③　「癌胎児性フィブロネクチン(定性)(頸管膣分泌液)」は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合または切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定となります。

◆1829、1899　ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）◆

		〔血清〕(mIU/mL)	〔尿〕(mIU/mL)
M		1.0以下	2.5以下
F（非妊婦）		1.0以下	2.5以下
妊婦	〜6週	4,700 〜 87,200	1,100 〜 62,600
	7〜10週	6,700 〜 202,000	1,800 〜 191,000
	11〜20週	13,800 〜 68,300	3,100 〜 125,000
	21〜40週	4,700 〜 65,300	1,400 〜 29,400

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
膵・消化管関連検査	1371 4G010	インスリン （IRI）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	2.7～10.4 （空腹時負荷前） μU/mL	1 ～ 2	① 生化スピッツ	溶血検体不可	100 生Ⅱ	①
	8543 5G360	インスリン抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	RIA	0.4未満 U/mL	4 ～ 7	① 生化スピッツ		107 免疫	③
	8500 4G030	膵グルカゴン	血液2.0 遠心 血漿0.5	室 凍 (28日)	ELISA	(空腹時) 5.4～55.0 pg/mL	6 ～ 12	⑧ EDTA アプロチニン 入り		150 生Ⅱ	④
	2726 5G340	抗GAD抗体 （抗グルタミン酸 デカルボキシラーゼ抗体）	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷 (2週)	EIA	5.0未満 U/mL	3 ～ 5	① 生化スピッツ		134 生Ⅱ 注①	⑤
	3062 5G342	抗 IA-2 抗体	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	ELISA	0.6未満 U/mL	4 ～ 10	① 生化スピッツ		213 生Ⅱ 注②	④
	1380 4G020	C-ペプチド （CPR） 血清	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	CLEIA	(負荷前) 0.61～2.09 ng/mL	3 ～ 5	① 生化スピッツ		105 生Ⅱ 注③	④
	1972 4G020	C-ペプチド （CPR） 蓄尿 部分尿	尿 0.4	(提出) 冷 (保存) 凍 (3ヶ月)	CLIA	20.1～155 μg/day μg/L	3 ～ 4	㊻ 滅菌スピッツ	全尿保存の場合は、必ず専用保存剤を添加して下さい。部分尿の場合は濃度（μg/L）でご報告いたします。		③
	5507 3B339	ペプシノゲン （PG）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	CLIA	26ページ参照	1 ～ 2	① 生化スピッツ		－	①
心臓関連検査	1299 4Z270	ヒト心房性Na利尿ペプチド （hANP）	血液2.0 遠心 血漿0.5	冷 凍 (3週)	CLEIA	43.0以下 pg/mL	3 ～ 5	⑧ EDTA アプロチニン 入り	溶血検体は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。	221 生Ⅱ 注④	④

注① 「抗GAD抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）」は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して１型糖尿病の診断に用いた場合または自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できます。

注② 「抗IA-2抗体」は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗GAD抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）」の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定となります。
なお、算定するに当たっては、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

注③ 「C-ペプチド（CPR）」を同時に血液および尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定します。

注④ 「心房性Na利尿ペプチド（ANP）」、「脳性Na利尿ペプチド（BNP）」、「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）」のうち２項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して１週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの１つに限り算定できます。2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
内分泌関連検査	2648 4Z271	脳性Na利尿ペプチド （BNP）		血液2.0 遠心 血漿0.5	冷 凍	CLIA	18.4以下 pg/mL	1 〜 2	⑦ BNP専用容器		130 生Ⅱ 注① 注②	①
	3206 4Z272	脳性Na利尿ペプチド 前駆体N端フラグメント （NT-proBNP）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	125以下 pg/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	125pg/mL は心不全除外カットオフ値です。	136 生Ⅱ 注① 注②	①
	2028 5C090	ミオグロビン （定量）	血清	血液1.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	M 154.9以下 F 106.0以下 ng/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ	☆急性心筋梗塞では発症後1〜3時間で上昇し始め、7〜10時間でピークに達する。	131 生Ⅰ 注③	④
	2921 5C090		尿	尿 6.0	冷 (10日)	CLEIA	2.0未満 ng/mL	3 〜 5	㊷ 専用容器			③
	2004 5C092	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ		血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍 (3ヶ月)	EIA	2.5以下 ng/mL	3 〜 6	① 生化スピッツ		184 生Ⅰ 注④	③
	5875 5C091	心臓由来脂肪酸 結合蛋白 （H-FABP） （定量）		血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	ラテックス凝集法	6.2未満 ng/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合のみ算定できます。	131 生Ⅰ 注③	④
	2791 5C093	高感度 心筋トロポニンT		血液3.0 遠心 血清0.7	室 凍	ECLIA	0.014以下 (急性心筋梗塞診断のカットオフ値:0.100) ng/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ	溶血の影響により、測定値が低値となる可能性があります。 ☆急性心筋梗塞では発症後3〜4時間で上昇、10〜20時間でピークに達する。1〜3週間高値を持続。	109 生Ⅰ 注⑤	⑤
	8460 5C094	高感度 心筋トロポニンI		血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍	CLIA	26.2以下 (急性心筋梗塞診断のカットオフ値:26.2) pg/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ	☆急性心筋梗塞では約3時間で上昇し10〜20時間でピークに達する。数日〜1週間高値を持続。	109 生Ⅰ 注⑤	③
その他	2078 4Z275	エリスロポエチン （EPO）		血液3.0 遠心 血清0.7	室 冷 (28日)	CLEIA	4.2〜23.7 mIU/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		209 生Ⅱ 注⑥	④
	2761 4Z315	肝細胞増殖因子 （HGF）		血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	EIA	0.39以下 ng/mL	3 〜 9	① 生化スピッツ		227 生Ⅰ 注⑦	③
	2072 4Z255	サイクリックAMP （cAMP）	血漿	血液2.0 遠心 EDTA 血漿0.4	室 凍 (3ヶ月)	RIA（DCC法）	6.4〜20.8 pmol/mL	5 〜 11	⑫ EDTA容器		165 生Ⅱ	③
	5843 4Z255		尿	蓄尿 1.0	(提出) 冷 (保存) 凍 (3ヶ月)		3.3〜6.1 μmol/day		㊻ 滅菌スピッツ	トルエン1〜2mLを加え冷所に蓄尿し、よく混和後所定量をご提出下さい。塩酸蓄尿も可。		

注① 「心房性Na利尿ペプチド（ANP）」、「脳性Na利尿ペプチド（BNP）」、「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

注② 「脳性Na利尿ペプチド（BNP）」、「脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）」は、心不全の診断または病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定できます。

注③ 「ミオグロビン（定量）」と「心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）（定量）」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。

注④ 「心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ」は、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定できます。

注⑤ 「高感度心筋トロポニンT」と「高感度心筋トロポニンI」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。

注⑥ 「エリスロポエチン（EPO）」は、赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者またはエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴルもしくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断、骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のいずれかの目的で行った場合に算定できます。

注⑦ 「肝細胞増殖因子（HGF）」は肝炎にて劇症化が疑われる場合、または劇症肝炎の経過観察に用いた場合のみ算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腫瘍マーカー関連検査	1203 5D015	α-フェトプロテイン（AFP）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (1週)	CLIA	10.0以下 ng/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		98 生Ⅱ	①
	2644 5D018	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3週)	LBA(LBA−EATA)	L3分画　10.0未満 %	4 〜 5	① 生化スピッツ		185 生Ⅱ	③
	2675 5D520	PIVKA-Ⅱ定量	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (1ヶ月)	CLIA	40未満 mAU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		131 生Ⅱ	①
	1201 5D010	癌胎児性抗原（CEA）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (1週)	CLIA	5.0以下 ng/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際は検体の取扱いに十分ご注意下さい。	99 生Ⅱ	①
	1289 5D025	塩基性フェトプロテイン（BFP）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	EIA	75未満 ng/mL	3 〜 9	⑤ 薬物専用 容器	遠心分離機がある場合は、採血後速やかに血清分離して下さい。 溶血検体または分離剤入り容器による採血では高値になる場合がありますので、避けて下さい。	150 生Ⅱ	④
	1212 5D130	CA19-9	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	CLIA	37.0以下 U/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際は検体の取扱いに十分ご注意下さい。	121 生Ⅱ	①
	1288 5D220	SPan-1	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (3週)	IRMA（ビーズ固相法）	30以下 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		144 生Ⅱ	③
	1206 3B195	エラスターゼ1	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ラテックス凝集法	300以下 ng/dL	3 〜 4	① 生化スピッツ		120 生Ⅱ	⑤
	1905 5D170	DUPAN-2	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	EIA	150以下 U/mL	4 〜 6	① 生化スピッツ		115 生Ⅱ	⑤
	1292 5D175	シアリルLe^{x}-i抗原（SLX）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	RIA固相法（IRMA）	38以下 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	溶血検体でのご依頼は避けて下さい。	140 生Ⅱ	④

腫瘍マーカーの有用性につきましては、120 ページを参照して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腫瘍マーカー関連検査	3021 5D177	シアリルLe^{x}抗原 （CSLEX）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	EIA	8.0未満 U/mL	3 〜 9	① 生化スピッツ		156 生Ⅱ 注① 注②	④
	1293 5D200	NCC-ST-439	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	EIA	M 4.5未満 F 49歳以下 7.0未満 50歳以上 4.5未満 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際は検体の取扱いに十分ご注意下さい。	112 生Ⅱ	④
	3203 5D560	抗p53抗体	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	CLEIA	1.30以下 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		163 生Ⅱ 注③	④
	2049 5D125	BCA225	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	CLEIA	160.0未満 U/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ		158 生Ⅱ	⑤
	1977 5D120	CA15-3	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	31.3以下 U/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		112 生Ⅱ 注②	①
	1976 5D100	CA125	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	35.0以下 U/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		136 生Ⅱ 注④	①
	8475 5D110	HE4 （ヒト精巣上体蛋白4）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (3週)	CLIA	閉経前女性 70.0以下 閉経後女性 140以下 pmol/L	3 〜 5	① 生化スピッツ		200 生Ⅱ	④
	1287 5D150	CA72-4	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ECLIA	10.0以下 U/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		146 生Ⅱ	④
	2251 5D103	CA602	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (4週)	EIA	63以下 U/mL	4 〜 10	① 生化スピッツ		190 生Ⅱ 注④	③
	2295 5D155	CA54/61	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷 (3週)	EIA	12.0以下 U/mL	4 〜 10	① 生化スピッツ		184 生Ⅱ	③
	2181 5D153	シアリルTn抗原 （STN）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	RIA固相法	45以下 U/mL	3 〜 6	① 生化スピッツ		146 生Ⅱ	④

注①　「シアリルLex抗原（CSLEX）」は、診療および他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定となります。
注②　「シアリルLex抗原（CSLEX）」と「CA15-3」を併せて測定した場合は、主たるもののみの算定となります。
注③　「抗p53抗体」は、食道癌、大腸癌または乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月１回に限り算定できます。
注④　「CA125」、「CA602」を併せて測定した場合は、主たるもののみの算定となります。

腫瘍マーカーの有用性につきましては、120ページを参照下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腫瘍マーカー関連検査	1834 4F090	遊離 HCG－β（ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	1.00未満 ng/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		129 生Ⅱ 注① 注②	④
	1903 5D305	前立腺特異抗原（PSA）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	4.0以下 ng/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ	前立腺癌診断のCut-off値としては10.0ng/mLが推奨されます。	121 生Ⅱ 注③	①
	3440 5D308	PSA F/T 比（遊離型PSA F/T比）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2日)	CLIA	25以上 %	1 〜 2	① 生化スピッツ	PSAの結果から前立腺癌が疑われる場合に算定できます。	150 生Ⅱ 注④	①
	1970 5D310	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍	CLEIA	4.00以下 ng/mL	3 〜 4	① 生化スピッツ		192 生Ⅱ	③
	5552 5D580	尿中 BTA 定性 予	尿 1.5	冷 遮	ラテックス凝集試験法	陰性	4 〜 6	㊺ 専用容器	受託可能日は、月〜金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので事前にご連絡下さい。	80 生Ⅱ 注⑥	④

注① 「遊離HCG-β（ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット）」は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合のみ算定できます。
注② 「遊離HCG-β（ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット）」、「妊娠反応定性」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量」、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン（β-HCG）定量」を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
注③ 「前立腺特異抗原（PSA）」は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定または転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定できます。ただし、「前立腺特異抗原（PSA）」の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できます。
なお、2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。
注④ 「PSA F/T 比（遊離型PSA F/T 比）」は、診療および他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定できます。
注⑤ 「核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）」は、「尿沈渣（鏡検法）」により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定できます。尿路上皮癌の診断が確定した後に検査を行った場合であっても、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」は算定できません。
注⑥ 「尿中 BTA定性」は、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

腫瘍マーカーの有用性につきましては、120 ページを参照して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腫瘍マーカー関連検査	1296 5D410	神経特異エノラーゼ（ＮＳＥ）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ＥＣＬＩＡ	16.3以下 ｎｇ/ｍＬ	3 〜 5	① 生化スピッツ	遠心分離機がある場合は、採血後速やかに血清分離して下さい。 溶血検体では、値が上昇するため避けて下さい。	142 生Ⅱ 注①	④
	1913 5D300	扁平上皮癌関連抗原（ＳＣＣ）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (3ヶ月)	ＣＬＩＡ	1.5以下 ｎｇ/ｍＬ	1 〜 2	① 生化スピッツ	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際は検体の取扱いに十分ご注意下さい。	101 生Ⅱ	①
	2736 5D325	シフラ（サイトケラチン19フラグメント）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ＣＬＩＡ	2.1以下 ｎｇ/ｍＬ	1 〜 2	① 生化スピッツ		154 生Ⅱ 注②	①
	3807 5D550	ＰｒｏＧＲＰ（ガストリン放出ペプチド前駆体）	血液2.0 遠心 ＥＤＴＡ 血漿0.6	冷 冷	ＣＬＩＡ	81.0未満 ｐｇ/ｍＬ	3 〜 4	⑫ ＥＤＴＡ容器		175 生Ⅱ 注①	⑤
	5658 5D350	5-S-システイニルドーパ（５－Ｓ－ＣＤ）	血液3.0 遠心 血清1.0	室 凍	ＨＰＬＣ	1.5〜8.0 nmol/L	4 〜 8	① 生化スピッツ		−	④
腫瘍マーカー・骨粗鬆症関連検査	2677 5C124	Ⅰ型コラーゲン－Ｃ－テロペプチド（ＩＣＴＰ）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1ヶ月)	ＲＩＡ（二抗体法）	5.5未満 ng/mL （骨転移判定のcut off値）	3 〜 5	① 生化スピッツ	cut off 値は、乳癌患者を対象として設定しております。	170 生Ⅱ 注④	③
	3207 5D590	ＨＥＲ２ 蛋白定量	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ＣＬＩＡ	15.2以下 ng/mL	3 〜 5	① 生化スピッツ		注⑤	④

注①　「神経特異エノラーゼ（NSE）」と「ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）」を併せて実施した場合には、主たるもののみの算定となります。
注②　「シフラ（サイトケラチン 19 フラグメント）」は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」を算定できます。
注④　「Ⅰ型コラーゲン -C- テロペプチド（Ⅰ CTP）」は、乳癌、肺癌または前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために検査を行い、検査結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」を算定できます。
注⑤　「HER2 蛋白」は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2 蛋白過剰発現が認められている患者、または他の測定法により HER2 蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、検査結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

腫瘍マーカーの有用性につきましては、120 ページを参照して下さい。

腫瘍関連検査

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
腫瘍マーカー・骨粗鬆症関連検査	2449 3B072	骨型アルカリホスファターゼ（ＢＡＰ）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	ＣＬＥＩＡ	M　3.7～20.9 F 閉経前　2.9～14.5 閉経後　3.8～22.6 μｇ/Ｌ	3 ～ 4	① 生化スピッツ	☆骨形成マーカー	157 生Ⅱ 注①	③
	3968 5C120	Ⅰ型プロコラーゲン－Ｎ－プロペプチド（ｔｏｔａｌ ＰＩＮＰ）	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＥＣＬＩＡ	M(30～83歳) 18.1～74.1 F 閉経前(30～44歳) 16.8～70.1 閉経後(45～79歳) 26.4～98.2 ng/mL	3 ～ 4	① 生化スピッツ	溶血の影響により、測定値が低値となる可能性があります。 ☆骨形成マーカー	160 生Ⅱ 注①	⑤
	1990 5C123	Ⅰ型コラーゲン架橋Ｎ－テロペプチド（ＮＴｘ）	部分尿 各 3.0	冷	ＣＬＥＩＡ	下表参照 nmolBCE/mmol・CRE	3 ～ 5	㊻ 滅菌スピッツ	午前中の第2尿をご提出下さい。 血尿でのご提出は避けて下さい。 ☆骨吸収マーカー	156 生Ⅱ 注② 注③ 注④	④
	1261 5C123	Ⅰ型コラーゲン架橋Ｎ－テロペプチド（ＮＴｘ） 骨粗鬆症									
	3288 3B222	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（ＴＲＡＣＰ-５ｂ）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍	ＥＩＡ	M　170～590 F（YAM） 120～420 mU/dL	3 ～ 4	① 生化スピッツ	YAM：若年者成人平均値 ☆骨吸収マーカー	156 生Ⅱ 注③ 注④ 注⑤	④
	1746 5C146	デオキシピリジノリン（ＤＰＤ） 骨粗鬆症	部分尿 2.0	冷	ＥＩＡ	下表参照 nmol/mmol・CRE	4 ～ 6	㊻ 滅菌スピッツ	午前中の第２尿をご提出下さい。 ☆骨吸収マーカー	191 生Ⅱ 注② 注③ 注④	⑤

注①「骨型アルカリホスファターゼ（BAP）」、「Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（totalPINP）」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。

注②「Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド（NTx）」および「デオキシピリジノリン（DPD）（尿）」は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定、または骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定できます。
なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に１回、その後６月以内の薬剤効果判定時に１回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後６月以内に１回に限り算定できます。

注③「Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド（NTx）」、「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）」、「デオキシピリジノリン（DPD）」、「オステオカルシン（OC）」を併せて実施した場合は、いずれか１つのみの算定となります。

注④「Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド（NTx）」、「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）」、「デオキシピリジノリン（DPD）」は、乳癌、肺癌または前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために検査を行い、検査結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

注⑤「酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）」は、代謝性骨疾患および骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に１回、その後６月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に１回に限り算定できます。また治療方針を変更した際は、変更後６月以内に１回に限り算定できます。

◆1990・1261　NTx／1746　DPD参考値◆

検査項目			Ⅰ型コラーゲン架橋Ｎ－テロペプチド（ＮＴｘ）	デオキシピリジノリン（ＤＰＤ）
単位			nmolBCE/mmol・CRE	nmol/mmol・CRE
基準値（参考値）	男性		13.0 ～ 66.2	2.1 ～ 5.4
	閉経前女性		9.3 ～ 54.3	2.8 ～ 7.6
	閉経後女性		14.3 ～ 89.0	
判定基準	骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスクカットオフ値	54.3	7.6
		骨量減少カットオフ値	35.3	5.9
	骨吸収亢進の指標		55 以上	
	副甲状腺摘出手術の適応		200 以上	
	悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標		100 以上	

検体検査実施料と悪性腫瘍特異物質治療管理料

検査項目名	悪性腫瘍であることが強く疑われる患者 検体検査実施料		悪性腫瘍であると既に診断が確定した患者 悪性腫瘍特異物質治療管理料
尿中BTA＊1	（８０点）		２２０点
癌胎児性抗原（CEA）	９９点		
α-フェトプロテイン（AFP）	１０１点		
扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	１０４点		
NCC-ST-439 CA15-3	１１５点		１項目　３６０点 ２項目以上　４００点 初回月加算　１５０点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は，当該初回月加算は算定できない
DUPAN-2	１１８点		
エラスターゼ１	１２３点		
前立腺特異抗原（PSA） CA19-9	１２４点		
PIVKA-Ⅱ半定量 PIVKA-Ⅱ定量	１３５点		
CA125	１４０点		
神経特異エノラーゼ（NSE）	１４２点		
SPan-1 シアリルLe^{x}-ｉ抗原（SLX）	１４４点		１項目　３６０点 ２項目以上　４００点 初回月加算　１５０点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は，当該初回月加算は算定できない
CA72-4 シアリルTn抗原（STN）	１４６点	２項目　２３０点 ３項目　２９０点 ４項目以上　３８５点	
塩基性フェトプロテイン（BFP） 遊離型PSA比（PSA F/T比）	１５０点		
BCA225 サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	１５８点		
サイトケラチン８・18（尿）＊2 シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）	１６０点		
抗ｐ53抗体	１６３点		１項目　３６０点 ２項目以上　４００点 初回月加算　１５０点 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は，当該初回月加算は算定できない
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ICTP）＊1	１７０点		
ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	１７５点		
CA54/61 癌関連ガラクトース転換酵素（GAT）	１８４点		
CA602 α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%） 組織因子経路インヒビター２（TFPI2）	１９０点		
γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	１９４点		
ヒト精巣上体蛋白４（HE4）	２００点		
可溶性メソテリン関連ペプチド	２２０点		
プロステートヘルスインデックス（phi）	２８１点		
癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液） 癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）	３０５点		
HER２蛋白＊1	３２０点		
可溶性インターロイキン-２レセプター（sIL-2R）	４３８点		
デオキシピリジノリン（DPD）（尿） 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP－5b）			

［注］
＊１　「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として，のみ算定
＊２　「検体検査実施料」として，のみ算定

腫瘍関連検査に関する検体検査実施料についての注釈

1）腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に１回を限度として算定する。悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。
ア）急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のために「8」のエラスターゼ１を行った場合
イ）肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、「3」のα-フェトプロテイン（AFP）、「10」のPIVKA-Ⅱ半定量又は定量を行った場合（月1回に限る。）
ウ）子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的として「11」のCA125又は「23」のCA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各１回に限る。）
エ）家族性大腸腺腫症の患者に対して「2」の癌胎児性抗原（CEA）を行った場合
2）「1」の尿中BTAは、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。
3）「2」の癌胎児性抗原（CEA）と「7」のDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
4）「9」の前立腺特異抗原（PSA）は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、１回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、３月に１回に限り、３回を限度として算定できる。なお、当該検査を２回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
5）「11」のCA125及び「23」のCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
6）上記1）にかかわらず、5）に掲げる項目について、１つを区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の項目とし、他の１つの検査を腫瘍マーカーの項目として算定することはできず、いずれか一方のみ算定する。
7）「16」の遊離型PSA比（PSA F/T比）は、診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
8）「17」のサイトケラチン19フラグメント（シフラ）は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
9）サイトケラチン８・18（尿）
ア）「18」のサイトケラチン８・18（尿）は、区分番号「D002」尿沈渣（鏡検法）により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。
イ）「18」のサイトケラチン８・18（尿）は、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。
10）シアリルLeX抗原（CSLEX）
ア）「18」のシアリルLeX抗原（CSLEX）は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。
イ）「18」のシアリルLeX抗原（CSLEX）と「6」のCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
11）「19」の抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月１回に限り算定できる。
12）「20」のⅠ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）、区分番号「D008」内分泌学的検査の「27」のⅠ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）又は同区分「39」のデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
13）「21」のガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）を「12」の神経特異エノラーゼ（NSE）と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
14）「22」の癌関連ガラクトース転移酵素（GAT）は、内膜症性嚢胞を有する患者又は内膜症性嚢胞が疑われる患者について、卵巣癌が疑われる場合に限り算定できる。
15）「23」のα-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。
16）「23」の組織因子経路インヒビター２（TFPI2）は、EIA法により測定した場合に算定できる。
17）「25」のヒト精巣上体蛋白４（HE4）は、CLIA法又はECLIA法により測定した場合に算定できる。
18）可溶性メソテリン関連ペプチド
ア）「26」の可溶性メソテリン関連ペプチドは、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。
イ）本検査を悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
（イ）石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者
（ロ）体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者
（ハ）画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者
ウ）本検査を悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
19）プロステートヘルスインデックス（phi）
ア）「27」のプロステートヘルスインデックス（phi）は、診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者であって、以下の（イ）から（ハ）までのいずれかに該当する者に対して、CLEIA法により、前立腺特異抗原（PSA）、遊離型PSA及び[-2]proPSAを測定し、プロステートヘルスインデックス（phi）を算出した場合に限り算定する。
（イ）前立腺特異抗原（PSA）値が4.0ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下
（ロ）50歳以上65歳未満であって、前立腺特異抗原（PSA）値が3.0ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下
（ハ）65歳以上70歳未満であって、前立腺特異抗原（PSA）値が3.5ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下
イ）ア）に該当する患者に対して、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に、原則として１回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、３月に１回に限り、３回を限度として算定できる。
ウ）「9」の前立腺特異抗原（PSA）を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
エ）「16」の遊離型PSA比（PSA F/T比）を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
オ）本検査を算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原（PSA）の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を２回以上算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄にその必要性を記載すること。
20）「28」の癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）又は同半定量（乳頭分泌液）は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘤性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中の癌胎児性抗原（CEA）を測定した場合に算定する。
21）「29」のHER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。
22）「30」の可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、区分番号「B001」特定疾患治療管理料の「3」悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。
23）「注２」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と「28」の癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）又は同半定量（乳頭分泌液）を同一日に行った場合にも、適用する。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
A型肝炎	1221 5F350	HA-IgG抗体	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	CLIA	(−)：1.00未満 S/CO	3 〜 4	① 生化スピッツ	保険請求の際は「HA抗体」として算定して下さい。	146 免疫 注①	⑤
	1223 5F350	HA-IgM抗体	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷 (2週)	CLIA	(−)：0.80未満 S/CO	3 〜 4	① 生化スピッツ		146 免疫 注①	⑤
E型肝炎	3896 5F370	IgA-HEV抗体 (定性)	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	EIA	陰性	3 〜 6	① 生化スピッツ	保険請求の際は「HE-IgA抗体定性」として算定して下さい。	210 免疫	④
B型肝炎	1316 5F016	HBs抗原(定性)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	CLIA	(−)	1 〜 2	① 生化スピッツ		29 免疫	①
	1216 5F016	HBs抗原	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	CLIA	(−)：0.05未満 IU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		88 免疫	①
	1317 5F016	HBs抗体(定性)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	CLIA	(−)	1 〜 2	① 生化スピッツ		32 免疫	①
	1217 5F016	HBs抗体	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	CLIA	(−)：10.00未満 mIU/mL	1 〜 2	① 生化スピッツ		88 免疫	①
	1218 5F019	HBe抗原	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	CLIA	(−)：1.00未満 S/CO	1 〜 2	① 生化スピッツ		98 免疫	①
	1219 5F019	HBe抗体	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	CLIA	(−)：50.00未満 %Inh	1 〜 2	① 生化スピッツ		98 免疫	①
	1220 5F018	HBc抗体(定量)	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	CLIA	(−)：1.00未満 S/CO	1 〜 2	① 生化スピッツ	☆高力価陽性：10.0以上とされています。	130 免疫 注②	①
	1912 5F018	IgM-HBc抗体	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	(−)：1.00未満 S/CO	3 〜 5	① 生化スピッツ	保険請求の際は「HBc-IgM抗体定性」として算定して下さい。	146 免疫 注②	④

注①　「HA-IgG抗体」と「HA-IgM抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみの算定となります。
注②　「HBc抗体」と「IgM-HBc抗体」を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみの算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
B型肝炎ウイルス	3279 5F020	HBVコア関連抗原（HBcrAg）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLEIA	2.1未満 LogU/mL	3〜6	① 生化スピッツ		252 免疫 注① 注②	④
	8461 5F015	HBV核酸定量	血液5.0 遠心 血清2.1	室 凍	ロシュ/リアルタイムPCR法	定量結果：1.0未満（定量下限） 増幅反応シグナル：検出せず LogIU/mL	4〜5	⑲ 専用容器	開栓厳禁 血漿(EDTA-2K)でも検査可（容器番号⑳）	256 微生 注①	③
	3020 5F037	HBV−DNA検出プレコア変異/コアプロモーター変異検出	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍	PCR	報告成分:HBV−DNA検出、プレコア野生型、プレコア変異型、コアプロモーター判定となります。	7〜11	⑲ 専用容器	開栓厳禁	450 微生 注③	④
	3830 5F015	HBVゲノ（ジェノ）タイプ	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	EIA		3〜5	① 生化スピッツ	HBs抗原量が少ない場合は「判定保留」となる場合があります。	340 免疫 注④	④

注① 「HBVコア関連抗原(HBcrAg)」と「HBV核酸定量」を同時に測定した場合は、主たるもののみの算定となります。
注② 「HBVコア関連抗原(HBcrAg)」は、HBV感染の診断の補助および治療効果の判定の目的で測定した場合に1月に1回に限り算定できます。
注③ 「HBV-DNA検出プレコア変異/コアプロモーター変異検出」はB型急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できます。また、B型慢性肝炎患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、かつ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できます。
注④ 「HBVゲノ(ジェノ)タイプ」は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。保険請求の際は「HBVジェノタイプ判定」として算定して下さい。

B型肝炎ウイルス関連検査の解釈

HBs抗原
- B型肝炎ウイルスに感染
- HBe抗原も陽性のとき　感染力が強い
- HBe抗原は陰性のとき　感染力が弱い可能性

HBs 抗体
- B型肝炎ウイルスに感染したことがある
- 感染防御（中和）抗体
- ワクチンの判定

HBc 抗体
- 感染防御（中和）抗体ではない
- B型肝炎ウイルスに感染したことがある
- 高力価（10.0 s/co 以上）は持続感染の可能性（大）

IgM-HBc 抗体
- 感染初期に3〜12ヶ月間、一過性に高力価で出現
- B型急性肝炎の診断に有用

HBVコア関連抗原
- HBe抗原、HBc抗原、HBV プレコア蛋白 (p22cr) を網羅的に測定
- 治療効果判定時、変異などによりHBV-DNAでは判断できない再燃の予測や、投与中止時期決定の指標に有用

HBV 核酸定量
- B型肝炎ウイルスが存在する
- 結果値とウイルス量は相関する

HBV-DNA 検出プレコア変異/コアプロモーター変異
- 劇症型に移行しやすい遺伝子変異を持ったB型肝炎ウイルスを同定
- B型肝炎の劇症化と組織障害進展の予測

HBVゲノ（ジェノ）タイプ
- ウイルスのA、B、C、D遺伝子を判定
- 治療選択の有効な情報となる

B型肝炎訴訟に必要な検査

※必要な検査項目は訴訟内容により異なります

持続感染を証明するとき（本人の検査）		母子感染を否定するとき（感染者の母親の検査）		父親からの感染を否定するとき（感染者の母親は「陰性」、父親が持続感染の場合など、父子の検査）	
コード	項目名	コード	項目名	コード	項目名
1316	HBs抗原(定性)	1316	HBs抗原(定性)	3830	HBVゲノ(ジェノ)タイプ
8461	HBV核酸(DNA)定量	1220	HBc抗体(定量)	3880	HBVサブジェノタイプ解析（ジェノタイプが"A"のとき）
1218	HBe抗原				
1220	HBc抗体(定量)			3934	HBV分子系統解析

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

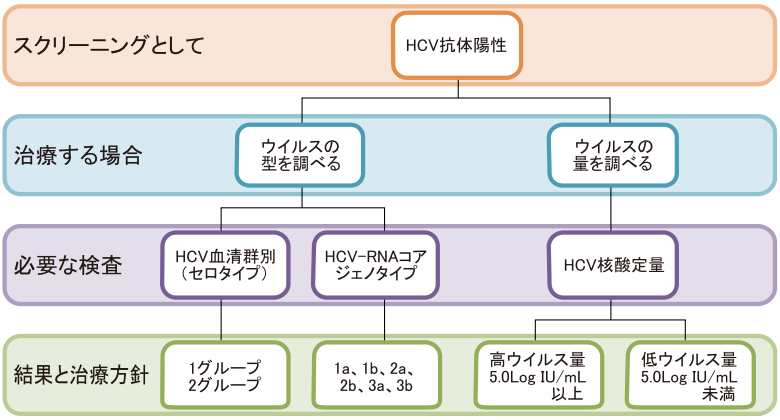
	項目コード 統一コード	検査項目	検体量（mL）	●保存（安定性）	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
C型肝炎ウイルス	1298 5F360	ＨＣＶ抗体（第二世代）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷（1週）	ＣＬＩＡ	陰性：1.00未満（s/co値）	1～2	①生化スピッツ		102 免疫	①
	2997 5F360	ＨＣＶ抗体（第三世代）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ラテックス凝集法	陰性：1.0未満（カットオフインデックス値）	2～4	①生化スピッツ		102 免疫	⑤
	2598 5F360	ＨＣＶ核酸定量	血液5.0 遠心 血清2.0	室 凍（5日）	ＲＴ－ＰＣＲ法（TaqManPCR）	検出せず：定量下限1.2未満 LogIU/mL	3～5	⑲専用容器	開栓厳禁 急性Ｃ型肝炎の診断、Ｃ型肝炎の治療法の選択および治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できます。	412 微生	①
	2274 5F360	HCV血清群別判定（グルーピング）（セロタイプ）	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷	ＣＬＥＩＡ	下記参照	3～4	①生化スピッツ	Ｃ型肝炎の診断が確定した患者に対して、治療法の選択の目的として測定した場合に患者１人につき１回に限り算定できます。	215 免疫	⑤
	3287 5F360	HCV-RNA ジェノタイプ	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍（3ヶ月）	ＲＴ-ＰＣＲ	検出せず	4～6	⑲専用容器	開栓厳禁	—	④
	3465 5F360	ＨＣＶコア蛋白（ＨＣＶコア抗原）	血液2.0 遠心 血清0.8	室 冷	ＣＬＩＡ	3.0未満 fmol/L	3～5	①生化スピッツ	本検査が“定量下限未満”でも直ちにウイルスの存在は否定出来ません。	102 免疫	④

◆2274　HCV血清群別判定基準◆

判　定	判　定　基　準
GROUP1またはGROUP2	一方のグループの抗体が陽性で、他方のグループが陰性の場合
	どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の２倍以上を示した場合、高い抗体価のグループを報告します
判定保留	どちらのグループも陽性で抗体価の比較が２倍以上とならない場合で、どちらのグループか判定できない場合
判定不能（不検出）	どちらのグループの抗体も陰性の場合

C型肝炎ウイルス治療に必要な検査について

・治療する場合、ウイルスの量と型を調べることで治療効果が予測できます。



✓日本人に多い1b型で、ウイルス量の高い人は、抗ウイルス薬であるインターフェロンが効きにくいことが分かっています。

✓型とウイルス量を調べることは、治療方針を立てるために役立ちます。

セロタイプ	ジェノタイプ	日本人の割合
1型	1a	1%
	1b	70%
2型	2a	15%
	2b	10%

日本人に多い型

・セロタイプは塩基配列の違う蛋白質に対する抗体を分別する検査。
・ジェノタイプは遺伝子型で分別する検査。
・セロタイプは、HCV抗体の中のC14という抗体をグループ分けします。日本人の数％がC14を持っていないため、その場合結果が「判定不能」になります。また、1、2グループが陽性の場合も「判定保留」となります。
・ジェノタイプは、保険未収載のため、セロタイプで判定がつかなかった場合の検査として利用されます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ウイルス抗体検査	1951 5F400	インフルエンザウイルス	A型	血液2.0 遠心 血清 各0.3 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	補体結合反応 （CF）	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	5 〜 7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注① 注②	④
	2632 5F400		A型 (H1N1) (H3N2)			赤血球凝集抑制反応 （HI）	血清　10倍未満 髄液　10倍未満			検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。		
	1952 5F410		B型			補体結合反応 （CF）	血清　4倍未満 髄液　1倍未満					
	2635 5F410		B型 (B-1) (B-2)			赤血球凝集抑制反応 （HI）	血清　10倍未満 髄液　10倍未満			検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。		
	2958 5F421	パラインフルエンザウイルス	1型	血液2.0 遠心 血清 各0.2 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	赤血球凝集抑制反応 （HI）	血清 10倍未満 髄液 10倍未満	4 〜 6	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注②	④
	2959 5F422		2型									
	2960 5F423		3型									
	1953 5F432	ムンプスウイルス（おたふく風邪）	CF	血液2.0 遠心 血清 各0.3 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	補体結合反応 （CF）	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	4 〜 6	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注②	④
	1954 5F432		HI			赤血球凝集抑制反応 （HI）	血清　8倍未満 髄液　1倍未満					
	1734 5F432		NT			中和反応 （NT）	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	8 〜 14				
	2601 5F432		IgG			EIA	血清 陰性 2.0未満 髄液 （参考値）	3 〜 5		血清の判定基準は72ページを、ワクチン接種の目安は73ページを参照して下さい。	200 免疫 注③	
	2605 5F432		IgM				血清 陰性 0.80未満 髄液 陰性 0.80未満					

＊　髄液の項目コードは77ページ参照下さい。
注①　「インフルエンザウイルスA型もしくはB型」と「インフルエンザウイルス抗原定性」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。
注②　保険請求の際は「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」として算定して下さい。
治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
注③　保険請求の際は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」として算定して下さい。
同一ウイルスについて「IgG型ウイルス抗体価」および「IgM型ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。
「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」と「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方の算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量（mL）	●保存（安定性）	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料判断料	
ウイルス抗体検査	2089 5F194	サイトメガロウイルス（CMV）	CF	血液2.0 遠心 血清0.3 または 髄液0.5	室 冷	補体結合反応（CF）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	5〜7	血清：①生化スピッツ 髄液：㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注①	
	2690 5F194		IgG	血液2.0 遠心 血清 各0.5 または 髄液 各0.5 ＊	室 冷 (髄液) 冷	CLIA	血清 陰性 6.0未満 AU/mL	3〜5		血清の判定基準は72ページを参照して下さい。髄液での測定は基準値なしの参考値となります。	200 免疫 注②	④
	2695 5F194		IgM				血清 陰性 0.85未満 Index					
	1318 5F395	風疹ウイルス（三日はしか）	LA	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1週)	ラテックス免疫比濁法	陰性 10未満 陽性 10以上 予防的抗体価10以上 IU/mL	1〜2	① 生化スピッツ	LA法をもとにした換算式によるHI法の結果も併記いたします。	79 免疫 注①	①
	2610 5F395		IgG	血液2.0 遠心 血清 各0.3 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (1ヶ月) (髄液) 冷 (1ヶ月)	EIA	血清 陰性 2.0未満 髄液 陰性 0.20未満	4〜6	血清：①生化スピッツ 髄液：㊻滅菌スピッツ	血清の判定基準は72ページを、ワクチン接種の目安は73ページを参照して下さい。	200 免疫 注②	③
	2620 5F395		IgM				血清 陰性 0.80未満 髄液 陰性 0.80未満					④
	2630 5F431	麻疹ウイルス（はしか）	IgG	血液2.0 遠心 血清 各0.2 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	EIA	血清 陰性 2.0未満 髄液 陰性 0.20未満	2〜4	血清：①生化スピッツ 髄液：㊻滅菌スピッツ	血清の判定基準は72ページを、ワクチン接種の目安は73ページを参照して下さい。	200 免疫 注②	①
	2640 5F431		IgM				血清 陰性 0.80未満 髄液 陰性 0.80未満	3〜5				④
	1961 5F385	日本脳炎ウイルス	CF	血液2.0 遠心 血清 0.3 または 髄液 0.4＊	室 冷 冷	補体結合反応（CF）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	5〜7	血清：①生化スピッツ 髄液：㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注①	④
	1962 5F385		HI (JaGAr株)	血液2.0 遠心 血清 0.5 または 髄液 1.0＊	室 冷 冷	赤血球凝集抑制反応（HI）	JaGAr株 血清 10倍未満 髄液 10倍未満 JaGAr株 2ME 血清 10倍未満 髄液 10倍未満	5〜8				

＊　髄液の項目コードは77ページ参照下さい。

注①　保険請求の際は「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」として算定して下さい。
治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

注②　保険請求の際は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」として算定して下さい。
同一ウイルスについて「IgG型ウイルス抗体価」および「IgM型ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。
「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」と「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方の算定となります。

ウイルス抗体検査

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ウイルス抗体検査	1956 5F190	単純ヘルペスウイルス（HSV）	CF	血液2.0 遠心 血清0.3 または 髄液0.4	室 冷	補体結合反応（CF）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	5〜7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注①	④
	2650 5F190		IgG	血液2.0 遠心 血清 各0.2 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	EIA	血清 陰性 2.0未満 髄液 陰性 0.20未満	3〜5		血清の判定基準は下記を、ワクチン接種の目安は73ページを参照して下さい。	200 免疫 注②	
	2660 5F190		IgM				血清 陰性 0.80未満 髄液 陰性 0.80未満					
	2275 5F191		1型	血液2.0 遠心 血清 各0.2 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	中和反応（NT）	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	7〜13		1型、2型間には抗原交差性があります。	79 免疫 注①	
	2276 5F192		2型									
	1957 5F432	水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）	CF	血液2.0 遠心 血清 各0.3 または 髄液 各0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	補体結合反応（CF）	血清　4倍未満 髄液　1倍未満	3〜7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注①	④
	2670 5F193		IgG			EIA	血清 陰性 2.0未満 髄液 陰性 0.20未満	3〜5		血清の判定基準は下記を、ワクチン接種の目安は73ページを参照して下さい。	200 免疫 注②	
	2680 5F193		IgM				血清 陰性 0.80未満 髄液 陰性 0.80未満					

＊　髄液の項目コードは77 ページ参照下さい。
注①　保険請求の際は「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」として算定して下さい。
　　治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
注②　保険請求の際は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」として算定して下さい。
　　同一ウイルスについて「IgG 型ウイルス抗体価」および「IgM 型ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。
　　「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」と「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方の算定となります。

◆2601・2605 ムンプスウイルス、2610・2620 風疹ウイルス、2630・2640 麻疹ウイルス
2650・2660 単純ヘルペスウイルス、2670・2680 水痘・帯状疱疹ウイルス（判定基準）◆

判　定	IgG（EIA 価）	IgM（抗体指数）
−	2.0未満	0.80未満
±	2.0〜3.9	0.80〜1.20
＋	4.0以上	1.21以上

◆2690、2695 サイトメガロウイルス（判定基準）◆

判　定	IgG（AU/mL）	IgM（Index）
陰　性	6.0未満	0.85未満
判定保留		0.85〜1.00未満 ※2
陽　性	6.0以上 ※1	1.00以上

※1：6.0〜15.0AU/mL の結果値の際には、適切な期間（例：2週間）内に再採取し再検査をお勧めします。
※2：判定保留の際には、適切な期間（例：2週間）内に再採取し再検査をお勧めします。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目			検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ウイルス抗体検査	1941 5F202	EBウイルス	VCA	IgG	血液2.0 遠心 血清 0.3 または 髄液 0.4 ＊	室 冷 (髄液) 冷	蛍光抗体法 （FAT）	血清 10倍未満 髄液 1倍未満	4 〜 5	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		200 免疫 注②	③
	1942 5F202			IgA								79 免疫 注①	
	1943 5F202			IgM								200 免疫 注②	
	1944 5F203		EA-DR	IgG								200 免疫 注②	
	1945 5F203			IgA								79 免疫 注①	
	1947 5F204		EBNA									79 免疫 注①	④

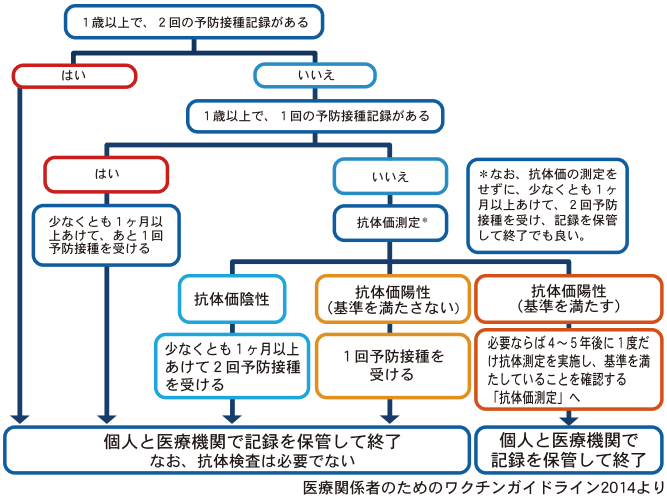
＊　髄液の項目コードは77 ページ参照下さい。
注①　保険請求の際は「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」として算定して下さい。
　　治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
注②　保険請求の際は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」として算定して下さい。
　　同一ウイルスについて「IgG 型ウイルス抗体価」および「IgM 型ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。
　　「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」と「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」を併せて測定した場合は、いずれか一方の算定となります。

医療関係者を対象とした免疫獲得の判断基準

	方法	陰性	陰性ではない	陽性
麻疹（はしか）	NT	＜4倍	4 倍	8 倍〜
	PA	＜16 倍	16 〜 128 倍	256 倍〜
	EIA（IgG）	＜2.0	2.0 〜 15.9	16.0 〜
風疹（三日はしか）	HI	＜8倍	8or16 倍	32 倍〜
	EIA（IgG）	＜2.0	2.0 〜 7.9	8.0 〜
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	EIA（IgG）	＜2.0	2.0 〜 3.9	4.0 〜
水痘（水ぼうそう）	IAHA	＜2倍	2 倍	4 倍〜
	EIA（IgG）	＜2.0	2.0 〜 3.9	4.0 〜

・IgG 抗体価は、医療関係者を対象としているため高く設定されています。
・「陰性」・・・あと2回の予防接種が必要
　「陰性でない」・・・あと1回の予防接種が必要
　「陽性」・・・今すぐの予防接種は不要
　日本環境感染学会：院内感染対策としてのワクチンガイドライン2020 参照

麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘ワクチン接種のフローチャート



医療関係者のためのワクチンガイドライン2014より

ウイルス抗体検査

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ウイルス抗体検査	1996 5F011	ヒトパルボウイルスB19	IgG	血液2.0 遠心 血清 0.2	室 冷	EIA	0.80未満　陰性 （判定基準） 判定：抗体指数 （－）：0.80未満 （±）：0.80～0.99 （＋）：1.00以上	3～5	① 生化スピッツ	紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染が強く疑われる場合に算定できます。	－ 200 免疫 注①	④
	2037 5F011		IgM									
	2069 5F430	RSウイルス	CF	血液2.0 遠心 血清 各 0.3 または 髄液 各 0.4 ＊	室 冷 （髄液） 冷	補体結合反応 （CF）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	5～7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ		79 免疫 注②	④
	4241 5F430		NT			中和反応 （NT）		8～12				
	1955 5F150	アデノウイルス		血液2.0 遠心 血清 0.3 または 髄液0.4＊	冷	補体結合反応 （CF）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	5～7	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ	アデノウイルスの型別検査(NT法)可能です。76、77ページを参照して下さい。 検査の詳細についてはお問い合わせ下さい。	79 免疫 注②	④
		エコーウイルス		血液2.0 遠心 血清0.2 または 髄液0.4＊	室 冷 （髄液） 冷	中和反応 （NT）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	4～14	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ	エコーウイルスの型別検査は76、77ページを参照して下さい。 検査の詳細についてはお問い合わせ下さい。	79 免疫 注②	④
		コクサッキーウイルス		血液2.0 遠心 血清 0.3 または 髄液0.4＊	室 冷 （髄液） 冷	中和反応 （NT） 補体結合反応 （CF）	血清 4倍未満 髄液 1倍未満	4～14	血清： ①生化スピッツ 髄液： ㊻滅菌スピッツ	コクサッキーウイルスの型別検査は76、77ページを参照して下さい。 検査の詳細についてはお問い合わせ下さい。	79 免疫 注②	④

＊　髄液のコードは77ページを参照して下さい。
注①　保険請求の際は「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」として算定して下さい。
注②　保険請求の際は「ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）」として算定して下さい。
　　治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

●目的別検査法選択の目安について●

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するＩｇＭ抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用とされています。

また、既往感染の有無やワクチン効果判定にはEIAによるＩgG抗体の検査が有用とされています。

	自然感染	既往感染	ワクチン効果
麻疹（はしか）	HI, NT, EIA（IgM）（IgG）	NT, EIA（IgG）	NT, EIA（IgG）
風疹（三日はしか）	HI, LA, EIA（IgM）（IgG）	HI, LA, EIA（IgG）	HI, LA, EIA（IgG）
ムンプス（おたふくかぜ）（流行性耳下腺炎）	CF, HI, NT, EIA（IgM）（IgG）	EIA（IgG）	NT, EIA（IgG）
水痘（水ぼうそう）	CF, EIA（IgM）（IgG）	EIA（IgG）	EIA（IgG）
日本脳炎	CF, HI		HI
インフルエンザ	CF, HI		HI

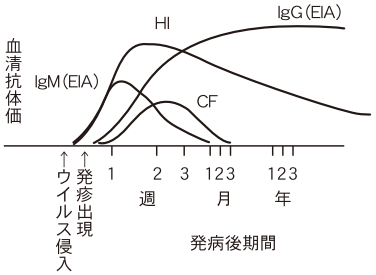
●抗体価の解釈とペア血清検査の意義について●

ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映しているものではありません。

ウイルス抗体は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定はできない場合が多いといわれています。

ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。

急性期（発病後早期）と回復期（発病後14～21日）のペア血清の抗体価が４倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



●検出抗体の性質について●

		性質			
		動態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
抗体	IgM	早期に産生されるが短期間で消失	＋	＋	－
	IgG	ＩｇＭに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	＋	＋	＋
	IgA	ＩｇＭより多少遅れて出現するがＩｇＭより長期間検出可能	＋	－	－

●ウイルス抗体検査の特徴●

検査方法	原理	特徴
CF　補体結合反応	抗原抗体複合体と結合した補体を感作血球の不溶血を指標として間接的に証明します。	・群特異性が高い ・比較的早期に抗体消失 ・感染スクリーニング用
HI　赤血球凝集抑制反応	赤血球凝集能をもつウイルスの場合、その凝集を抑制する抗体を証明します。	・型特異性が高い ・早期に抗体が上昇、持続する
FA　蛍光抗体法	感染細胞中のウイルス抗原と抗体との反応を蛍光標識抗体で証明します。	・抗体分画が可能
NT　中和反応	活性ウイルスを抗体により中和させ、感染防御抗体を証明します。	・型特異性が高い
EIA　酵素免疫法	固相化したウイルス抗原と抗体を反応させ、酵素標識抗体との反応により証明します。	・抗体分画が可能 ・定量的データ ・他法に比して高感度
PA　受身（粒子）凝集反応	固相化ゼラチン粒子にウイルスを吸着させ、これに抗体を反応させ、凝集の有無により証明します。	・高感度
WB　ウエスタンブロット法	転写膜に分画された抗原タンパクのバンドと特異的に反応する抗体を検出します。	・特異性が高い ・確認試験

ウイルス抗体検査一覧表（血清検体）

検　査　項　目	実施料	EIA	CLIA	CF	HI	NT	FA
単純ヘルペス	79			1956			
単純ヘルペスIgG	206	2650					
単純ヘルペスIgM	206	2660					
単純ヘルペス1型	79					2275	
単純ヘルペス2型	79					2276	
水痘・帯状疱疹	79			1957			
水痘・帯状疱疹IgG	206	2670					
水痘・帯状疱疹IgM	206	2680					
EBV VCA IgG	206	5341					1941
EBV VCA IgA	79						1942
EBV VCA IgM	206	5331					1943
EBV EA-DR IgG	206						1944
EBV EA-DR IgA	79						1945
EBV EBNA	79						1947
サイトメガロ（CMV）	79			2089			
サイトメガロ（CMV）IgG	206		2690				
サイトメガロ（CMV）IgM	206		2695				
アデノ	79			1955			
アデノ1型	79					4011	
アデノ2型	79					4021	
アデノ3型	79					4031	
アデノ4型	79					4041	
アデノ5型	79					4051	
アデノ6型	79					4061	
アデノ7型	79					4071	
アデノ11型	79					4091	
アデノ19型	79					4101	
アデノ21型	79					4111	
アデノ37型	79					4121	
パルボウイルスB19IgG		1996					
パルボウイルスB19IgM	206	2037					
インフルエンザA型	79			1951	2632		
インフルエンザB型	79			1952	2635		
パラインフルエンザ1型（HA-2）	79				2958		
パラインフルエンザ2型（CA）	79				2959		
パラインフルエンザ3型（HA-1）	79				2960		
ムンプス	79			1953	1954	1734	
ムンプスIgG	206	2601					
ムンプスIgM	206	2605					
麻疹	79					4801	
麻疹IgG	206	2630					
麻疹IgM	206	2640					
RS	79			2069		4241	

検　査　項　目	実施料	EIA	CF	HI	NT	FA
風疹	79			1318＊		
風疹IgG	206	2610				
風疹IgM	206	2620				
日本脳炎	79		1961	1962		
コクサッキーA群2型	79				4541	
コクサッキーA群3型	79				4551	
コクサッキーA群4型	79				4561	
コクサッキーA群5型	79				4571	
コクサッキーA群6型	79				4581	
コクサッキーA群7型	79				4591	
コクサッキーA群9型	79		1965		4601	
コクサッキーA群10型	79				4611	
コクサッキーA群16型	79				4621	
コクサッキーB群1型	79		1966		4631	
コクサッキーB群2型	79		1967		4641	
コクサッキーB群3型	79		1968		4651	
コクサッキーB群4型	79		1969		4661	
コクサッキーB群5型	79		2084		4671	
コクサッキーB群6型	79		2085		4681	
エコー1型	79				4341	
エコー3型	79				4351	
エコー4型	79				4361	
エコー5型	79				4371	
エコー6型	79				4381	
エコー7型	79				4391	
エコー9型	79				4401	
エコー11型	79				4411	
エコー12型	79				4421	
エコー13型	79				4431	
エコー14型	79				4441	
エコー16型	79				4451	
エコー17型	79				4461	
エコー18型	79				4471	
エコー19型	79				4481	
エコー21型	79				4491	
エコー22型	79				4501	
エコー24型	79				4511	
エコー25型	79				4521	
エコー30型	79				4531	
エンテロ70型					4311	
エンテロ71型					4321	

＊　LA法にて測定した値をHI法に換算してご報告いたします。

「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」は、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価およびIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方のみ算定する。

ウイルス抗体検査一覧表（髄液検体）

検　査　項　目	実施料	EIA	CLIA	CF	HI	NT	FA
単純ヘルペス	79			5106			
単純ヘルペスIgG	206	1719					
単純ヘルペスIgM	206	5116					
単純ヘルペス1型	79					4932	
単純ヘルペス2型	79					4933	
水痘・帯状疱疹	79			4901			
水痘・帯状疱疹IgG	206	1717					
水痘・帯状疱疹IgM	206	4916					
EBV VCA IgG	206						5342
EBV VCA IgA	79						5321
EBV VCA IgM	206						5332
EBV EA-DR IgG	206						5291
EBV EA-DR IgA	79						5301
EBV EBNA	79						5351
サイトメガロ(CMV)	79			5236			
サイトメガロ(CMV)IgG	206		1721				
サイトメガロ(CMV)IgM	206		5246				
アデノ	79			4006			
アデノ1型	79					4016	
アデノ2型	79					4025	
アデノ3型	79					4035	
アデノ4型	79					4045	
アデノ5型	79					4055	
アデノ6型	79					4065	
アデノ7型	79					4075	
アデノ11型	79					4095	
アデノ19型	79					4105	
アデノ21型	79					4115	
アデノ37型	79					4125	
パルボウイルスB19IgG							
パルボウイルスB19IgM	206						
インフルエンザA型	79			4176	4166		
インフルエンザB型	79			4187	4186		
パラインフルエンザ1型 (HA-2)	79				4212		
パラインフルエンザ2型 (CA)	79				4216		
パラインフルエンザ3型 (HA-1)	79				4222		
ムンプス	79			4758	4757	4756	
ムンプスIgG	206	1713					
ムンプスIgM	206	4766					
麻疹	79					4806	
麻疹IgG	206	1715					
麻疹IgM	206	4816					
RS	79			4247		4245	

検　査　項　目	実施料	EIA	CF	HI	NT	FA
風疹	79			4856		
風疹IgG	206	1728				
風疹IgM	206	4876				
日本脳炎	79		4726	4736		
コクサッキーA群2型	79				4545	
コクサッキーA群3型	79				4555	
コクサッキーA群4型	79				4565	
コクサッキーA群5型	79				4575	
コクサッキーA群6型	79				4585	
コクサッキーA群7型	79				4595	
コクサッキーA群9型	79		4607		4605	
コクサッキーA群10型	79				4615	
コクサッキーA群16型	79				4625	
コクサッキーB群1型	79		4637		4635	
コクサッキーB群2型	79		4647		4645	
コクサッキーB群3型	79		4657		4655	
コクサッキーB群4型	79		4667		4665	
コクサッキーB群5型	79		4677		4675	
コクサッキーB群6型	79		4687		4685	
エコー1型	79				4345	
エコー3型	79				4355	
エコー4型	79				4365	
エコー5型	79				4375	
エコー6型	79				4386	
エコー7型	79				4395	
エコー9型	79				4406	
エコー11型	79				4415	
エコー12型	79				4425	
エコー13型	79				4435	
エコー14型	79				4445	
エコー16型	79				4456	
エコー17型	79				4465	
エコー18型	79				4475	
エコー19型	79				4485	
エコー21型	79				4495	
エコー22型	79				4505	
エコー24型	79				4515	
エコー25型	79				4525	
エコー30型	79				4536	
エンテロ70型					4315	
エンテロ71型					4325	

「グロブリンクラス別ウイルス抗体価」は、同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価およびIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方のみ算定する。

【検査実施料の算定について】

1）　同一ウイルスに対して複数の測定方法を行った場合でも、所定点数は１回分として算定されます。
2）　同一検体を用いて特定のウイルスの個々の群または型について測定を行った場合でも、所定点数は１回分として算定されます。
3）　同一検体について複数のウイルス抗体価を測定した場合検査実施料の算定は８項目を限度として、グロブリンクラス別ウイルス抗体価を行った場合は２項目を限度として算定します。

ウイルス抗体検査

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
レトロウイルスの検査	1882 5F450	HTLV－Ⅰ抗体 （ATL 抗体）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	CLIA	1.00未満 S/CO	1 〜 2	① 生化スピッツ	髄液でも検査可能です（容器番号㊻）	159 免疫	①
	8490 5F450	HTLV－Ⅰ抗体（LIA） （ラインブロット）	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷	ラインブロット法	陰性	4 〜 10	① 生化スピッツ	髄液は項目コード 8494HTLV-1抗体/ LIA（髄液） 未保点	425 免疫 注①	⑤
	5375 5F454	HTLV－Ⅰ プロウイルスDNA （クロナリティ） （ATLウイルス）予	EDTA 加血液 7.0	冷	サザンブロット ハイブリダイゼーション	（－） 化学療法などにより細胞数が減少している場合は、必要量のDNAが抽出できない場合があります。	18 〜 24	⑫ EDTA 容器	受託可能日は、月〜金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。 予約検査となっておりますので事前にご連絡下さい。	—	④
	2077 5F560	HIV-1,2抗原・抗体 同時測定（定性）	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (2週)	CLIA	（－）	1 〜 2	① 生化スピッツ		109 免疫	①
	8536 5F500	HIV-1/2 抗体確認検査	血液2.0 遠心 血清0.6	室 冷 (4週間)	イムノクロマトグラフィー	陰性（－）	4 〜 7	⑲ 専用容器	開栓厳禁	660 免疫 注② 注③	③
	3253 5F500	HIV-1 RNA 定量 （TaqManPCR 法）	血液7.0 遠心 EDTA 血漿2.1	室 冷	ロシュ/リアルタイム RT-PCR法	定量結果： 2.0×10^{1}未満 （定量下限） 増幅反応シグナル： 検出せず コピー/mL	4 〜 5	⑳ 専用容器	開栓厳禁	520 微生 注③ 注④	③

注①　「HTLV-Ⅰ抗体（LIA）」は、HTLV-Ⅰ抗体検査によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合にのみ算定できます。
注②　「HIV-1/2抗体確認検査」は、HIVスクリーニング検査によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として測定した場合に算定できます。
注③　「HIV-1/2抗体確認検査」と「HIV-1 RNA定量」を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができます。
注④　「HIV-1 RNA定量」は、HIV感染者の経過観察に用いた場合、またはHIVスクリーニング検査が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定できます。

◆8490 HTLV-1抗体（LIA）◆判定基準

ラインが認められない		陰性
ラインが 1 本認められる（≧ ±）	gag p19 か gag p24 か env gp46 のいずれかが認められる場合	陰性
	env gp21 が認められる場合	保留
ラインが 2 本認められる（≧ ±）	env gp21 のラインが認められない場合	
	env gp21 のラインが認められる場合	陽性
ラインが 3 本以上認められる（≧ ±）		

◆8536 HIV-1/2抗体確認検査（イムノクロマトグラフィー法）◆

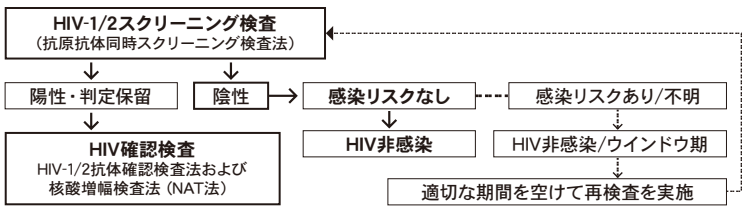
●HIV-1抗体の判定基準

判定結果	測定結果
陽性	p31、gp160、p24、gp41のうち、gp160またはgp41のいずれかを含む2本以上のバンドが認められる。
陰性	p31、gp160、p24、gp41のいずれも認められない。
判定保留	上記、陽性および陰性でない場合。

●HIV-2抗体の判定基準

判定結果	測定結果
陽性	gp36、gp140の両バンドが認められる。
陰性	gp36、gp140のいずれも認められない。
判定保留	上記、陽性および陰性でない場合。

【診療におけるHIV-1/2感染症の診断のためのフローチャート】



①HIV-1/2 抗体確認検査法			総合判定（可能性含む） ②HIV-1 核酸増幅検査法	
HIV-1	HIV-2	判定	検出（定量下限値未満含む） 【陽性】	検出せず 【陰性】
陽性	陽性	HIV感染者	HIV-1及びHIV-2重複感染者	HIV-1感染者（低ウイルス量感染または治療中患者）・HIV-2感染者
	判定保留	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者（低ウイルス量感染または治療中患者）
	陰性	HIV-1感染者	HIV-1感染者	HIV-1感染者（低ウイルス量感染または治療中患者）
判定保留	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者及びHIV-2重複感染者	HIV-2感染者
	判定保留	HIV判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1/2 判定保留（2 週間後再検査）
	陰性	HIV-1判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-1 判定保留（HIV-1 抗体偽反応）（2 週間後再検査）
陰性	陽性	HIV-2感染者	急性HIV-1感染者及びHIV-2重複感染者	HIV-2感染者
	判定保留	HIV-2判定保留	急性HIV-1感染者	HIV-2 判定保留（HIV-1 抗体偽反応）（2 週間後再検査）
	陰性	HIV陰性	急性HIV-1感染者	HIV非感染（リスクなし）又はHIV判定保留 （2 週間後再検査）（リスクあり）

「診療におけるHIV-1/2 感染症の診断ガイドライン2020版」抜粋
（日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法）

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ウイルス抗原検査	2968 5F190	単純ヘルペス ウイルス特異抗原 （HSV特異抗原）定性	塗抹標本 2枚	凍＊	蛍光抗体法 （FA）	1型　陰性 2型　陰性	3 〜 5	㉗ 専用容器	＊凍結できない場合は冷蔵でご提出下さい。採取方法は下記参照	180 免疫	④
	2504 5F190	予（血液） 単純ヘルペス ウイルスDNA定性 （HSV DNA）	EDTA 加血液 2.0	冷（10日）	PCR	陰性	4 〜 6	⑫ EDTA容器	他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意下さい。 〈材料がEDTA加血液の場合〉 受託可能日は、月〜金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	−	④
			髄液 0.7	(提出)冷 (保存)凍 (3ケ月)				㊻ 滅菌スピッツ			
			ぬぐい液	凍（3ヶ月）				㊻ 滅菌スピッツ ＊1			
			組織 50mg	凍（3ヶ月）				㊻ 滅菌スピッツ			
	1884 5F193	予（血液） 水痘・帯状疱疹 ウイルスDNA定性 （VZV DNA）	EDTA 加血液 2.0	冷（10日）	PCR	陰性	4 〜 6	⑫ EDTA容器	他項目との重複依頼は避けて下さい。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意下さい。 〈材料がEDTA加血液の場合〉 受託可能日は、月〜金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	−	④
			髄液 0.7	(提出)冷 (保存)凍 (3ケ月)				㊻ 滅菌スピッツ			
			患部 ぬぐい液	凍（3ヶ月）				㊻ 滅菌スピッツ ＊1			

●単純ヘルペスウイルス特異抗原●

・検体の採取方法
病巣基底細胞が多数得られるように採取して下さい。
早期の水疱病巣が検体として最適です。
水疱内容液および膿は、検体として不適当です。
①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。（図1）
②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセット等で除去します。（図2）
③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。
④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。（図3）
注意…膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取して下さい。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意して下さい。

図1

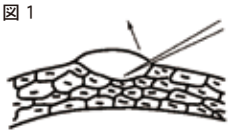
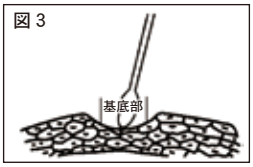


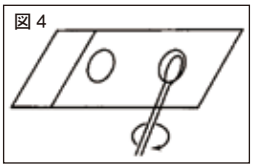
図2

図3



・検体の塗抹
①綿棒を回転させながらスライドグラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドグラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意して下さい。（図4）
②綿棒を捨てる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。
③そのまま風乾します。
④乾燥したスライドグラス上に充分な量（検体にゆきわたる）のアセトンを添加し、蒸発させます。
検体はスライドグラス2枚をご提出ください。

図4



・検体の保存
乾燥後のスライドグラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名等を記入後、凍結保存して下さい。

●【2504】単純ヘルペスウイルスDNA定性、【1884】水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定性●

＊1　患者ぬぐい液の検体取扱い方法
患部をぬぐった滅菌綿棒を1mLのPBSまたは生理食塩水が入った滅菌ポリスピッツに入れ、そのまま凍結保存して下さい。

ウイルス抗原検査

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
ウイルス抗原検査	2774 5F194	サイトメガロウイルスpp65抗原（アンチジェネミア法）予	EDTA加血液5.0	冷 凍結不可	間接酵素抗体法（アンチジェネミア法）	判定（－） 陽性細胞数スライド1：0個 陽性細胞数スライド2：0個	3～4	⑫ EDTA容器	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	356 免疫 注①	③
	3481 5F194	サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）予	EDTA加血液3.0	室	直接酵素抗体法	陰性	3～5	⑫ EDTA容器		356 免疫 注①	④
	5371 5F101	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（ハイリスクグループ）	ぬぐい液	冷 （3週）	ハイブリッドキャプチャー	陰性（－） index 1.00未満	3～4	㉘ 専用容器 （一般）（妊婦）	HPVとして、16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型の“中～高リスク型”HPVを検出致します。 ただし型別の判定ではありません。 保険請求の際は「HPV核酸検出」として算定して下さい。	347 微生 注② 注③	③
	5377 5F101	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（LBC）（ハイリスクグループ）	LBC用採取液6.0	冷 （1ヶ月）	ハイブリッドキャプチャー	陰性（－） index 1.00未満	4～5	㊹または㉛ LBC 専用容器		347 微生 注② 注③	③
	5372 5F102	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（ローリスクグループ）	ぬぐい液	冷 （2週）	ハイブリッドキャプチャー	陰性（－） index 1.00未満	3～9	㉘ 専用容器 （一般）（妊婦）	6、11、42、43、44型の“低リスク型”HPVを検出致します。 ただし型別の判定ではありません。	－	③
	3946 5F101	HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（LBC）（16・18・他ハイリスクグループ）	LBC用採取液2.0	冷 （2週）	ロシュ/リアルタイムPCR	16型判定 陰性 18型判定 陰性 その他ハイリスクグループ 陰性	3～5	㊹または㉛ LBC 専用容器	保険請求の際は「HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）」として算定して下さい。 ＊1	347 微生 注② 注③	④
	3960 5F101	HPV（ヒトパピローマウイルス）ジェノタイプ判定	LBC用採取液3.0	冷 （4週）	PCR-rSSO法	陰性	5～7	㊹ LBC 専用容器	保険請求の際は「HPVジェノタイプ判定」として算定して下さい。 ＊2	2000 微生 注④	④
	2753	SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）抗原	鼻咽頭ぬぐい液	室 冷 （2日）	CLEIA法	検出せず	1～2	㊽ ウイルス輸送液		560 免疫	①
	2754	SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）抗原	唾液	室 冷 （2日）	CLEIA法	検出せず	1～2	㊾ 滅菌スピッツ（ストロー付）		560 免疫	①

＊1　16型、18型の型別判定を行います。その他、66型を含む12種類の高リスク型HPV（31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66、68型）については、いずれか、または全ての型に感染している場合に陽性となります。どの型に感染しているかは判別できません。

＊2　検出可能な型は16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型です。

注①　「サイトメガロウイルスpp65抗原」は、臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者またはHIV感染者または高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合のみ算定できます。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、検査が必要であった理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

注②　「HPV核酸検出」および「HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）」は、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者または過去に子宮頸部円錐切除もしくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できます。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できません。

注③　「HPV核酸検出」と「HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）」を併せて実施した場合は、主たるもの１つに限り算定できます。

注④　「HPVジェノタイプ判定」は、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、予め行われた組織診断の結果、CIN1またはCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定できます。算定に当たっては、予め行われた組織診断の実施日および組織診断の結果、CIN1またはCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。同一の患者について、２回目以降の検査を行う場合は、前回の検査実施日も診療報酬明細書の摘要欄に併せて記載する必要があります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
細胞形態検査	1881 5I020	T細胞・B細胞百分率 予	EDTA 加血液 3.0	室	フローサイトメトリー ［T細胞］CD2 ［B細胞］CD20	下記参照	3〜4	③ EDTA-2K (3mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	193 免疫	③
		Single-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査） 予	EDTA 加血液 3.0 *1	室	フローサイトメトリー	84ページ参照	3〜4	③ EDTA-2K (3mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	185 免疫 注①	③
		Two-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査） 予	EDTA 加血液 3.0 *2	室	フローサイトメトリー	84ページ参照	3〜4	③ EDTA-2K (3mL)		185 免疫 注①	③
	2262	白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45ゲーティング（造血器悪性腫瘍細胞抗原検査） 予	ヘパリン 加血液 5.0	室	フローサイトメトリー		4〜6	⑪ ヘパリン容器 (5mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	1940 血液 注②	④
	3439	悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45ゲーティング（造血器悪性腫瘍細胞抗原検査） 予	ヘパリン 加血液 5.0	室	フローサイトメトリー		4〜6	⑪ ヘパリン容器 (5mL)			
	3073 5I021	B細胞表面免疫グロブリン（Sm-Ig） Sm-IgG 予	EDTA 加血液 3.0	室	フローサイトメトリー	3～12 % 44～271 /μL	3〜4	③ EDTA-2K (3mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	157 免疫	③
	3074 5I022	Sm-IgA				3～9 % 35～205 /μL					
	3075 5I023	Sm-IgM				2～7 % 24～138 /μL					
	3076 5I024	Sm-IgD				1～6 % 1～145 /μL					
	3077 5I025	Sm-Ig κ鎖				1～13 % 4～279 /μL					
	3078 5I026	Sm-Ig λ鎖				1～10 % 8～204 /μL					
	3904 5D596	CCR4タンパク（FCM） 予	ヘパリン 加血液 5.0	室	フローサイトメトリー	陰性	4〜6	⑪ ヘパリン容器 (5mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 ☆成人T細胞白血病（ATL）では約90%の症例に発現するとされています。	10000 血液 注③	④

＊1　検体量は5抗体まで3mL、それを超える場合5抗体追加ごとに2mL追加してご提出下さい。
＊2　検体量は1組追加ごとに1mL追加してご提出下さい。
注①　「T細胞サブセット検査」として免疫不全の診断目的に行った場合に一連として算定できます。
注②　白血病細胞または悪性リンパ腫細胞の表面抗原または細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定できます。保険請求の際は「造血器腫瘍細胞抗原検査（一連につき）」として算定して下さい。
注③　「CCR4タンパク（FCM）」および「CCR4タンパク（IHC）」を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみの算定となります。
ただし、医学的な必要性がある場合には、併せて実施した場合であっても、いずれの点数も算定できます。
なお、この場合においては、診療報酬明細書の摘要欄にその理由および医学的な必要性を記載して下さい。

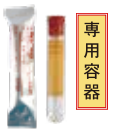
◆1881　T細胞・B細胞百分率◆

	陽性細胞 百分率(%)	陽性細胞 絶対数(/μL)
T細胞	72～90	605 ～ 2,564
B細胞	7 ～30	70 ～ 663

◆2262・3439　白血病・リンパ腫解析検査・悪性リンパ腫解析検査◆

検査項目	モノクローナル抗体
白血病・リンパ腫解析	CD1a CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD13 CD14 CD19 CD20 CD33 CD34 CD41 CD56 GP-A HLA-DR
悪性リンパ腫解析	CD2 CD3 CD4 CD5 CD7 CD8 CD10 CD11c CD16 CD19 CD20 CD23 CD25 CD30 CD34 CD56 κ-chain λ-chain

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
細胞機能検査	2588 5I010	リンパ球幼若化試験（リンパ球分離培養法）予	PHA	保存液加血液各5.0	室	^{3}H-サイミジン取込能測定法	41000～79900 コントロール180～660 cpm	7～8	㉑  専用容器	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 白血球が3000/μL以下の場合は倍量採取し、ご提出下さい。 マイトジェンは、PHA、ConA、PWMの中からご指定下さい。特にご指定のない場合は、PHAのみにて検査させていただきます。	345 免疫	③
	2591 5I011		ConA				34400～62300 コントロール180～660 cpm					
	2594 5I012		PWM				13800～40400 コントロール360～1430 cpm	8～9			PWMは 適用外	
	2643 5I014	薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）予	1薬剤	ヘパリン加血液12.0と依頼薬剤	室	^{3}H-サイミジン取込能測定法	陰性	9～11	⑪ ヘパリン容器	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっており、専用依頼書が必要となりますので、事前にご連絡下さい。 注① 1薬剤増すごとに血液5.0mL必要です。下記参照	345 免疫	④
	5513 5I014		2薬剤								425 免疫	
	5514 5I014		3薬剤								3薬剤以上 515 免疫	
	2622 5I970	好中球貪食能 予		血液2.0	室	フローサイトメトリー	70～87 %	3～4	⑪ ヘパリン容器	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 ＊1	—	③
	2623 5I990	好中球殺菌能 予		血液2.0	室	フローサイトメトリー	93～97 %	3～4	⑪ ヘパリン容器		—	③
	2261 5J095	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）		血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷（2週）	ラテックス凝集比濁法	122～496 U/mL	1～2	① 生化スピッツ		438 生Ⅱ 注②	①
	1992 5J130	インターロイキン-6（IL-6）		血液2.0 遠心 EDTA血漿0.5	冷 凍	CLEIA	2.41以下 pg/mL		⑫ EDTA-2Na		—	③

＊1　「好中球貪食能」、「好中球殺菌能」を同時にご依頼の場合は血液2mLにて検査可能です。
注①　「薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）」は、薬疹の原因と考えられる医薬品を用いて実施した場合に算定できます。
注②　「可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）」は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できます。また、非ホジキンリンパ腫またはATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としての算定になります。

●2643、5513、5514　薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）の留意点●

1．1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。
2．1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。
3．目安として白血球数が3,000/μL以下の場合は倍量程度を採血しご提出下さい。なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業までお問い合わせ下さい。
4．2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示下さい。
5．血液と同時にご依頼薬剤もご提出下さい。
・錠剤（1錠）　・カプセル（1カプセル）　・粉末（1回投与量程度1包）
・リキッドタイプの飲み薬（0.5mL程度）　・注射薬（1バイアル〔アンプル〕）
皮内反応用テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業までご連絡下さい。
6．ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て保存液入り専用容器（お問い合わせ下さい）に採血しご提出下さい。
7．法律により規制される薬剤は受託できませんので、予めご了承下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
HLA検査	2040 5K020	HLA型判定 （A,B Locus） 予		EDTA 加血液 2.0	冷	PCR-rSSO法	85ページ参照	4 ～ 6	③ EDTA−2K	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 下記参照	—	③
	2044 5K065	HLA型判定 （DR Locus） 予										
染色体検査	2265	染色体 G-Banding 予 専	血液疾患	ヘパリン 加血液 5.0	冷	G-band		9 ～ 15	⑪ ヘパリン容器	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっており、専用依頼書が必要となりますので、事前にご連絡下さい。 血液疾患の対象疾患名および留意事項は下記参照下さい。	2874 加算 遺染	④
				骨髄液 1.0					㉖ 専用容器			
			先天異常 *1 8B200	ヘパリン 加血液 3.0				8 ～ 17	⑪ ヘパリン容器			

*1 「ヒトゲノム・遺伝子倫理指針」対象項目となります。依頼される場合はこの趣旨の説明等がございますので事前にご連絡下さい。

●2040、2044　ＨＬＡ型判定検査の留意点●

1）「ＨＬＡ型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互のcross contaminationを防ぐため、以下の点にご注意下さい。
　①真空採血管を使用し、採血して下さい。
　②素手で採血管のゴムキャップに触れないで下さい。
　③同一検体で他の項目との同時依頼をしないで下さい。
　④キャップの開封、分取などが必要な場合は、必ず１検体ずつ処理して下さい。
2）複数項目を同時にご依頼の場合、ＨＬＡ型判定はＥＤＴＡ加血液２mLで検査可能です。
3）有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となることがあります。白血球数が3,000/μL以下の場合、所定量の２倍の血液をご提出下さい。
4）血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせ下さい。

●2265　血液疾患染色体検査（G-Banding）留意事項●

1. ステロイド系薬剤、アルキル化薬剤、および代謝拮抗薬剤の投与中は染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。
2. 末梢血液でご依頼の際、血中に幼若細胞（blast）の出現がみられない場合、また寛解期患者の血液では染色体分裂像が得られず検査ができない場合があります。
3. 判定に時間を要する場合は、所要日数が20日前後となります。

◆2265　血液疾患染色体（G-Banding）対象疾患名◆

・該当する疾患名にてご依頼下さい。

	Myeloid系	Lymphoid系
	疾　患　名	疾　患　名
G-Banding	MDS（骨髄異形成症候群）	ＡＬＬ（急性リンパ性白血病）
	MPN（骨髄増殖性腫瘍）	ＣＬＬ（慢性リンパ性白血病）
	AML（急性骨髄性白血病）	ＭＬ（悪性リンパ腫）
	BMT（骨髄移植）	ＭＭ／ＰＬ（多発性骨髄腫／形質細胞性白血病）
	その他	その他

Single-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）

項目名		抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率(%)	陽性細胞絶対数(/μL)
T細胞系				
3351	CD1a	胸腺細胞	1以下	25以下
3352	CD2	T細胞、NK細胞、LFA-2（E-ロゼットレセプター）	72～90	605～2564
2030	CD3	成熟T細胞（TCRα・β・γ・δに結合）	56～86	547～2155
2031	CD4	helper/inducer T細胞（HIV-レセプター）	29～55	344～1289
3353	CD5	T細胞、B細胞サブセット	56～84	688～1861
3354	CD7	T細胞、NK細胞、未成熟骨髄細胞サブセット	58～86	612～2131
2032	CD8	suppressor/cytotoxic T細胞、NK細胞サブセット	19～41	110～1066
3355	CD38	前駆細胞、形質細胞、活性化T細胞、B細胞、胸腺細胞	26～63	373～1126
3356	TCRγ/δ	T細胞	11以下	237以下
B細胞系				
3357	CD10	common ALL、pre-B細胞、胸腺細胞サブセット、顆粒球	1以下	31以下
3358	CD19	pro-B細胞を含むB細胞	6～23	77～470
3359	CD20	B細胞、濾胞内樹状細胞	7～30	70～663
3360	CD21	成熟B細胞（CR2、EBVレセプター）	2～19	33～476
3361	CD22	B細胞全般（BL-CAM）	3～20	88～292
3362	CD23	〈A型〉成熟B細胞全般〈B型〉活性化B細胞、好酸球、単球/マクロファージ、血小板(Fcεレセプター Ⅱ)	9以下	200以下
3363	CD24	B細胞、顆粒球	5～24	52～523
接着分子				
CD11b		単球、NK細胞、顆粒球、マクロファージ（MAC-1α、インテグリンαM、CR3）	11～41	171～1187
CD11c		単球、顆粒球、マクロファージ（p150、インテグリンαX、CR4）	2～22	37～352

●CD４とCD８を同時にご依頼の場合はCD４/CD８比をご報告させていただきます。

CD４/CD８比	0.6～2.4

項目名		抗原分布（別名、機能）	陽性細胞百分率(%)	陽性細胞絶対数(/μL)
骨髄球系				
3364	CD13	単球、顆粒球、骨髄細胞	4以下	89以下
3365	CD14	単球、樹状細胞、マクロファージ	2以下	43以下
3366	CD15	顆粒球、ホジキン病	4以下	109以下
3367	CD16	NK細胞、顆粒球、マクロファージ、単球(Fc-γレセプター ⅢA/ⅢB)	3～33	22～572
3368	CD33	単球、骨髄細胞	2以下	56以下
3369	CD34	造血前駆細胞	2以下	31以下
3370	CD35	顆粒球、単球/マクロファージ、赤血球、B細胞、一部のNK細胞（CR1）	6～24	36～464
NK細胞系				
3371	CD56	NK細胞、T細胞サブセット（N-CAM、NKH1）	4～35	14～634
3372	CD57	NK細胞サブセット、T細胞サブセット（HNK1）	4～30	74～547
その他				
CD25		活性化T細胞、B細胞、活性化マクロファージ（Tac抗原、IL-2Rα）	8以下	178以下
CD30		活性化T/B細胞、Reed-Sternberg/Hodgkin細胞、伝染性単核症の異型リンパ球、未分化大細胞性リンパ腫細胞、成人T細胞白血病細胞、正常リンパ組織の大型リンパ芽球	3以下	109以下
3373	CD41	血小板、巨核球（GPⅡbⅢa）	5以下	73以下
3374	CD42b	血小板、巨核球（GPⅠbα）	2以下	30以下
CD71		活性化細胞（T9抗原、トランスフェリンレセプター）	6以下	187以下
抗HLA-DR		B細胞、単球、活性化T細胞（HLAクラスⅡ-DR抗原）	11～36	146～722
抗HLA-DQ		B細胞サブセット（HLAクラスⅡ-DQ抗原）	7～20	100～411
抗グリコホリンA		赤芽球、赤血球	7以下	206以下

●陽性細胞百分率および絶対数はリンパ球領域をゲーティングした場合です。
●上記以外のモノクローナル抗体につきましては、営業担当者までお問い合わせ下さい。

Two-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）

モノクローナル抗体の組み合わせ		陽性細胞百分率(%)	陽性細胞絶対数(/μL)
CD3×抗HLA-DR	$CD3^+$抗$HLA\text{-}DR^+$	11以下	203以下
	$CD3^+$抗$HLA\text{-}DR^-$	55 ～ 84	593 ～ 2018
	$CD3^-$抗$HLA\text{-}DR^+$	1 ～ 16	72 ～ 292
	$CD3^-$抗$HLA\text{-}DR^-$	2 ～ 29	21 ～ 529
CD4×抗HLA-DR	$CD4^+$抗$HLA\text{-}DR^+$	4以下	70以下
	$CD4^+$抗$HLA\text{-}DR^-$	28 ～ 56	364 ～ 1234
	$CD4^-$抗$HLA\text{-}DR^+$	4 ～ 19	29 ～ 391
	$CD4^-$抗$HLA\text{-}DR^-$	25 ～ 60	289 ～ 1319
CD8×抗HLA-DR	$CD8^+$抗$HLA\text{-}DR^+$	7以下	126以下
	$CD8^+$抗$HLA\text{-}DR^-$	16 ～ 39	88 ～ 1009
	$CD8^-$抗$HLA\text{-}DR^+$	4 ～ 19	35 ～ 405
	$CD8^-$抗$HLA\text{-}DR^-$	46 ～ 67	516 ～ 1645
CD3×CD56	$CD3^+CD56^+$	11以下	153以下
	$CD3^+CD56^-$	48 ～ 81	553 ～ 1477
	$CD3^-CD56^+$	7 ～ 17	35 ～ 307
	$CD3^-CD56^-$	11 ～ 27	156 ～ 296
CD4×CD8	$CD4^+CD8^+$	1以下	36以下
	$CD4^+CD8^-$	28 ～ 57	324 ～ 1322
	$CD4^-CD8^+$	9 ～ 38	130 ～ 696
	$CD4^-CD8^-$	15 ～ 45	172 ～ 977
CD4×CD29	$CD4^+CD29^+$	12 ～ 36	126 ～ 800
	$CD4^+CD29^-$	7 ～ 29	74 ～ 622
	$CD4^-CD29^+$	16 ～ 50	129 ～ 1105
	$CD4^-CD29^-$	7 ～ 38	123 ～ 651

モノクローナル抗体の組み合わせ		陽性細胞百分率(%)	陽性細胞絶対数(/μL)
CD4×CD45RA	$CD4^+CD45RA^+$	5 ～ 21	60 ～ 456
	$CD4^+CD45RA^-$	16 ～ 49	180 ～ 1065
	$CD4^-CD45RA^+$	20 ～ 47	188 ～ 1136
	$CD4^-CD45RA^-$	2 ～ 34	61 ～ 501
CD4×CD45RO	$CD4^+CD45RO^+$	16 ～ 33	67 ～ 777
	$CD4^+CD45RO^-$	2 ～ 24	52 ～ 368
	$CD4^-CD45RO^+$	10 ～ 36	42 ～ 580
	$CD4^-CD45RO^-$	32 ～ 51	358 ～ 997
CD5×CD20	$CD5^+CD20^+$	10以下	161以下
	$CD5^+CD20^-$	47 ～ 85	584 ～ 1779
	$CD5^-CD20^+$	16以下	290以下
	$CD5^-CD20^-$	4 ～ 34	30 ～ 717
CD8×CD11b	$brightCD8^+CD11b^+$	9以下	150以下
	$brightCD8^+CD11b^-$	6 ～ 25	83 ～ 480
	$brightCD8^-dullCD8^+CD11b^+$	40以下	806以下
	$CD8^-CD11b^-$	34 ～ 73	334 ～ 1753
CD57×CD16	$CD57^+CD16^+$	19以下	308以下
	$CD57^+CD16^-$	22以下	358以下
	$CD57^-CD16^+$	7以下	133以下
	$CD57^-CD16^-$	55 ～ 95	651 ～ 2165
抗TCRγ/δ×CD3	抗TCRγ/δ$^+CD3^+$	8以下	209以下
	抗TCRγ/δ$^+CD3^-$	0	0
	抗TCRγ/δ$^-CD3^+$	50 ～ 81	378 ～ 2275
	抗TCRγ/δ$^-CD3^-$	13 ～ 44	124 ～ 956

●上記以外のモノクローナル抗体の組み合わせにつきましては、営業担当者または検査室までお問い合わせ下さい。

日本人集団におけるＨＬＡ遺伝子頻度と対応抗原

A Locus			
抗原	アリル	頻度１	頻度２
A-1	A*01:01	0.2%	0.25%
A-2	A*02:01	10.9%	11.64%
A-2	A*02:03	r	0.10%
A-2	A*02:06	10.4%	8.74%
A-2	A*02:07	3.4%	3.39%
A-2	A*02:10	0.1%	0.44%
Null	A*02:15N	vr	vr
A-2	A*02:18	r	0.05%
−	A*02:28	r	r
A-2	A*02:42	vr	vr
A-3	A*03:01	0.8%	0.25%
A-3	A*03:02	r	0.10%
A-11	A*11:01	8.1%	10.22%
A-11	A*11:02	0.1%	0.25%
A-23	A*23:01	−	−
A-24	A*24:02	35.6%	36.20%
A-24	A*24:04	r	0.15%
A-24	A*24:08	r	r
A-24	A*24:20	r	0.83%
A-25	A*25:01	−	−
A-26	A*26:01	9.8%	7.66%
A-26	A*26:02	2.2%	2.31%
A-26	A*26:03	2.1%	1.47%
A-26	A*26:04	vr	vr
A-26	A*26:05	r	0.05%
A-26	A*26:06	vr	vr
Null	A*26:11N	vr	vr
A-29	A*29:01	vr	vr
A-30	A*30:01	0.3%	0.10%
A-30	A*30:04	vr	vr
A-31	A*31:01	7.7%	9.14%
A-31	A*31:05	vr	vr
A-32	A*32:01	vr	vr
A-33	A*33:03	7.9%	6.68%
A-34	A*34:01	vr	vr
A-36	A*36:01	−	−
A-43	A*43:01	−	−
A-66	A*66:01	−	−
A-68	A*68:01	r	r
A-69	A*69:01	−	−
A-74	A*74:01	−	−

B Locus			
抗原	アリル	頻度１	頻度２
B-7	B*07:02	5.2%	5.70%
B-7	B*07:05	r	r
B-8	B*08:01	−	−
B-13	B*13:01	0.9%	1.28%
B-13	B*13:02	0.1%	0.25%
B-64	B*14:01/54	r	r
B-62	B*15:01	7.2%	7.51%
B-75	B*15:02	r	0.05%
B-72	B*15:03	r	r
B-62	B*15:05	vr	0.05%
B-62	B*15:07	0.7%	0.44%
B-70	B*15:09	vr	vr
B-75	B*15:11	1.0%	0.83%
B-71	B*15:18	0.9%	1.72%
Null	B*15:26N	vr	vr
B-62	B*15:27	vr	0.29%
B-62	B*15:28	r	0.05%
−	B*15:38	r	r
B-72	B*15:46	vr	vr
−	B*15:60	vr	vr
B-18	B*18:01	−	−
B-27	B*27:02	vr	vr
B-27	B*27:04	r	0.20%
B-27	B*27:05	r	0.05%
B-27	B*27:11	vr	vr
B-35	B*35:01	8.6%	7.76%
B-35	B*35:05	vr	0.05%
B-35	B*35:10	vr	vr
B-35	B*35:21	vr	vr
B-35	B*35:35	vr	vr
B-35	B*35:43	vr	vr
B-37	B*37:01	0.2%	0.44%
B-38	B*38:02	0.3%	0.25%
B-39	B*39:01	4.0%	3.44%
B-39	B*39:02	0.2%	0.39%
B-39	B*39:04	0.2%	0.20%
B-39	B*39:23	r	0.05%
B-60	B*40:01	5.1%	5.40%
B-61	B*40:02	8.2%	8.25%
B-61	B*40:03	1.1%	0.25%
B-61	B*40:06	5.3%	5.26%

B Locus（続き）			
抗原	アリル	頻度１	頻度２
B-60	B*40:07	vr	vr
B-61	B*40:29	vr	vr
B-41	B*41:01	−	−
B-42	B*42:01	−	−
B-44	B*44:02	1.0%	0.34%
B-44	B*44:03	6.9%	6.24%
B-45	B*45:01	−	−
B-46	B*46:01	3.8%	4.96%
B-46	B*46:02	vr	vr
B-47	B*47:01	−	−
B-48	B*48:01	2.7%	2.65%
B-49	B*49:01	−	−
B-50	B*50:01	−	−
B-51	B*51:01	7.9%	8.35%
B-51	B*51:02	0.1%	0.29%
B-51	B*51:03	vr	vr
B-52	B*52:01	13.7%	10.90%
B-53	B*53:01	−	−
B-54	B*54:01	6.5%	8.79%
B-54	B*54:02	vr	vr
B-55	B*55:02	3.2%	1.92%
B-55	B*55:04	r	0.05%
B-55	B*55:10	vr	vr
B-56	B*56:01	1.0%	1.47%
B-22	B*56:03	0.2%	0.05%
B-56	B*56:05	vr	vr
B-57	B*57:01	0.1%	r
B-58	B*58:01	0.6%	0.49%
B-59	B*59:01	1.7%	1.96%
B-67	B*67:01	1.0%	1.38%
B-78	B*78:02	vr	vr
B-81	B*81:01	vr	vr

DRB1			
抗原	アリル	頻度３	頻度２
DR-1	DRB1*01:01	4.76%	5.60%
DR-17	DRB1*03:01	0.22%	0.05%
DR-18	DRB1*03:02	−	−
DR-4	DRB1*04:01	1.16%	1.28%
DR-4	DRB1*04:03	3.00%	3.00%
DR-4	DRB1*04:04	0.22%	0.34%
DR-4	DRB1*04:05	15.51%	14.05%
DR-4	DRB1*04:06	3.22%	3.49%
DR-4	DRB1*04:07	0.44%	0.49%
DR-4	DRB1*04:10	1.82%	1.82%
DR-7	DRB1*07:01	0.81%	0.20%
DR-8	DRB1*08:02	4.99%	4.91%
DR-8	DRB1*08:03	7.55%	9.43%
DR-8	DRB1*08:09	r	0.05%
DR-9	DRB1*09:01	12.38%	14.88%
DR-10	DRB1*10:01	0.59%	0.39%
DR-11	DRB1*11:01	2.94%	2.80%
DR-12	DRB1*12:01	3.90%	3.59%
DR-12	DRB1*12:02	2.66%	1.72%
DR-13	DRB1*13:01	0.86%	0.44%
DR-13	DRB1*13:02	5.25%	6.43%
DR-13	DRB1*13:07	0.11%	0.10%
DR-13	DRB1*13:12	vr	0.05%
DR-14	DRB1*14:02	r	0.05%
DR-14	DRB1*14:03	1.57%	1.28%
DR-14	DRB1*14:05	2.56%	2.16%
DR-14	DRB1*14:06	1.36%	1.28%
DR-14	DRB1*14:07	0.27%	0.10%
DR-14	DRB1*14:12	r	0.05%
DR-14	DRB1*14:29	r	r
DR-14	DRB1*14:54	4.45%	3.83%
DR-15	DRB1*15:01	6.08%	5.75%
DR-15	DRB1*15:02	8.74%	9.87%
DR-16	DRB1*16:02	0.55%	0.54%

頻度１：Tanaka H, et al. ：Clinical Transplants：139,1996.
による日本人Ｎ＝493のアリル頻度
頻度２：Azuma F, et al.：ＭＨＣ：166, 2004.
発表資料による日本人Ｎ＝1018のアリル頻度
頻度３：Hashimoto M, et al. ：Tissue Antigens：166,1994.
による日本人Ｎ＝916のアリル頻度
その他，低頻度により上記の調査で検出されなかったアリルを「rare」とし，さらに低頻度と思われるものを「very rare」とした。
ｒ：rare
ｖｒ：very rare
－：日本人に検出されないアリル

日本組織適合性学会ホームページより抜粋
監修：東海大学 医学部 基礎医学系 分子生命科学
教授　猪子　英俊

ＨＬＡ型の種類

A Locus	
A-1	A-30（19）
A-2	A-31（19）
A-3	A-32（19）
A-9	A-33（19）
A-10	A-34（10）
A-11	A-36
A-23（9）	A-43
A-24（9）	A-66（10）
A-25（10）	A-68（28）
A-26（10）	A-69（28）
A-28	A-74（19）
A-29（19）	A-80

B Locus			
B-7	B-38（16）	B-52（5）	B-65（14）
B-8	B-39（16）	B-53	B-67
B-12	B-40	B-54（22）	B-70
B-13	B-41	B-55（22）	B-71（70）
B-14	B-42	B-56（22）	B-72（70）
B-15	B-44（12）	B-57（17）	B-73
B-16	B-45（12）	B-58（17）	B-75（15）
B-18	B-46	B-59	B-76（15）
B-21	B-47	B-60（40）	B-77（15）
B-22	B-48	B-61（40）	B-78
B-27	B-49（21）	B-62（15）	B-81
B-35	B-50（21）	B-63（15）	
B-37	B-51（5）	B-64（14）	

DR Locus	
DR-1	DR-10
DR-2	DR-11（5）
DR-3	DR-12（5）
DR-4	DR-13（6）
DR-5	DR-14（6）
DR-6	DR-15（2）
DR-7	DR-16（2）
DR-8	DR-17（3）
DR-9	DR-18（3）

● 「Nomenclature for factor of HLA system 2004」より抜粋

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
白血病関連・遺伝子・染色体	2612 8B395	BCR-ABL1 t(9;22)転座 予	ヘパリン加血液 5.0	冷	FISH		8〜11	⑪ ヘパリン容器 (5mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 骨髄液でも検査可 (容器番号㊱)	2477 遺染	④
	3187 8B396	末梢血好中球 BCR-ABL1 t(9;22)転座 予	ヘパリン加血液 5.0	冷	FISH		8〜11	⑪ ヘパリン容器 (5mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	2477 遺染	④
	3998 8C125	Major BCR-ABL 高感度IS% 予	EDTA加血液 7.0	冷	リアルタイム RT-PCR法	国際標準（IS：International Scale）に換算したBCR-ABLIS(%)および実測値を報告致します。	5〜8	⑫ EDTA-2Na (7mL)	開栓厳禁 受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。	2520 遺染 注①	⑤
	3233 8C505	WT1 mRNA定量 予	EDTA加血液 7.0	冷	RT-PCR （リアルタイムPCR）	コピー／μgRNA	5〜7	⑫ EDTA-2Na (7mL)	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。 骨髄液でも検査可 (容器番号㊱)	2520 遺染 注②	④
癌遺伝子関連検査	3317 8C933	UGT1A1遺伝子 多型解析 予	EDTA加血液 2.0	冷	インベーダー法		6〜10	③ EDTA-2K	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっており、専用依頼書が必要となりますので、事前にご連絡下さい。	2004 遺染 注③	③
	8489 8C241	RAS・BRAF 遺伝子変異解析	未染標本スライド 5～10枚	室	PCR-rSSO法	判定： 「変異陰性」あるいは「変異陽性」 各変異： (－)あるいは (＋)	5〜9		KRAS、NRAS共にコドン12、13、59、61、117、146の変異を、BRAFはコドン600の変異を解析対象としています。 ＊1、2	4000 遺染 注④ 注⑤	⑤
	8434 8C051	EGFR遺伝子 変異解析 v2.0	未染標本スライド 5～10枚	室	リアルタイム PCR法	判定： 「検出されず」あるいは「陽性」 各変異： (－)あるいは (＋)	4〜7		G719X、Exon19DEL、S768I、Exon20INS、T790M、L858R、L861Qの42種類の変異型を検出します。 ＊1、2、3	2500 遺染 注④ 注⑤ 注⑥	⑤
	8477 8C055	ROS1融合 遺伝子解析	未染標本スライド 5～10枚	室	リアルタイム PCR法		5〜8			2500 遺染 注④ 注⑤	③
	3899 8C059	c-kit遺伝子変異解析 （GIST）	パラフィンブロック ＊4	室	ダイレクト シーケンス法		12〜24		c-kit遺伝子exon9、11の変異解析を目的としております。ご依頼の際は、5899腫瘍部位確認検査も併せてご依頼下さい。	2100 遺染 注④ 注⑤	④

＊1　予め病理・細胞診検査で癌細胞が含まれていることが確認された検体をご提出下さい。
＊2　病理検査材料は、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定液の種類や、固定時間といった保存状況、保存年数によっては、解析不可能なことがありますのであらかじめご了承下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。
＊3　病理材料以外では受託できません。胸水、肺胞洗浄液でEGFR遺伝子変異解析を依頼される場合は事前に提出方法等をお問い合わせ下さい。
＊4　弊社病理検査にて悪性腫瘍が確認された検体で依頼される場合は当該記録番号を記載して下さい。
　　直接スライド、組織等を提出される場合はお問い合わせ下さい。
注①　「Major BCR-ABL 高感度 IS%」は、Major BCR-ABL 1 mRNA 定量（国際標準値）の「診断の補助に用いるもの」と「モニタリングに用いるもの」の両方に該当します。
注②　「WT1 mRNA 定量」は、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病または骨髄異形成症候群の診断の補助または経過観察時に行った場合に月 1 回を限度として算定できます。
注③　「UGT1A1 遺伝子多型解析」は、塩酸イリノテカンの投与対象となる患者に対して、その投与量等を判断することを目的として測定を行った場合、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に 1 回を限度として算定できます。
注④　「悪性腫瘍遺伝子検査」は、悪性腫瘍の詳細な診断および治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った検査について、患者 1 人につき 1 回に限り算定できます。
注⑤　「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」、「免疫関連遺伝子再構成」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は主たるもののみ算定します。
注⑥　肺癌における「EGFR 遺伝子変異解析 v2.0」については、再発や憎悪により、2 次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法選択する必要がある場合にも算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
抗てんかん剤	1848 3L175	フェノバルビタール	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1日)	CLIA	10.0～40.0 μg/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・フェノバール ・ワコビタール ・ルミナール	管理料 〔470〕	①
	1849 3L190	プリミドン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	EIA	5.0～12.0 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・プリミドン ・プリムロン	管理料 〔470〕	④
	1850 3L185	フェニトイン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1日)	CLIA	10～20 μg/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・アレビアチン ・ヒダントール ・ジフェニルヒダントイン	管理料 〔470〕	①
	1851 3L115	カルバマゼピン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1日)	CLIA	4.0～12.0 μg/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・テグレトール ・テレスミン ・レキシン	管理料 〔470〕	①
	2979 3L135	エトスクシミド	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	EIA	40.0～100.0 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名･薬剤名等 ・ザロンチン ・エピレオプチマル	管理料 〔470〕	④
	1852 3L195	バルプロ酸	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (1日)	CLIA	40～125 μg/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名･薬剤名等 ・デパケン ・エピレナート ・セレニカ R ・バレリン ・ハイセレニン	管理料 〔470〕	①
	2052 3L210	ゾニサミド	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	ラテックス凝集法	10～30 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名･薬剤名等 ・エクセグラン	管理料 〔470〕	④
	1853 3L205	トリメタジオン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 凍 (12日)	LC-MS/MS	300～500 μg/mL	8 ～ 14	⑤ 薬物専用容器	活性代謝物であるジメタジオンを測定 製品名・薬剤名等 ・ミノアレ	管理料 〔470〕	④
	1854 3L125	クロナゼパム	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	20～70 ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・リボトリール ・ランドセン	管理料 〔470〕	④
	2978 3L165	ニトラゼパム	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	20～200 ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・ベンザリン ・ネルボン	管理料 〔470〕	④
	2051 3L130	ジアゼパム	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	HPLC	ジアゼパム 600～1000 ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	N- デスメチルジアゼパムも同時報告 製品名・薬剤名等 ・セルシン ・ホリゾン ・ジアパックス	管理料 〔470〕	④
	5588 3L145	クロバザム	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	デスメチルクロバザムも同時報告 製品名・薬剤名等 ・マイスタン	管理料 〔470〕	④

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
抗てんかん剤	3116 3L215	ガバペンチン	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷	ＬＣ／ＭＳ／ＭＳ	μg/mL	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	製品名・薬剤名等 ・ガバペン錠	管理料 〔470〕	④
	3833 3L225	トピラマート	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷	ＬＣ－ＭＳ／ＭＳ	トラフ　5～20 μg/mL （有効治療濃度）	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	製品名・薬剤名等 ・トピナ	管理料 〔470〕	④
	3819 3L230	レベチラセタム	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＬＣ－ＭＳ	トラフ　12～46 μg/mL （有効治療濃度）	4 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・イーケプラ	管理料 〔470〕	③
	3350 3L220	ラモトリギン	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷	ＬＣ-ＭＳ／ＭＳ	トラフ　2.5～15 μg/mL （有効治療濃度）	4 ～ 5	⑪ ヘパリン容器	製品名・薬剤名等 ・ラミクタール	管理料 〔470〕	④
	3990 3L240	ルフィナミド	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＬＣ-ＭＳ／ＭＳ	μg/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	EDTA 血漿でも検査可 （容器番号⑫） 製品名・薬剤名等 ・イノベロン	管理料 〔470〕	③
	8441 3L245	ペランパネル	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷 （1ケ月）	ＬＣ-ＭＳ／ＭＳ	ng/mL	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	EDTA 血漿でも検査可 （容器番号⑫） 製品名・薬剤名等 ・フィコンパ	管理料 〔470〕	④
	8456 3L248	ラコサミド	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷 （1ケ月）	ＬＣ-ＭＳ／ＭＳ	μg/mL	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	EDTA 血漿でも検査可 （容器番号⑫） 製品名・薬剤名等 ・ビムパット	管理料 〔470〕	④
精神神経用剤	1066 3L320	リチウム	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 （1日）	比色法	有効治療濃度 0.40～1.00 mEq/L	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・リーマス ・リチオマール	管理料 〔470〕	①
	1846 3L300	ハロペリドール	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	金コロイド凝集法	3.0～17.0 ng/mL	2 ～ 3	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・セレネース ・ハロマンス ・ハロペリドール	管理料 〔470〕	⑤
	2599 3L302	ブロムペリドール	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	金コロイド凝集法	15.0以下 ng/mL	2 ～ 3	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・ブロムペリドール	管理料 〔470〕	⑤
不整脈用剤	2055 3L875	リドカイン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	ＥＩＡ	1.2～5.0 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・キシロカイン	管理料 〔470〕	④
	2053 3L900	キニジン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	ＫＩＭＳ	2.0～6.0 μg/mL	3 ～ 9	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・硫酸キニジン	管理料 〔470〕	④

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
不整脈用剤	2982 3L865	ジソピラミド	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	EIA	2.0～5.0 μg/mL	2 ～ 3	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・リスモダン ・ジソピラミド	管理料 〔470〕	⑤
	2054 3L890	プロカインアミド	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	EIA	4.0～10.0 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名･薬剤名等 ･アミサリン	管理料 〔470〕	④
	2893 3L897	プロパフェノン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・プロノン	管理料 〔470〕	④
	2698 3L880	メキシレチン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍	LC-MS/MS	有効治療濃度 0.50～2.00 μg/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・メキシチール ・チルミメール ・メキシレチン	管理料 〔470〕	⑤
	2729 3L896	ピルシカイニド	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	0.2～0.9 μg/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名･薬剤名等 ･サンリズム	管理料 〔470〕	④
	2892 3L855	アプリンジン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	0.25～1.25 μg/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・アスペノン	管理料 〔470〕	④
	2099 3L905	フレカイニド	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	200～1000 ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・タンボコール	管理料 〔470〕	④
	2246 3L898	シベンゾリン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷	LC/MS/MS	Trough濃度 70～250 ng/mL	4 ～ 6	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・シベノール	管理料 〔470〕	④
	3492 3L899	ピルメノール	血液4.0 遠心 ヘパリン 血漿1.3	室 冷	HPLC	400.0以上 ng/mL	4 ～ 10	⑪ ヘパリン容器	製品名・薬剤名等 ・ピメノール	管理料 〔470〕	④
	3478 3L800	アミオダロン	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷	LC/MS/MS	有効血中濃度 500～1000 (200mg/日投与、定常状態、トラフ値) ng/mL	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	Desethylamiodarone/Amiodarone=0.8 (定常状態) 製品名・薬剤名等 ・アンカロン	管理料 〔470〕	④
	3922 3L802	ベプリジル	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	室 冷 (3週)	LC/MS/MS	250～800 ng/mL	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	製品名・薬剤名等 ・ベプリコール	管理料 〔470〕	④

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
強心剤	1855 3L765	ジゴキシン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1日)	CLIA	0.5～1.5 ng/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・ジゴシン ・ジゴキシンサンド	管理料 〔470〕	①
気管支拡張剤	1847 3M070	テオフィリン	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷 (1日)	CLIA	5.0～15.0 μg/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・テオドール ・スロービッド ・テオロング ・ユニフィル	管理料 〔470〕	①
抗生剤・抗ウイルス剤	2896 3M606	ゲンタマイシン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・ゲンタシン ・エルタシン ・ルイネシン	管理料 〔470〕	④
	2897 3M602	トブラマイシン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍	EIA	Peak 15～20 Trough 1未満 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・トブラシン	管理料 〔470〕	④
	2647 3M601	アミカシン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 凍	KIMS	Peak 50～60 Trough 4未満 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	アルベカシンとの交差反応があるのでご注意下さい。 製品名・薬剤名等 ・アミカマイシン ・ビクリン	管理料 〔470〕	④
	2597 3M530	バンコマイシン	血液2.0 遠心 血清0.2	室 冷 (2日)	CLIA	Trough 10.0～15.0 μg/mL	1 ～ 2	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・塩酸バンコマイシン	管理料 〔470〕	①
	5581 3M613	アルベカシン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 凍 (3週)	ラテックス凝集比濁法	Peak 15～20 Trough 1～2未満 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・ハベカシン	管理料 〔470〕	④
	1857 3M532	テイコプラニン	血液2.0 遠心 血清0.3	室 冷 (1ケ月)	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 μg/mL	3 ～ 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・タゴシッド	管理料 〔470〕	④
抗真菌剤	3284 3M698	ボリコナゾール	血液2.0 遠心 ヘパリン 血漿0.3	冷 冷	LC/MS/MS	μg/mL	4 ～ 6	⑪ ヘパリン容器	製品名・薬剤名等 ・ブイフェンド	管理料 〔470〕	④
免疫抑制剤	2057 3M805	シクロスポリン	EDTA 加血液 0.7	(提出) 冷 (保存) 凍	ECLIA	ng/mL	3 ～ 5	③ EDTA-2K	他の検査項目との同時依頼はできません。 製品名・薬剤名等 ・ネオーラル ・サンディミュン	管理料 〔470〕	④
	1731 3M810	タクロリムス	EDTA 加血液 0.7	(提出) 冷 (保存) 凍	KIMS	ng/mL	3 ～ 5	③ EDTA-2K	他の検査項目との同時依頼はできません。 製品名・薬剤名等 ・プログラフ ・グラセプター	管理料 〔470〕	④

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
その他	2056 3M725	メトトレキサート	血液2.0 遠心 血清0.5	室 冷	EIA	危険限界濃度 24時間値　10以上 48時間値　1以上 72時間値　0.1以上 μmol/L	3 〜 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・メソトレキセート	管理料 〔470〕	④
	2098 3M205	サリチル酸	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	酵素法	抗炎症作用として 100〜250 μg/mL	3 〜 5	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・アスピリン ・バファリン	管理料 〔470〕	④
	2878 3L005	アセトアミノフェン	血液2.0 遠心 血清0.4	室 冷	EIA	中毒域 4時間後 200.1以上 8時間後 100.1以上 12時間後 50.1以上 μg/mL	3 〜 9	⑤ 薬物専用容器	製品名･薬剤名等 ･アセトアミノフェン ･ピリナジン ･ナパ	180 生Ⅰ 注①	④
	3498	ブロチゾラム	血液4.0 遠心 血清1.0	室 凍 (1ヶ月)	LC-MS/MS	ng/mL	5 〜 7	⑤ 薬物専用容器	製品名・薬剤名等 ・レンドルミン ・ソレントミン	−	③

注①　「アセトアミノフェン」は、同一の患者につき１月以内に２回以上行った場合は、第１回目の測定を行ったときに１回限りの算定とします。

（参考）各薬剤の採血時間

抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前（トラフ値）
プリミドン	投与直前（トラフ値）
フェニトイン	経口：投与直前（トラフ値）、 静注：投与後２～４時間　（ピーク値）
カルバマゼピン	投与直前（トラフ値）
エトスクシミド	投与直前（トラフ値）
バルプロ酸	投与直前（トラフ値）
ゾニサミド	投与直前（トラフ値）
クロナゼパム	投与直前（トラフ値）
ニトラゼパム	投与直前（トラフ値）
ジアゼパム	投与直前（トラフ値）
トピラマート	投与直前（トラフ値）
ラモトリギン	投与直前（トラフ値）
レベチラセタム	投与直前（トラフ値）

精神神経用剤	
リチウム	早朝服用前（トラフ値）
ハロペリドール	投与直前（トラフ値）
ブロムペリドール	投与直前（トラフ値）

不整脈剤	
リドカイン	静注：２時間後　点滴：終了後６～12時間後
キニジン	投与直前（トラフ値）
ジソピラミド	投与直前（トラフ値）
プロカインアミド	投与直前（トラフ値）
メキシレチン	投与直前（トラフ値）、 副作用時：内服後２～３時間（ピーク値）
ピルシカイニド	投与直前（トラフ値）
アプリジン	経口：投与直前（トラフ値）、投与後２～４時間（ピーク値） 静注：投与直前（トラフ値）
フレカイニド	投与直前（トラフ値）
シベンゾリン	朝投与直前（トラフ値）
ピルメノール	随時
アミオダロン	投与直前（トラフ値）

気管支拡張剤	
テオフィリン	経口　裸錠：投与直前（トラフ値）、投与後２時間（ピーク値） 経口　徐放性製剤:投与直前(トラフ値)、投与後４時間(ピーク値) 静注：投与直前（トラフ値）、静注後30分（ピーク値） 点滴：開始後４～６時間、開始後12～18時間

強心剤	
ジゴキシン	投与直前（トラフ値）または 経口：投与後６時間以降、 静注：投与後３時間以降

抗生物質製剤	
ゲンタマイシン	投与前30分以内（トラフ値） 点滴開始後１時間後（30分で投与した場合30分後） （ピーク値）
トブラマイシン	投与前30分以内（トラフ値） 点滴開始後１時間後（30分で投与した場合30分後） （ピーク値）
アミカシン	投与前30分以内（トラフ値） 点滴開始後１時間後（30分で投与した場合30分後） （ピーク値）
バンコマイシン	投与前30分以内（トラフ値）
アルベカシン	投与前30分以内（トラフ値） 点滴開始後１時間後（30分で投与した場合30分後） （ピーク値）
テイコプラニン	投与前30分以内（トラフ値）

免疫抑制剤	
シクロスポリン	投与直前（トラフ値）
タクロリムス	投与直前（トラフ値）

その他	
メトトレキサート	メトトレキサート・ロイコボリン救援療法時： 投与開始後24、48、72時間
サリチル酸	投与直前（トラフ値）

特定薬剤治療管理料

特定薬剤治療管理料１は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。
（てんかん患者において２種類以上の抗てんかん剤を投与しており、同一暦月に複数の抗てんかん剤の血中濃度を測定した場合、1月に２回に限り算定できる）

薬剤名	検査項目	特定薬剤治療管理料		加算点	備考
		1～3月	4月目以降		
抗てんかん剤（てんかん）	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン バルプロ酸ナトリウム エトスクシミド トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム ゾニサミド ガバペンチン クロバザム レベチラセタム ラモトリギン トピラマート スチリペントール ルフィナミド ペランパネル ラコサミド、ビガバトリン	[単一薬剤] 470点	[単一薬剤] 470点	280点 （薬剤の投与を行った初回月に限る）	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合またはてんかん重積状態の患者に対して抗てんかん剤の注射などを行った場合は、所定点数にかかわらず、1回に限り740点を算定する。
		[複数薬剤] 470点 ×2	[複数薬剤] 470点 ×2		
ジギタリス製剤（心疾患）	ジゴキシン	470点	235点		
アミノ配糖体抗生物質 ＜入院中＞	ゲンタマイシイン トブラマイシン アミカシン アルベカシン				数日間以上投与している入院患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。 バンコマイシンは1回に限り、530点を加算。
グリコペプチド系抗生物質 ＜入院中＞	バンコマイシン テイコプラニン				
トリアゾール系抗真菌剤＜入院中＞ （重症または難治性真菌感染症、造血幹細胞移植（深在性真菌症の予防を目的とするものに限る））	ボリコナゾール				
テオフィリン製剤（備考参照）	テオフィリン				気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫または未熟児無呼吸発作
不整脈用剤（不整脈）	キニジン プロカインアミド N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド リドカイン アプリンジン ピルジカイニド塩酸塩 プロパフェノン メキシレチン フレカイニド シベンゾリンコハク酸塩 ピルメノール アミオダロン ソタロール塩酸塩 ベプリジル塩酸塩				
ハロペリドール製剤 ブロムペリドール製剤（統合失調症）	ハロペリドール ブロムペリドール				
リチウム製剤（躁うつ病）	炭酸リチウム				
バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン（躁うつ病または躁病）	バルプロ酸ナトリウム カルバマゼピン		470点		
免疫抑制剤（臓器移植後）	シクロスポリン タクロリムス水和物 エベロリムス ミコフェノール酸モフェチル		470点	2740点 （臓器移植を行った月から3月以内）	臓器移植後の患者でミコフェノール酸モフェチルまたはエベロリムスを含む2種類以上の免疫抑制剤を投与する場合、ミコフェノール酸モフェチルは6月に1回に限り250点を、エベロリムスは初回投与を行った月を含む3月に限り月1回、4月目以降は4月に1回に限り250点を所定点数に加算する。
免疫抑制剤（備考参照）	シクロスポリン			280点 （薬剤の投与を行った初回月に限る）	ベーチェット病（活動性・難治性眼症状を有するもの）、その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で視力低下の恐れのある活動性の中間部または後部の非感染性ぶどう膜炎に限る）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る）、ネフローゼ症候群
免疫抑制剤（備考参照）	タクロリムス水和物				全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎、間質性肺炎（多発性筋炎または皮膚筋炎に合併するものに限る）
サリチル酸系製剤（備考参照）	サリチル酸		235点		若年性関節リウマチ、リウマチ熱、慢性関節リウマチ
メトトレキサート（悪性腫瘍）	メトトレキサート				
バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）	バルプロ酸ナトリウム				
イマチニブ	イマチニブ				
エベロリムス（備考参照）	エベロリムス				結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫
シロリムス製剤（リンパ脈管筋腫症）	シロリムス				
スニチニブ（腎細胞癌）	スニチニブ				

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
血液学的検査	1401 2A010	末梢血液一般検査 1400 2A990 白血球数（ＷＢＣ）	血液 2.0	冷	自動血球分析装置使用	3.3～8.6 ×10³/μL	1～2	③ ＥＤＴＡ-2K	ＥＤＴＡ-2Ｋ入容器に採血し、よく混和後ご提出下さい。 血小板減少については 94 ページ参照	21 血液	①
	1402 2A020	赤血球数（ＲＢＣ）				M 4.35～5.55 F 3.86～4.92 ×10⁶/μL					
	1403 2A030	血色素量（Ｈｂ）				M 13.7～16.8 F 11.6～14.8 g/dL					
	1406 2A040	ヘマトクリット（Ｈｔ）				M 40.7～50.1 F 35.1～44.4 %					
	1407 2A050	血小板数（ＰＬＴ）				158～348 ×10³/μL					
	1410 2A110	網状赤血球（レチクロ）	血液 2.0	冷	フローサイトメトリー法	6～21 ‰	1～2	③ ＥＤＴＡ-2K	ＥＤＴＡ-2Ｋ入容器に採血し、よく混和後ご提出下さい。	12 血液	①
	1412 2A160	末梢血液像(アナリーゼ)（自動機械法）	血液 2.0	(血液)冷 (スライド)室	自動血球分析装置使用 メイギムザ染色	Ｂａｓｏ　0～1.7 Ｅｏｓｉｎ　0～7.3 Ｎｅｕｔ 41.0～75.0 Ｌｙｍｐｈｏ 20.0～50.0 Ｍｏｎｏ 1.2～8.0 % 赤血球状態正常	1～2	③ ＥＤＴＡ-2K	ＥＤＴＡ-2Ｋ入容器に採血し、よく混和後ご提出下さい。	15 血液 注①	①
	5511 2A160	末梢血液像(アナリーゼ)（鏡検法）	血液 2.0 または 塗抹 標本	(血液)冷 (スライド)室	自動血球分析装置使用 メイギムザ染色	Ｂａｓｏ　0～1.7 Ｅｏｓｉｎ　0～7.3 Ｌｙｍｐｈｏ 20.0～50.0 Ｍｏｎｏ　1.2～8.0 Ｓｔａｂ 2.0～10.0 Ｓｅｇ 45.0～60.0 % 赤血球状態正常	1～2	③ ＥＤＴＡ-2Ｋ および スライド	ＥＤＴＡ-2Ｋ入容器に採血し、よく混和後ご提出下さい。提出が遅くなる場合はスライド標本でご提出下さい。	25 血液 注①	①
	1450 2A090	好酸球数	血液 2.0	冷	自動血球分析装置使用	150～350 /μL	1～2	③ ＥＤＴＡ-2K	ＥＤＴＡ-2Ｋ入容器に採血後なるべく早くご提出下さい。提出まで時間を要する場合は冷蔵保存して下さい。	17 血液 注①	①

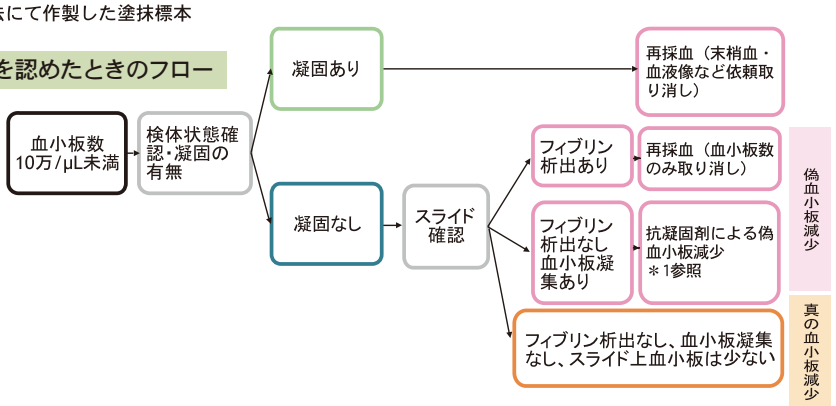
注①　同一検体で「末梢血液像」および「好酸球数」を行った場合は、主たるもののみの算定となります。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
骨髄検査	1431 2A170	骨髄像 専		塗抹 未固定 標本 3枚以上	室	ライト・ギムザ染色		8 ～ 15	スライド	採取後スライドに3枚以上塗抹してご提出下さい。 EDTA－2Kに採取した場合は、なるべく早くご提出下さい。 専用依頼書に臨床所見を記入し、ご提出下さい。	788 血液	③
特殊染色	3217 2A230	ペルオキシダーゼ染色	血液像	塗抹 未固定 標本 2枚以上		ＤＡＢ法				「ペルオキシダーゼ染色」および「エステラーゼ染色」は、メタノール固定をしますと染色不良となりますので、ご注意下さい。	（血液像） 各37 加算 血液 （骨髄像） 各60 加算 血液	③
	3221 2A230		骨髄像									
	3218 2A190	エステラーゼ染色	血液像	塗抹 未固定 標本 4枚以上		αNBエステラーゼ法						
	3222 2A190		骨髄像									
	3220 2A200	ＰＡＳ染色	血液像	塗抹 未固定 標本 2枚以上	室	McManus変法		3 ～ 5	スライド			
	3224 2A200		骨髄像									
	3219 2A240	鉄染色	血液像	塗抹 未固定 標本 2枚以上		ベルリンブルー						
	3223 2A240		骨髄像									
	2782 2A180	ＡＬＰ染色	血液像	塗抹 標本 ＊1 4枚以上		朝長法				ALP染色の固定法は、お問い合わせ下さい。なお、骨髄液塗抹標本にて「ALP染色」をご依頼の場合、染色のみとなります。		
血液学的検査	1750 2A090	好酸球	鼻汁中	塗抹 標本	室	Hansel染色法	陰性	1 ～ 2	スライド		15 血液	①
	1699 2A090		喀痰中									
	1432 2A400	マラリア原虫		血液 2.0 または 塗抹 標本	室	ギムザ染色	（－）	1 ～ 2	スライド	高熱時に採取する。採取後スライドに2枚以上塗抹してご提出下さい。	40 血液	①
	1433 2A410	フィラリア仔虫		血液 2.0 または 塗抹 標本	室	ギムザ染色	（－）	1 ～ 2	スライド	夜間（午後10時～午前0時の間）に採取することが望ましい。採取後スライドに2枚以上塗抹してご提出下さい。	40 血液	①

＊1　ALP染色固定法にて作製した塗抹標本

血小板減少を認めたときのフロー



＊抗凝固剤による偽血小板減少とは

・抗凝固剤（EDTA）と血液が混和される際に血小板凝集が起こり、見かけ上血小板数が低値（偽低値）となってしまうことです。
・回避するために、抗凝固剤を変えてみる（クエン酸容器やヘパリン容器）方法もありますが、すべての患者さんで凝集がなくなるというわけではありません。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
出血凝固検査	1435 2B030	プロトロンビン時間 （ＰＴ）	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	光散乱法	70以上 ％	1 〜 2	④ クエン酸Na	ご報告は プロトロンビン時間(秒) プロトロンビン活性(%) ＰＴ-ＩＮＲ となります。	18 血液	①
	1438 2B020	活性化部分 トロンボプラスチン時間 （ＡＰＴＴ）	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	光散乱法	24.0〜34.0 秒	1 〜 2	④ クエン酸Na		29 血液	①
	1440 2B100	フィブリノゲン定量 （Ｆｉｂ）	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	光散乱法	170〜410 mg/dL	1 〜 2	④ クエン酸Na		23 血液	①
	1445 2B120	ＦＤＰ定量	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	ラテックス免疫比濁法	5.0未満 μg/mL	1 〜 2	④ クエン酸Na		80 血液	①
	1444 2B120	ＦＤＰ（尿）	尿 2.0	冷	ＬＰＩＡ法	100以下 ng/mL	3 〜 4	㊵ 専用容器	尿ＦＤＰ専用容器に採取してご提出下さい。	72 尿便	③
	1458 2B140	Dダイマー	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	ラテックス免疫比濁法	1.00未満 μg/mL	1 〜 2	④ クエン酸Na		127 血液	①

＊1　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
出血凝固検査	2003 2B210	ﾄﾛﾝﾋﾞﾝ･ｱﾝﾁﾄﾛﾝﾋﾞﾝⅢ 複合体 （ＴＡＴ）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍 (3週)	ＣＬＥＩＡ	3.0以下 ng/mL	3 ～ 5	④ クエン酸Na		171 血液 注①	④
	1460 2B110	フィブリンモノマー 複合体定性 （ＦＭテスト）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	血球凝集法	（－）	1 ～ 2	④ クエン酸Na		93 血液	①
	1424 2B110	フィブリンモノマー 複合体 （ＦＭＣ定量）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	ラテックス免疫比濁法	6.1以下 μg/mL	1 ～ 2	④ クエン酸Na		215 血液 注① 注②	①
	2929 2B600	β-トロンボグロブリン （β-ＴＧ）	専用容器 血液 2.7 ↓遠心 乏血小板血漿 0.5	冷 凍 (1ヶ月)	ＥＩＡ	60以下 ng/mL	4 ～ 10	㉕ 専用容器 ＊2	採血方法は下記参照下さい。	171 血液	③
	2930 2B620	血小板第4因子 （ＰＦ４）	専用容器 血液 2.7 ↓遠心 乏血小板血漿 0.5	冷 凍 (1ヶ月)	ＥＩＡ	20以下 ng/mL	4 ～ 10	㉕ 専用容器 ＊2	採血方法は下記参照下さい。	173 血液	③

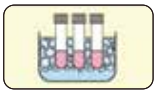
＊1　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和して下さい。
＊2　専用容器（テオフィリン、アデノシン、ジピリダモール、他入り）は、予めご依頼下さい。なお、ジピリダモールは蛍光灯に48時間晒されると不活性化するため、使用時までは遮光保存をお願いいたします。
注①　「トロンビン･アンチトロンビン複合体（TAT）」、「フィブリンモノマー複合体（FMC定量）」、「プロトロンビンフラグメントF1＋2」のいずれかを同時に測定した場合は、主たるもののみの算定となります。
注②　「フィブリンモノマー複合体（FMC定量）」は、DIC（播種性血管内凝固症候群）、静脈血栓症または肺動脈血栓塞栓症の診断および治療経過の観察のために実施した場合に算定できます。

◆2929　β－トロンボグロブリン、2930　血小板第４因子の採血方法◆

操作を２分以内に行う

20ゲージ（19～21ゲージ）の針を用いたポリエチレン注射器により２シリンジ法で初めの血液２mLを捨て、次の血液2.7mLを採取して下さい。
真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないで下さい。また、できれば駆血帯も使用しないで下さい。
10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取して下さい。

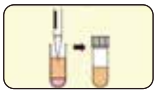
予め冷却しておいた専用容器に採取した血液 4.5mL を移し、ゆっくり２～３回転倒混和して下さい。
指定のサンプリングチューブ以外は使用しないで下さい。
サンプリングチューブは振とうさせないで下さい。



採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却して下さい。
砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにして下さい。
角氷は使用しないで下さい。

冷却遠心機がある場合

砕氷水に少なくとも15分間静置後、採取血液を2,500Ｇで20分間、２～８℃で遠心分離して下さい。
（下表は2,500Ｇにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。）
１時間以内に必ず冷却下で遠心分離して下さい。



上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで0.5mL検体容器へ採取して下さい。
検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存して下さい。（１ヶ月安定）
血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けて下さい。

換算表

半径（cm）	回転数（r.p.m.）	半径（cm）	回転数（r.p.m.）	半径（cm）	回転数（r.p.m.）
10	4,700	18	3,500	26	2,900
12	4,300	20	3,300	28	2,800
14	4,000	22	3,200	30	2,700
16	3,700	24	3,100		

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
凝固・線溶検査	3845 2B260	プラスミノゲン抗原量	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.3＊1	冷 凍（1ヶ月）	ラテックス凝集法	9.1～14.5 mg/dL	3 ～ 4	④ クエン酸Na		100 血液	⑤
	2039 2B260	プラスミノゲン活性	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	発色性合成基質法	75～125 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		100 血液	④
	1196 2B270	アンチプラスミン活性 （α_2PI） （α_2プラスミンインヒビター）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	合成基質法	85～118 %	3 ～ 4	④ クエン酸Na		128 血液	③
	2977 2B280	プラスミンインヒビター複合体 （PIC）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.3＊1	冷 凍	LPIA	0.8未満 μg/mL	3 ～ 4	④ クエン酸Na		150 血液	③
	2244 5B045	C1インアクチベーター活性 （C1エステラーゼインヒビター活性）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.2＊1	冷 凍（16日）	発色性合成基質法	70～130 %	3 ～ 9	④ クエン酸Na		253 免疫	④
	2943 2B700	プロテインC抗原	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.3＊1	冷 凍	LPIA	70～150 %	3 ～ 6	④ クエン酸Na		226 血液	④
	2944 2B700	プロテインC活性	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍（3週）	凝固時間法	64～146 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		227 血液	④
	2947 2B710	プロテインS抗原	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.2＊1	冷 凍（3週）	ラテックス凝集反応	M 73～137 F 59～143 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na	測定対象は、トータル（遊離型および複合体型）です。	154 血液	④
	2948 2B711	プロテインS （遊離型抗原量）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.2＊1	冷 凍（3週）	ラテックス凝集反応	M 50～131 F 49～133 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		154 血液	④
	2799 2B710	プロテインS活性	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍（3週）	凝固時間法	M 67～164 F 56～126 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		163 血液	④
	1447 2B200	アンチトロンビン活性 （ＡＴⅢ）	血液 1.8 ↓遠心 クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	発色性合成基質法	81.0～130.0 %	1 ～ 2	④ クエン酸Na		70 血液	①

＊1　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
凝固・線溶検査	2707 3G090	ビタミンK分画	血液 4.5 遠心 クエン酸血漿 2.0＊2	冷 凍 遮 (17日)	HPLC	ビタミンK1 0.15～1.25 ビタミンK2 （MK-4） 0.10以下 ng/mL	4 ～ 10	④ クエン酸Na (5mL)		—	④
	3490 3M415	ヘパリン	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.3＊1	冷 凍 (1ヶ月)	発色性合成基質法	IU/mL	5 ～ 9	④ クエン酸Na	同一の患者に１月以内に検査を２回以上行った場合は、１回目の測定を行ったときのみ算定となります。	108 生Ⅰ	④
	1736 5G501	ループスアンチコアグラント定量	血液 4.5 遠心 クエン酸血漿 1.0＊3	冷 凍 (3週)	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	3 ～ 5	④ クエン酸Na (5mL)	抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として検査を行った場合に限り算定できます。	273 免疫	④
凝固因子検査	2663 2B350	凝固因子活性検査 第Ⅱ因子	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍 (3週)	凝固時間法	75～135 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2664 2B370	第Ⅴ因子	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍 (3週)	凝固時間法	70～135 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2665 2B380	第Ⅶ因子	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍 (3週)	凝固時間法	75～140 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2230 2B390	第Ⅷ因子	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍 (3週)	凝固時間法	60～150 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2666 2B400	第Ⅸ因子	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍 (3週)	凝固時間法	70～130 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2667 2B410	第Ⅹ因子	血液 1.8 遠心 クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍 (3週)	凝固時間法	70～130 %	3 ～ 5	④ クエン酸Na		223 血液	④

＊1　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和して下さい。
＊2　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液4.5mLを正確に入れ、全量5.0mLにしてよく混和して下さい。
＊3　遠心機がある場合は、専用容器で採血し転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコート（白血球の膜）より5mm以上うえから血漿を採取し、凍結保存にてご提出下さい。血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意下さい。

遠心器回転数の計算式
$G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$
r：遠心器のローター半径（cm）
n：1分間あたりの回転数（rpm）

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量（mL）	●保存（安定性）	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料判断料	
凝固因子検査	2668 2B420	凝固因子活性検査	第Ⅺ因子	血液 1.8 →遠心→ クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍（3週）	凝固時間法	75～145 %	3～5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2669 2B430		第Ⅻ因子	血液 1.8 →遠心→ クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍（3週）	凝固時間法	50～150 %	3～5	④ クエン酸Na		223 血液	④
	2160 2B440		第ⅩⅢ因子	血液 1.8 →遠心→ クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍	ラテックス近赤外比濁法	70～140 %	1～2	④ クエン酸Na		223 血液	①
	3444 2B460	凝固抑制因子検査	第Ⅷ因子	血液 4.5 →遠心→ クエン酸血漿 1.0＊2	冷 凍	ベセスダ法	検出せず ベゼスダU/mL	3～5	④ クエン酸Na（5mL）	保険請求の際は「凝固因子インヒビター」として算定して下さい。	144 血液	④
	3445 2B470		第Ⅸ因子	血液 4.5 →遠心→ クエン酸血漿 1.0＊2	冷 凍（3週）	ベセスダ法	検出せず ベゼスダU/mL	3～5	④ クエン酸Na（5mL）		144 血液	④
	5504 2B450	von Willebrand因子（VWF）抗原定量（フォン・ウィルブランド因子抗原定量）		血液 1.8 →遠心→ クエン酸血漿 0.2＊1	冷 凍（3週）	ラテックス凝集反応	50～155 %	3～5	④ クエン酸Na		147 血液	④
	2674 2B480	von Willebrand因子（VWF）活性（フォン・ウィルブランド因子抗原活性）（リストセチンコファクター）		血液 1.8 →遠心→ クエン酸血漿 0.5＊1	冷 凍（20日）	固定血小板凝集法	60～170 %	3～5	④ クエン酸Na		126 血液	④
	3192 2B490	フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析		血液 1.8 →遠心→ クエン酸血漿 0.4＊1	冷 凍（1ヶ月）	SDSアガロースゲル電気泳動法	NORMALパターン	8～12	④ クエン酸Na		—	④

＊1　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液1.8mLを正確に入れ、全量2.0mLにしてよく混和して下さい。
＊2　専用容器（No④ 3.2クエン酸ナトリウム液入り）に血液4.5mLを正確に入れ、全量5.0mLにしてよく混和して下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
尿検査	1502 1A030	尿一般検査 比重	尿 10.0	冷	屈折計法	1.015～1.025	1～2	㊻ 滅菌スピッツ	当該医療機関内で検査を行った場合に算定する		①
	1501 1A035	尿一般検査 反応（ＰＨ）			試験紙法	PH 5.0～7.0					
	1503 1A010	尿一般検査 蛋白（定性）				（－）					
	1504 1A020	尿一般検査 糖（定性）				（－）					
	1505 1A040	尿一般検査 ウロビリノーゲン（定性）				（±）					
	1506 1A055	尿一般検査 ビリルビン（定性）				（－）					
	1507 1A060	尿一般検査 尿中ケトン体（定性）				（－）					
	1508 1A100	尿一般検査 潜血反応				（－）					
	1510 1A105	尿沈渣（鏡検法）	尿 10.0	冷	フローサイトメトリー法および無染色鏡検法		1～2	㊻ 滅菌スピッツ	フローサイトメトリー法で同定できない成分は、鏡検法を実施いたします。 当該医療機関内で検査を行った場合に算定する		①

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

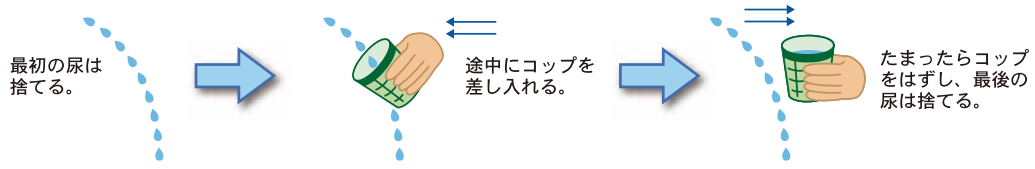
	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
尿検査	1685 3A015	アルブミン定性(尿)	尿 2.0	冷	試験紙法	正常域	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	早朝第一尿が望ましいです。	49 尿便	①
	1527 1A015	尿蛋白	蓄尿 2.0 部分尿 2.0	冷	ピロガロールレッド法	31.2〜120.0 mg/day mg/dL	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は1日蓄尿量を記入して下さい。 尿量がない場合は部分尿として検査いたします。	7 尿便	①
	5566 1A015	尿蛋白/クレアチニン比	尿 2.0	冷	尿蛋白： ピロガロールレッド法 クレアチニン： 酵素法	g/g・cre	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	尿蛋白、尿クレアチニンより算出いたします。	—	①
	1528 1A025	尿グルコース	蓄尿 2.0 部分尿 2.0	冷	酵素法	0.05以下 g/day g/dL	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	蓄尿でご提出の場合は1日蓄尿量を記入して下さい。 尿量がない場合は部分尿として検査いたします。	9 尿便	①

尿の種類と特徴について

種類	内容	特徴	適している検査
早朝尿	寝る前に排尿し、朝起きて一番の尿	最も濃縮している	一般的な検査、蛋白・アルブミン（起立性蛋白の否定）
第２尿	朝排尿した後、次に膀胱にたまった尿	採尿時間をほぼ固定できる	NTx、DPD
随時尿	早朝尿以外の随時にたまった尿	患者さんにとって負担が少ない	外来患者のスクリーニング
蓄尿	１日に排泄された尿をすべて採取した尿	１日の排泄量を正確に知ることができる	24時間CCR、VMA
カテーテル尿	尿道から膀胱あるいは尿管にカテーテルを挿入して採取した尿	採取時の汚染が基本的にはない	細菌培養

正しい尿の採り方

採取する前に、男性は亀頭を、女性は陰唇を広げて清潔なガーゼなどで清拭することが望ましい。
特に女性は、外尿道口周囲の細菌、扁平上皮分泌物が混入しやすいため、ウォシュレット付のトイレで採取する前に陰唇部を洗浄し、乾燥後に採尿することをお勧めいたします。
できるだけ中間尿を採るようにしましょう。(下記参照下さい)



●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
糞便検査	1537 1B010	虫卵塗抹（糞便）	糞便 親指頭大	室	直接塗抹法	（−）	1 〜 2	㊷ 便容器 （培地なし）	乾燥しないように便専用容器でご提出下さい。	20 尿便	①
	1538 1B015	虫卵検出（集卵法）（糞便）	糞便 親指頭大	室	浮遊法 沈殿法	（−）	1 〜 2	㊷ 便容器 （培地なし）		15 尿便	①
	1556 1B018	虫卵培養（糞便）	糞便 親指頭大	室	寒天平板培養法	（−）	7 〜 14	㊷ 便容器 （培地なし）		40 尿便	①
	1557 1B040	糞便中ヘモグロビン定性	専用容器 または 糞便親指頭大	冷 (14日)	ラテックス凝集反応	（−）	1 〜 2	㊹ 専用容器	乾燥しないように便専用容器でご提出下さい。 採取法と安定性については下記参照	37 尿便	①
	1578 1B020	虫体検出（糞便）	虫体	室	肉眼（鏡検）		5 〜 10	㊻ 滅菌スピッツ	生理食塩水に入れてご提出下さい。	23 尿便	①

糞便中ヘモグロビン検査の採取法と主な注意点について

1

ラベルに氏名等を記入

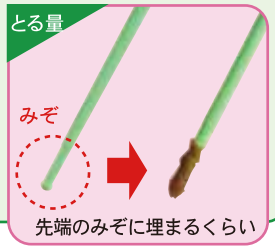
※必ず、検便した日・時を記入してください。
※水性ペンは避けてください

①キャップを回して、
②引きぬく

2

※便をとりすぎると、正しい検査ができません

表面を
まんべんなく
こすりとる



3

①キャップと容器の向きを合わせて、さし込む

②まっすぐ強く押す
※回し入れないでください

パチンと音がするまで

※１回さし込んだら、ぬかないこと

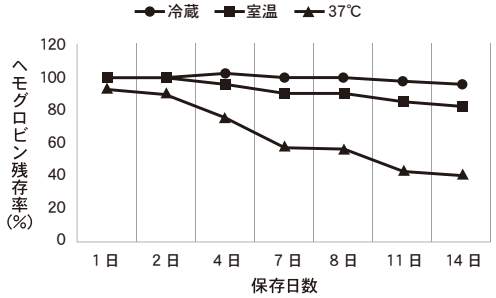
1日目 青字ラベル　2日目 赤字ラベル

※採便後は冷暗所で保存

提出用袋に２本入れすぐに提出

主な注意点
- アルミシールはやぶらないで下さい
- １日目と２日目の採便期間はできるだけ短くして下さい
- 生理中の検査は避けて下さい
- 硬い便の場合は、水で湿らせてから採便して下さい
- 採取した糞便が、採便容器内の液体に十分懸濁したことを確認して下さい

便中ヘモグロビンの安定性



●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
髄液検査	1543 1C030	細胞数 （細胞分類）	髄液 3.0	冷	Fuchs-Rosenthal	5以下 /μL	1〜2	㊻ 滅菌スピッツ	細胞数分類は多形核球と単核球に分類いたします。 多形核球には好中球・好酸球・好塩基球が、単核球にはリンパ球・単球・組織球が含まれます。 微生物検査と併せてご依頼の場合には冷蔵不可。室温にてご提出下さい。 下記参照	62 尿便 注①	①
	1544 1C040	パンディ反応			パンディ反応	（−）〜（±）					
	1545 1C045	ノンネアペルト反応			ノンネアペルト反応	（−）					
	1547 1C010	蛋白定量	髄液 2.0	冷	ピロガロールレッド法	8〜43 mg/dL	1〜2	㊻ 滅菌スピッツ	微生物検査と併せてご依頼の場合には冷蔵不可。室温にてご提出下さい。 下記参照	11 生Ⅰ	①
	1548 1C015	糖定量			酵素法	50〜75 mg/dL				11 生Ⅰ	
	1549 3H020	塩素定量（Cl）			電極法	120〜125 mEq/L				11 生Ⅰ	

注①　保険請求の際は「髄液一般検査」として一連の算定になります。

髄液の保存について

・微生物検査において、細菌性髄膜炎の原因菌として考えられる髄膜炎菌は、低温で死滅するため冷蔵保存は避けて下さい。
・細胞数検査では、細胞の変性が速いため冷蔵保存が望ましいので、併せてご依頼される場合は、可能な限り2本採取していただき、微生物検査用は室温保存、細胞数検査などは冷蔵保存をお願い致します。1本のみ採取の場合は室温にてご提出下さい。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
穿刺液検査	1551 1Z020	比重	穿刺液 2.0	冷	屈折計法		1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ		—	①
	1552 1Z035	リバルタ反応			リバルタ反応	滲出液（＋） 漏出液（－）				—	
	1553 1Z010	蛋白定量			屈折計法	g/dL				11 生Ⅰ	
	1554 1Z015	糖定量			酵素法	mg/dL				11 生Ⅰ	
	1600 1Z025	細胞数（穿刺液）	穿刺液 2.0	冷	計算盤法	/mm^3	2 〜 3	㊻ 滅菌スピッツ		—	①
	1683 1Z505	関節液中結晶鑑別	関節液 2.0	冷	偏光装置鏡検法	ピロリン酸Ca 結晶（CPPD）（－） 尿酸Na結晶（－）	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ		50 尿便 注①	①
精液検査	1593 1Z605	精液量	精液全量	室	肉眼的測定	1.5以上 mL	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ	基準値は『WHOラボマニュアル-ヒト精液検査と手技-5版』に準じたもので、全て採取直後のものです。 採取時間を記載の上、速やかにご提出下さい。 採取方法は下記参照	70 尿便 注②	①
	1593	濃度			計算盤法	15以上 ×10^6/mL					
	1593	精子運動率			顕微鏡検査	40以上 %					
	1593	正常形態率			顕微鏡検査	4以上 %					

注① 「関節液中結晶鑑別」は、関節水腫を有する患者であって、結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき1回に限り算定できます。なお、「関節液中結晶鑑別」と「細菌塗抹検査」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定となります。

注② 保険請求の際は「精液一般検査」として一連の算定になります。

滲出液と漏出液の鑑別

	滲出液	漏出液
外観	一般に混濁	淡黄色、透明
比重	1.018以上	1.015以下
タンパク量	4g/dL以上	2.0g/dL以下
リバルタ反応	（＋）	（－）
フィブリン析出	（＋）	（－）
細胞数	多数	少数
細胞成分	多核白血球・リンパ球	中皮細胞・組織球
原因	炎症	循環障害

●精液検体の採取方法●

精液検査のご利用に際して、射精可能な場合の精液の採取は、以下の手順により行って下さい。

1) 禁欲期間は2日以上、7日以内が理想的です。
氏名、禁欲期間、採取日時を記録して下さい。
2) 検査は2回行い、その間隔は7日以上、3ヶ月以内とすることが推奨されます。これら2回の検査結果が著明に異なる場合には追加検査を行って下さい。
3) 採取は（院内）検査室近くのプライバシーの保てる部屋で行うか、採取後1時間以内に持参させるようにして下さい。
4) 精液はマスターベーションで採取します。
容器は滅菌した広口のガラス製のものを温めて（20〜40℃）使用して下さい。プラスチック製のものは精子に対する毒性がないことを確かめてから用いる必要があります。
潤滑剤は使用しないで下さい。
細菌学的検査を行う場合には、排尿後に手とペニスを洗浄・消毒してから滅菌した容器に採取して下さい。
5) 通常のコンドームは殺精子作用を示す可能性があるため、使用に適しません。
マスターベーションで採取できない場合には、精液採取用コンドーム（SCD：seminal collection device, HDC Corporation, Mountain View, CA, USA）を利用することが推奨されます。

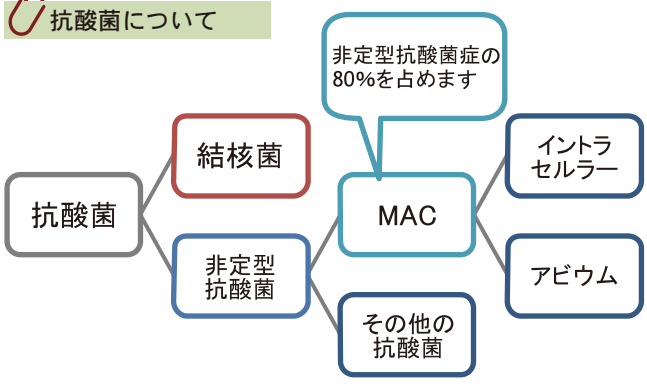
参考文献：日本不妊学会編「新しい生殖医療技術のガイドライン」

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
抗酸菌検査		塗抹検査	喀痰・その他	冷	チール・ネルゼン染色	陰性	1 ～ 2	109 ページ 参照下さい		67 微生 注①	①
		培養検査	喀痰・その他	冷	小川K培地使用	陰性	30 ～ 60	109 ページ 参照下さい	血液の場合は EDTA-2Na（7mL） （容器番号⑫）にて ご提出下さい。	209 微生 注②	①
		抗酸菌同定 （質量分析）	喀痰・その他 菌株		MALDI-TOF-MS		3 ～ 6 ＊1		菌株にて提出される場合は室温保存にてご提出下さい。	361 微生	④
		抗酸菌感受性	喀痰・その他 菌株		濃度比率法		30 ～ 40 ＊1			400 微生 4薬剤以上使用した場合に限り算定できます。	④
	2746 6B620	結核菌群核酸同定 （TaqManPCR法）	喀痰・その他	冷	ロシュ/リアルタイムPCR法	検出せず	3 ～ 5			410 微生 注②	①
	2747 6B621	マイコバクテリウム・アビウムおよびイントラセルラー（ＭＡＣ）核酸検出（TaqManPCR 法）	喀痰・その他	冷	ロシュ/リアルタイムPCR法	検出せず	4 ～ 6		他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できます。	421 微生	①
	8574 5E301	ｸｫﾝﾃｨﾌｪﾛﾝTB-ﾌﾟﾗｽ (QFTB) (IGRA検査) 予	血液 1.0mL ×4本	室	ＥＬＩＳＡ	陰性　0.35未満 IU/mL	4 ～ 10	⑥1 専用容器	予約検査となっておりますので、事前にご連絡下さい。結果の解釈、採血方法については25ページを参照下さい。	594 免疫 注③	①
	3935 5E301	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（T-SPOT） （IGRA 検査） 予	ヘパリン 加血液 9.0	室	ELISPOT (Enzyme Linked Immunospot)法	陰性	4 ～ 5	⑪ ヘパリン容器 （9mL）	受託可能日は、月～金の午前中です。祝日前日は受託できませんのでご注意下さい。予約検査となっておりますので事前にご連絡下さい。 必ず依頼書に採血日時を記入して下さい。	594 免疫 注③	③

＊1　培養後、該当検査のみの所要日数です。
注①　染色の有無および方法の如何にかかわらず、2 種類以上用いた場合であっても、1 回としての算定となります。
注②　結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できます。
注③　「クォンティフェロン TB- プラス」、「T-SPOT」は、診察または画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。
保険請求の際は「結核菌特異的インターフェロン -γ 産生能」として算定して下さい。

抗酸菌について



抗酸菌検査について

項目名	所要日数	特　徴
抗酸菌塗抹	1～2日	ガフキー 1 号から 10 号（数字が大きいほど菌が多い）で報告。「陰性」であることが隔離解除の条件とされる。
抗酸菌培養	1～2ヶ月	結果が出るのに1～2ヶ月かかる。薬剤感受性実施のためにも必要な検査。
結核菌PCR	2～3日	結核菌のゲノムDNAを検出するPCRによる検査。結核菌の確定検査となる。死菌でも陽性になる場合がある。
MAC PCR	3～4日	MACのゲノムDNAを検出するPCRによる検査。非定型抗酸菌の中のMACと呼ばれるアビウム、イントラセルラーを検出。
抗酸菌同定（質量分析）	1ヶ月	抗酸菌189菌種を検出。培養にて「陽性」となったコロニーで行う検査です。生材料から直接検査はできません。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目		検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
一般細菌検査		細菌塗抹検査		喀痰・尿 その他	冷	グラム染色		1 ～ 2	109 ページ 参照下さい	採取後、検体を乾燥させないようにして下さい。	67 微生 注①	①
		培養検査	簡易培養検査	喀痰・尿 その他	冷	好気培養法 炭酸ガス培養法		2 ～ 4	109 ページ 参照下さい		60 微生	①
			尿定量培養検査	尿	冷	標準白金耳法		2 ～ 4	㊻ 滅菌スピッツ		–	①
			嫌気性培養検査	血液･穿刺液 膿･その他	冷	嫌気チェンバー培養法		4 ～ 7	㊶ ケンキポーター などの輸送容器 109ページ 参照下さい		122 微生	①
		培養同定検査	呼吸器系検体	喀痰･その他	冷	検査材料、目的菌に応じて培地、培養法を選択致します。		2 ～ 7	109ページ 参照下さい	検体を乾燥させないようにして下さい。 淋菌・髄膜炎菌・トリコモナスの検査は検体を室温保存して下さい。	180 微生	①
			消化器系検体	糞便･胆汁 その他	冷			2 ～ 7			200 微生	①
			泌尿・生殖器系検体	尿･分泌物 その他	冷			2 ～ 7			190 微生	①
			血液・穿刺液系検体	血液各 3～10	室		陰性	6 ～ 8	㊿ 専用容器		225 微生 注②	①
				穿刺液	冷			2 ～ 7	109ページ 参照下さい		225 微生	
			その他の部位検体	膿･分泌物 その他	冷						180 微生	①

注①　染色の有無および方法の如何にかかわらず、2 種類以上用いた場合であっても、1 回としての算定となります。
注②　血液を 2 カ所以上から採取した場合に限り、「血液または穿刺液」を 2 回算定できます。「嫌気性培養加算」も 2 回算定できます。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施 判断料	
一般細菌検査		感受性検査 1菌種	同定検査に同じ		微量液体希釈法 ディスク拡散法 （CLSI法）		2 〜 7	同定検査に同じ	薬剤の指示がない場合は当センターのセットにて実施させていただきます。特定薬剤はご記入下さい。 真菌は除かせていただきます。	185 微生	①
		2菌種								240 微生	
		3菌種以上								310 微生	
	9686 6B830	大腸菌血清型別	糞便	冷	免疫血清法	病原性大腸菌 陰性	3 〜	㊸ 便容器 （培地入り）	大腸菌の同定後、実施いたします。この場合において細菌培養同定検査の費用は別に算定できません。	175 免疫	①
	9677 5E115	大腸菌ベロトキシン定性	糞便	冷	イムノクロマト法 ELISA	VT1 陰性 VT2 陰性	6 〜	㊸ 便容器 （培地入り）	病原性大腸菌の同定後、実施いたします。	184 微生	①
腸管感染関連ウイルス検査	5987 5E110	クロストリディオイデス ディフィシル（CD） トキシン／抗原	糞便 1g	冷	イムノクロマト法	C.D抗原 （−） C.Dトキシン A&B （−）　＊1	1 〜 2	㊷ 便容器 （培地なし・ 一般検査用）	CD トキシンの結果の解釈と判定の注意事項については下記参照下さい。	80 免疫	①
	3016 5F610	ロタウイルス抗原 定性（糞便）	糞便 1g	冷	イムノクロマト法	陰性	1 〜 2	㊷ 便容器 （培地なし・ 一般検査用）		65 免疫	①
	3679 5F630	ノロウイルス－ PCR法（島津法）	糞便 1g または 吐物 2mL	（提出） 冷 （保存） 凍	RT－PCR法	検出せず	2 〜 3	㊺ 専用容器	本検査方法では、コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取に当たっては十分ご注意下さい。他項目との重複依頼は避けて下さい。給食従事者の方が「ロウイルス陽性」の場合に、「陰性」確認を行うときはPCR検査をお勧めいたします。	−	①
	3827 5F630	ノロウイルス抗原 定性	糞便 1g	冷	イムノクロマト法	陰性	1 〜 2	㊷ 便容器 （培地なし・ 一般検査用）		150 免疫 注①	①
その他	1790 5E048	エンドトキシン透析液	透析液 4.0	冷 （7日）	合成基質法	EU/L	2 〜 3	㊾ 専用容器	検体は、必ず専用の安定化剤入り透析液採取管にてご提出下さい。	—	①
	2788	SARS-CoV-2 （新型コロナウイルス） 核酸検出	喀痰	室 冷 （2日）	リアルタイムPCR法	検出せず	1 〜 2	㊻ 滅菌スピッツ		700 微生	①
	2787	SARS-CoV-2 （新型コロナウイルス） 核酸検出	鼻咽頭 ぬぐい液	室 冷 （2日）	リアルタイムPCR法	検出せず	1 〜 2	㊽ ウイルス輸送液		700 微生	①
	2786	SARS-CoV-2 （新型コロナウイルス） 核酸検出	唾液 1〜2	室 冷 （2日）	リアルタイムPCR法	検出せず	1 〜 2	㊾ 滅菌スピッツ （ストロー付）		700 微生	①

＊1　AorBの区別はつきません。
注①　「ノロウイルス抗原定性」は、3歳未満の患者／65歳以上の患者／悪性腫瘍の診断が確定している患者／臓器移植後の患者／抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤または免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者についてウイルス感染症が疑われる場合に算定となります。

CDトキシン結果の解釈

CD抗原＊1	CDトキシン＊2	解　説
（＋）	（＋）	C.difficile毒素生産菌の存在
（−）	（−）	C.difficile毒素生産菌が存在していない可能性が高い
（＋）	（−）	毒素非生産株、もしくは低感度による偽陰性が想定される臨床診断が優先或いは再検査を推奨

＊1 CD抗原：菌抗原であるグルタミン酸脱水酵素（GDH）を検出する方法
＊2 CDトキシン：菌が生産した毒素（トキシンA&B）を検出する方法

●治療効果判定時の注意点●
CDトキシンの検査をCDAD治療効果判定として行う意義はないとされています。（症状が軽快してもC.difficile菌を保菌しトキシンが持続的に陽性となることがあるため）
治療効果判定には、臨床所見（下痢、発熱、腹痛など）や血液データの改善をもとに判断して下さい。
※CDAD：クロストリジウム・ディフィシル関連疾患
（Clostridium difficile associated disease）

微生物学検査のご依頼について

【微生物学検査依頼書　記入上のご注意】

性別（必須）	原因微生物の検索範囲が異なるため、検査の進め方が変わります
入院・外来（必須）	
年齢（必須）	

採取時刻	血液培養ボトルで提出される場合、採取後の経過時間によって菌の検出率が変わるため、検査工程を追加する必要があります。
	血液採取後、48 時間以上経過したものについては明らかに陽性検出率が低下します。

臨床所見	臨床所見により、原因微生物の検索範囲が異なります。病態を正確に把握し、提出医の検査目的に沿った検査を実施するためには重要です。
	抗菌薬の投与・免疫抑制（コンプロマイズドホストであるかの情報）・海外渡航歴・結核既往歴

検査目的※	原因菌検索	全ての微生物を対象として検査することは不可能ですが、原因菌検索の場合は患者の病態・臨床症状から原因微生物を推定し、検査を行う必要があります。
		原因菌検索以外の場合には、目的に応じて検査内容を変更し、ニーズに沿った対応が必要であるため必要な情報です。
	感染症の否定	感染症と鑑別が難しい他の病態（がんなど）であることを証明するときなど、細菌に感染していないことの確認を目的とします。
	治療経過観察	経過観察・菌陰性化の確認を目的とします。行った治療が妥当であるか、変更が必要かを見極めます。
	監視培養・保菌調査	易感染宿主（コンプロマイズドホスト）や医療従事者の感染管理を目的とします。
		鼻腔の MRSA や腸管の VRE のスクリーニング検査などです。
	健康診断	健康と推定されるヒト（職員健診等で感染所見のない方）から採取した検体で、いわゆる健康診断を意味します。特定の菌が検出されないことを確認します。

※選択がない場合、原因菌検索として取り進めます

検査材料（必須）	従来から必須事項ですが、検査材料により検索対象とする菌が異なりますのでご記入下さい。

【検体採取および提出における一般的注意事項】

検体の採取時期 採取法	・原則、発病初期、化学療法開始前に採取して下さい。
	・無菌的に採取して下さい。
	・患者症状を考慮し、採取時期を決定して下さい。
	・病的部位から採取して下さい。
	・検体はできるだけ多く採取し、乾燥を防いで下さい。
	・検査室に出来るだけ速く提出して下さい。

化学療法中の 患者からの採取	・24 時間以上中止して採取して下さい。
	・中止できない場合は、抗菌薬の血中濃度が最も低下した時期（次回投与直前）に行って下さい。

常在菌の混入、 消毒薬の混入を避ける	・常在菌の混入は起炎菌の推定を困難とします。特に呼吸器材料において、出来るだけ唾液混入を避けて採取してください。
	・消毒液の検体への混入は、起炎菌の死滅につながります。

検体の乾燥を避ける	・乾燥により多くの微生物は死滅するため、乾燥を避けて提出して下さい。

嫌気性菌感染を疑う場合 （閉鎖性病巣、悪臭を伴う材料）	・嫌気性培養をご希望の場合は、専用容器でご提出下さい。
	細菌検査用スワブ（容器番号：57, 58）
	血液培養ボトル（容器番号：50）
	嫌気培養用輸送培地（容器番号：51）

検体の室温放置は厳禁、 冷蔵保存が原則	・検体の室温放置は、菌が増殖し、検査成績を誤って解釈する危険性があります。
	・Neisseria gonorrhoeae, Neisseria meningitidis, 赤痢アメーバ、トリコモナスなど低温に弱いものが疑われる場合を除き、検体は必ず冷蔵保存して下さい。

バイオハザード対策の徹底	・検体は伝染性の病原体を含んでいる可能性がある為、バイオハザードにも十分留意願います。
	・検体が漏れることのない密閉できる容器、輸送に耐えられる容器にて検体採取、提出をお願いします。

【主要材料の採取保存方法】

1）口腔・気道・呼吸器系材料

●喀痰

口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で２～３回うがいしてから喀出痰を採取します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにして下さい。

●咽頭液

滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒（細菌検査用スワブ付属の綿棒）で病変部をよく擦って粘液を採取します。

2）消化器系材料

●糞便

急性期の排出便を採取します。糞便の量は１ｇ程度とし、細菌検査用採便容器（キャリーブレア培地入り）の深部に入れて下さい。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手がかりとなりますので、必ずご記入願います。

●胆汁

胆管内胆汁（A 胆汁）、胆嚢内胆汁（B 胆汁）、肝内胆汁（C 胆汁）のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁（B 胆汁）を培養します。滅菌スピッツ管に２～３mL 採取します。

3）泌尿器・生殖器系材料

●尿

患者自身が採尿する場合がほとんどなため、採尿に際して適切な指示をして下さい。男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。女性の場合は、膣等の常在菌汚染があるため、充分洗浄してからの採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは１回毎に取り替えるように指示して下さい。尿は滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。
いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨て、中間尿を取ります。

●生殖器分泌物

男性の場合は、陰茎をしごき、分泌物を採取します。
女性の場合は、外陰部を消毒した後、膣鏡を用いて滅菌綿棒で後膣内蓋部より採取します。淋菌及びトリコモナスを疑われる場合は、死滅を防ぐために孵卵器（３５～３７℃）で保管（止むを得ない場合は、常温）して下さい。

4）血液・穿刺液

●血液

採血に当たり、穿刺部位を充分に消毒して下さい。消毒方法は、７０％アルコールを穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くよう拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。１分後に注射器で採血します。血液培養用ボトル（レズンボトル好気性菌用、嫌気性菌用）は、予めキャップを取り、ゴム上部を７０％アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液接種量は３～１０mL です。接種後の培養用ボトルは、速やかに提出して下さい。

●髄液

採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行って下さい。

5）その他の部位

●膿瘍・創傷

皮下組織や粘膜下の閉鎖性膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツ管に入れて下さい。嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気培養用輸送容器（ケンキポーター）ゴム栓に刺し、注入します。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清拭後、滅菌綿棒（細菌検査用スワブ付属綿棒）で膿性部を採取し、指定容器（細菌検査用スワブ）に入れます。

主な微生物輸送培地・容器

材料 / 容器名（容器番号）		尿	尿道分泌物	膣分泌物	咽頭粘液 喀痰	膿（開放）	膿（非開放）	胆汁	髄液	腹水	血液	耳漏	皮膚・爪	糞便	保存および輸送条件 目的および使用
輸送培地	細菌検査用スワブ（57）（58）		●	●	●	●	●					●	●		冷蔵
輸送培地	細菌検査用採便容器（53）													●	冷蔵 ビブリオ、キャンピロバクター
輸送培地	レズンボトル（好気用）（50）*								●		●				常温
輸送培地	レズンボトル（嫌気用）（50）*								●		●				常温
輸送培地	嫌気培養用輸送容器（ケンキポーター）（51）		●	●	●	●	●	●		●				●	冷蔵
輸送容器	滅菌スピッツ管（27）	●						●	●	●			●		冷蔵
輸送容器	採痰管（69）				●										冷蔵
輸送容器	滅菌試験管	●						●		●					冷蔵
滅菌採水ボトル（２８）		環境水　等													冷蔵 レジオネラ菌検査

●主として用いられる検体　●必要に応じて用いられる検体

＊ 血液で抗酸菌培養をご依頼の際はヘパリン加血液 9mL（容器番号 11）をご提出下さい。
（但し、抗酸菌遺伝子検査については EDTA 加血液 3mL（容器番号 3、12）をご提出下さい。）

●喀痰の品質評価について●

○喀痰微生物検査をご依頼いただいた際に検査結果とともに検体の品質評価（Geckler 分類）をご報告しています。

○喀痰材料による微生物培養・同定検査をご依頼いただく際には、採痰にご留意いただき、また、検査結果を評価される際には分類の結果をご参照下さい。

○これらの分類は、採取された喀痰が検査に適するか否かを判定するために用いる評価方法です。口腔内や上気道に存在する常在菌が多量に検体に混入していると検査材料として適さない場合があります。一般に、Geckler 分類でグループ 1 ～ 3 の検体は、唾液成分が主体であることを意味しており、検査を行う意義が少ないとされています。

Geckler 分類（喀痰の顕微鏡的品質評価）

表記法	細胞数（1 視野あたり）		内容	評価
	上皮細胞	白血球(好中球)		
グループ 1	＞25	＜10	白血球数に対して扁平上皮細胞数が多いため唾液の混入が多く、また上気道や口腔内の汚染を受けている可能性が高い	検査材料として不適
グループ 2	＞25	10 ～ 25		
グループ 3	＞25	＞25	白血球数も多く、扁平上皮細胞も多いため、両方の可能性が示唆される	注意深い判断が必要
グループ 4	10 ～ 25	＞25	白血球数も多く、扁平上皮細胞が少ない	良質な喀痰で検査に適する
グループ 5	＜10	＞25		
グループ 6	＜25	＜25	白血球数が少なく、扁平上皮細胞も少ない	経気道吸引痰では適

塗抹検査の報告表記

表記	細菌	細胞
(-)	認めず	認めず
(1＋)	1 視野　＜1	全視野　＜1 ～数個
(2＋)	1 視野　1 ～ 5	数視野　1
(3＋)	1 視野　6 ～ 30	1 視野　1
(4＋)	1 視野　＞30	1 視野　＞2

鏡検・判定：油浸（1000 倍）

（参考資料：Clinical Microbiology Procedures Handbook 4th Edition,American Society for Microbiology,Washhington DC)

培養同定検査の報告表記

表記	培地発育状態
(-)	未発育
(1＋)	1/3 未満
(2＋)	1/3 以上 2/3 未満
(3＋)	2/3 以上
(4＋)	培地全面

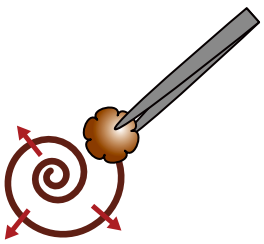
※血液培養および増菌培養では（認める）もしくは（-）の定性値でご報告致します。

	容器番号	尿	尿道分泌物	鼻腔・咽頭ぬぐい液	膿	穿刺液	血液	耳漏・眼脂	皮膚・爪	喀痰	糞便
シードスワブ２号	57		◎	◎	◎	○		◎	○	○	○
シードスワブ３号	58		○	◎	◎	○		○	○	○	○
シードスワブ１号	56								○	○	○
（嫌気用） （好気用） 血液培養専用容器	50					○	◎				
嫌気ポーター（嫌気培養必要時）	51	○	○	○	○	○		○	○	○	○
滅菌ポリスピッツ	46	◎			○	◎			◎	○	○
喀痰容器	60									◎	
便容器（培地入り）	53										◎

◎：適した検体　○でも検査可能

●血液培養ボトルの採取法●

1．手指をよく洗浄消毒する。
2．採血部位の前処理
　1）消毒用エタノールで 30 秒以上清拭する。
　2）イソジンで清拭（穿刺部から同心円状に 5 cm 程度）し、１分放置する。（右図）
　※ヨードに強い感受性の患者は、消毒用エタノールで 60 秒間清拭し乾燥させる。



※清拭後の触診はしない。

3．培養ボトルの準備
　1）上部のキャップを外す。
　2）上部のゴム栓を消毒用エタノールで清拭し、１分放置する。
4．採血し、嫌気（オレンジ）を先にそれぞれのボトルに 3 ～10mL ずつ分注する。
　（血液量 8 ～10mL が最も陽性率は高くなります。）

注意点
※ボトルは室温にてご提出下さい。
※検査の性質上、24 時間以内にご提出下さい。

●血液培養の採血のタイミング●

採血の回数は、3 回（少なくても 2 回）が推奨されています。
採血のタイミングは、弛張熱ではスパイク熱（発熱のピーク）のタイミングと合わせて行います。
また、抗生物質の投与前が望ましいのですが、既に投与されている場合は、可能であれば、薬剤投与中止 1 ～ 3 日後に採血を行い、投与中止できない場合は、次の投与前に採血することが望ましいとされています。
（重篤な疾患に伴い、菌血症が疑われるときには、薬剤投与中でも採血を行います。）

＜一般細菌感受性検査　基本セット内容＞

系統	薬剤記号	薬剤名	主な商品名	MIC 標準セット								BP	
				ブドウ球菌	ブランハメラカタラーリス・陽性桿菌	腸球菌	レンサ球菌	ヘモフィルス	腸内細菌	ブドウ糖非発酵菌	嫌気性菌	キャンピロバクター	淋菌・髄膜炎菌
ペニシリン系	PCG	ペニシリン	バイシリン				●	●			●		●
	ABPC	アンピシリン	ビクシリン、ソルシリン	●	●	●	●	●			●		●
	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン、ビクフェニン、ペンマリン						●	●	●		
	MPIPC	オキサシリン		●									
セフェム系 オキサセフェム系	CEZ	セファゾリン	トキオ、セファメジンα	●	●	●	●	●	●				
	CTM	セフォチアム	パンスポリン、ハロスポア						●				
	CTX	セフォタキシム	クラフォラン、セフォタックス				●	●	●				
	CAZ	セフタジジム	モダシン						●	●	●		
	CTRX	セフトキアリソン	ロセフィン				●	●			●		
	CFPM	セフェピム	マキシピーム				●	●	●	●	●		
	CZOP	セフォゾプラン	ファーストシン							●			
	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン	●	●	●					●		●
	CCL	セファクロル	ケフラール										●
	CPDX	セフポドキシム	バナン						●				
	CFDN	セフジニル	セフゾン				●	●					
	FMOX	フロモキセフ	フルマリン	●	●	●			●		●		
その他のβラクタム系	IPM	イミペネム	チエナム	●	●	●	●	●	●	●	●		
	MEPM	メロペネム	メロペン				●	●	●	●	●		
	DRPM	ドリペネム	フィニバックス							●			
	AZT	アズトレオナム	アザクタム						●	●			
	ACZ	クラブラン酸・アモキシシリン	オーグメンチン				●	●			●		
	SBT/CPZ	スルバクタム・セフォペラゾン	スルペラゾン、セフォセフ							●	●		
	SBT/ABPC	スルバクタム・アンピシリン	ユナシン				●	●	●		●		
	TAZ/PIPC	タゾバクタム・ピペラシリン	ゾシン							●	●		
アミノグリコシド系	GM	ゲンタマイシン	ゲンタシン	●	●	●			●	●		●	
	TOB	トブラマイシン	トブラシン							●			
	AMK	アミカシン	ビクリン、硫酸アミカシン、ブレカシン						●	●		●	
	ABK	アルベカシン	ハベカシン	●									
マクロライド系 リンコシン系	EM	エリスロマイシン	エリスロシン	●	●	●	●	●				●	●
	CAM	クラリスロマイシン	クラリシッド、クラリス				●	●				●	
	CLDM	クリンダマイシン	ミドシン、ダラシン	●	●	●	●	●			●		
	AZM	アジスロマイシン	ジスロマック				●	●					
テトラサイクリン系	MINO	ミノサイクリン	ミノマイシン	●	●	●	●	●	●	●	●		●
合成抗菌系	CPFX	シプロフロキサシン	シプロキサン							●			
	LVFX	レボフロキサシン	クラビット	●	●	●	●	●	●	●		●	●
	MFLX	モキシフロキサシン	アベロックス、ベガモックス				●	●			●		
	ST	スルファメトキサゾール・トリメトプリム	バクタ、バクトラミン	●	●	●	●	●	●	●			
	EM/CLDM	エリスロマイシン・クリンダマイシン					●	●					
その他	CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチン									●	●
	CL	コリスチン	コリマイシン							●			
	VCM	バンコマイシン	塩酸バンコマイシン	●		●	●						
	FOM	ホスホマイシン	ホスミシン	●	●	●			●	●			
	TEIC	テイコプラニン	タゴシッド	●		●							
	LZD	リネゾリド	ザイボックス	●		●							
	DAP	ダプトマシシン	キュビシン	●		●							
	MNZ	メトロニダゾール	フラジール								●		

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

検査項目			検査材料	●保存（安定性）	検査方法	所要日数	採取容器	備考	●実施料判断料
組織検査	病理組織検査	生検材料	10%バッファーホルマリン固定組織	室	ヘマトキシリン・エオジン染色	生検 4〜7（至急）2〜4 ＊1	㊷病理容器	特殊染色のご依頼および診断のために必要な場合は特殊染色を実施します。	1臓器につき860特殊染色は加算なし病理
		切除材料	10%バッファーホルマリン固定組織	室		切除 5〜10 ＊1			
		液状検体	胸水・腹水など（未処理）	冷	セルブロック法 ヘマトキシリン・エオジン染色	5〜10 ＊1	㊼滅菌50mL遠沈管		1部位につき860特殊染色は加算なし病理 注①
	免疫抗体染色	エストロジェンレセプター ER	10%バッファーホルマリン固定腫瘍組織	室	免疫組織化学染色（IHC法）	10〜15	㊷病理容器		720病理注②
			パラフィンブロック	室		5〜10			
		プロジェステロンレセプター PgR	10%バッファーホルマリン固定腫瘍組織	室	免疫組織化学染色（IHC法）	10〜15	㊷病理容器		690病理注②
			パラフィンブロック	室		5〜10			
		HER2/neu タンパク	10%バッファーホルマリン固定腫瘍組織（24時間以内）	室	免疫組織化学染色（IHC法）	10〜15	㊷病理容器	浸潤性乳癌、胃癌の場合のみ実施します。	690病理注②
			パラフィンブロック	室		5〜10			
		上記以外の免疫染色	10%バッファーホルマリン固定組織	室	免疫組織化学染色（IHC法）	10〜15	㊷病理容器	ご依頼の他、病理組織検査で確定診断などのために必要な場合も実施します。悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水泡症（天疱瘡、類天疱瘡）または、悪性黒色腫が疑われる患者の確定診断のために4種類以上の抗体を用いた場合は1600点加算。	400病理
			パラフィンブロック	室		5〜10			
	HER2/neu 遺伝子		10%バッファーホルマリン固定腫瘍組織	室	FISH法	14〜18	㊷病理容器	浸潤性乳癌、胃癌の場合のみ実施します。	2700病理注②
			パラフィンブロック	室		9〜13			

＊1　病理組織検査の所要日数は、通常の場合です。再固定・脱灰・脱脂・特殊染色・コンサルテーション等が必要な場合は遅れることがあります。

注①　悪性中皮腫を疑う患者に対して、穿刺吸引等により採取した検体を用いてセルブロック法により標本を作製した場合に算定できます。
なお、肺悪性腫瘍を疑う患者に対して実施した場合には、組織切片を検体とした病理組織標本作製が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

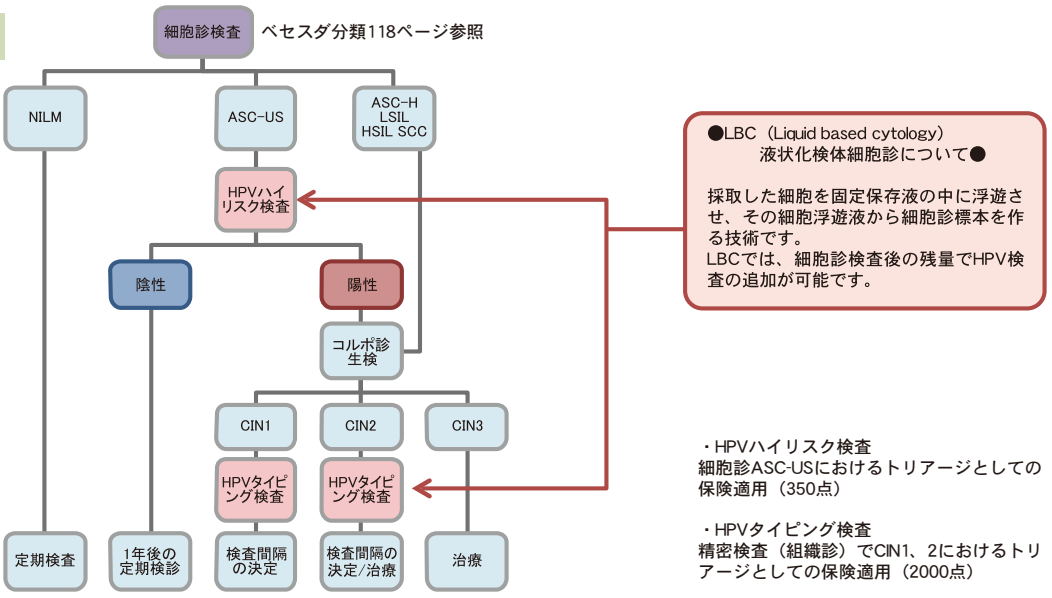
注②　「ER」、「PgR」、「HER2」をホルマリン固定材料でご依頼の場合は原則として病理組織検査を実施し、検索に不適当な組織診断であればその旨ご報告いたします。
検索が行われた場合は、病理組織標本作成と別に所定点数を算定できます。ただし、「ER」と「PgR」の両方を同一月に実施した場合は、主たる点数に180点を加算します。
HER2の検索について、IHC法とFISH法を併せて実施した場合は、3050点を算定します。

●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

検査項目	検査材料			●保存（安定性）	検査方法	所要日数	採取容器	備考	●実施料判断料	
細胞診検査	婦人科材料等によるもの	湿潤固定塗抹標本	95％エタノール固定	室（液中）	パパニコロウ染色	3～7（至急）2 ＊1	⑥3 細胞診容器		1部位につき150病理	
			スプレー等固定剤で固定	室						
	その他の材料（穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの）	生検体（未処理）		冷	パパニコロウ染色 PAS染色、ギムザ染色	3～7（至急）2 ＊1	④⑥⑥ 細胞診容器 ＊2	喀痰、気管支洗浄液、体腔液、体腔洗浄液、髄液、体腔臓器擦過材料等が含まれます。	1部位につき190病理	
		湿潤および乾燥固定塗抹標本	湿潤固定 95％エタノール	室（液中）	パパニコロウ染色 PAS染色		⑥3 細胞診容器			
			湿潤固定 スプレー等	室						
			冷風乾燥固定	室	ギムザ染色					
液状細胞診	LBC婦人科材料	子宮頸部擦過 ⇩ 専用容器		室	パパニコロウ染色	3～7（至急）2 ＊1	⑥4 専用容器		150＋45病理	①

＊1　細胞診検査の所要日数は、専門医のチェックが必要な場合は通常の結果報告より3～4日遅れる場合があります。
＊2　体腔液は滅菌ポリスピッツ（容器番号㊻）にヘパリン添加、もしくはヘパリン入容器（容器番号⑪）にてご提出下さい。

婦人科細胞診の流れ



●保存：遠心分離の必要がない材料は採取後の保存条件です。●実施料：青字表記は包括項目です。

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	
病理標本作製	23886 5D594	肺癌ALK融合タンパク	未染標本スライド5枚以上 (4μm厚) ※1	室	免疫組織化学染色 IHC法		6 ～ 9		染色と専門の病理医判定を合わせ結果をご報告いたします。非小細胞肺癌を含む組織のホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから作製された未染標本スライドをご提出下さい（スライドは剥離防止コートスライドガラスをご使用下さい）。	2700 病理 注①	③
	3887 8B323	肺癌ＡＬＫ融合遺伝子（ＦＩＳＨ）	未染標本スライド5枚以上 (4μm厚) ※1	室	ＦＩＳＨ法		6 ～ 13			6520 病理 注②	③
	8458 5D597	ＰＤ-Ｌ１（２２Ｃ３）肺癌（ＩＨＣ）	未染標本スライド5枚以上 (4～5μm厚) ※1	室	免疫組織化学染色 IHC法		7 ～ 9		免疫チェックポイント阻害剤の一つである「ペムブロリズマブ（キイトルーダ）」投与による治療適否の判断を目的とする検査です。	2700 病理 注③	③
	8459 5D598	ＰＤ-Ｌ１（２８-８）肺癌（ＩＨＣ）	未染標本スライド5枚以上 (4～5μm厚) ※1	室	免疫組織化学染色 IHC法		7 ～ 9		免疫チェックポイント阻害剤の一つである「ニボルマブ（オプジーボ）」投与による治療適否の判断を目的とする検査です。	2700 病理 注③	③
	3905 5D596	ＣＣＲ４タンパク（ＩＨＣ）	未染標本スライド5枚以上 (4μm厚) ※1	室	免疫組織化学染色 IHC法		7 ～ 8			10000 病理 注④	④

＊１　弊社病理検査にて悪性腫瘍が確認された検体で依頼される場合は当該記録番号を記載して下さい。直接スライド、組織等を提出される場合はお問い合わせ下さい。

注①　「肺癌ALK融合タンパク」は、非小細胞肺癌患者に対して、ALK阻害剤の投与の適応を判断することを目的として行った場合に、当該薬剤の投与方針の決定までの間に１回を限度として算定できます。

注②　「肺癌ALK融合遺伝子」は、ALK阻害剤の投与の適応を判断することを目的として行った場合に、当該薬剤の投与方針の決定までの間に１回を限度として算定できます。

注③　「PD-L1（22C3）」、「PD-L1（28-8）」は、抗PD-1抗体抗悪性腫瘍剤または抗PD-L1抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に１回を限度として算定できます。

注④　「CCR4タンパク（FCM）」および「CCR4タンパク（IHC）」を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみの算定となります。ただし、医学的な必要性がある場合には、併せて実施した場合であっても、いずれの点数も算定できます。なお、この場合においては、診療報酬明細書の摘要欄にその理由および医学的な必要性を記載して下さい。

病理学検査のご依頼について

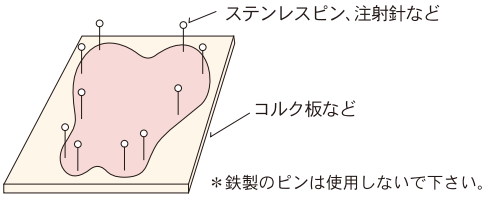
1．所定の専用依頼書をご利用下さい。
2．病医院名、患者名、性別、生年月日、担当医名、臓器名、採取法、臓器数、臨床診断などを必ずご記入下さい。
　○ 検体・臓器数は、点数の算定にも参考にさせていただきます。
3．診断のみ、標本作製のみ、ER・PgR・HER2のご依頼は、「特別」の欄にご記入下さい。
4．臨床経過および所見等は、なるべく詳しくご記入下さい。
　○ 特に婦人科材料、乳腺などでは、最終月経、妊娠、授乳、治療内容等について必ずご記入下さい。
5．至急報告等のご依頼は、特記事項欄になるべく朱書きして下さい。

検体ラベルについて

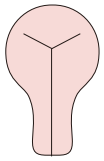
1．病医院名、患者名、検体名をご記入のうえ、貼付して下さい。
2．複数の材料や採取部位がある場合は、容器を分けてラベルにその区別をご記入下さい。

病理組織検体の提出方法について

1．検体は採取後速やかに、材料の10倍量以上の10％ホルマリン液で固定して下さい。
　○生検や、ER・PgR・HER2検索のための材料は、10％バッファーホルマリン液で固定して下さい。
　○消化管や胆嚢は、切開後コルク板などに粘膜面を上にして広げ、ステンレスピンや注射針で貼り付けた後、検体を下にして固定して下さい。（鉄製のピンは使用しないで下さい）
　○肺は、気管支断端よりホルマリン液を注入後、固定液に浸して下さい。
　○子宮は前面よりＹ字形に切開し、固定して下さい。
2．固定の完了した手術材料は、少量の固定液とともにシールバッグ等に移し変えて、提出して下さい。
3．所属リンパ節は、切除時に部位別に番号を付け、それぞれに固定して下さい。



消化管臓器の固定


子宮の切開

細胞診検体の提出方法について

1．擦過材料（婦人科スメア、気管支擦過など）

1）スライドガラス・固定剤をご準備下さい。
2）スライドガラスに鉛筆で患者名・部位の区別などをご記入下さい。
3）採取された材料を速やかにスライドガラスに塗抹し、1秒以内に固定して下さい。
4）95％エタノール固定の場合は、ラベルを貼った固定輸送容器で固定液に浸した状態で提出して下さい。
　スプレー等での固定の場合は、室温乾燥後ラベルを貼ったスライドケースで提出して下さい。

2．穿刺吸引（乳腺、甲状腺、リンパ節など）

1）スライドガラス・固定剤・ドライヤー等をご準備下さい。
2）スライドガラスに鉛筆で患者名・部位の区別などをご記入下さい。
3）採取された材料を速やかにスライドガラスに吹き出し、1秒以内に固定して下さい。
　○量が多い場合は、穿刺針の側部で軽く広げてから固定して下さい。
　○湿潤固定・冷風乾燥固定の両方が必要です。（特にリンパ節）
　A）湿潤固定
　　塗抹後1秒以内に95％エタノールに浸して下さい。
　　または、スプレー等の固定剤を1秒以内に噴霧あるいは滴下して下さい。
　B）冷風乾燥固定
　　塗抹後速やかにドライヤー等の冷風で乾燥させて下さい。
4）95%エタノール固定標本は、ラベルを貼った固定輸送容器で固定液に浸した状態で提出して下さい。
　スプレー等での固定標本は、室温乾燥後ラベルを貼ったスライドケースで提出して下さい。
　冷風乾燥固定標本は、ラベルを貼ったスライドケースで提出して下さい。

3.体腔液（胸水、腹水、心嚢液、陰嚢穿刺液など）

フィブリンの析出を防止するために、2～3滴/10mLのヘパリンまたは約１mL/10mLのチトラートを添加後、転倒混和して提出して下さい。

4.その他の材料（喀痰・尿・髄液・胆汁・関節液・シスト液など）

喀痰容器、滅菌スピッツ等でそのまま提出して下さい。
＊便は、細胞がすでに壊れているため細胞診の検体としては不適当です。

検査結果の報告について

1．病理組織検査は「病理組織検査報告書」に病理組織学的診断・所見および診断の要点・担当病理医名を記載してご報告いたします。
免疫染色の結果は、「所見」の欄に記載いたします。
2．細胞診検査は「細胞診検査報告書」に判定・コメント・細胞検査士名・細胞診専門医名を記載してご報告いたします。
3．判定の各区分は、下表の通りです。

ベセスダシステム（子宮頸部）				子宮体部・その他	乳腺	甲状腺	口腔	
NILM	陰性	〈腺系異常〉		陰性	正常あるいは良性	嚢胞液	NILM	陰性
〈扁平上皮系以上〉		AGC	異型腺細胞		鑑別困難	良性		
ASC-US	意義不明な異型扁平上皮細胞	AIS	上皮内腺癌	鑑別困難		意義不明	OLSIL	低異型度上皮内病変
ASC-H	HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	Adenoca.	腺癌			濾胞性腫瘍	OHSIL	高異型度上皮内病変
LSIL	軽度異型扁平上皮内病変	〈腺系異常〉		悪性の疑い	悪性の疑い	悪性の疑い	SCC	扁平上皮癌
HSIL	高度異型扁平上皮内病変	Other malig.	その他の異型細胞					
SCC	扁平上皮癌		その他の悪性腫瘍	悪性	悪性	悪性	IFN	鑑別困難

・ベセスダシステム、乳腺・甲状腺については、検体の適否を記載し、検体適正の場合に判定いたします。

病理標本作製料の算定について

1.　病理組織検査

1）「病理組織標本作製」のうち組織切片によるものは１臓器につき860点を算定できます。ただし、検査に当たって、３臓器以上の検査を行った場合は、３臓器を限度とします。
セルブロック法によるものは、悪性中皮腫を疑う患者または組織の採取が困難な肺悪性腫瘍を疑う患者に対して１部位につき860点を算定できます。
2）次に掲げるものは、その区分ごとに1臓器として算定します。

ア．気管支および肺臓
イ．食道
ウ．胃および十二指腸
エ．小腸
オ．盲腸
カ．上行結腸、横行結腸および下行結腸
キ．S状結腸
ク．直腸
ケ．子宮体部および子宮頸部

3）リンパ節については、所属リンパ節ごとに1臓器として数えますが、複数の所属リンパ節が1臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を1臓器として数えます。

2.　免疫抗体染色

1）検査に当たって、免疫抗体染色を行った場合は、「免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製」として「病理組織標本作製」とは別に算定できます。ただし、方法、試薬の種類の如何にかかわらず、1臓器につき1回のみの算定となります。
2）エストロジェンレセプターの免疫染色とプロジェステロンレセプターの免疫染色とを同一月に実施した場合は、主たる点数に180点を加算します。
3）HER2タンパクは、半定量検査を行った場合に限り算定できます。

3.　細胞診検査

1）「細胞診検査」として１部位につき、婦人科材料等によるもの　150点、穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの　190点を算定できます。
2）同一または近接した部位より同時に数検体を採取して検査を行った場合であっても、1回として算定します。
3）「穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等」とは、喀痰細胞診、気管支洗浄細胞診、体腔液細胞診、体腔洗浄細胞診、体腔臓器擦過細胞診および髄液細胞診等を指します。

ヘリコバクター・ピロリ除菌治療のための検査フロー

疑い

ヘリコバクター・ピロリ感染の疑い

対象患者
①内視鏡検査または造影検査において胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の確定診断がなされた患者　②胃MALTリンパ腫の患者
③特発性血小板減少性紫斑病の患者　④早期胃癌に対する内視鏡的治療後の患者　⑤内視鏡検査において胃炎の確定診断がなされた患者

内視鏡による生検組織検査	内視鏡による生検組織を必要としない検査
1　培養法 2　迅速ウレアーゼ試験 3　鏡検法	4　尿素呼気試験 5　抗ヘリコバクターピロリ抗体 6　ヘリコバクターピロリ抗原（便）

除菌前の感染診断

いずれか1つ検査

陽性 / 偽陰性疑い / 陰性

1～6の検査のうち1回目と異なる検査を実施

陽性 / 陰性

除菌 / 他の原因を検索

除菌

4週間*以上経過後検査

＊5のピロリ抗体は6ヵ月後以上経過後に検査

除菌判定

1～6のいずれか検査
4～6までは同時に2項目まで検査可能

陽性 / 偽陰性疑い / 陰性

1～6の検査の内1回目と異なる検査を実施

陽性 / 陰性

再除菌

再度除菌 / 除菌成功

4週間*以上経過後検査

＊5のピロリ抗体は6ヵ月後以上経過後に検査

1～6のいずれか検査

糖尿病の診断フローチャート

糖尿病型

・血糖値（空腹時≧126mg/dL, OGTT　2時間≧200mg/dL、随時≧200mg/dLのいずれか）
・HbA1C≧ 6.5%

血糖・HbA1Cともに糖尿病型 / 血糖のみ糖尿病型 / HbA1Cのみ糖尿病型

あり

糖尿病 ← ・糖尿病の典型的症状 ・糖尿病網膜症の確認

なし

再検査（なるべく1ヶ月以内に）　再検査

血糖・HbA1Cともに糖尿病型	血糖のみ糖尿病型	HbA1Cのみ糖尿病型	いずれも糖尿病型ではない	血糖・HbA1Cともに糖尿病型	血糖のみ糖尿病型	HbA1Cのみ糖尿病型	いずれも糖尿病型ではない
糖尿病	糖尿病疑い			糖尿病	糖尿病疑い		

注）糖尿病が疑われる場合は、血糖値と同時にHbA1Cを測定する。
同日に血糖とHbA1Cが糖尿病型を示した場合には、初回検査だけで糖尿病と診断する。

3～6ヶ月以内に血糖値・HbA1Cを再検査

日本糖尿病学会糖尿病診断基準に関する検討委員会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告。糖尿病55：485～504。2012より

CKDの定義と重症度分類

(1) CKD の定義

①尿異常、画像診断、血液、病理での腎障害の存在が明らか。特に蛋白尿の存在が重要
② GFR ＜ 60mL / 分 /1.73㎡
①、②のいずれか、または両方が 3カ月以上持続する

(2) CKD の重症度分類

重症度は原疾患・GFR 区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKD の重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑のステージを基準に、黄、オレンジ、赤の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量（mg/day） 尿アルブミン /Cr 比（mg/gCr）		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
				30 未満	30 ～ 299	300 以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他		尿蛋白定量（g/day） 尿蛋白 /Cr 比（g/gCr）		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
				0.15 未満	0.15 ～ 0.49	0.50 以上
GRF ステージ（mL/分/1.73㎡）	G1	正常または高値	≧ 90			
	G2	正常または軽度低下	60 ～ 89			
	G3a	軽度～中等度低下	45 ～ 59			
	G3b	中等度～高度低下	30 ～ 44			
	G4	高度低下	15 ～ 29			
	G5	末期腎不全	＜ 15			

（KDIGO CKD guidline 2012 を日本人用に改変）

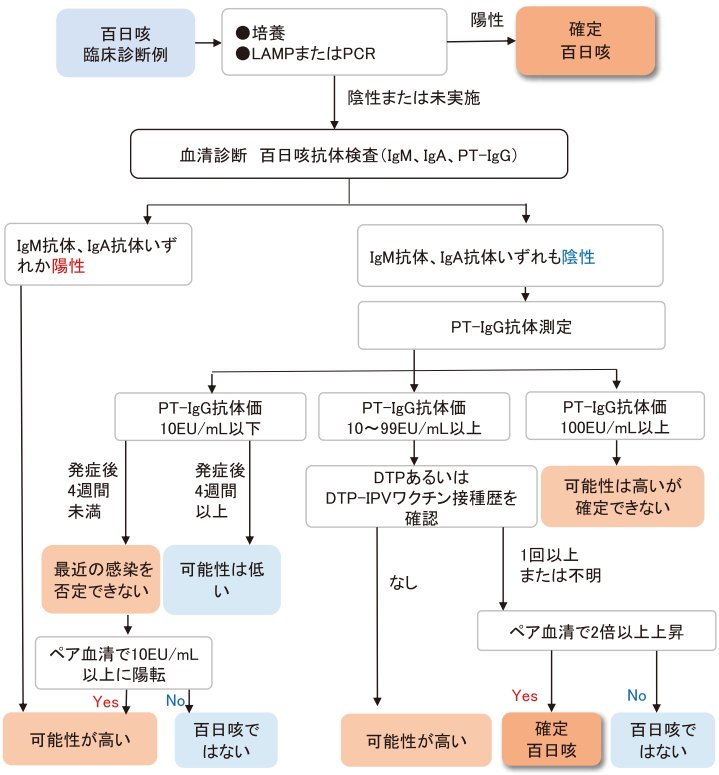
腫瘍部位とマーカーの有用性

検査項目の内容についての説明。「◎」、「○」は検査結果の「正常」「異常」を表すものではありません。

	食道	胃	直腸	大腸	肝	膵	胆	乳	肺	子宮	卵巣	前立腺
CEA		○	○	◎	○	○	○	○	○		○	
AFP					◎							
AFP レクチン					◎							
PIVKA Ⅱ					◎							
エラスターゼ1						◎						
DUPAN 2		○			○	◎	◎					
CA19-9		○	○	○	○	◎	◎				○	
Span-1		○	○	○	◎	◎	◎		○			
SCC	○								◎	◎		
NSE									◎			
シフラ									◎			
ProGRP									◎			
PA（PSA）												◎
CA125		○			○	○				○	◎	
CA15-3								◎				
p53 抗体	◎		◎	◎				◎				

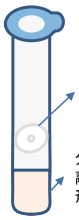
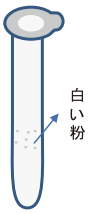
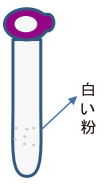
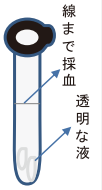
◎特に有用性が認められる　○有用性が認められる

百日咳診断フローチャート



小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017より

主な採血管の特徴

容器NO	1	2	3	4	11
					
抗凝固剤	なし	フッ化ナトリウム（NaF）	EDTA-2K	クエン酸ナトリウム	ヘパリン
主な用途	生化学検査	血糖 HbA1C	末血一般 血液像	凝固検査	電解質、染色体分析、リンパ球培養（T-スポット、DLST）
抗凝固剤の特徴		脱カルシウム作用を有する抗凝固剤。解糖系酵素に対する阻害作用を有しているため血糖検査に適している。	検体中のカルシウムイオンをキレート除去することで抗凝固作用を起こす。EDTAは血小板凝集塊を形成を起こすことがあるため、自動血球計数機で血小板減少を認めた場合には、血液塗抹標本にて血小板凝集塊の有無を確認する。	検体中のカルシウムイオンをキレート除去しますが、作用はEDTAよりもマイルド。クエン酸と血液合比を1：9にすることが大事で、一般的には3.2％クエン酸ナトリウム溶液0.2ml入りの採血管に血液1.8mlを加える。	他の抗凝固剤がカルシウムイオンと結合して抗凝固作用を発揮するのに対して、ヘパリンは活性型凝固因子を直接阻害するものであり、電解質、血液ガス、染色体分析、リンパ球培養等の検査に適している。

鼻汁好酸球の採取方法

＊鼻汁中の好酸球は、発作直後にはまだ出現せずに、３～４時間でピークとなり、その後減少します。

食品包装用ラップや薬包紙など水分を吸収しないようなものを用いて鼻をかみます

→

鼻汁の数カ所を綿棒で採取してスライドガラスの上に薄く引き伸ばすように塗ります

→

そのまま自然乾燥（スライドを提出下さい）

→

染色して顕微鏡にて好酸球数を数え（－）～（３＋）まで判定します

検査と技術　2005　Vol.33no.11　「コラム　鼻汁の好酸球検査」より

癌分子標的治療薬の適応判定に使用されるバイオマーカーと検査について

一般名	商品名	バイオマーカー	検査方法適	適応疾患	効果予測
ゲフィチニブ（gefitinib）	イレッサ（Iressa）	EGFR遺伝子変異	PCR法	非小細胞性肺癌	EGFR遺伝子に変異を有する非小細胞肺がんに治療効果がある
エルロチニブ（erlotinib）	タルセバ（Tarceva）				
アファチニブ（Afatinib）	ジオトリフ（Giotrif）				
グリゾチニブ（crizotinib）	ザーコリ（XALKORI）	ALK融合遺伝子	FISH法	非小細胞性肺癌	ALK融合遺伝子がみられる非小細胞肺がんに有効
アレクチニブ（Alectinib）	アレセンサ（ALECENSA）				
セツキシマブ（cetuximab）	アービタックス（Erbitux）	RAS（KRAS、NRAS）遺伝子変異	PCR法	肺癌、膵臓癌、大腸癌	RAS（KRAS、NRAS）遺伝子変異があると効果が期待できない
パニツムマブ（panitumumab）	ベクティビックス（Vectibix）				
トラスツズマブ（trastuzumab）	ハーセプチン（Herceptin）	HER2/neuタンパクの過剰発現	IHC法	乳癌、胃癌	HER2過剰発現があると効果が高い
		HER2遺伝子増幅の有無	FISH法		HER2遺伝子増幅が確認された場合効果が高い
イリノテコン（irinotecan）	カンプト（Camto）、トポテシン（Topotecin）	UGT1A1遺伝子	インベーダー法	大腸癌	UGT1A1遺伝子多型であると副作用が出やすい
イマチニブ（Imatinib）	グリベック（Glivec）	KIT遺伝子の変異	ダイレクトシーケンス法	消化管間質腫瘍（GIST）	変異パターンは様々。変異のパターンで診断や治療方針選択に役立つ
		BCR/ABL融合遺伝子	FISH法	慢性骨髄性白血病	BCR/ABL遺伝子の点突然変異が起こると治療効果が得られない
モガムリズマブ（mogamulizumab）	ポテリジオ（Poteligeo）	CCR4タンパク	IHC法 FCM法	ATL（成人T細胞白血病）	陽性だと効果が高い
ニボルマブ（Nivolumab）	オプジーボ（OPDIVO）	PD-L1（28-8）	IHC法	非小細胞性肺癌	発現していると治療効果がある
ペムブロリズマブ（Pembrolizumab）	キイトルーダ（KEYTRUDA）	PD-L1（22C3）	IHC法	非小細胞性肺癌	発現していると治療効果がある

抗核抗体パターンと予測される自己抗体と検査

参考文献：高崎芳成：検査と技術32(5)：445～450,2004

染色パターン	染色される抗体	主な検査項目	主な関連疾患
Homogeneous（均質型）	抗DNA－ヒストン複合体 ヒストン	抗DNA抗体 抗ds－DNA抗体 抗ss－DNA抗体	全身性エリテマトーデス
Peripheral（辺縁型）	抗DNA抗体		
Speckled（斑紋型）	抗ENA抗体	抗RNP抗体	全身性エリテマトーデス
			混合性結合組織病
			強皮症
		抗Sm抗体	全身性エリテマトーデス
		抗SS－A抗体	シェーグレン症候群
			全身性エリテマトーデス
			関節リウマチ
		抗SS－B抗体	シェーグレン症候群
		抗Scl－70抗体	強皮症
Nucleolar（核小体型）	核小体の構成成分	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	強皮症
		抗リボゾーム抗体	全身性エリテマトーデス
Centromere（散在斑紋型）	抗セントロメア抗体	抗セントロメア抗体	強皮症
抗PCNA抗体（PCNA型）	抗PCNA抗体	抗PCNA抗体（検査不可）	全身性エリテマトーデス
抗PCNA抗体様型	抗Na抗体	抗NA抗体（検査不可）	全身性エリテマトーデス
核膜型	抗gp210抗体 抗核膜ラミン抗体	抗gp210抗体（検査不可） 抗核膜ラミン抗体（検査不可）	原発性胆汁性肝硬変 自己免疫性肝炎
Granular型	抗p80 coilin抗体 抗Sp－100抗体	抗p80 coilin抗体（検査不可） 抗Sp－100抗体（検査不可）	原発性胆汁性肝硬変 シェーグレン症候群
Cytoplasmic型（抗細胞質抗体型）	抗ミトコンドリア抗体 抗Jo－1抗体 抗SS－A抗体	抗ミトコンドリア抗体 抗ミトコンドリアM2抗体	原発性胆汁性肝硬変
		抗Jo－1抗体	多発性筋炎、皮膚筋炎
		抗SS－A抗体	シェーグレン症候群
			全身性エリテマトーデス
			関節リウマチ

＊結果についての注意＊

抗核抗体や抗細胞質抗体は多数存在するため、すべての抗体が、型にあてはまった染色型で検出されるわけではありません。
「抗細胞質抗体」の対応抗原は多数ありますが、その多くの臨床的意義は明確ではありません。自己抗体検査として保険収載されている項目は、原発性胆汁性肝硬変が疑われる際の抗ミトコンドリア抗体と多発性筋炎、皮膚筋炎が疑われる際の抗Jo－1抗体などがあります。

抗酸菌薬剤感受性検査

検査項目名	迅速発育抗酸菌感受性（RGM）	抗酸菌感受性（SGM）	プロスミック MTB
実施薬剤	FRPM（ファロペネム）	AMK（アミカシン）	SM（ストレプトマイシン）
	MEPM（メロペネム）	KM（カナマイシン）	EB（エタンブトール）
	IPM（イミペネム）	AZM（アジスロマイシン）	KM（カナマイシン）
	AMK（アミカシン）	CAM（クラリスロマイシン）	RFP（リファンピシン）
	TOB（トブラマイシン）	MFLX（モキシフロキサシン）	LVFX（レボフロキサシン）
	AZM（アジスロマイシン）	STFX（シタフロキサシン）	TH（エチオナミド）
	CAM（クラリスロマイシン）	DOXY（ドキシサイクリン）	PAS（パラアミノサリチル酸）
	LVFX（レボフロキサシン）	MINO（ミノサイクリン）	INH（イソニアジド）
	MFLX（モキシフロキサシン）	LZD（リネゾリド）	CS（サイクロセリン）
	STFX（シタフロキサシン）	EB（エタンブトール）	EVM（エンビオマイシン）
	DOXY（ドキシサイクリン）	TH（エチオナミド）	
	LZD（リネゾリド）	INH（イソニアジド）	
	ST（スルファメトキサゾール・トリメトプリム）	RBT（リファブチン）	
	CLF（クロファジミン）	RFP（リファンピシン）	
対象菌種	非結核性抗酸菌の迅速発育菌	非結核性抗酸菌の遅発育菌	M.tuberculosis complex

★RGM と SGM は同時にご依頼いただけません。

真菌感受性（酵母）検査

実施薬剤	AMPH
	5-FC
	FLCZ
	ITCZ
	MCZ
	MCFG
	VRCZ
	CPFG

	項　　目	緊急報告基準値	基準範囲	
生化学	T－Bil	10.0 以上	0.4 ～ 1.5	mg/dL
	D －Bil	10.0 以上	0.0 ～ 0.3	mg/dL
	AST（GOT）	500 以上	13 ～ 30	U/L
	ALT（GPT）	500 以上	M　10 ～ 42　F　7 ～ 23	U/L
	γ-GT	800 以上	M　13 ～ 64　F　9 ～ 32	U/L
	CK	800 以上	M　59 ～ 248　F　41 ～ 153	U/L
	LD	460 以上	124 ～ 222	U/L
	AMY	800 以上	44 ～ 132	U/L
	T-cho	500 以上	142 ～ 248	mg/dL
	BUN	80 以上	8 ～ 20	mg/dL
	CRE	5.00 以上	M　0.65 ～ 1.07　F 0.46 ～ 0.79	mg/dL
	Na	120 以下、　160 以上	138 ～ 145	mmol/L
	Cl	80 以下、　120 以上	101 ～ 108	mmol/L
	K	2.5 以下、　6.5 以上	3.6 ～ 4.8	mmol/L
	Ca	6.0 以下、　14.0 以上	8.8 ～ 10.1	mg/dL
	血糖	40 以下、　400 以上	73 ～ 109	mg/dL
	リパーゼ	300 以上	13.0 ～ 55.0	U/L
	血中アンモニア	400 以上	12 ～ 66	μg/dL
血液	白血球数	2.0 未満、　30.0 以上	3.3 ～ 8.6	$\times 10^3/\mu L$
	赤血球数	2.00 未満、　7.00 以上	M　4.35 ～ 5.55　F　3.86 ～ 4.92	$\times 10^6/\mu L$
	血色素量	5.0 未満、　20.0 以上	M　13.7 ～ 16.8　F　11.6 ～ 14.8	g/dL
	血小板数	40 未満、　1000 以上	158 ～ 348	$\times 10^3/\mu L$
	血液像	芽球細胞、異常細胞出現時		
	血清浸透圧	255 以下、　330 以上	270 ～ 295	mOsm/L
凝固系	プロトロンビン時間－INR(PT－INR)	INR 3.0 以上	PT活性 70.0以上	%
	APTT	100.0 以上	24.0 ～ 34.0	秒
	フィブリノーゲン	100 未満、　700 以上	170 ～ 410	mg/dL
血清	ABO式血液型	表裏試験結果不一致		
抗酸菌	抗酸菌塗抹	陽性	陰性	
	結核菌群核酸同定（PCR法）		検出せず	
一般細菌	培養同定	一類、二類、三類感染症原因菌の検出		
免疫	CRP定量	25.00 以上	0.00 ～ 0.14	mg/dL
	エンドトキシンES法	10 以上	5.0未満	pg/mL
	(1→3) β-D-グルカン	500 以上	11.0以下	pg/mL
薬物	フェノバルビタール	60.0 以上	10.0 ～ 40.0	μg/mL
	フェニトイン	30.0 以上	10 ～ 20	μg/mL
	カルバマゼピン	12.0 以上	4.0 ～ 12.0	μg/mL
	バルプロ酸	150 以上	50 ～ 100	μg/mL
	リチウム	2.0 以上	0.40 ～ 1.00	mEq/L
	テオフィリン	25.0 以上	5.0 ～ 15.0	μg/mL
	ジゴキシン	2.5 以上	0.5 ～ 1.5	ng/mL

※ 原則として上記数値に従いご報告いたしますが、前回値・関連項目により異なる場合もあります。

容器番号	容　器	備　考

1 生化学（汎用）スピッツ（分離剤入り）

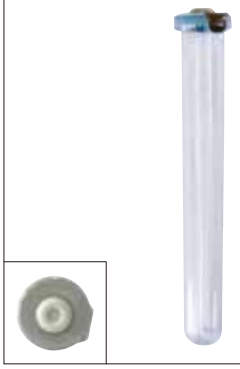
容量
9mL

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目

2 フッ化ナトリウム



（注）転倒混和

容量
2mL

添加剤
NaF

保管方法
室温

主な検査項目
血糖（グルコース）
ヘモグロビンA1c

3 EDTA－2K容器

（注）転倒混和

容量
2mL／3mL

添加剤
EDTA－2K

保管方法
室温

主な検査項目
末血一般
血液像
HLA

4 凝固系専用容器

（注）転倒混和

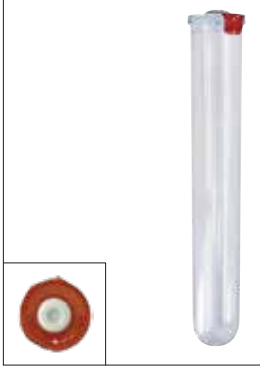
容量
2mL／5mL

添加剤
クエン酸ナトリウム

保管方法
室温

主な検査項目
クエン酸加血検体

5 薬物専用容器



容量
7mL

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
薬物濃度検査

6 血液型専用容器

（注）転倒混和

容量
2mL

添加剤
EDTA－2K

保管方法
室温

主な検査項目
ABO式血液型
Rh(D)血液型

7 BNP（ヒト脳性Na利尿ペプチド専用容器）

（注）転倒混和

容量
2mL

添加剤
EDTA

保管方法
室温

主な検査項目
BNP

8 EDTAアプロチニン入り

（注）転倒混和

容量
3mL

添加剤
EDTA－2Na
アプロチニン
（トラジロール®）

保管方法
室温

主な検査項目
hANP
PTHrP－intact

容器番号	容　器	備　考

9 血中アンモニア

（酵素サイクリング法）（BPB指示薬法）

（注）転倒混和

備　考
容量 1mL（酵素サイクリング法） 2mL（BPB指示薬法）
添加剤 除蛋白液４mL または EDTA－2K
保管方法 室温
主な検査項目 アンモニア

10 金属専用容器

（血液）　（尿）

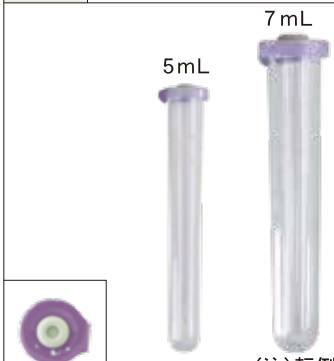
備　考
容量 ３mL
添加剤 凝固促進剤 （トロンビン等）
保管方法 室温
主な検査項目 （血液）アルミニウム （尿）亜鉛、マンガン

11 ヘパリン容器

（注）転倒混和

備　考
容量 ５mL／９mL
添加剤 ヘパリンＮａ
保管方法 室温
主な検査項目 ヘパリン加血検体 T－SPOT ＤＬＳＴ（10mL） ※１薬剤増すごとに１本（５mL）必要

12 ＥＤＴＡ－２Na容器



（注）転倒混和

備　考
容量 ５mL／７mL
添加剤 ＥＤＴＡ－2Na
保管方法 室温
主な検査項目 ＥＤＴＡ加血検体 PTH－intact

13 乳酸・ピルビン酸専用容器

備　考
容量 １mL
添加剤 除蛋白液１mL
保管方法 冷蔵
主な検査項目 乳酸 ピルビン酸

14 ヘパリン（遮光）

備　考
容量 ５mL
添加剤 ヘパリンＮａ
保管方法 室温
主な検査項目 赤血球コプロポルフィリン 赤血球プロトポルフィリン

15 EDTA－２Na（遮光）

備　考
容量 ４mL
添加剤 EDTA－２Na
保管方法 室温
主な検査項目 ビタミンB_1 ビタミンB_2

16 ビタミンＣ専用容器

（前処理用）　（提出用）

備　考
容量 0.5mL
添加剤 0.8Ｎ過塩素酸
保管方法 冷蔵
主な検査項目 ビタミンＣ

容器番号	容　器	備　考

17 便中ヘリコバクター・ピロリ抗原用容器

容量

添加剤
ホウ酸

保管方法
室温

主な検査項目
便中ヘリコバクター
ピロリ抗原

18 呼気採取バッグ

容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
尿素呼気試験

19 ウイルス遺伝子検査用容器

（注）開封厳禁

容量
5mL

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
ＨＣＶ核酸定量
ＨＢＶ核酸定量

20 TaqManPCR法用容器（血漿）

（注）開封厳禁

容量
8mL

添加剤
ＥＤＴＡ－２Ｋ
（分離剤入り）

保管方法
室温

主な検査項目
ＨＢＶ－ＤＮＡ定量
ＨＩＶ－１ＲＮＡ定量
（TaqManＰＣＲ）

21 リンパ球保存容器

（注）分離不可

容量
7.5mL

添加剤
ＣＰＤ

保管方法
室温

主な検査項目
リンパ球幼若化試験
（リンパ球分離培養法）

22 ＰＡ－ＩｇＧ専用容器

容量
8mL

添加剤
保存液

保管方法
室温

主な検査項目
ＰＡ－ＩｇＧ

25 β－ＴＧ、血小板第４因子用容器

容器
2.7mL

添加剤
テオフィリン，アデノシン
ジピリダモール，クエン酸
クエン酸Ｎａ

保管方法
室温

主な検査項目
β－トロンボグロブリン
血小板第4因子

26 Ｇ－Banding（骨髄液）

容量
骨髄液 1.0mL

添加剤
保存液入り

保管方法
凍結（使用時は解凍）

主な検査項目
血液疾患染色体
Ｇ－Banding

容器番号	容　器	備　考

27 抗原検査採取セット

容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
ＨＳＶ特異抗原

28 ヒトパピローマウイルスDNA

容量

添加剤
保存液

保管方法
室温

主な検査項目
ＨＰＶ－ＤＮＡ

29 ヒト癌胎児性フィブロネクチン専用容器

容量

添加剤
抽出液

保管方法
室温

主な検査項目
ヒト癌胎児性フィブロネクチン

30 子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ専用容器

容量

添加剤
抽出液
（リン酸バッファー）

保管方法
室温（抽出液は冷蔵）

主な検査項目
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

31 ThinPrep容器

容量

添加剤
固定液

保管方法
室温

主な検査項目
HPV (LBC)

38 クラミジア・淋菌（TaqManPCR）用容器（ぬぐい液）

◀スワブ（２本付）
子宮頸部の粘液除去用
ドライスワブ（右）
子宮頸管検体の採取用
フロックスワブ（左）

容量

添加剤
塩酸グアニジン

保管方法
室温

主な検査項目
クラミジア・淋菌
（TaqManPCR）

39 クラミジア・淋菌（TaqManPCR）用容器（尿およびうがい液）

この間に収まる様に検体を
添加して下さい。

初尿・うがい液の採取には
滅菌済みスポイトをご使用
下さい。

容量

添加剤
塩酸グアニジン

保管方法
室温

主な検査項目
クラミジア・淋菌
（TaqManPCR）

40 尿中ＦＤＰ専用容器

（注）転倒混和

容量
２mL

添加剤
抗プラスミン剤

保管方法
室温

主な検査項目
尿中ＦＤＰ

容器番号	容　器	備　考

42 尿中ミオグロビン容器

容量
４～８mL

添加剤
安定化剤

保管方法
室温・暗所

主な検査項目
尿中ミオグロビン

43 褐色ポリビン

容量
５０mL／１００mL

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
尿検査（多量検体）

44 尿中Ⅳ型コラーゲン専用容器

容量
５mL

添加剤
１.５Ｍ Tris－HCl

保管方法
室温

主な検査項目
尿中Ⅳ型コラーゲン

45 尿中ＢＴＡ専用容器（遮光）

容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
ＢＴＡ

46 滅菌ポリスピッツ

容量
１０mL

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
尿一般検査
尿細菌検査
細胞診検査

47 血液ガス専用容器（プレザパックⅡ）

容量
２.５mL

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
血液ガス分析

48 血中エンドトキシン、β-Dグルカン容器

（注）開封厳禁

容量
３mL

添加剤
ヘパリンナトリウム

保管方法
室温

主な検査項目
エンドトキシン
（１→３）－β－Ｄグルカン

49 透析液エンドトキシン専用容器

容量
４mL

添加剤
0.64％トリエタノールアミン
0.16％ポリエチレングリコール
0.01Ｍクエン酸三ナトリウム

保管方法
冷蔵

主な検査項目
透析液中エンドトキシン

容器番号	容　器	備　考

50 血液培養専用容器

（嫌気用）　（好気用）

容量
25mL

培地

保管方法
室温

主な検査項目
血液培養

51 ケンキポーター

容量

培地
レザスリン寒天

保管方法
冷蔵

主な検査項目
微生物学的検査
嫌気性菌

52 便容器（培地なし・一般検査用）

容量

培地

保管方法
室温

主な検査項目
一般検査用，
ノロウイルス抗原定性
クリストリジウムディフィシル抗原
ロタウイルス抗原

53 便容器（培地入り・細菌検査用）

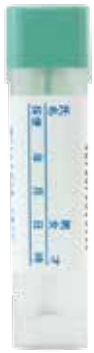
容量

培地
キャリブレア寒天

保管方法
室温

主な検査項目
微生物学的検査
検便

54 採便管（便ヘモグロビン専用）



容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
便中ヘモグロビン
（免疫学的便潜血反応）

55 感染症遺伝子増幅用容器

容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
ノロウイルス・PCR法
（島津法）
レジオネラ核酸同定

56 検体保存輸送用・シードスワブ１号

容量

培地
キャリブレア培地

保管方法
室温

主な検査項目
微生物学的検査

57 検体保存輸送用・シードスワブ２号

容量

培地
変法アミーズ培地

保管方法
室温

主な検査項目
微生物学的検査
耳鼻咽喉科・泌尿器科用

容器番号	容　器	備　考

58 検体保存輸送用・シードスワブ３号

容量

培地
変法アミーズ培地

保管方法
室温

主な検査項目
微生物学的検査
耳鼻咽喉科・泌尿器科・
産婦人科用

59 マイコプラズマ核酸検出用容器

容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
マイコプラズマ核酸検出

60 喀痰容器

容量

添加剤

保管方法
室温

主な検査項目
微生物学的検査
細胞診検査

61 クォンティフェロンＴＢ－プラス

容量
各１mL

P25参照

P25参照

主な検査項目
クォンティフェロンＴＢ－プラス

62 病理組織用容器

容量

添加剤

保管方法

主な検査項目
病理組織検査

63 細胞診用容器

容量

添加剤

保管方法

主な検査項目
細胞診検査（塗抹検体）

64 液状細胞診（ＬＢＣ）婦人科用

容量

添加剤
固定液

保管方法
室温

主な検査項目
ＬＢＣ婦人科
ＨＰＶ（ＬＢＣ）

65 百日咳菌DNA専用容器

容量

添加剤

⑯
滅菌スピッツ

保管方法
室温

主な検査項目
百日咳菌DNA（LAMP法）

容器番号	容　器	備　考

容器番号	容　器	備　考

66	便中カルプロテクチン専用容器
	容量 添加剤 トリス緩衝液 保管方法 冷蔵 主な検査項目 便中カルプロテクチン

67	滅菌50mL遠沈管
	容量 添加剤 保管方法 主な検査項目 病理組織検査

68	ウイルス輸送液
	容量 添加剤 保管方法 冷蔵 主な検査項目 SARS-CoV-2 核酸検出

69	滅菌スピッツ（ストロー付）
	容量 添加剤 保管方法 主な検査項目 SARS-CoV-2 核酸検出

新規追加項目記入欄

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	

新規追加項目記入欄

	項目コード 統一コード	検査項目	検体量 (mL)	●保存 (安定性)	検査方法	基準値（単位）	所要 日数	採取容器	備考	●実施料 判断料	

検査項目名	参考文献

生化学検査

総ビリルビン（T-Bil）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P587, 1998
直接ビリルビン（D-Bil）…… 同上
AST（GOT）…… 日本臨床化学会：臨床化学 18（4）：P226～249, 1989
ALT（GPT）…… 日本臨床化学会：臨床化学 18（4）：P250～262, 1989
コリンエステラーゼ（ChE）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P635, 1998
アルカリホスファターゼ（ALP）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P619, 1998
ALPアイソザイム…… 芝紀代子：目で見る電気泳動法 2（医歯薬出版）：P55～71, 1989
LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）…… 中根清司：第6回臨床化学会夏季セミナー資料集：P169～174, 1986
γ-GT（γ-グルタミルトランスフェラーゼ）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P663, 1998
CK（クレアチンキナーゼ）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P639, 1998
CKアイソザイム…… 井出純子,他：日本臨床検査自動化学会会誌 28（4）：P364, 2003
CK-MB（CK-アイソザイム）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P642, 1998
LD（LDH）（乳酸脱水素酵素）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P650, 1998
LD（LDH）アイソザイム…… 森山隆則,他：Medical Technology 25（1）：P45～51, 1997
リパーゼ…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P656, 1998
アミラーゼ（AMY）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P625, 1998
アミラーゼアイソザイム…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P622,627,1377, 1998
アミラーゼアイソザイム（電気泳動法）…… 星野忠,他：日本臨床検査自動化学会会誌 37（3）：P293～297, 2012
アルドラーゼ（ALD）…… 三浦雅一,他：臨床検査機器・試薬 12（5）：P1005～1009, 1989
グアナーゼ（GU）…… 杉山正康,他：臨床化学 12（4）：P304～311, 1983
アデノシンデアミナーゼ（ADA）…… 山田満廣,大西将則：日本臨床検査自動化学会会誌 17（2）：P135～140, 1992
リゾチーム…… 仁科甫啓,他：臨床病理 21（1）：P37～42, 1973
トリプシン…… 河野幹彦,櫻林郁之介：医学と薬学 53（5）：P635～641, 2005
宮谷博幸,他：医学と薬学 56（5）：P771～775, 2006
（膵）ホスフォリパーゼA_2（PLA_2）…… 上田章,他：臨床病理 37（5）：P561～565, 1989
総蛋白（TP）…… Gornall, A.G. et al.：J Biol Chem 177：P751～766, 1949
蛋白分画…… 河合忠,他：セルロースアセテート電気泳動法による血清蛋白分画 3版：P35～44, 1979
アルブミン（Alb）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P491, 1998
アルブミン定量…… 斎藤憲祐：臨床病理（特101）：P38～47, 1996
リポ蛋白分画…… 厚生労働省・日本医師会編：高脂血症治療の手引き：P33, 1991
リポ蛋白分画（PAGディスク電気泳動法）…… Roche, D. et al.：Clin Chem 31（11）：P1893～1895, 1985
アポリポ蛋白…… 山田満廣,他：臨床検査機器・試薬 11（5）：P794～800, 1988
リポ蛋白（a）（Lp（a））…… 岡野芳幸,他：日本臨床検査自動化学会会誌 21（5）：P705～709, 1996
中性脂肪（TG）（トリグリセライド）…… 植田寛：Medical Technology 8（12）：P1014～1019, 1980
リン脂質（PL）…… 岡部和彦,他：日本臨床 43（秋季臨増）：P187, 1985
β-リポ蛋白…… 小出朝男,他：臨床病理（特21）：P82～91, 1975
総コレステロール（T-cho）…… 萩三男,田中富子：Medical Technology 8（12）：P1049～1056, 1980
遊離コレステロール…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第33版）：P464, 2010
HDL-コレステロール…… 日本臨床病理学会標準化委員会：臨床病理 29（11）：P1123～1129, 1981
LDL-コレステロール…… 菅野剛史：医学と薬学 37（3）：P635～644, 1997
レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）… 滝野豊,他：医学と薬学 56（2）：P269～276, 2006
コレステロール分画…… 櫻林郁之介,他：HDL-コレステロール基礎と臨床 （株）テクノ：P207～220, 1980
全脂質脂肪酸分画…… 芝原章,他：油化学 27（4）：P233～236, 1978
内山充：臨床化学 1（4）：P398～404, 1972
金井晃：ぶんせき 11：P774～780, 1978
脂肪酸分画（4成分）…… 小沢昭夫,他：分析化学 31（2）：P87～91, 1982
胆汁酸（TBA）…… 山崎真一,他：臨床検査機器・試薬 11（6）：P889～893, 1988
乳酸…… 浅沼和子,他：生物試料分析 8（3）：P16～24, 1985
ピルビン酸…… 同上
（血中）ケトン体…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P543, 1998
ケトン体分画（静脈血）…… Harano, Y. et al.：Clin Chim Acta 134（3）：P327～336, 1983
ケトン体分画（動脈血）…… 西ヶ谷晴美,他：医学検査 45（3）：P353, 1996
尿素窒素（BUN）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P507, 1998
尿酸（UA）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P517, 1998

検査項目名	参考文献
クレアチニン（CRE）	Taussky, H.H.：J Biol Chem 208（2）：P853～861, 1954
シスタチンC	下条文武,他：モダンメディア 検査と技術
	冨野康日己,他：メディカルテクノロジー 臨床生化学検査正常値 栄研化学統計資料
クレアチニン・クリアランス（CCR）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1477, 1998
ナトリウム（Na）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P697,698, 1998
クロール（Cl）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P700, 1998
カリウム（K）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P698, 1998
カルシウム（Ca）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P593, 1998
イオン化カルシウム	桑克彦：検査と技術 19（2）：P119～124, 1991
無機リン（IP）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P599, 1998
マグネシウム（Mg）（血清）	北村元仕：実践臨床化学 1版：P166～171, 1974
マグネシウム（Mg）（尿）	Mann, C.K. and Yoe, J.H：Analytical Chemistry 28：P202～205, 1956
血清鉄（Fe）	高橋隆一：臨床検査 25（6）：P617～623, 1981
総鉄結合能（TIBC）（比色法）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P602, 1998
不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）	同上
銅（Cu）（血清）	Abe, A. et al.：Clinical Chemistry 35（4）：P552～554, 1989
銅（Cu）（尿）	奥田稔,林康之：臨床病理（特集第17号）：P84, 1970
亜鉛（Zn）	松本武志,金井晃：検査と技術 9（6）：P478～482, 1981
アルミニウム（Al）	Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N.：Clin Chim Acta 147：P247, 1985
セレン（Se）	Knowles, M.B. and Brodie, K.G.：J Anal At Spectrom 3：P511, 1988
マンガン（Mn）	加地浩,他：日本災害医学会会誌 37：P195, 1989
鉛（Pb）	労働省労働基準局労働衛生課（監修）：鉛健康診断のすすめ方（社）全国労働衛生団体連合会事務局：P56, 1990
クロム（Cr）	田中俊行,他：医学と生物学 101（5）：P277～281, 1980
グルコース（血糖）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P532, 1998
グリコアルブミン	永峰康孝,他：医学と薬学 51（5）：P737～745, 2004
ヘモグロビンA1c（HbA1c）	日本糖尿病学会：HbA1c国際標準化の基本方針
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5AG）	遠藤輝夫,他：医療と検査機器・試薬 26（1）：P45～50, 2003
ヒアルロン酸	島村朗,他：医学と薬学 44（6）：P1141～1146, 2000
血液ガス分析	吉川隆志：検査と技術 21（2）：P105～110, 1993 / 血液ガス手引
浸透圧	鈴木明,他：検査と技術 6（9）：P759～762, 1978
結石分析	亀田治男：医化学実験講座B（中山書店,東京）：P525, 1973
血中アンモニア（NH_3）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第32版）：P509, 2005
アミノ酸分画	植木眞琴,他：臨床病理 28（補）：P138, 1980
	大沢恵津子,他：臨床化学シンポジウム 20：P142, 1980
	Stein, W.H. and Moore, S.：J Biol Chem 176：P337～365, 1948
アミノ酸分析2種類（チロシン・フェニルアラニン）	Kazutaka, Shimbo. et al.：Biomedical Chromatograpy 24（7）：P683～691, 2010
アミノ酸11分画	小田治,他：第24回液体クロマトグラフ研究会講演要旨集 22：P32, 1981
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比（BTR）	杉山正康,他：臨床病理 40（6）：P673～678, 1992
総ホモシステイン	Araki, A. et al.：Journal of Chromatography 422：P43～52, 1987
ビタミンA	Henry, R. et al.：Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd Ed Harper&Row Publishers：P1375, 1974
ビタミンB_1（サイアミン）	宮川秀則,他：生物試料分析 36（4）：P327～330, 2013
ビタミンB_2（リボフラビン）	安田和人,他：臨床病理 29（6）：P564～568, 1981
ビタミンB_6	吉田継親,他：薬学雑誌 98（10）：P1319～1326, 1978
ビタミンB_{12}（シアノコバラミン）	河口行雄,他：医学と薬学 41（1）：P145～151, 1999
ビタミンC（アスコルビン酸）	Lykkesfeldt, J. et al.：Analytical Biochemistry 229：P329～335, 1995
ビタミンE（トコフェロール）	阿部皓一,他：栄養と食糧 28（5）：P277～280, 1975
葉酸	安田和人,他：医療と検査機器・試薬 25（5）：P441～448, 2002
ニコチン酸（ナイアシン）	宮沢滋：ビタミン 56（9・10）：P487～499, 1982
25-OHビタミンD（Total）	大薗恵一：診断と治療のABC 110（別冊）：P218～224, 2016
	日本小児内分泌学会：ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き, 2013
1,25-ジヒドロキシビタミンD_3（1α,25-（OH）2ビタミンD）	鈴木正司,他：臨牀透析 14（3）：P371～376, 1998
カルニチン分画	伊丹儀友,他：臨床検査 58（5）：P651～658, 2014
δアミノレブリン酸（δ-ALA）（尿）	岡山明,他：医学のあゆみ 139（10）：P845～846, 1986
ウロポルフィリン（尿）	Nuttall, K.L. et al.：Ann Clin Lab Sci 26：P313, 1996
	近藤雅雄：日本臨牀 53（6）：P1377～1382, 1995
コプロポルフィリン（血液）	Salmi, M.：Clinical Chemistry 26（13）：P1832～1835, 1980
コプロポルフィリン（尿）	Nuttall, K.L. et al.：Ann Clin Lab Sci 26（4）：P313～322, 1996
	近藤雅雄：日本臨牀 53（6）：P1377～1382, 1995

検査項目名	参考文献
赤血球プロトポルフィリン	労働省労働基準局労働衛生課（監修）：鉛健康診断のすすめ方（社）全国労働衛生団体連合会事務局：P81, 1990
ポルフォビリノゲン（尿）	垣下榮三：日本臨牀 53（増刊）：P871～876, 1995
エタノール	鈴木加奈子：薬毒物分析実践ハンドブック（じほう,東京）：P118～129, 2002
メタノール	深堀すみ江,中明賢二：労働科学 59（12）：P555～562, 1983
アセトン	同上
ICG	波久敏彦：負荷試験（医学書院,東京）：P12～29, 1972
馬尿酸（HA）	労働省労働基準局労働衛生課（監修）：有機溶剤健康診断のすすめ方（社）全国労働衛生団体連合会事務局：P135,1990
メチル馬尿酸（MHA）	同上
マンデル酸（MA）	同上
総三塩化物（TTC）	同上
トリクロル酢酸（TCA）	同上
N-メチルホルムアミド	同上
2,5-ヘキサンジオン（2,5-HD）	同上

免疫血清学的検査

ASO定量（抗ストレプトリジンO定量）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P886, 1998
ASK半定量（抗ストレプトキナーゼ半定量）	土屋彦治,他：臨床検査機器・試薬 7（2）：P417～422, 1984
マイコプラズマ抗体半定量	厚生省監修：微生物検査必携 免疫血清反応検査：P357～379, 1978
マイコプラズマ核酸検出	山口恵三，他 ： 医学と薬学 58 （4） ： P565～571, 2007
寒冷凝集反応	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P899, 1998
トキソプラズマ抗体（IgG・IgM）	亀井喜世子,他：臨床病理 42（7）：P743～747, 1994
レジオネラ核酸同定	山口恵三，他：医学と薬学 58（4）：P565～571, 2007
尿中レジオネラ抗原（イムノクロマト法）	新垣紀子，他：感染症誌 73（5）：P421～427, 1999
肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）	山口恵三，他：感染症学雑誌 76（12）：P995～1002, 2002
ツツガ虫抗体（半定量）	山本正悟：臨床とウイルス 12（3）：P270～274, 1984
アスペルギルス抗原	見手倉久治,他：医学と薬学 42（1）：P207～212, 1999
アスペルギルス抗体（CF）	Walter, J.S. et al.：Dis Chest 53：P729, 1968
アスペルギルス抗体（オクタロニー法）	浜本恒男：臨床と微生物 15（3）：P352～356, 1988
トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅修司,他：日本呼吸器学会誌 39（1）：P7～11, 2001
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原定性	篠田孝子,他：真菌と真菌症 30（3）：P211～221, 1989
百日咳菌DNA	Kamachi, K. et al：J Clin Microbiol 44（5）：P1899～1902, 2006
百日咳菌抗体	岡田賢司：医学と薬学 65（4）：P531～536, 2011
百日咳菌抗体（IgM・IgA）	小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会：小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017：P236～240, 2016
カンジダ抗原定性	相原守夫,他：臨床検査 34（3）：P367～370, 1990
カンジダマンナン抗原	塩見和雄,他：臨床と微生物 32（4）：P415～420, 2005
エンドトキシン（ES法）	横田雅之,他：日外感染症研究 1：P252, 1989
(1→3)-β-D-グルカン	Movi, T. et al.：Eur J Clin Chem Clin Biochem 35（7）：P553～560, 1997
プロカルシトニン（PCT）定量	齋藤大輔,他：医学と薬学 62（2）：P323～329, 2009
プレセプシン	Shozushima, T. et al.：J Infect Chemother 17（6）：P764, 2011
	岡村佳和：臨床病理 63（1）：P62～71, 2015
クォンティフェロンTB（QFTB）	Sorensen, A.L. et al.：Infect Immun 63(5)：P1710～1713,1995
結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（T-SPOT）	原田登之,他：モダンメディア54（5）：P148～153, 2008
抗抗酸菌MAC抗体	北田清悟,他 ： 結核 87（5） ： P439～441, 2012
ヘリコバクター・ピロリ抗体	菊地正悟,他：医学と薬学 43（3）：P581～586, 2000
尿素呼気試験（UBT）	Ohara, S. et al.：J Gastroenterol 33：P6～13, 1998
ヘリコバクター・ピロリ抗原定性（便）	神谷茂,他：感染症誌 76（5）：P378～384, 2002
ペプシノゲン（PG）	三木一正：日本臨床 47（増刊号）：P324～326, 1989
胃がんリスク層別化検査（ABC分類）	乾純和,他：Helicobacter Res 11：P554～561, 2007
	井上和彦，他：日本がん検診・診断学会誌 12：P138～143, 2005
	井上和彦：Helicobacter Res 11：P562～567, 2007

検査項目名	参考文献
STS（定性・定量）	大里和久：梅毒 検査と技術 25（7）：P303～308, 1997
TP抗体（定性・定量）	出口松夫, 網野信行, 他：臨床検査機器・試薬 17（1）：P228, 1994
FTA-ABS（定性）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第34版）：P917, 2015
クラミジア・トラコマチス同定DNA（TaqManPCR）	熊本悦明, 他：医学と薬学 66（6）：P1007～1014, 2011
クラミジア・トラコマチス抗体 IgA＆IgG	梶原祥子, 他：医学と薬学 37（3）：P711～716, 1997
クラミジア・トラコマチス抗体（IgG・IgA）	松本明, 他：感染症学雑誌 66（5）：P584～591, 1992
クラミドフィラ・ニューモニエ抗体（IgG・IgA・IgM）	岸本寿男, 他：感染症学雑誌 70（8）：P821～829, 1996
オーム病クラミドフィラ（クラミドフィラシッタシ）	北村元仕, 他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
淋菌同定DNA（TaqManPCR）	熊本悦明, 他：医学と薬学 66（6）：P1007～1014, 2011
淋菌およびクラミジア・トラコマチス同時同定DNA（TaqManPCR）	熊本悦明,他：医学と薬学 66（6）：P1007～1014, 2011
トランスサイレチン（プレアルブミン）	斎藤憲祐：臨床病理（特101）：P38～47, 1996
レチノール結合蛋白（RBP）	三浦信樹, 他：臨床病理 57（3）：P195～199, 2009
α1-アンチトリプシン	山下順香, 他：医学と薬学 29（5）：P1239～1246, 1993
ハプトグロビン	河合忠, 他：臨床病理（特101）：P207～209, 1996
セルロプラスミン	櫻林郁之介, 他：臨床病理（特53）：P71～81, 1983
フェリチン定量	川崎芳正, 他：医学と薬学 40（4）：P753～757, 1998
α2-マクログロブリン	飯村康夫, 他：日本臨牀 42（春季臨増）：P1209～1213, 1984
トランスフェリン（Tf）（血清）	島英明, 他：医学と薬学 32（1）：P145～153, 1994
トランスフェリン（Tf）（尿）	齋藤良一,他：日本臨床検査自動化学会会誌 25（5）：P687～690, 2000
クリオグロブリン（定性）	Okazaki, T. et al.：Clin Chem 47：P1558, 1998
アルブミン定量（尿（クレアチニン補正））	熊坂一成：日本臨床 62（増刊号11）：P88～90, 2004
アルブミン定量（尿）	櫻林郁之介, 他：日本臨牀 42（春季臨増）：P1214, 1984
M2BPGi（Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体）	久野敦：医学のあゆみ 249（8）：P666～670, 2014
Ⅳ型コラーゲン・7S	長田篤雄, 他：医学と薬学 20（6）：P1507～1515, 1988
Ⅳ型コラーゲン（尿）	東野勲, 他：Lab Clin Pract 19（1）：P8～10, 2001
L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）	富田健一郎,他：医学と薬学 72（8）：P1389～1395, 2015
	Kamijo-Ikemori, A. et al.：Diabetes Care 34：P691～696, 2011
プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）	上野隆登, 他：医学と薬学 24（3）：P675～678, 1990
α1-マイクログロブリン	徳山昌司郎,他：医学と薬学 39（4）：P835～844, 1998
	伊藤喜久：検査と技術 16（7）：P658～660, 1988
	伊藤喜久：臨床検査 32（8）：P863～867, 1988
β2-マイクログロブリン（β2-MG）	野月満, 他：医学と薬学 12（1）：P117～124, 1984
N-アセチルグルコサミニダーゼ（NAG）（尿）	野戸章, 他：臨床病理（特56）：P65～72, 1983
便中カルプロテクチン	松岡克善,他：医学と薬学 74（6）：P717～726, 2017
KL-6	河野修興, 他：臨床と研究75（5）：P1167～1172, 1998
肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）	大木卓,他：医学と薬学 71（1）：P161～166, 2014
肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）	田中誠仁, 佐藤高明,他：医学と薬学 59（3）：P439～446, 2008
CRP（C反応性蛋白）	沢井政信, 他：検査と技術 10（6）：P555～559, 1982
血清アミロイドA蛋白（SAA）	永徳広美, 他：生物物理化学 37（1）：P19～23, 1993
オリゴクローナルバンド	中島一郎：Animus 8：P38～41, 2003
ミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）	Ohta, M. et al.：Clinical Chemistry 46（9）：P1326～1330, 2000
免疫電気泳動	大谷英樹,他：日常検査法シリーズ 11 免疫電気泳動法 2版：P8～26, 1977
Bence Jones蛋白同定（尿）	同上
遊離L鎖κ/λ比（FLC）	稲垣淳,他：Trends in Hematological Malignancies 2（3）：P148～150, 2010
	伊藤早織,他：医学と薬学 64（1）：P111～117, 2010
	清水一之：Laboratory and Clinical Practice 25（2）：P89～96, 2007
IgG	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P825, 1998
IgGサブクラスIgG4	厚生労働省難治性膵疾患調査研究班・日本膵臓学会：自己免疫性膵炎診療ガイドライン, 2009
IgA	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P825, 1998
IgM	同上
血清補体価（CH_{50}）	勝見真琴,他：臨床検査機器・試薬 20（4）：P581～584, 1997
C_3	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1446, 1998
C_4	同上

参考文献

検査項目名	参考文献
非特異的IgE（定量）	島津伸一郎,他：アレルギーの領域 2（7）：P62～67, 1995
アトピー鑑別試験（定性）（12種吸入性アレルゲン）	我妻義則,他：医学と薬学 23（1）：P83～88, 1990
特異的IgE（定量）（シングルアレルゲン）（イムノキャップ）	松村典子,他：医学検査 40（9）：P1585～1590, 1991
特異的IgE（定量）（シングルアレルゲン）（アラスタット3g）	榎本雅夫,他：アレルギーの臨床 23（1）：P62～66, 2003
特異的IgE（定量）（マルチアレルゲン）	松村典子,他：医学検査 40（9）：P1585～1590, 1991
特異的IgE（定量）（View39）	鈴木義徳,他：臨床病理 60（7）：P621, 2012
特異的IgE（定量）（MAST36アレルゲン）	澤崎健：アレルギーの臨床 34（6）：P573～580, 2014
特異的IgE（定量）（Ara h 2）	海老澤元宏,他：日本小児アレルギー学会誌 27（4）：P621～628, 2013
TARC（Th2ケモカイン）	玉置邦彦,他：日本皮膚科学会雑誌 116（1）：P27～39, 2006
リウマトイド因子（RF）定量	日本臨床検査標準化協議会：リウマトイド因子標準化のガイドライン 2010
IgG型リウマトイド因子	栗原夕子,他：リウマチ科 22（5）：P499～510, 1999
MMP-3（マトリックスメタロプロテイナーゼ-3）	飯沼克弘,他：医学検査 61（4）：P778～782, 2012
抗CCP抗体（抗シトルリン化ペプチド抗体定量）	山下里美,他：医学と薬学 66（3）：P569～576, 2011
抗ガラクトース欠損IgG抗体定量（CA・RF）	平山吉朗,他：医学と薬学 42（5）：P817～828, 1999
抗核抗体（蛍光抗体法）半定量	川村明義：免疫学・アレルギー学実験法：P553～577, 1971
抗DNA抗体	宮脇晶二,他：日本臨床免疫学会会誌 17（3）：P164～171, 1994
抗ss-DNA抗体（IgG）	陣内記代,他：日本臨床検査自動化学会会誌 26（6）：P747～753, 2001
抗ss-DNA抗体（IgM）	山下雅樹,他：医学と薬学 58（5）：P763～767, 2007
抗ds-DNA抗体（IgG）	陣内記代,他：日本臨床検査自動化学会会誌 26（6）：P747～753, 2001
抗ds-DNA抗体（IgM）	山下雅樹,他：医学と薬学 58（5）：P763～767, 2007
抗RNP抗体（免疫拡散法）	石川英一,竹内裕子：臨床免疫 17（2）：P221～228, 1985
抗RNP抗体（CLEIA）	西山進,他：医学と薬学 68（2）：P345～355, 2012
抗Sm抗体（免疫拡散法）	石川英一,竹内裕子：臨床免疫 17（2）：P221～228, 1985
抗Sm抗体（CLEIA）	西山進,他：医学と薬学 68（2）：P345～355, 2012
抗セントロメア抗体	小島和夫,他：医学と薬学 69（4）：P677～687, 2013
抗ミトコンドリア抗体	長島秀夫,小出典男：日本臨牀 42（春季臨増）：P1416, 1984
抗ミトコンドリアM2抗体	丹野瑞木,他：医学と薬学 67（3）：P485～495, 2012
抗平滑筋抗体	長島秀夫,他：日本臨牀 42（春季臨増）：P1430, 1984
抗LKM-1抗体	宮川浩,他：医学と薬学 44（1）：P121～130, 2000
抗SS-A抗体（抗SS-A/Ro抗体）（免疫拡散法）	宮脇昌二,小豆沢秀夫：臨床免疫 14（2）：P127～132, 1982
抗SS-A抗体（抗SS-A/Ro抗体）（CLEIA）	西山進, 他：医学と薬学 68（2）：P345～355, 2012
抗SS-B抗体（抗SS-B/La抗体）（免疫拡散法）	宮脇昌二,小豆沢秀夫：臨床免疫 14（2）：P127～132, 1982
抗SS-B抗体（抗SS-B/La抗体）（CLEIA）	西山進, 他：医学と薬学 68（2）：P345～355, 2012
抗Scl-70抗体（免疫拡散法）	Douvas, S.A. et al.：J Biol Chem 254（20）：P10514～10522, 1979
抗Scl-70抗体（CLEIA）	松下雅和,他：医学と薬学 70（1）：P109～117, 2013
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	桑名正隆：リウマチ科 40（3）：P239～245, 2008
抗Jo-1抗体（免疫拡散法）	西海正彦：臨床検査機器・試薬 13（4）：P835～838, 1990
抗Jo-1抗体（CLEIA）	松下雅和,他：医学と薬学 70（1）：P109～117, 2013
抗ARS抗体	吉藤元：医学のあゆみ 239（1）：P71～76, 2011
免疫複合体（イムノコンプレックス）（C_{1q}結合免疫複合体）	上田章,他：医学と薬学 24（1）：P115～119, 1990
免疫複合体（モノクローナルRF結合免疫複合体）	森勝志,他：医学と薬学 27（2）：P347～354, 1992
抗血小板抗体	坂本久浩：Medical Technology 11（7）：P724～725, 1983
血小板関連IgG（PA-IgG）	倉田義之,他：臨床検査 32（6）：P641～647, 1988
HIT抗体（血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体）	阪田敏幸：医学と薬学 68（3）：P547～555, 2012 宮田茂樹：日本検査血液学会雑誌 12（1）：P60～68, 2011
ループスアンチコアグラント定量	佐藤久美子,他：臨床病理 43（3）：P263～268, 1995
抗カルジオリピンβ_2グリコプロテインⅠ複合体抗体	小池隆夫,他：医学と薬学 26（3）：P535～543, 1991
抗カルジオリピン抗体（IgG）	岡田純,他：医学と薬学 36（6）：P1389～1394, 1996
抗カルジオリピン抗体（IgM）	鏑木淳一,他：医学と薬学 43（6）：P1183～1188, 2000
抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	太田光熙,他：ホルモンと臨床 48（1）：P89～93, 2000
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（MuSK抗体）	本村政勝,他：医学と薬学 70（2）：P421～428, 2013
抗GBM抗体（抗糸球体基底膜抗体）	平田寛之,他：医学と薬学 66（6）：P1099～1108, 2011
抗BP180-NC16a抗体	吉田かおり,他：医学と薬学 70（5・6）：P989～1000, 2013
抗デスモグレイン1抗体	同上
抗デスモグレイン3抗体	同上
抗皮膚抗体	吉岡順子：皮膚 23（1）：P29～54, 1981
抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA）（C-ANCA）	松下雅和,他：医学と薬学 66（5）：P823～828, 2011
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）（P-ANCA）	同上

検査項目名	参考文献
抗ランゲルハンス氏島抗体（ICA）	Bonifacio, E. et al.：The Lancet 355：P147～149, 1990
抗胃壁細胞抗体	Jeffries, G.H. et al.：Clin Invest 44（12）：P2021～2028, 1965
抗精子抗体	香山浩二：日本産婦人科学会雑誌 42（11）：N209～212, 1990
抗副腎皮質抗体	Scherbaum, W.A. et al.：Clin Endocrinol 16（4）：P345～352, 1982
ABO血液型	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P838～845, 1998
Rh（D）血液型	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P845～849, 1998
直接クームス試験	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P856, 1998
間接クームス試験	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P852～853, 1998
不規則性抗体（抗体同定・抗体価測定）	浅井隆善：医学のあゆみ 167（9）：P700, 1993

内分泌学的検査

成長ホルモン（GH）	小山沙世,他：医学と薬学 68（5）：P899～910, 2012
黄体形成ホルモン（LH）	安田知恵,他：医学と薬学 44（3）：P581～589, 2000
卵胞刺激ホルモン（FSH）	同上
抗ミュラー管ホルモン（AMH）	柳田小百合,他：医学と薬学 72（6）：P1095～1101, 2015
副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	阿部正樹,他：医学と薬学 57（2）：P239～244, 2007
プロラクチン（PRL）	安田知恵,他：医学と薬学 44（3）：P581～589, 2000
バゾプレシン（AVP）（抗利尿ホルモン）	田中誠仁,他：医学と薬学 72（8）：P1379～1388, 2015
ソマトメジンC（IGF-Ⅰ）	Isojima, T. et al.：Endocrine J 59（9）：P771～780, 2012
トリヨードサイロニン（T_3）	上條桂一,他：医学と薬学 40（2）：P387～394, 1998
総サイロキシン（T_4）	同上
遊離トリヨードサイロニン（FT_3）	同上
遊離サイロキシン（FT_4）	同上
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	同上
サイログロブリン（Tg）	北川亘,他：医学と薬学 71（9）：P1655～1666, 2014
抗サイログロブリン抗体（Tg-Ab）	峯尾真澄,他：医学と薬学 68（6）：P1013～1024, 2012
抗サイログロブリン抗体半定量（サイロイドテスト）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P754, 1998
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPO-Ab）	峯尾真澄,他：医学と薬学 68（6）：P1013～1024, 2012
抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量(マイクロゾームテスト)	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P754, 1998
サイロキシン結合グロブリン（TBG）	伴良雄,他：ホルモンと臨床 27（11）：P1287～1291, 1979
抗TSHレセプター抗体定量（TRAb定量）（第２世代）	小森明日香,他：医学と薬学 46（4）：P563～570, 2001
抗TSHレセプター抗体定量（TRAb）（第３世代）	吉村弘,他：医学と薬学 59（6）：P1111～1120, 2008
甲状腺刺激性抗体（TSAb）	上條桂一,他：医学と薬学 71（5）：P903～911, 2014
カルシトニン（CT）	北川亘,他：医学と薬学 72（1）：P97～108, 2015
副甲状腺ホルモンintact（PTH-intact）	月田由香,他：医学と薬学 61（4）：P621～627, 2009
副甲状腺ホルモンwhole（whole PTH）	森山和重,他：医学と薬学 70（4）：P829～836, 2013
PTHrP-intact（副甲状腺ホルモン関連蛋白-intact）	福本誠二,他：ホルモンと臨床 40（12）：P1309～1314, 1992
オステオカルシン（OC）	戸来孝,他：日本臨床検査自動化学会会誌 40（1）：P52～57, 2015
25-OHビタミンD（Total）	大薗恵一：診断と治療のABC 110（別冊）：P218～224, 2016 日本小児内分泌学会：ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き, 2013
1,25-ジヒドロキシビタミンD_3（1α,25-(OH)2ビタミンD）	鈴木正司,他：臨牀透析 14（3）：P371～376, 1998
カテコールアミン（総）	Honda, S. et al.：Analytica Chimica Acta 149：P297～303, 1983
カテコールアミン3分画（血漿）	辻潮,他：臨床検査機器・試薬 11（4）：P635～641, 1988
カテコールアミン3分画（尿）	守和子：第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー講座 高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集：P6～8,1977 Anderson, G.M. et al.：Clin Chem 27（12）：P2060～2063, 1981
遊離カテコールアミン3分画	守和子：第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー講座 高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集：P6～8,1977 Anderson, G.M. et al.：Clin Chem 27（12）：P2060～2063, 1981
メタネフリン2分画	守和子：第47,48回島津デュポン高速液体クロマトグラフィー講座 高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集：P6～8,1977
バニリルマンデル酸（VMA）（尿）	Flood, J.G. et al.：Clin Chem 25（7）：P1234～1238, 1979
バニリルマンデル酸（VMA）（血漿）	Gironi, A. et al.：Clinical Chemistry 34（12）：P2504～2506, 1988
ホモバニリン酸（HVA）（尿）	Rosano, T.G. et al.：Clin Chem 27（2）：P228～231, 1981

参考文献

検査項目名	参考文献
ホモバニリン酸（HVA）（血漿）	Gironi, A. et al.：Clinical Chemistry 34（12）：P2504～2506, 1988
セロトニン	石田淳一,他：Jasco Report 39（1）：P7～14, 1997
5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)(尿)	Rosano, T.G. et al.：Clin Chem 28：P207, 1982
5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)(血漿)	小島司,他：臨床化学 21（2）：P119～126, 1992
血漿レニン活性（PRA）	宇津孝雄,他：医学と薬学 73（3）：P311～321, 2016
レニン濃度（定量）（PRC）	土屋ますみ,他：医学と薬学 32（3）：P529～534, 1994
アルドステロン	塩之入洋,他：医学と薬学 21（2）：P293～302, 1989
コルチゾール	金尾啓右,他：医学と薬学 3（1）：P95～99, 1980
遊離コルチゾール（非抱合型コルチゾール）	福島靖恵,他：臨床検査機器・試薬 22（6）：P509～514, 1999
11-ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	宇田川美佐子,他：臨床化学 5（3）：P321～325, 1977
17-ケトステロイド分画（17-KS分画）（3分画）	Suzuki,T. et al.：Endocrine J 50：P571, 2003
17-ケトステロイド分画（17-KS分画）（7分画）	同上
デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）	市原清志：日本臨床検査自動化学会会誌 37（suppl1）：P36～54, 2012
	増戸梨恵,他：医学と薬学 56（3）：P443～448, 2006
アンジオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	Kasahara, Y. et al.：Clin Chem 27：P1922, 1981
テストステロン	中村悟,他：医学と薬学 40（3）：P541～545, 1998
プレグナンジオール（P_2）	Suzuki, T. et al.：Endocrine J 50：P571, 2003
プレグナントリオール（P_3）	同上
プロゲステロン	金野隆雄,他：医学と薬学 44（3）：P591～597, 2000
エストラジオール（E_2）	牧野恒久,他：ホルモンと臨床 36（9）：P975～979, 1988
妊娠反応定性	飯野孝一,他：産婦人科の世界 38：P999, 1982
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量	斉藤裕,他：ホルモンと臨床 40：P651, 1992
ヒト絨毛性ゴナドトロピン（β-HCG）定量	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1520, 1998
顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）	北村光,他：臨床検査機器・試薬 21（4）：P357～361, 1998
	高田竜二,他：医学と薬学 33（4）：P979～987, 1995
癌胎児性フィブロネクチン（定性）（頸管膣分泌液）	一條元彦,他：産婦人科治療 67：P212, 1993
インスリン（IRI）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第32版）：P729, 2005 他
抗インスリン抗体	村山寛,他：医学と薬学 60（2）：P289～297, 2008
抗GAD抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）	川﨑英二,他：医学と薬学 66（2）：P345～352, 2011
抗IA-2抗体	松浦信夫,他：プラクティス 16（5）：P567～572, 1999
C-ペプチド（CPR）（血清）	唐澤美佳,他：医療と検査機器・試薬 29（5）：P485～491, 2006
ペプシノゲン（PG）	三木一正：日本臨床 47：P3241, 1989
心房性Na利尿ペプチド（ANP）	松岡泰弘,他：医療と検査機器・試薬33（4）:P535～540, 2010
脳性Na利尿ペプチド（BNP）	泰江弘文,他：ホルモンと臨床 41：P397, 1993
脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT-proBNP)	堀井隆,他：医学と薬学 61（5）：P761～767, 2009
ミオグロビン定量（尿）	吉川文雄,他：医学と薬学 37（5）：P1255～1259, 1997
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎修一,他：医学と薬学 52（3）：P443～449, 2004
心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定量	藤田孝,他：医療と検査機器・試薬 33（5）：P629～632, 2010
高感度心筋トロポニンT	戸田圭二,他：医学と薬学 62（2）：P331～340, 2009
高感度心筋トロポニンI	Ricchiuti, V. et al：Clinical Chemistry 45（12）：P2129～2135, 1999
	Buiten, MS. Et al：PLoS One 10（8）：e0134245, 2015
エリスロポエチン（EPO）	増田詩織,他：医学と薬学 67（2）：P297～306, 2012
	市原清志：日本臨床検査自動化学会会誌 37（suppl1）：P15～35, 2012
肝細胞増殖因子（HGF）	武藤泰敏,他：肝胆膵 25：P541, 1992
サイクリックAMP（cAMP）	Honma, M. et al.：Biocham Med 18：P257, 1977

検査項目名　　参考文献

腫瘍関連検査

α-フェトプロテイン（AFP）…… 三橋太：臨床検査機器・試薬 23（5）：P413～419, 2000
α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）… Shimizu, K. et al.：Clin Chim Acta 214：P3, 1993
癌胎児性抗原（CEA）…… 田端介富,他：臨床検査機器・試薬 22（5）：P419～427, 1999
塩基性フェトプロテイン（BFP）…… 石井勝,他：癌と化学療法 15（7）：P2107～2113, 1988
CA19-9 …… 三浦雅一,他：医学と薬学 61（1）：P105～113, 2009
SPan-1 …… 梅山馨,他：膵臓 3：P528, 1988
エラスターゼ1 …… 大出勝也,他：臨床病理 50（4）：P376～380, 2002
DUPAN-2 …… 櫻林郁之介,他：臨床病理 34（6）：P705～710, 1986
シアリルLe^{x}-i抗原（SLX）…… 井村裕夫,他：癌と化学療法 14（5）：P1322～1331, 1987
シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）…… 三嶋芳樹,他：医学と薬学 29（5）：P1193～1200, 1993
NCC-ST-439 …… 大倉久直,他：癌と化学療法 14（6）：P1901～1906, 1987
抗p53抗体 …… 島田英昭,他：日本臨床外科学会雑誌 64（7）：P1551～1559, 2003
BCA225 …… 石和久,他：基礎と臨床 23（15）：P6087～6095, 1989
CA15-3 …… 黒田雅顕：医療と検査機器・試薬 29（6）：P589～596, 2006
CA125 …… 三浦雅一,他：医学と薬学 61（1）：P105～113, 2009
HE4（ヒト精巣上体蛋白4）…… 木村英三：産婦人科の実際 64（8）：P1055～1061, 2015
竹内聡,他：Biotherapy 23（2）：P136～142, 2009
CA72-4 …… 青山昭,他：医学と薬学 49（1）：P127～135, 2003
CA602 …… 野澤志朗,他：癌と化学療法 19（12）：P2085～2093, 1992
CA54/61 …… 野澤志朗,他：癌と化学療法 19（6）：P827～835, 1992
シアリルTn抗原（STN）…… 井村裕夫,他：癌と化学療法 16（9）：P3213～3219, 1989
遊離HCG-β（ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット）… 菅原由人,他：臨床検査機器・試薬 14（3）：P467～477, 1991
前立腺酸性ホスファターゼ（PAP）…… 地曳和子,他：ホルモンと臨床 29（12）：P1547～1552, 1981
前立腺特異抗原（PSA）…… 小川祐司,他：Radioisotopes 33：P273～278, 1984
PSA F/T比（遊離型PSA F/T比）…… 平岡保紀,他：日本臨床 60 増刊号11：P342～345, 2002
前立腺特異抗原（PSA-ACT）…… 大野明美,他：医学と薬学 49（2）：P325～332, 2003
γ-セミノプロテイン（γ-Sm）…… 西松寛明,他：医学と薬学 40（2）：P345～350, 1998
神経特異エノラーゼ（NSE）…… 堀田多恵子,他：生物試料分析 34（5）：P345～353, 2011
扁平上皮癌関連抗原（SCC）…… 高木康,他：医学と薬学 52（3）：P413～421, 2004
シフラ（サイトケラチン19フラグメント）…… 平川寛一郎,他：臨床検査機器・試薬 21（3）：P289～293, 1998
ProGRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）…… 吉村徹,他：医学と薬学 62（4）：P759～766, 2009
5-S-システイニルドーパ（5-S-CD）…… Wakamatsu, K. et al.：Clinical Chemistry 40（3）：P495～496, 1994
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）…… 清原剛,他：ホルモンと臨床 42：P1189, 1994
HER2蛋白定量 …… Luftner, D. et al.：Int J of Biol Markers 19：P1, 2004
骨型アルカリホスファターゼ（BAP）…… 倉澤健太郎,他：医学と薬学 55（2）：P279～285, 2006
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）…… Hanson, D.A. et al.：Journal of Bone and Mineral Research 7（11）：P1251～1258, 1992
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）骨粗鬆症 … 同上
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）… 三木隆巳,他：医学と薬学 55（3）：P443～458, 2006
デオキシピリジノリン（DPD）骨粗鬆症…… 山本逸雄,他：ホルモンと臨床 44（7）：P747～757, 1996
Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（total PⅠNP）… 日高好博：医学と薬学 70（2）：P357～365, 2013

肝炎ウイルス検査

HA-IgG抗体 …… 矢野公士,他：医学と薬学 58（1）：P151～161, 2007
HA-IgM抗体 …… 同上
IgA-HEV抗体（定性）…… 飯野四郎,他：医学と薬学 53（4）：P461～469, 2005
HBs抗原（定性・定量）…… 白奥博文,他：現代医学 8（9）：P1103～1108, 1976
HBs抗体（定性・定量）…… 金尾啓右,他：住友病院誌（3）：P76～80, 1976
HBe抗原 …… 鈴木宏,他：肝臓 21：P1304, 1980
HBe抗体 …… 同上

検査項目名	参考文献
HBc抗体（定量）	飯田健一,他：Prog Med 22：P1037～1046, 2002
IgM-HBc抗体	熊谷保之：日本臨床検査自動化学会会誌 25（1）：P70～74, 2000
HBVコア関連抗原（HBcrAg）	田中靖人,他：臨床病理 54（7）：P692～698, 2006
HBV核酸定量	菅原昌章,他：医学と薬学 73（10）：P1329～1339, 2016
HBV-DNA検出プレコア変異/コアプロモーター変異検出	松山和弘,他：肝胆膵 41（1）：P59～71, 2000
HBVゲノタイプ	田中靖人,他：臨床病理 57（1）：P42～47, 2009
HCV抗体定量（第二世代）	矢野右人,他：医学と薬学 26（2）：P323～331, 1991
	飯野四郎,他：医学と薬学 26（1）：P87～95, 1991
HCV抗体定量（第三世代）	小柳博明,他：医学と薬学 55（3）：P467～473, 2006
HCV核酸定量	玉造滋,他：医学と薬学 32（6）：P1341～1347, 1994
HCV血清群別判定（グルーピング）（セロタイプ）	長谷川瞳,他：医学と薬学 70（3）：P633～641, 2013
HCV-RNAジェノタイプ	Ohno, T et al.：Journal of Clinical Microbiology 35（1）：P201～207, 1997
HCVコア蛋白（HCVコア抗原）	熊田博光,他：消化器科 45（4）：P454～466, 2007

ウイルス抗体・抗原検査

インフルエンザ（A型）（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
インフルエンザ（A型）（H1N1）（H3N2）（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P260～274, 1973
インフルエンザ（B型）（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
インフルエンザ（B型）（B-1）（B-2）（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P214～225, 1973
パラインフルエンザ（1型・2型・3型）（HI）	同上
ムンプス（CF）	井上栄：臨床検査 17（8）：P838～847, 1973
	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第3版）第Ⅰ分冊（日本公衆衛生協会,東京）：P31, 1987
	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 各論 2版（丸善）：P133～135, 1982
ムンプス（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P214～225, 1973
ムンプス（NT）	石井慶蔵：免疫血清検査（臨床検査技術全書4）（医学書院,東京）：P235～262, 1973
	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 各論 2版（丸善）：P52, P72～73, P132～139, 1982
ムンプス（IgG・IgM）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：P48～61, 1987
サイトメガロウイルス（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
サイトメガロウイルス（IgG・IgM）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：P48～61, 1987
風疹ウイルス（LA）	松野哲也：風疹ウイルス 日本臨床 53増刊：P277～280, 1995
風疹ウイルス（IgG・IgM）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：P48～61, 1987
麻疹ウイルス（HI）	臨床ウイルス談話会（編）：ウイルス実験室診断法（日本栄養化学,東京）：P76～86, P101～105, 1964
	芦原義守：臨床とウイルス 別冊：P77, 1975
	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 各論 2版（丸善）：P133～135, 1982
	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第3版）第ⅠⅡⅢ分冊（日本公衆衛生協会,東京）：1987
麻疹ウイルス（PA）	栄賢司,他：臨床とウイルス 20（1）：P35～40, 1992
麻疹ウイルス（IgG・IgM）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：P48～61, 1987
日本脳炎（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
日本脳炎（HI）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第2分冊：P81～97, 1987
単純ヘルペス（HSV）（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
単純ヘルペス（HSV）（IgG・IgM）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：P48～61, 1987
単純ヘルペス（HSV）（1型・2型）（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P260～274, 1973
水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）（CF）	井上栄：臨床検査 17（8）：P838～847, 1973
	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査（第3版）第Ⅰ分冊（日本公衆衛生協会,東京）：P31, 1987
	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 各論 2版（丸善）：P133～135, 1982
水痘・帯状疱疹ウイルス（VZV）（IgG・IgM）	厚生省監修：微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リケッチア検査 第3版 第1分冊：P48～61, 1987

検査項目名	参考文献
EBウイルス	日沼頼夫,他：臨床病理（特35）：P179～189, 1978
ヒトパルボウイルスB19（IgG・IgM）	要藤裕孝,他：感染症学雑誌 69（10）：P1135～1140, 1995
RSウイルス（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
RSウイルス（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P260～274, 1973
アデノウイルス（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
エコーウイルス（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P260～274, 1973
エコーウイルス（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P214～225, 1973
コクサッキーウイルス（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学 総論 2版（丸善）：P260～274, 1973
コクサッキーウイルス（CF）	北村元仕,他：臨床検査マニュアル（文光堂）：P880～886, 1988
HTLV-Ⅰ抗体（ATL抗体）	Fujino, R. et al.：Jpn J Cancer Res 82：P367～370, 1991
HTLV-Ⅰ抗体/WB（ATL抗体/WB）	上平憲,他：臨床とウイルス 21（1）：P73～76, 1993
HTLV-Ⅰプロウイルス DNA（クロナリティ）（ATLウイルス）	渡辺俊樹,他：Meidical Immunology 16（6）：P785～791, 1988
HIV-1,2抗原・抗体同時測定（定性）	菱田靖,他：医学と薬学 27（5）：P1209～1213, 1992
HIV-1抗体/WB	Garo, R. et al.：New Engl J Med 312：P265, 1985
HIV-1 RNA定量	目崎和久,他：医学と薬学 73（6）：P705～709, 2016
単純ヘルペスウイルス抗原（HSV特異抗原）定性	川名尚,他：感染症学雑誌 61（9）：P1030～1037, 1987
単純ヘルペスウイルスDNA（HSV DNA）	Cao, M. et al.：J Invest Dermatol 82：P391～392, 1989
水痘・帯状疱疹ウイルスDNA（VZV DNA）	本藤良,他：日本臨床 50（特別号）：P160～165, 1992
サイトメガロウイルス抗原	紺野謙治,他：臨床とウイルス 17（1）：P89～96, 1989
サイトメガロウイルスpp65抗原（アンチジェネミア法）	浅井隆善,他：今日の移植 7（6）：P553～559, 1994
サイトメガロウイルスpp65抗原（C7-HRP）	権藤久司,他：臨床血液 34（11）：P1438～1444, 1993
HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（ハイリスクグループ）	石和久,他：医学と薬学 39（4）：P849～853, 1998
HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（LBC）（ハイリスクグループ）	同上
HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（ローリスクグループ）	同上
HPV（ヒトパピローマウイルス）DNA（LBC）（16・18・他ハイリスクグループ）	三浦俊昭,他：医学と薬学 69（1）：P157～162, 2013
HPV（ヒトパピローマウイルス）ジェノタイプ判定	尾崎聡,他：臨床病理 60（7）：P621～626, 2012

細胞性免疫関連検査

T細胞・B細胞百分率	松元康治,他：臨床免疫 16：P862～872, 1984
	網野信行,他：細胞性免疫機能検査のすべて（医歯薬出版,東京）：P102, 1985
Single-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）	網野信行,他：細胞性免疫機能検査のすべて（医歯薬出版,東京）：P102, 1985
Two-color解析による細胞表面マーカー検査（リンパ球サブセット検査）	坂東史郎,他：臨床病理 35（6）：P631～637, 1987
	高橋英則,吉田象二：検査と技術 16（1）：P17～22, 1988
白血球・リンパ腫解析検査（LLA）CD45ゲーティング	Borowitz, M.J. et al.：American Journal of Clinical Pathology 100：P534～540, 1993
悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45ゲーティング	同上
B細胞表面免疫グロブリン（Sm-Ig）	田沢裕光,他：臨床病理 33（4）：P426～430, 1985
CCR4タンパク（FCM）	日本臨床検査標準協議会 血液検査標準化検討委員会：日本臨床検査標準協議会会誌 18（2）：P69～107, 2003
リンパ球幼若化試験（リンパ球分離培養法）	大野竜三,三島秀人：免疫実験操作法B（日本免疫学会）（編）：P1417～1425, 1976
薬剤によるリンパ球刺激試験（DLST）	北見啓之,他：臨床免疫 15（9）：P727～736, 1983
好中球貪食能	関秀俊,多賀千之：Immunohaematology 7：P483～486, 1985
好中球殺菌能	関秀俊,他：臨床病理 33（4）：P371～376, 1985
可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	伏見美津恵,他：医学と薬学 73（7）：P875～883, 2016
	古川亜紀, 他：医療と検査機器・試薬 39（3）：P263～269, 2016
HLA型判定（A,B Locus）	吉川枝里,他：MHC 10（1）：P21～31, 2003
HLA型判定（DR Locus）	同上
染色体G-Banding	Seabright, M.：The Lancet 2：P971～972,1971

検査項目名　　参考文献

染色体・遺伝子関連検査

bcr-abl t（9;22）転座 …… 稲澤譲治：臨床FISHプロトコール 阿部達生監修（秀潤社）：P90～95, 1997
末梢血好中球bcr-abl t（9;22）転座 …… 同上
Major BCR-ABL高感度IS% …… Hughes, T.P. et al.：The New England Journal of Medicine 349（1）：P1423～1432, 2003
WT1 mRNA定量 …… 宮脇修一,他：臨床血液 46（12）：P1279～1287, 2005
RAS遺伝子変異解析 …… 日本臨床腫瘍学会：大腸がん患者におけるRAS遺伝子（KRAS/NRAS遺伝子）変異の測定に関するガイダンス（第2版）, 2014
c-kit遺伝子変異解析（GIST） …… Alessandra, Maleddu. et al.：Journal of Translational Medicine 9：P75, 2011

薬物検査

フェノバルビタール …… Jolley, M.E. et al.：Clin Chem 27：P1575, 1981
プリミドン …… 宮本侃治：臨床化学 6（3）：P202～211, 1978
フェニトイン …… Jolley, M.E. et al.：Clin Chem 27：P1575, 1981
カルバマゼピン …… 同上
エトスクシミド …… 宮本侃治：臨床化学 6（3）：P202～211, 1978
バルプロ酸 …… Jolley, M.E. et al.：Clin Chem 27：P1575, 1981
ゾニサミド …… 安田真依,他：医療と検査機器・試薬 38（2）：P205～210, 2015
トリメタジオン …… 斉藤正行,他：ドラッグレベルモニタリング 治療への臨床化学的アプローチ：P100～110, 1982
ジアゼパム …… Brodie, R.R. et al.：Journal Chromatography 150：P361～366, 1978
トピラマート …… 小嶺幸弘：沖縄医報 45（9）：P51, 2009
金澤治：こころの科学（157）：P45～41, 2011
レベチラセタム …… 赤松直樹,他：Epilepsy 4（2）：P129～134, 2010
ラモトリギン …… 小嶺幸弘：沖縄医報 45（9）：P51, 2009
ルフィナミド …… 山内俊雄, 他：臨床医薬 15（8）：P1341～1364, 1999
Perucca E, et al.：Epilepsia 49（7）：P1123～1141, 2008
ペランパネル …… 花田敬久：脳 21（16）：P322～328, 2013
Yuji Mano et al.：J. Pharm. Biomed. Ana 107：P56～62, 2015
ラコサミド …… Kim JS, et al.：Brain Dev 36（6）：P510～515, 2014
リチウム …… 野田克己,他：神経精神薬理 5：P857～861, 1983
ハロペリドール …… 白井晶子,他：医学と薬学 49（6）：P1011～1017, 2003
ブロムペリドール …… 白井晶子,他：医学と薬学 50（1）：P101～107, 2003
リドカイン …… 宮本侃治：臨床化学 6（3）：P202～211, 1978
キニジン …… 木村英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：P860～864, 2008
ジソピラミド …… 西川隆,他：医学と薬学 9（4）：P1213～1216, 1983
プロカインアミド …… 木村英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：P860～864, 2008
メキシレチン …… 小杉隆祥,他：TDM研究 7（2）：P179～184, 1990
ピルメノール …… 市川林,他：臨床医薬 11（4）：P903～906, 1995
ジゴキシン …… 畑伸顕,他：臨床検査機器・試薬 23（2）：P139～146, 2000
テオフィリン …… Jolley, M.E. et al.：Clin Chem 27：P1575, 1981
ゲンタマイシン …… 石橋みどり,他：医学と薬学 42（6）：P1061～1074, 1999
トブラマイシン …… 木村英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：P860～864, 2008
アミカシン …… 同上
バンコマイシン …… Schwenzer, K.S. et al.：Therapeutic Drug Monitoring 5（3）：P341～345, 1983
テイコプラニン …… 諸岡美里,他：日本臨床検査自動化学会会誌 38（1）：P79～82, 2013
シクロスポリン …… 古屋実,他：医学と薬学 70（5・6）：P961～973, 2013
タクロリムス …… 同上
メトトレキサート …… 中原佑香里,他：医学と薬学 72（4）：P761～767, 2015
サリチル酸 …… 木村英樹,他：日本臨床検査自動化学会会誌 33（5）：P860～864, 2008
アセトアミノフェン …… 同上

検査項目名　　参考文献

血液学的検査

末梢血液一般検査…… 巽典之,他：日本臨床検査自動化学会会誌 12（2）：P102～106, 1987
網赤血球数（レチクロ）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P278, 1998
末梢血液像…… 糸賀敬：臨床検査技術全書 3 血液検査 1版：P98～110, 1972
好酸球数…… 丹羽欣正：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P202, 1988
骨髄像…… 丹羽欣正：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P205, 1988
特殊染色（ペルオキシダーゼ染色）（血液像・骨髄像）… 亀井喜恵子：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P213, 1988
特殊染色（エステラーゼ染色）（血液像・骨髄像）… 斉藤準一,他：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P209, 1988
特殊染色（PAS染色）（血液像・骨髄像）…… 小池正,他：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P207, 1988
特殊染色（鉄染色）（血液像・骨髄像）…… 岡田美樹：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P260, 1988
特殊染色（ALP染色）（血液像）…… 安達真二：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P242, 1988
好酸球（鼻汁・喀痰）…… 丹波欣正：Medical Technology（別冊染色法のすべて）：P202, 1988
マラリア原虫…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1093～1114, 1983

血液凝固系・線溶系検査

プロトロンビン時間（PT）…… 金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P412, 1998
活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）…… 日野志郎：臨床検査講座 15 血液学 4版：P244～250, 1984
フィブリノゲン定量（Fib）…… 佐守友博,藤巻道男：検査と技術 15（8）：P931～933, 1987
FDP定量…… 安達洋子,他：検査と技術 15（4）：P338～344, 1987
FDP（尿）…… 堀内伸純,他：臨床検査機器・試薬 14（2）：P267～270, 1991
Dダイマー…… 荒井盛夫,他：臨床病理 34（2）：P157～161, 1986
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体（TAT）… 木村真波,他：医療と検査機器・試薬 33（4）：P525～533, 2010
フィブリンモノマー複合体定性（FMテスト）…… 林滋,他：臨床血液 19（4）：P331～337, 1978
フィブリンモノマー複合体（FMC定量）…… 和田英夫,他：臨床病理 49（8）：P813～817, 2001
β-トロンボグロブリン（β-TG）…… 高橋芳右,他：血液と脈管 18（4）：P326～335, 1987
血小板第4因子（PF_4）…… 同上
プラスミノゲン抗原量…… 櫻林郁之介,他：検査と技術 16（7）：P607～613, 1988
プラスミノゲン活性…… Friberger, P. et al.：Haemostasis 7：P138～145, 1978
アンチプラスミン活性（α_2Pl）（α_2プラスミンインヒビター）… 坂東史郎,他：臨床検査機器・試薬 8（3）：P811～816, 1985
プラスミンインヒビター複合体（PIC）…… 徐吉夫,他：臨床検査機器・試薬 16（6）：P1107～1113, 1993
C1インアクチベーター（C1エステラーゼインヒビター活性）… Dick, W. et al.：Immun Infekt 13：P113～118, 1985
プロテインC抗原…… 筒井聰明,他：検査と技術 12（7）：P581～587, 1984
プロテインS抗原…… 鬼沢実：臨床検査機器・試薬 13（4）：P579～583, 1990
アンチトロンビン活性（ATⅢ）…… 山口正人,他：臨床検査機器・試薬 8（4）：P949～958, 1985
ビタミンK分画…… Langenberg, J.P. et al.：J Chromatography 305（1）：P61～72, 1984
ヘパリン…… Teien, A. et al.：Thrombosis Reseach 8（3）：P413～416, 1976
ループスアンチコアグラント定量…… 佐藤久美子,他：臨床病理 43（3）：P263～268, 1995
凝固因子活性検査（第Ⅱ・Ⅴ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ因子）… 安達眞二：Medical Technology 24（6）：P629～633, 1996
凝固因子活性検査（第ⅩⅢ因子）…… 臨床検査技術全書 3 血液検査（医学書院）：P511～513
凝固抑制因子検査（第Ⅷ・Ⅸ因子）…… Sirridge, M.S. et al.：Laboratory Evaluation of Hemostasis and Thrombosis 3rd：P196～198, 1983
von Willebrand因子（VWF）活性（リストセチンコファクター）… Macfarlane, D.E. et al.：Thrombos Diathes Haemorth 34：P306～308, 1975
フォン・ウィルブランド因子マルチマー解析…… 高橋芳右,他：臨床検査 31（6）：P665～668, 1987

検査項目名	参考文献

一般検査

尿一般検査	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P137～149, 1998
尿沈渣	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P191～207, 1998
アルブミン定性(尿)	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P157, 1998
尿蛋白	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P153, 1998
尿グルコース	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P159～162, 1998
虫卵塗抹（糞便）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1094～1100, 1998
虫卵検出(集卵法)(糞便)	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1100～1103, 1998
虫卵培養（糞便）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1104, 1998
糞便中ヘモグロビン定性	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P217～222, 1998
虫体検出（糞便）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1093～1094, 1998
細胞数(細胞分類)	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会：髄液検査技術教本
パンディ反応	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P252, 1998
ノンネアペルト反応	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P251, 1998
蛋白定量（髄液検査）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P250, 1998
糖定量（髄液検査）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P254, 1998
塩素定量(Cl)(髄液検査)	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P255, 1998
比重（穿刺液検査）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P227, 1998
リバルタ反応	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P227～228, 1998
蛋白定量（穿刺液検査）	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P228, 1998
糖定量（穿刺液検査）	同上
穿刺液・細胞数	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P229～230 1998
関節液中結晶鑑別	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P234～235, 1998
精液一般検査	WHO精液検査ラボマニュアル第5版（2010）

微生物学検査

細菌検査	金井正光（編）：臨床検査法提要（改訂第31版）：P1013～1093, 1998他
結核菌群核酸同定	青木正和,他：結核 69（10）：P593～605, 1994
マイコバクテリウム・アビウムおよびイントラセルラー(MAC)核酸検出	同上
クォンティフェロンTB（QFTB）	Sorensen, A.L. et al.：Infect Immun 63（5）：P1710～1713, 1995
結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（T-SPOT）	原田登之,他：モダンメディア 54（5）：P148～153, 2008
C・ディフィシル抗原/トキシン	加藤はる,加藤直樹：日本臨床微生物学雑誌12（3）：P115～122, 2002 他 石郷潮美,他：臨床と微生物 26（6）：P867～869, 1999
ロタウイルス抗原定性(糞便)	J, Cohen.：J Gen Virol 36（3）：P395～402, 1977
ノロウイルス-PCR法（島津法）	中山博之,他：食品工業 50（8）別刷：P1～9, 2007
ノロウイルス抗原定性	武田直和,他：小型球形ウイルス 食品衛生研究 48（7）：P65, 1998　他
エンドトキシン透析液	大林民典,他：臨床病理 33（6）：P639～644, 1985　他

病理学検査

病理学検査	三友善夫：病理学（臨床検査講座） 井上良夫：細胞診断とその技術（日本病理学会編）
免疫抗体染色（エストロジェンレセプターER）	田中昇：細胞診教本 佐野豊：細胞学検査法 景山喜三：病理組織標本の作り方

検査項目名	参考文献
免疫抗体染色（プロジェステロンレセプターPgR）	平山章：病理組織標本染色法
肺癌ALK融合タンパク	Takeuchi, K. et al.：Clin Cancer Res 15（9）：P3143～3149, 2009
	竹内賢吾：病理と臨床 28（2）：P139～144, 2010
肺癌ALK融合遺伝子（FISH）	Soda, M. et al.：Nature 448（7153）：P561～566, 2007
	Kwak, E.L. et al.：The New England Journal of Medicine 36（18）：P1693～1703, 2010
	日本肺癌学会バイオマーカー委員会：肺癌患者におけるALK遺伝子検査の手引き, 2011
PD-L1（22C3）（IHC）	丹保裕一,他：日本胸部臨床 75（10）：P1095～1101, 2016
	比島恒和,他：病理と臨床 34（1）：P98～99, 2016
	北野滋久：日本医事新報 4817：P36～43, 2016
CCR4タンパク（IHC）	名倉宏,他：渡辺・中根 酵素抗体法 改訂四版 学際企画：P147～150, 2002

■登録衛生検査業務

●鹿児島臨床検査センター・城山ラボラトリー
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、微生物学的検査、寄生虫学的検査、病理学的検査

●パソラボ熊本ラボ
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、微生物学的検査、寄生虫学的検査

●パソラボ延岡ラボ
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、微生物学的検査、寄生虫学的検査

●日向市東臼杵郡臨床検査センター
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、寄生虫学的検査

●パソラボ宮崎研究所
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、微生物学的検査、寄生虫学的検査、病理学的検査

●パソラボ鹿屋ラボ
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、微生物学的検査、寄生虫学的検査

●パソラボ国分ラボ
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、寄生虫学的検査

●パソラボエマージェンシーラボ
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査

●南薩医師会臨床検査センター
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、寄生虫学的検査

●日置市医師会臨床検査センター
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、寄生虫学的検査

●大島郡医師会臨床検査センター
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査、寄生虫学的検査

●パソラボ出水ラボ
生化学的検査、血液学的検査、血清学的検査

鹿児島臨床検査センター
城山ラボラトリー

当社は一般財団法人医療関連サービス振興会の衛生検査所業務に係る医療関連サービスマーク認定証書を取得しております。

Clinical Pathology Laboratory Inc.

株式会社 パソラボ

株式会社 クリニカルパソロジーラボラトリーグループ

本　社：〒892-0813　鹿児島市城山二丁目 23 番 75 号
TEL：099(227) 1111(代)　FAX：099(239) 1600　URL：http://www.patho.co.jp

●ラボラトリー（登録衛生検査所）

■鹿児島臨床検査センター・城山ラボラトリー（鹿児島市登録第1号・３０号・１７号）
〒892-0813　鹿児島市城山二丁目 23 番 75 号　TEL：099(239)6666(代)　FAX：099(239) 1555

■パソラボ熊本ラボ（熊本市登録第３３０２１号・３３０３４号）
〒860-0834　熊本市南区江越一丁目 22 番 11 号　TEL：096(359)3500(代)　FAX：096(359)3550

■パソラボ延岡ラボ（宮崎県知事登録第３４号・３７号）
〒882-0805　延岡市野田二丁目 12 番 3　TEL：0982(22)3322(代)　FAX：0982(22)0022

■日向市東臼杵郡臨床検査センター（宮崎県知事登録第１８号・36 号）
〒883-0052　日向市鶴町一丁目 6 番地　TEL：0982(52)2883(代)　FAX：0982(52)2759

■パソラボ宮崎研究所（宮崎市登録第 1 号・5 号・7 号）
〒880-0855　宮崎市田代町 101 番地　TEL：0985(24) 1101(代)　FAX：0985(24) 1123

■パソラボ鹿屋ラボ（鹿児島県知事登録第３４号・７０号）
〒893-0064　鹿屋市西原三丁目 7 番 33 号　TEL：0994(44)3337(代)　FAX：0994(44)6608

■パソラボ国分ラボ（鹿児島県知事登録第３６号・７２号）
〒899-5117　霧島市隼人町見次 638 番地　TEL：0995(43)2600(代)　FAX：0995(43)3069

■パソラボエマージェンシーラボ（鹿児島市登録第１５号・１８号）
〒890-0062　鹿児島市与次郎一丁目7番1号　TEL：099(239)6666(代)　FAX：099(239) 1555

■パソラボ出水ラボ（鹿児島県知事登録第 75 号）
〒899-0203　出水市上鯖淵 621-4　TEL：050(3495)7500　FAX：0996(63)3636

●運営受託ラボラトリー

■南薩医師会臨床検査センター（鹿児島県知事登録第４２号）
〒897-0001　南さつま市加世田村原一丁目 3 番 13　TEL：0993(52)8650(代)　FAX：0993(52)7122

■日置市医師会臨床検査センター（鹿児島県知事登録第４５号）
〒899-2503　日置市伊集院町妙円寺一丁目 72 番 10 号　TEL：099(273)0801(代)　FAX：099(273)0378

■大島郡医師会臨床検査センター（鹿児島県知事登録第４９号）
〒894-0035　奄美市名瀬塩浜町 3 番 10 号　TEL：0997(53)3552(代)　FAX：0997(53)3564

●病理学的検査

■鹿児島予防医学研究所（鹿児島県知事登録第４８号・７１号）
〒899-2503　日置市伊集院町妙円寺一丁目 72 番 8 号　TEL：099(273)2288(代)　FAX：099(273)5590

■パソラボ宮崎研究所・病理部（宮崎市登録第 1 号・5 号・7 号）
〒880-0855　宮崎市田代町 101 番地　TEL：0985(24) 1101(代)　FAX：0985(24) 1123

●環境・食品分析・測定・調査・解析

■東洋環境分析センター・福岡ラボラトリー（ISO/IEC17025：2005 認定登録機関：認定番号 84226）
計量証明事業（福岡県知事　第 82 号濃度）
水道法第 20 条に基づく水質検査登録機関（生物学的検査及び理化学的検査（一部））
食品衛生法に基づく登録検査機関（厚生労働省登録　九厚 1117 第 1 号）
土壌汚染対策法に基づく指定調査機関（環境省指定　2004-7-2011）
温泉法に基づく登録分析機関（福岡県登録第 8 号）
衛生検査所機関（福岡市登録　福 45 号）
〒812-0881　福岡市博多区井相田三丁目 5 番 10 号　TEL：092(588)7750(代)　FAX：092(588)7751

■東洋環境分析センター・宮崎ラボラトリー（水道 GLP 認定機関：認定番号 JWWA-GLP122）
計量証明事業（宮崎県知事　環計第 1 号濃度、環計第 13 号騒音、環計第 14 号振動）
水道法第 20 条に基づく水質検査登録機関（厚生労働省第 191 号）
建築物飲料水水質検査業（宮崎県 3 水第 6 号）　建築物空気環境測定業（宮崎県 3 空第 5 号）
作業環境測定機関（宮崎労働局第 45-7 号）
〒880-0855　宮崎市田代町 100 番地　TEL：0985(24) 1122(代)　FAX：0985(24) 1166

■東洋環境分析センター・鹿児島ラボラトリー
計量証明事業（鹿児島県知事　第 87 号濃度）
水道法第 20 条に基づく水質検査登録機関（生物学的検査及び理化学的検査（一部））
作業環境測定機関（鹿児島労働局第 46-7 号）　温泉法に基づく登録分析機関（鹿児島県登録第 4 号）
〒892-0021　鹿児島市小野町 15 番 2 号　TEL：099(218)3311(代)　FAX：099(218)3322

●営業所

○鹿児島北　○鹿児島南　○鹿屋　○国分　○加世田　○指宿　○日置　○奄美
○延岡　○日向　○宮崎　○日南　○都城　○熊本　○出水　○福岡　○大分
○佐賀　○人吉

2024 年 5 月